

---

久喜市

---

# 栗橋宿跡 VII

---

首都圏氾濫区域堤防強化対策における  
埋蔵文化財発掘調査報告  
(第2分冊)

2022

国土交通省 関東地方整備局  
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

# 目次

## (第1分冊)

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1
1 発掘調査に至る経過	1
2 発掘調査・報告書作成の経過	2
(1) 発掘調査	2
(2) 整理・報告書の作成	2
3 発掘調査・報告書作成の組織	3
II 遺跡の立地と環境	4
1 地理的環境	4
2 歴史的環境	6
(1) 中世の栗橋とその周辺	6
(2) 近世の栗橋とその周辺	10
(3) 栗橋宿の様子	13
(4) 幕末から近代の栗橋地区	16
III 遺跡の概要	19
IV 第一面の遺構と遺物	31
1 建物跡	31
2 埋設桶	118
3 井戸跡	145
4 溝跡・竹樋	167
5 道路跡	217

6 土壌	243
(1) 第1区画(区画AA)	249
(2) 第2区画(区画Z)	265
(3) 第3区画(区画Y)	341

## (第2分冊)

目次

(4) 第4区画(区画X)	369
(5) 第5区画(区画W)	463
(6) 第6区画(区画V)	589
(7) 第7区画(区画U)	625
7 鍛冶関連遺物	721
8 文字資料	748
9 出土遺物一覧と遺構の時期	751
V 自然科学分析	785
VI 調査のまとめ	793

## (第3分冊)

目次

写真図版

# 挿図目次

## (第2分冊)

第299図	第120号土壙	370	第333図	第159号土壙出土遺物(2)	408
第300図	第120号土壙出土遺物(1)	371	第334図	第159号土壙出土遺物(3)	409
第301図	第120号土壙出土遺物(2)	372	第335図	第159号土壙出土遺物(4)	410
第302図	第120号土壙出土遺物(3)	372	第336図	第159号土壙出土遺物(5)	411
第303図	第141号土壙	374	第337図	第159号土壙出土遺物(6)	412
第304図	第141号土壙出土遺物(1)	375	第338図	第297号土壙	413
第305図	第141号土壙出土遺物(2)	376	第339図	第297号土壙出土遺物(1)	414
第306図	第141号土壙出土遺物(3)	377	第340図	第297号土壙出土遺物(2)	415
第307図	第141号土壙出土遺物(4)	379	第341図	第297号土壙出土遺物(3)	416
第308図	第141号土壙出土遺物(5)	380	第342図	第297号土壙出土遺物(4)	416
第309図	第141号土壙出土遺物(6)	381	第343図	第4区画の土壙(1)	418
第310図	第141号土壙出土遺物(7)	382	第344図	第4区画の土壙(2)	419
第311図	第145号土壙	384	第345図	第4区画の土壙(3)	420
第312図	第145号土壙出土遺物(1)	385	第346図	第4区画の土壙(4)	421
第313図	第145号土壙出土遺物(2)	386	第347図	第4区画の土壙(5)	422
第314図	第145号土壙出土遺物(3)	387	第348図	第4区画の土壙出土遺物(1)	422
第315図	第145号土壙出土遺物(4)	388	第349図	第4区画の土壙出土遺物(2)	423
第316図	第145号土壙出土遺物(5)	389	第350図	第4区画の土壙出土遺物(3)	424
第317図	第145号土壙出土遺物(6)	390	第351図	第4区画の土壙出土遺物(4)	425
第318図	第145号土壙出土遺物(7)	393	第352図	第4区画の土壙出土遺物(5)	426
第319図	第145号土壙出土遺物(8)	394	第353図	第4区画の土壙出土遺物(6)	427
第320図	第145号土壙出土遺物(9)	395	第354図	第4区画の土壙出土遺物(7)	428
第321図	第145号土壙出土遺物(10)	396	第355図	第4区画の土壙出土遺物(8)	429
第322図	第145号土壙出土遺物(11)	397	第356図	第4区画の土壙出土遺物(9)	430
第323図	第145号土壙出土遺物(12)	398	第357図	第4区画の土壙出土遺物(10)	431
第324図	第150号土壙	400	第358図	第4区画の土壙出土遺物(11)	432
第325図	第150号土壙出土遺物(1)	401	第359図	第4区画の土壙出土遺物(12)	433
第326図	第150号土壙出土遺物(2)	402	第360図	第4区画の土壙出土遺物(13)	434
第327図	第150号土壙出土遺物(3)	403	第361図	第4区画の土壙出土遺物(14)	435
第328図	第152・153号土壙	403	第362図	第4区画の土壙出土遺物(15)	436
第329図	第153号土壙出土遺物	404	第363図	第4区画の土壙出土遺物(16)	437
第330図	第152・153号土壙出土遺物	405	第364図	第4区画の土壙出土遺物(17)	438
第331図	第159号土壙	406	第365図	第4区画の土壙出土遺物(18)	439
第332図	第159号土壙出土遺物(1)	407	第366図	第4区画の土壙出土遺物(19)	440

第367図	第4区画の土壙出土遺物(20) … 448	第404図	第260号土壙出土遺物(4) …… 495
第368図	第4区画の土壙出土遺物(21) … 448	第405図	第260号土壙出土遺物(5) …… 495
第369図	第4区画の土壙出土遺物(22) … 449	第406図	第260号土壙出土遺物(6) …… 496
第370図	第4区画の土壙出土遺物(23) … 450	第407図	第260号土壙出土遺物(7) …… 497
第371図	第4区画の土壙出土遺物(24) … 451	第408図	第260号土壙出土遺物(8) …… 498
第372図	第4区画の土壙出土遺物(25) … 453	第409図	第260号土壙出土遺物(9) …… 499
第373図	第4区画の土壙出土遺物(26) … 454	第410図	第260号土壙出土遺物(10) …… 500
第374図	第4区画の土壙出土遺物(27) … 455	第411図	第260号土壙出土遺物(11) …… 501
第375図	第4区画の土壙出土遺物(28) … 457	第412図	第260号土壙出土遺物(12) …… 502
第376図	第4区画の土壙出土遺物(29) … 458	第413図	第290号土壙 …… 504
第377図	第4区画の土壙出土遺物(30) … 459	第414図	第290号土壙出土遺物 …… 505
第378図	第4区画の土壙出土遺物(31) … 460	第415図	第5区画の土壙(1) …… 507
第379図	第184号土壙 …… 464	第416図	第5区画の土壙(2) …… 508
第380図	第184号土壙出土遺物(1) …… 465	第417図	第5区画の土壙(3) …… 509
第381図	第184号土壙出土遺物(2) …… 466	第418図	第5区画の土壙(4) …… 510
第382図	第184号土壙出土遺物(3) …… 467	第419図	第5区画の土壙出土遺物(1) … 513
第383図	第184号土壙出土遺物(4) …… 468	第420図	第5区画の土壙出土遺物(2) … 514
第384図	第184号土壙出土遺物(5) …… 469	第421図	第5区画の土壙出土遺物(3) … 515
第385図	第184号土壙出土遺物(6) …… 471	第422図	第5区画の土壙出土遺物(4) … 516
第386図	第184号土壙出土遺物(7) …… 471	第423図	第5区画の土壙出土遺物(5) … 517
第387図	第184号土壙出土遺物(8) …… 471	第424図	第5区画の土壙出土遺物(6) … 518
第388図	第226号土壙 …… 474	第425図	第5区画の土壙出土遺物(7) … 519
第389図	第226号土壙出土遺物(1) …… 475	第426図	第5区画の土壙出土遺物(8) … 520
第390図	第226号土壙出土遺物(2) …… 476	第427図	第5区画の土壙出土遺物(9) … 521
第391図	第226号土壙出土遺物(3) …… 477	第428図	第5区画の土壙出土遺物(10) … 522
第392図	第226号土壙出土遺物(4) …… 478	第429図	第5区画の土壙出土遺物(11) … 523
第393図	第226号土壙出土遺物(5) …… 479	第430図	第5区画の土壙出土遺物(12) … 524
第394図	第226号土壙出土遺物(6) …… 482	第431図	第5区画の土壙出土遺物(13) … 525
第395図	第226号土壙出土遺物(7) …… 483	第432図	第5区画の土壙出土遺物(14) … 526
第396図	第226号土壙出土遺物(8) …… 484	第433図	第5区画の土壙出土遺物(15) … 527
第397図	第226号土壙出土遺物(9) …… 485	第434図	第5区画の土壙出土遺物(16) … 528
第398図	第226号土壙出土遺物(10) …… 486	第435図	第5区画の土壙出土遺物(17) … 529
第399図	第226号土壙出土遺物(11) …… 487	第436図	第5区画の土壙出土遺物(18) … 530
第400図	第260号土壙 …… 489	第437図	第5区画の土壙出土遺物(19) … 531
第401図	第260号土壙出土遺物(1) …… 490	第438図	第5区画の土壙出土遺物(20) … 532
第402図	第260号土壙出土遺物(2) …… 491	第439図	第5区画の土壙出土遺物(21) … 533
第403図	第260号土壙出土遺物(3) …… 492	第440図	第5区画の土壙出土遺物(22) … 534

第441図	第5区画の土壌出土遺物(23) … 535	第478図	第101号土壌出土遺物(1) …… 591
第442図	第5区画の土壌出土遺物(24) … 536	第479図	第101号土壌出土遺物(2) …… 592
第443図	第5区画の土壌出土遺物(25) … 537	第480図	第101号土壌出土遺物(3) …… 594
第444図	第5区画の土壌出土遺物(26) … 538	第481図	第101号土壌出土遺物(4) …… 595
第445図	第5区画の土壌出土遺物(27) … 539	第482図	第101号土壌出土遺物(5) …… 595
第446図	第5区画の土壌出土遺物(28) … 540	第483図	第102号土壌 …… 596
第447図	第5区画の土壌出土遺物(29) … 541	第484図	第102号土壌出土遺物(1) …… 597
第448図	第5区画の土壌出土遺物(30) … 542	第485図	第102号土壌出土遺物(2) …… 598
第449図	第5区画の土壌出土遺物(31) … 543	第486図	第102号土壌出土遺物(3) …… 599
第450図	第5区画の土壌出土遺物(32) … 544	第487図	第102号土壌出土遺物(4) …… 600
第451図	第5区画の土壌出土遺物(33) … 545	第488図	第102号土壌出土遺物(5) …… 601
第452図	第5区画の土壌出土遺物(34) … 546	第489図	第102号土壌出土遺物(6) …… 602
第453図	第5区画の土壌出土遺物(35) … 547	第490図	第6区画の土壌(1) …… 603
第454図	第5区画の土壌出土遺物(36) … 548	第491図	第6区画の土壌(2) …… 604
第455図	第5区画の土壌出土遺物(37) … 549	第492図	第6区画の土壌(3) …… 605
第456図	第5区画の土壌出土遺物(38) … 550	第493図	第6区画の土壌出土遺物(1) … 607
第457図	第5区画の土壌出土遺物(39) … 551	第494図	第6区画の土壌出土遺物(2) … 608
第458図	第5区画の土壌出土遺物(40) … 552	第495図	第6区画の土壌出土遺物(3) … 609
第459図	第5区画の土壌出土遺物(41) … 553	第496図	第6区画の土壌出土遺物(4) … 610
第460図	第5区画の土壌出土遺物(42) … 554	第497図	第6区画の土壌出土遺物(5) … 611
第461図	第5区画の土壌出土遺物(43) … 555	第498図	第6区画の土壌出土遺物(6) … 612
第462図	第5区画の土壌出土遺物(44) … 556	第499図	第6区画の土壌出土遺物(7) … 613
第463図	第5区画の土壌出土遺物(45) … 570	第500図	第6区画の土壌出土遺物(8) … 616
第464図	第5区画の土壌出土遺物(46) … 570	第501図	第6区画の土壌出土遺物(9) … 617
第465図	第5区画の土壌出土遺物(47) … 571	第502図	第6区画の土壌出土遺物(10) … 618
第466図	第5区画の土壌出土遺物(48) … 573	第503図	第6区画の土壌出土遺物(11) … 619
第467図	第5区画の土壌出土遺物(49) … 574	第504図	第6区画の土壌出土遺物(12) … 620
第468図	第5区画の土壌出土遺物(50) … 575	第505図	第6区画の土壌出土遺物(13) … 621
第469図	第5区画の土壌出土遺物(51) … 576	第506図	第6区画の土壌出土遺物(14) … 622
第470図	第5区画の土壌出土遺物(52) … 578	第507図	第6区画の土壌出土遺物(15) … 623
第471図	第5区画の土壌出土遺物(53) … 579	第508図	第6区画の土壌出土遺物(16) … 624
第472図	第5区画の土壌出土遺物(54) … 580	第509図	第105号土壌 …… 625
第473図	第5区画の土壌出土遺物(55) … 581	第510図	第105・121号土壌出土遺物(1) … 626
第474図	第5区画の土壌出土遺物(56) … 582	第511図	第105・121号土壌出土遺物(2) … 627
第475図	第5区画の土壌出土遺物(57) … 586	第512図	第105・121号土壌出土遺物(3) … 628
第476図	第5区画の土壌出土遺物(58) … 587	第513図	第105・121号土壌出土遺物(4) … 629
第477図	第101号土壌 …… 590	第514図	第105・121号土壌出土遺物(5) … 630

第515図	第105・121号土壙出土遺物 (6) … 631	第552図	第105号土壙出土遺物 (3) …… 679
第516図	第105・121号土壙出土遺物 (7) … 632	第553図	第105号土壙出土遺物 (4) …… 680
第517図	第105・121号土壙出土遺物 (8) … 636	第554図	第105号土壙出土遺物 (5) …… 681
第518図	第105・121号土壙出土遺物 (9) … 637	第555図	第105号土壙出土遺物 (6) …… 682
第519図	第105・121号土壙出土遺物 (10) … 638	第556図	第121号土壙 …… 683
第520図	第105・121号土壙出土遺物 (11) … 639	第557図	第121号土壙出土遺物 (1) …… 684
第521図	第105・121号土壙出土遺物 (12) … 640	第558図	第121号土壙出土遺物 (2) …… 685
第522図	第105・121号土壙出土遺物 (13) … 641	第559図	第7区画の土壙 …… 687
第523図	第105・121号土壙出土遺物 (14) … 642	第560図	第7区画の土壙出土遺物 (1) … 688
第524図	第105・121号土壙出土遺物 (15) … 643	第561図	第7区画の土壙出土遺物 (2) … 689
第525図	第105・121号土壙出土遺物 (16) … 644	第562図	第7区画の土壙出土遺物 (3) … 690
第526図	第105・121号土壙出土遺物 (17) … 645	第563図	第7区画の土壙出土遺物 (4) … 691
第527図	第105・121号土壙出土遺物 (18) … 646	第564図	第7区画の土壙出土遺物 (5) … 692
第528図	第105・121号土壙出土遺物 (19) … 647	第565図	第7区画の土壙出土遺物 (6) … 693
第529図	第105・121号土壙出土遺物 (20) … 648	第566図	第7区画の土壙出土遺物 (7) … 694
第530図	第105・121号土壙出土遺物 (21) … 649	第567図	第7区画の土壙出土遺物 (8) … 695
第531図	第105・121号土壙出土遺物 (22) … 650	第568図	第7区画の土壙出土遺物 (9) … 696
第532図	第105・121号土壙出土遺物 (23) … 651	第569図	第7区画の土壙出土遺物 (10) … 697
第533図	第105・121号土壙出土遺物 (24) … 652	第570図	第7区画の土壙出土遺物 (11) … 698
第534図	第105・121号土壙出土遺物 (25) … 653	第571図	第7区画の土壙出土遺物 (12) … 699
第535図	第105・121号土壙出土遺物 (26) … 654	第572図	第7区画の土壙出土遺物 (13) … 705
第536図	第105・121号土壙出土遺物 (27) … 655	第573図	第7区画の土壙出土遺物 (14) … 706
第537図	第105・121号土壙出土遺物 (28) … 656	第574図	第7区画の土壙出土遺物 (15) … 707
第538図	第105・121号土壙出土遺物 (29) … 657	第575図	第7区画の土壙出土遺物 (16) … 708
第539図	第105・121号土壙出土遺物 (30) … 659	第576図	第7区画の土壙出土遺物 (17) … 709
第540図	第105・121号土壙出土遺物 (31) … 660	第577図	第7区画の土壙出土遺物 (18) … 712
第541図	第105・121号土壙出土遺物 (32) … 661	第578図	第7区画の土壙出土遺物 (19) … 713
第542図	第105・121号土壙出土遺物 (33) … 662	第579図	第7区画の土壙出土遺物 (20) … 714
第543図	第105・121号土壙出土遺物 (34) … 663	第580図	第7区画の土壙出土遺物 (21) … 715
第544図	第105・121号土壙出土遺物 (35) … 664	第581図	第7区画の土壙出土遺物 (22) … 716
第545図	第105・121号土壙出土遺物 (36) … 665	第582図	第7区画の土壙出土遺物 (23) … 717
第546図	第105・121号土壙出土遺物 (37) … 666	第583図	第7区画の土壙出土遺物 (24) … 718
第547図	第105・121号土壙出土遺物 (38) … 667	第584図	第7区画の土壙出土遺物 (25) … 719
第548図	第105・121号土壙出土遺物 (39) … 668	第585図	第7区画の土壙出土遺物 (26) … 720
第549図	第105・121号土壙出土遺物 (40) … 669	第586図	鍛冶関連遺物 (1) …… 722
第550図	第105号土壙出土遺物 (1) …… 677	第587図	鍛冶関連遺物 (2) …… 723
第551図	第105号土壙出土遺物 (2) …… 678	第588図	鍛冶関連遺物 (3) …… 724

第589図	鍛冶関連遺物（4）	725	第599図	鍛冶関連遺物（14）	735
第590図	鍛冶関連遺物（5）	726	第600図	鍛冶関連遺物（15）	736
第591図	鍛冶関連遺物（6）	727	第601図	鍛冶関連遺物（16）	737
第592図	鍛冶関連遺物（7）	728	第602図	鍛冶関連遺物（17）	738
第593図	鍛冶関連遺物（8）	729	第603図	重軽鉍物組成	786
第594図	鍛冶関連遺物（9）	730	第604図	花粉化石群集・寄生虫卵	787
第595図	鍛冶関連遺物（10）	731	第605図	第8号建物跡試料採集位置	791
第596図	鍛冶関連遺物（11）	732	第606図	調査区と絵図の対比案	793
第597図	鍛冶関連遺物（12）	733	第607図	鍛冶炉周辺の想定図	798
第598図	鍛冶関連遺物（13）	734	第608図	鉄滓と鞆の羽口の重量別分布図	799

# 表目次

## (第2分冊)

第150表	第4区画土壙一覧表	369	第184表	第184号土壙出土遺物観察表(1)	469
第151表	第120号土壙出土遺物観察表(1)	372	第185表	第184号土壙出土遺物観察表(2)	471
第152表	第120号土壙出土遺物観察表(2)	372	第186表	第184号土壙出土遺物観察表(3)	471
第153表	第120号土壙出土遺物観察表(3)	373	第187表	第184号土壙出土遺物観察表(4)	472
第154表	第141号土壙出土遺物観察表(1)	378	第188表	第226号土壙出土遺物観察表(1)	480
第155表	第141号土壙出土遺物観察表(2)	379	第189表	第226号土壙出土遺物観察表(2)	482
第156表	第141号土壙出土遺物観察表(3)	380	第190表	第226号土壙出土遺物観察表(3)	483
第157表	第141号土壙出土遺物観察表(4)	382	第191表	第226号土壙出土遺物観察表(4)	486
第158表	第141号土壙出土遺物観察表(5)	382	第192表	第226号土壙出土遺物観察表(5)	487
第159表	第145号土壙出土遺物観察表(1)	390	第193表	第226号土壙出土遺物観察表(6)	487
第160表	第145号土壙出土遺物観察表(2)	396	第194表	第260号土壙出土遺物観察表(1)	493
第161表	第145号土壙出土遺物観察表(3)	396	第195表	第260号土壙出土遺物観察表(2)	495
第162表	第145号土壙出土遺物観察表(4)	397	第196表	第260号土壙出土遺物観察表(3)	495
第163表	第145号土壙出土遺物観察表(5)	399	第197表	第260号土壙出土遺物観察表(4)	502
第164表	第150号土壙出土遺物観察表(1)	402	第198表	第260号土壙出土遺物観察表(5)	503
第165表	第150号土壙出土遺物観察表(2)	403	第199表	第290号土壙出土遺物観察表	506
第166表	第153号土壙出土遺物観察表	404	第200表	第5区画の土壙出土遺物観察表(1)	557
第167表	第152・153号土壙出土遺物観察表	405	第201表	第5区画の土壙出土遺物観察表(2)	572
第168表	第159号土壙出土遺物観察表(1)	410	第202表	第5区画の土壙出土遺物観察表(3)	573
第169表	第159号土壙出土遺物観察表(2)	411	第203表	第5区画の土壙出土遺物観察表(4)	576
第170表	第159号土壙出土遺物観察表(3)	412	第204表	第5区画の土壙出土遺物観察表(5)	583
第171表	第297号土壙出土遺物観察表(1)	415	第205表	第5区画の土壙出土遺物観察表(6)	586
第172表	第297号土壙出土遺物観察表(2)	416	第206表	第5区画の土壙出土遺物観察表(7)	588
第173表	第297号土壙出土遺物観察表(3)	416	第207表	第6区画の土壙一覧表	589
第174表	第297号土壙出土遺物観察表(4)	416	第208表	第101号土壙出土遺物観察表(1)	593
第175表	第4区画の土壙出土遺物観察表(1)	441	第209表	第101号土壙出土遺物観察表(2)	595
第176表	第4区画の土壙出土遺物観察表(2)	448	第210表	第101号土壙出土遺物観察表(3)	596
第177表	第4区画の土壙出土遺物観察表(3)	448	第211表	第102号土壙出土遺物観察表(1)	598
第178表	第4区画の土壙出土遺物観察表(4)	451	第212表	第102号土壙出土遺物観察表(2)	599
第179表	第4区画の土壙出土遺物観察表(5)	456	第213表	第102号土壙出土遺物観察表(3)	600
第180表	第4区画の土壙出土遺物観察表(6)	458	第214表	第102号土壙出土遺物観察表(4)	601
第181表	第4区画の土壙出土遺物観察表(7)	459	第215表	第102号土壙出土遺物観察表(5)	602
第182表	第4区画の土壙出土遺物観察表(8)	461	第216表	第6区画の土壙出土遺物観察表(1)	613
第183表	第5区画土壙一覧表	463	第217表	第6区画の土壙出土遺物観察表(2)	616



第218表	第6区画の土壙出土遺物観察表(3)…618	第237表	鍛冶関連遺物観察表(1) ……739
第219表	第6区画の土壙出土遺物観察表(4)…622	第238表	鍛冶関連遺物観察表(2) ……743
第220表	第6区画の土壙出土遺物観察表(5)…623	第239表	鍛冶関連遺物一覧表 ……744
第221表	第6区画の土壙出土遺物観察表(6)…624	第240表	鞆の羽口出土量集成表 ……745
第222表	第7区画土壙一覧表 ……625	第241表	文字資料積文(1) ……748
第223表	第105・121号土壙出土遺物観察表(1)…633	第242表	文字資料積文(2) ……750
第224表	第105・121号土壙出土遺物観察表(2)…669	第243表	第一面瓦計測表 ……751
第225表	第105号土壙出土遺物観察表(1) ……679	第244表	出土遺物一覧表 ……757
第226表	第105号土壙出土遺物観察表(2) ……681	第245表	遺構推定時期一覧表 ……775
第227表	第105号土壙出土遺物観察表(3) ……682	第246表	出土陶磁器組成表 ……782
第228表	第121号土壙出土遺物観察表 ……684	第247表	テフラ分析結果 ……785
第229表	第7区画の土壙出土遺物観察表(1)…700	第248表	重軽鉦物分析結果 ……785
第230表	第7区画の土壙出土遺物観察表(2)…705	第249表	花粉・寄生虫卵分析結果 ……788
第231表	第7区画の土壙出土遺物観察表(3)…706	第250表	樹種同定結果 ……792
第232表	第7区画の土壙出土遺物観察表(4)…709	第251表	「角屋七兵衛」関連文字資料 ……794
第233表	第7区画の土壙出土遺物観察表(5)…715	第252表	「稻荷屋」関連文字資料 ……795
第234表	第7区画の土壙出土遺物観察表(6)…718	第253表	「紀州屋」関連文字資料 ……796
第235表	第7区画の土壙出土遺物観察表(7)…719	第254表	道路跡出土陶磁器の層位別様相 ……798
第236表	第7区画の土壙出土遺物観察表(8)…720		

(4) 第4区画 (区画X)

第4区画(区画X)は『絵図』の「鍛冶屋 百姓 幸次郎」、『営業便覧』の「棒屋」に該当する区画と考えられる。この区画の遺構からは多量の鉄滓・鞆の羽口が出土しており、『絵図』の記載を裏付けている。鍛冶関連遺物は、出土量が多いので「7 鍛冶関連遺物」の項を設け、数量データとともに取り上げる。

区画中央付近には、第7号建物跡が所在し、ほ

ぼ同じ範囲に整地層の広がりが認められる。建物跡の項で記述したように、土台基礎を有す建物跡と整地層は必ずしも一体化した遺構とは言えないが、第7号建物跡に先行して、土間状の床を有す空間が存在していた可能性がある。鍛冶行為と関わる痕跡であろう。土壌が密に検出されているのはこの整地層の周囲である。以下、第120・141・145・152・153・159・297号土壌を個別に取り上げ、他の土壌は一括して図面等を示す。

第150表 第4区画土壌一覧表 単位：m

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
120	4	E7-J5	隅丸長方形	1.76	(1.20)	0.65	N-73°-E	SD2・SK194/306 重複	299
135	4	E7-J4	隅丸方形	2.65	(1.95)	0.55	N-18°-W	SK136/137/149 重複	343
136	4	E7-J4/5	不整形	2.01	1.40	0.38	N-50°-E	SK160/296/322 より新 SK135/151 重複	343
137	4	E7-J4/5	隅丸方形	1.54	1.18	0.38	N-20°-W	SK135/149 重複	343
138	4	E7-I5/6, J5/6	隅丸方形	1.17	1.02	0.25	N-73°-E	SB7 整地層重複	343
139	4	E7-J5	長方形	2.73	1.59	0.73	N-71°-E	SB7・SK146/194/299/302 重複	343
140	4	E7-J5	隅丸長方形	2.05	1.28	0.36	N-80°-E		343
141	4	E7-I6	不整形	1.60	(0.80)	0.18	N-23°-W	SK142/145a/145b/294/297・SB7 整地層重複	303
142	4	E7-I6	隅丸長方形	2.30	0.69	0.65	N-17°-W	SK141/145a/145b/297・SB7 整地層重複	343
143	4	E7-I6	不整形	(1.85)	1.57	0.25	N-64°-E	SK144/145b/197/199 重複	343
144	4	E7-I6	不整楕円形	2.48	(0.89)	0.25	N-23°-E	SK145a/145b より新 SK143/200 重複	343
145a	4	E7-I6, J6	不整形	3.51	3.35	0.61	N-15°-W	SK144 より古 SK145b より新 SB7・桶8・SK141/142 重複	311
145b	4	E7-I6	不整形	3.22	(1.10)	0.19	N-88°-E	SK144/145a より古 SB7・SK141/142/143 重複	311
146	4	E7-J5	隅丸長方形	1.55	(1.11)	0.22	N-68°-E	SK139/302・E7-J5 P5・SB7 整地層重複	344
147	4	E7-J6	隅丸長方形	0.92	0.64	0.10	N-15°-W	SB7 重複	344
148	4	E7-J5	不整楕円形	0.87	0.48	0.20	N-82°-E		344
149	4	E7-J4	隅丸長方形	1.16	0.89	0.65	N-71°-E	SK135/137・桶48 より新	344
150	4	E7-J5	隅丸長方形	1.68	0.44	0.08	N-73°-E	SB7・SK301 重複	324
151	4	E7-J5	楕円形	0.94	0.70	0.24	N-72°-E	SK136/296/322 重複	343
152	4	E7-J5	隅丸方形	1.06	1.00	0.10	N-68°-E	SK153 より新 SK154 重複	328
153	4	E7-J5	隅丸長方形	(1.33)	1.03	0.48	N-15°-W	SK302 より新 SK152/154 より古	328
154	4	E7-J5	楕円形	0.85	0.70	0.13	N-6°-E	SK153 より新 SK152/320 重複	344
155	4	E7-J4	円形	0.55	0.52	0.17	N-70°-E		344
156	4	E7-J4/5	隅丸長方形	1.07	0.82	0.25	N-66°-E	桶48 より古	344
157	4	E7-J5	楕円形	1.10	0.62	0.15	N-89°-E	SK313 重複	344
158	4	E7-J5	隅丸長方形	1.36	0.51	0.25	N-73°-E		344
159	4	E7-I5/6	隅丸長方形	3.88	0.76	0.20	N-76°-E	SK171/294/297/298/690 より新 SB7 重複	331
160	4	E7-J5	不整形	0.92	(0.39)	0.32	N-4°-W	SK136 より古 SK296/322 より新	343
170	4	E7-I5/6	隅丸長方形	1.57	0.82	0.32	N-77°-E	SK297 より新 SB7 重複	345
171	4	E7-I5/6	隅丸長方形	1.70	(0.50)	0.21	N-73°-E	SK159 より古 SK294/298・SB7 整地層重複	345
172	4	E7-I5	隅丸長方形	1.01	0.58	0.14	N-82°-E	SK298/690・SB7 整地層重複	344
185	4	E7-J5	隅丸方形	0.35	0.35	0.20	N-30°-W	SK306 より新	345
194	4	E7-J5	長方形	2.31	1.37	0.31	N-73°-E	SK302 より新 SK120/139/306・SB7 整地層重複	345
197	4	E7-I6	楕円形	1.40	1.12	0.30	N-34°-E	SK143 重複	345
198	4	E7-I6	隅丸方形	1.84	1.32	0.33	N-12°-W	SD7・SK199/200 重複	345
199	4	E7-I6	隅丸長方形	(1.57)	(1.50)	0.19	N-11°-W	SK143/198/200/293 重複	345
200	4	E7-I6	隅丸長方形	2.51	1.09	0.31	N-12°-W	SK144/198/199 重複	345

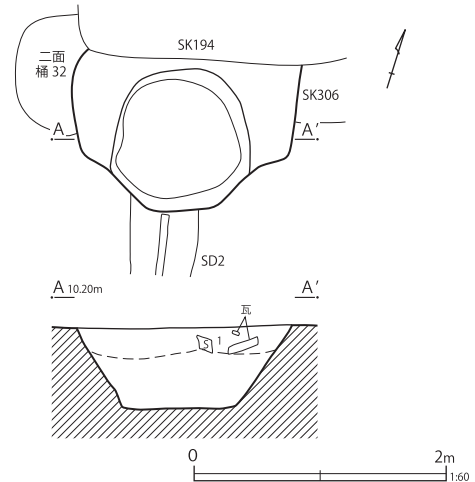
番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
275	4	E7-I6/7	楕円形か	1.11	(0.30)	0.25	N-19° -W		345
287	4	E7-J5	隅丸長方形	1.65	0.92	0.40	N-72° -E	SD6 より古	345
289	4	E7-I6/7	円形か	1.93	(1.30)	0.23	N-16° -W	SD7 より古	346
293	4	E7-I6	円形	1.70	1.50	0.37	N-65° -E	SD7 より古 SK199 重複	345
294	4	E7-I6	隅丸長方形	1.16	(0.55)	0.42	N-74° -E	SK159 より古 SK141/171/297・SB7 整地層重複	346
296	4	E7-J5	不整形	1.56	1.15	0.45	N-69° -E	SK136/160 より古 SK322 より新 SK151 重複	346
297	4	E7-I6	方形	1.70	1.57	1.00	N-71° -E	SK159/170 より古 SB7・SK141/142/294 重複	338
298	4	E7-I5	隅丸長方形	1.53	0.95	0.57	N-69° -E	SK159 より古 SK690 より新 SB7・SK171/172 重複	346
299	4	E7-I5, J5	隅丸方形	1.66	1.64	0.35	N-18° -W	SK690 より新 SB7・SK139/300/303 重複	346
300	4	E7-I5, J5	隅丸長方形	1.72	1.14	0.58	N-75° -E	SB7・SK299 重複	346
301	4	E7-J5/6	隅丸長方形	2.65	1.51	0.36	N-72° -E	SB7 より古 SK150 重複	347
302	4	E7-J5	隅丸長方形	2.85	(0.89)	0.30	N-77° -E	SK153/194 より古 SK139/146・SB7 整地層重複	347
303	4	E7-J5	方形	[0.75]	0.72	0.35	N-72° -E	SK299・SB7 整地層重複	346
306	4	E7-J5	方形	0.96	(0.45)	0.35	N-70° -E	SK185 より古 SK120/194・SB7 整地層重複	347
313	4	E7-J5	不整形	1.20	1.04	0.25	N-70° -E	SB5・SD17・SK157 重複	347
320	4	E7-J5	隅丸長方形	1.40	0.80	1.00	N-15° -W	SK321 より新 SK154/322 重複	347
321	4	E7-J5	隅丸長方形	0.91	0.66	0.17	N-5° -W	SK320 より古	347
322	4	E7-J5	隅丸長方形	1.72	1.31	0.75	N-77° -E	SK136/160/296 より古 SK151/320 重複	346
332	4	E7-J6	楕円形	2.00	0.94	0.30	N-71° -E		347
690	4	E7-I5	隅丸長方形	1.65	0.75	0.45	N-73° -E	SB7・SK159/298/299 より古 SK172 重複	346

### 第120号土壙 (第299～302図)

E7-J5グリッドに位置する土壙である。本跡は、第一面で長軸1.76m、短軸1.2m以上の土壙として調査したが、第二面でも、真下の位置から径1.1m程の土壙(第447号土壙)が検出されていた。第二面の土壙から出土した遺物の年代観は、上面の第120号土壙の時期と一致しており、肥前系磁器の鉢は、両遺構間で接合した。遺構・遺物の所見より、第二面の土壙は第120号土壙の下部と判断される。遺構図は二基の図面データから作図して示す。

覆土は、上部は瓦や大きな礫を含む灰色土で、均質である。遺構下部は円形状であり、底面付近には青灰色の砂質土が堆積していた。埋設桶であった可能性もある。上部は隅丸長方形に広がるが、これは掘方上部を捉えたものと考えられる。ちなみに、本跡に隣接して検出された第二面の埋設桶(第32号埋設桶)も、遺物の内容から第一面から掘り込まれている可能性が高い。しかし、上面に遺構の検出が無かったため、第二面の遺構

SK120



第120号土壙  
1 灰色土 均一 シルト質 炭化物(φ5mm)・瓦・大礫少量

第299図 第120号土壙

として別途報告する。

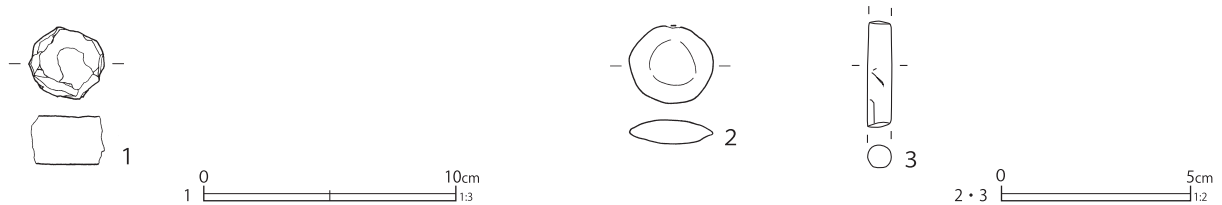
第300図に出土した陶磁器を示した。1は肥前系磁器の口縁部が輪花状に成形された碗である。実際は向付のように使用されたものであろう。焼き継ぎ痕が顕著である。外面は草花文、内面は口縁部に四方襷文、内底面に環状松竹梅文を染付する。2は肥前系磁器で型紙摺絵染付の皿である。



第 300 图 第 120 号土壤出土遺物 (1)

第 151 表 第 120 号土壌出土遺物観察表 (1) (第 300 図)

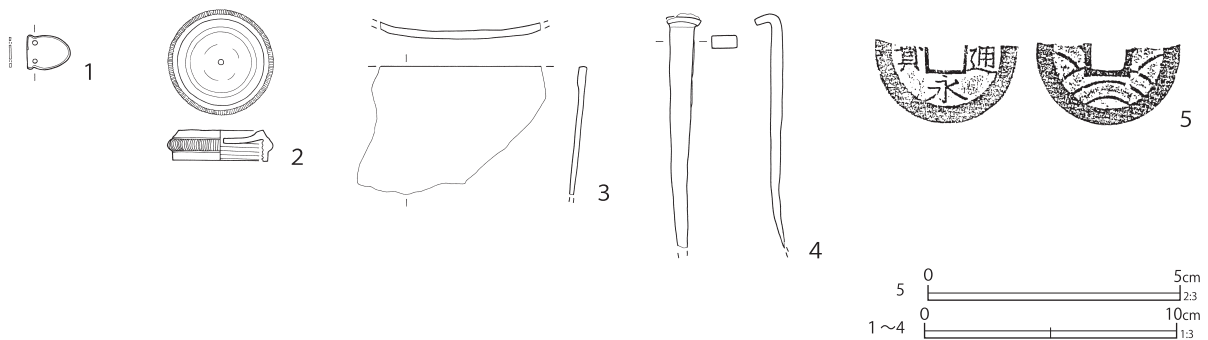
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(7.0)	5.8	(4.1)	-	30	良好	白	SK120	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕	123-1
2	磁器	皿	(20.5)	3.0	11.2	-	45	良好	白	SK120	肥前系 内外面施釉 内面型紙摺絵染付 弱く被熱し煤附着	
3	磁器	鉢	(14.4)	6.9	6.2	-	35	良好	白	SK120	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	
4	磁器	紅皿	(4.9)	1.4	(2.0)	-	35	良好	白	SK120	瀬戸美濃系 型押成形 内面～口縁部施釉 外面型押施文	
5	陶器	坏	(6.4)	[4.8]	-	K	10	良好	灰白	SK120	硬質陶器 内外面施釉	123-2
6	磁器	爛徳利	-	[15.6]	-	-	65	良好	白	SK120	瀬戸美濃系 外面施釉・銅版転写染付	
7	陶器	灯火具	-	[4.4]	5.2	HIK	60	良好	灰黄	SK120	底部糸切痕(右) 内外面灰釉	123-2
8	陶器	蓋	-	7.4	(5.8)	IK	35	良好	赤褐	SK120	つまみ中心に穿孔 全面露胎 炆器質・朱泥 最大径(8.6)cm	123-3
9	瓦質土器	焜炉	(21.4)	[4.4]	-	ADEHIK	5	普通	灰褐	SK120	口縁部ミガキ 外面施文	123-3
10	瓦質土器	竈	(33.5)	[22.4]	-	CFHIK	15	普通	黒・灰褐	SK120	口縁部ヘラ書き「四[ ]」 燻す 内外面上位に煤附着	
11	瓦質土器	火鉢	(31.4)	[9.7]	(25.6)	CEHIK	5	普通	灰白	SK120	外面ミガキ 燻す 破損後二次研磨(転用砥具)	



第 301 図 第 120 号土壌出土遺物 (2)

第 152 表 第 120 号土壌出土遺物観察表 (2) (第 301 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	転用品	-	3.0	1.9	15	普通	灰黄	SK120	被熱・変色	
番号	種別	器種	径	高さ	厚さ	重さ	焼成	色調	遺構	備考	図版
2	磁器	碁石	2.2	-	0.6	3.1	良好	灰白	SK120	両面布目痕	243-6
番号	種別	器種	長さ	径	重さ	石材	遺構	備考	図版		
3	石製品	石筆	[2.8]	0.6	1.2	不明	SK120	白色不透明	284-2		



第 302 図 第 120 号土壌出土遺物 (3)

第 153 表 第 120 号土壙出土遺物観察表 (3) (第 302 図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	こはぜ	長さ 1.4 幅 1.7 厚さ 0.08 重さ 0.6	SK120		
2	銅製品	蓋	径 4.2 高さ 1.2 厚さ 0.2 重さ 52.8	SK120		
3	鉄製品	鍋	縦 [5.0] 横 [7.5] 厚さ 0.3 重さ 39.8	SK120		
4	鉄製品	釘	長さ [9.2] 幅 1.0 厚さ 0.5 重さ 15.4	SK120		
5	銅製品	銭貨	径 28.1 厚さ 1.1 重さ 2.5	SK120	寛永通寶 (新) 11 波半欠	

被熱痕は明瞭では無いが、僅かに煤が付着する。3は肥前系磁器の八角鉢で、焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印がみられる。上層出土のものと、第二面で調査した下層部のものが接合した。4は瀬戸美濃系磁器の紅皿で、外面に蛸唐草文を陰刻状に型押し施文する。高台は比較的高いが、高台内の刻印はみられない。5は産地不明の硬質陶器の坏で、内外面ともクリーム色の釉を施釉する。19世紀後半以降のものである。6は瀬戸美濃系磁器の爛徳利で銅版転写染付を施す。僅かに煤が付着していた痕跡がみられるが、被熱痕跡はみられない。7は産地不詳の陶器の脚付灯明皿で、鶯色の灰釉が施される。底部に僅かに煤が付着する。内底面は反時計回りの渦巻き状ナデ痕が明瞭である。8は朱泥の陶器蓋で、炆器質である。つまみの上端から内面に向かって小穿孔がある。9は瓦質土器の焜炉で、口縁部に強いミガキが施される。体部外面は魚々子状のローラー施文が施される。胎土に微細な雲母を多く含み、径2mm程の長石・石英角礫を含む。非在地系の土器と考えられる。10は瓦質土器の竈で、内面は凹凸の強いナデ痕跡(ロクロナデか)がみられ、その後、部分的に弱いナデを加える。外面は横位のへらナデを施すが、上位・下位はヨコナデである。口縁部には「四」と読めるへら書きがある。胎土に角閃石や軽石粒が少量含まれている。11は瓦質土器の火鉢で、内面は弱いへらナデ、外面は上位を太いミガキ、下位をケズリで処理する。胎土に角閃石を含む在地系の製品である。

第301図1は瓦の転用品で、円盤状に加工するものである。2は磁器製の基石である。3は石筆

で、白色不透明である。石材はやや粉っぽい印象のもの、他の蠟石製のものとは異なる。石灰岩製であろうか。両端部とも欠損するが、一方に僅かに使用の痕跡がみられる。第302図は金属製品で、1・2は銅製品のこはぜと蓋、3・4は鉄製品の鍋の口縁部破片と釘、5は寛永通寶である。このほか、遺構上層から鞆の羽口4片が出土しており、うち1点を図示(第586図3)した。下層側からは炉壁と椀形滓が1点ずつ出土している。また、上層からも下層からも煉瓦(手ぬき成型)が出土している。

以上のような遺物の様相から、本跡は栗橋9期の帰属である。

本跡で注目されるのは、竹樋との関係である。南側から延びてきた第2号溝跡(第2号竹樋)は本跡の南側にぶつかって、竹樋・掘り込みともに追えなくなる。本跡の下部が桶を据えたような円形の形態であること、第二面の埋設桶(第32号埋設桶)が隣接することを考えれば、本跡が竹樋の水を受ける施設であった可能性がある。もっとも、桶そのものが遺存していた訳では無く、構造等を推測できる情報は無い。

以上のような想定が正しければ、第2区画の第1号竹樋から分岐し、第3区画を経て、第4区画に引かれた竹樋は、本跡に水を供給していたと考えられる。遺物を廃絶時のものとしても、本区画で引き続き鍛冶行為が行われていた時期であり、それに関わる給水施設であった可能性が高い。なお、記述のとおり第2号竹樋には新旧の交換があったとみられ、第二面で検出されている第32号埋設桶との関連も気になるところである。

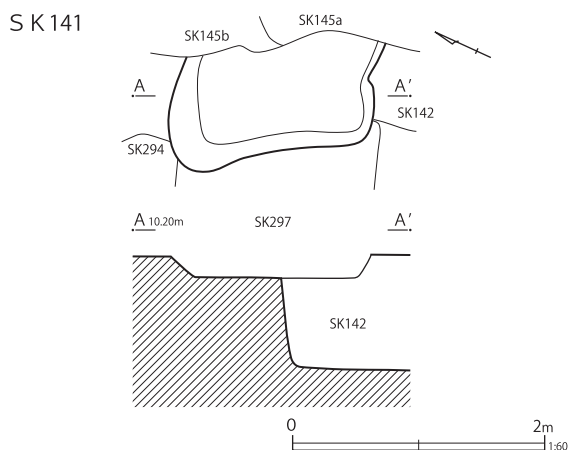
### 第141号土壙（第303～310図）

区画の中心よりやや東側、E 7-I 6 グリッドに位置する。周囲の土壙の重複が最も著しい場所であり、重複関係も不明な部分が多い。遺構からは多量の鍛冶関連遺物が出土しており、轆の羽口61点をはじめ、多くの椀形滓や炉壁が出土している（第238表参照）。

東側は、第145号土壙に重複して規模が不明だが、南北1.6m程、東西0.8m以上の不整形の土壙である。

出土遺物のうち、陶磁器類を第304～306図に示す。1・2は瀬戸美濃系磁器の端反碗である。

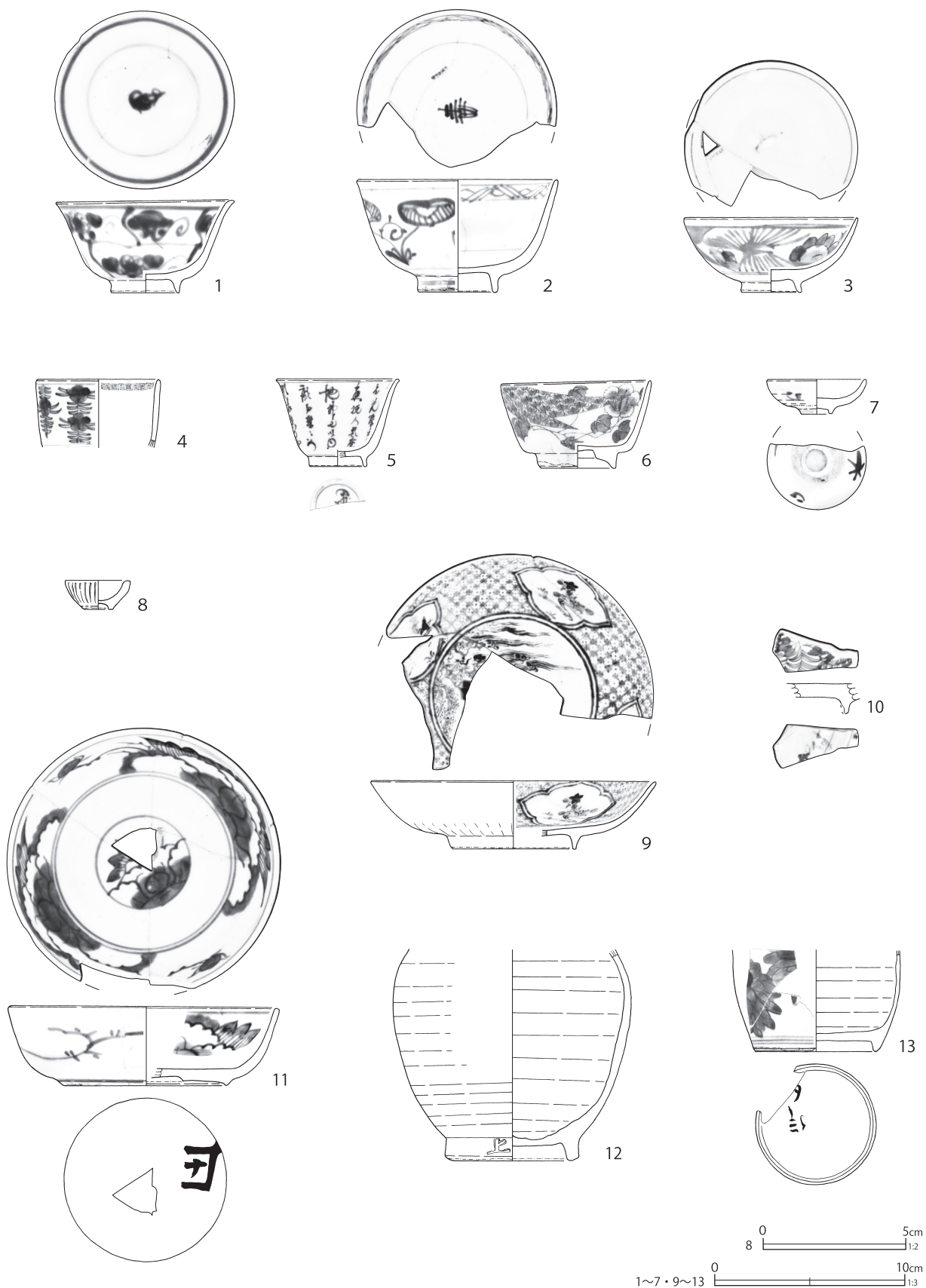
1は口縁部の反りは強いがやや厚手、太く滲んだ線で崩れた霊芝文を染付する。遺構上位の出土である。2は口縁部の反りが弱く、全体に厚手のもので、崩れた草花文を染付する。遺構下位からの出土である。3は赤を主体に色絵が施される瀬戸美濃系磁器の小型碗である。遺構下位からの出土である。4は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、遺構下位から出土したものと第145号土壙の遺物が接合した。5は瀬戸美濃系磁器の坏で、外面に漢詩文を酸化コバルトで染付する。遺構下位からの出土である。6は瀬戸美濃系磁器の口縁部が直立する坏で、銅版転写染付が施される。高台内は蛇の目状に露胎とする。同文・別個体が3個体あり、また重複する第142号土壙にも2個体が認められる。7は瀬戸美濃系磁器の坏で、背の低いものである。遺構下位からの出土である。8は肥前系磁器の紅猪口で、極小のものである。外面に縦のしのご状施文がみられる。遺構下位からの出土である。9は肥前系磁器の皿で、内面に緑色を主体として色絵が描かれる。外面は絵付けされない。外面の体部と高台部の接点には弱いカンナケズリ状の痕跡が一周する。高台は薄手でシャープである。遺構上位・下位からの出土で、第145号土壙の遺物とも接合している。10は肥前系磁器の皿としたが、鉢類の可能性もある。底面に焼き継ぎ



第303図 第141号土壙

印がある。遺構下位からの出土である。11は肥前系磁器の蛇の目凹形高台の皿で、底部に店印らしい墨書がみられ、他にも墨書の可能性がある痕跡がみられる。遺構上位・下位からの出土である。12は肥前系磁器の壺で、染付は施されない。有蓋壺と考えられる。高台部外面のほぼ対向する位置に二箇所「上」の釘書きがみられる。遺構上位のものと第145号土壙のものが接合している。13は瀬戸美濃系磁器の瓶類で、体部は爛徳利のように薄手である。高台内は露胎とし、焼き継ぎ印がみられる。14は瀬戸美濃系磁器の急須で、注口を欠失する。外面に酸化コバルト染付が施され、露胎の底部に細い文字で墨書がみられる。15は淡路珉平系磁器の蓮華で、緑色の釉薬が掛けられる。底面に鳥の絵柄の刻印がある。以上、13～15は遺構上位の出土である。

16は瀬戸美濃系陶器の皿で、遺構上位の出土である。第140号土壙の遺物と接合している。内面には環状にピン痕状の目跡が巡る。被熱し、底部には煤が顕著に付着する。17・18は瀬戸美濃系陶器の灯明皿（受皿）である。いずれも遺構上位から出土している。17は茶色味が強く光沢が弱い柿釉を施す。内底面は回転ナデ後に中心をヨコナデする。受部は小さく径6.4～6.5cmである。外面下位には径6.3cmの重ね焼き痕がある。

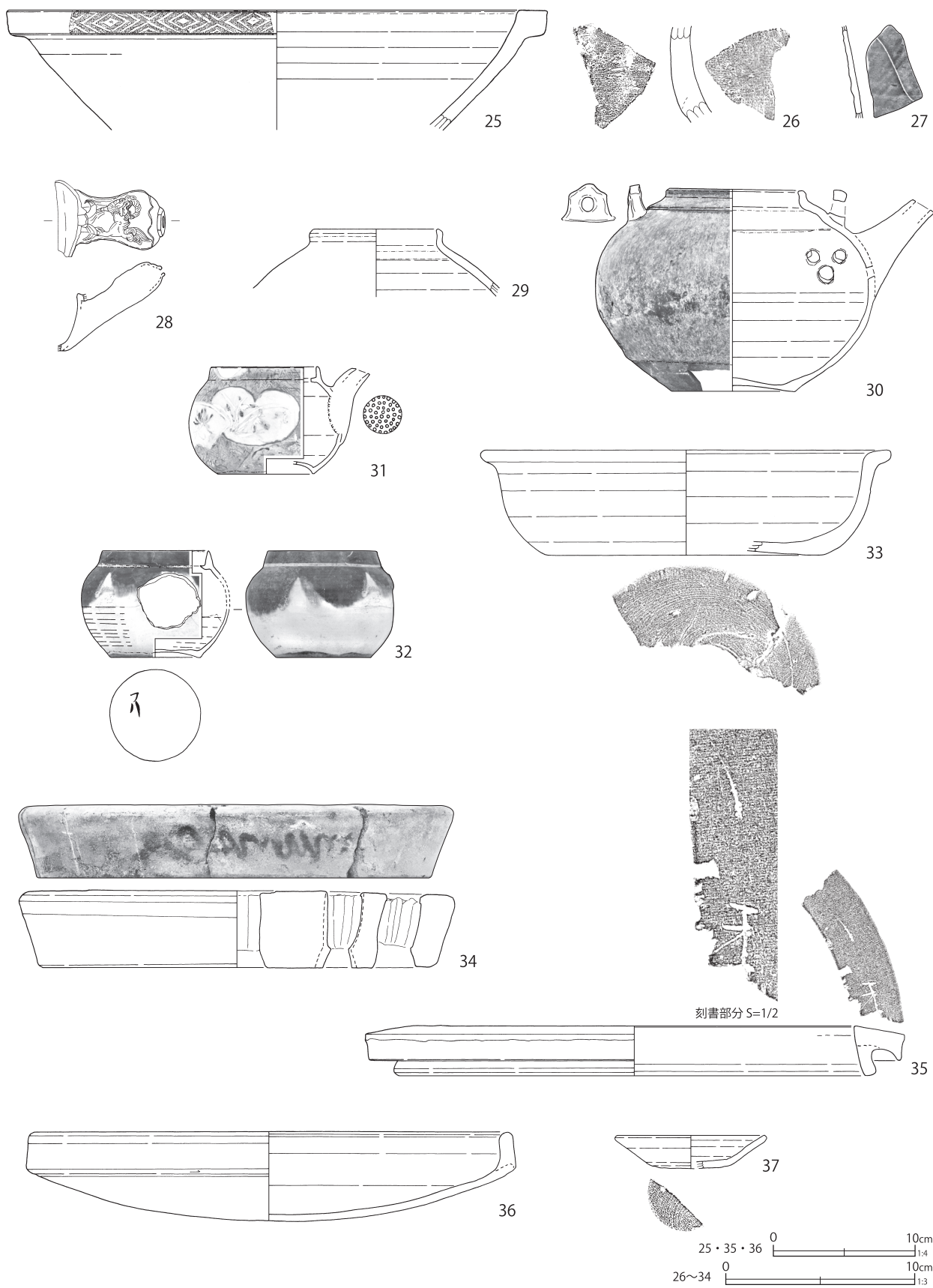


第 304 图 第 141 号土壙出土遺物 (1)





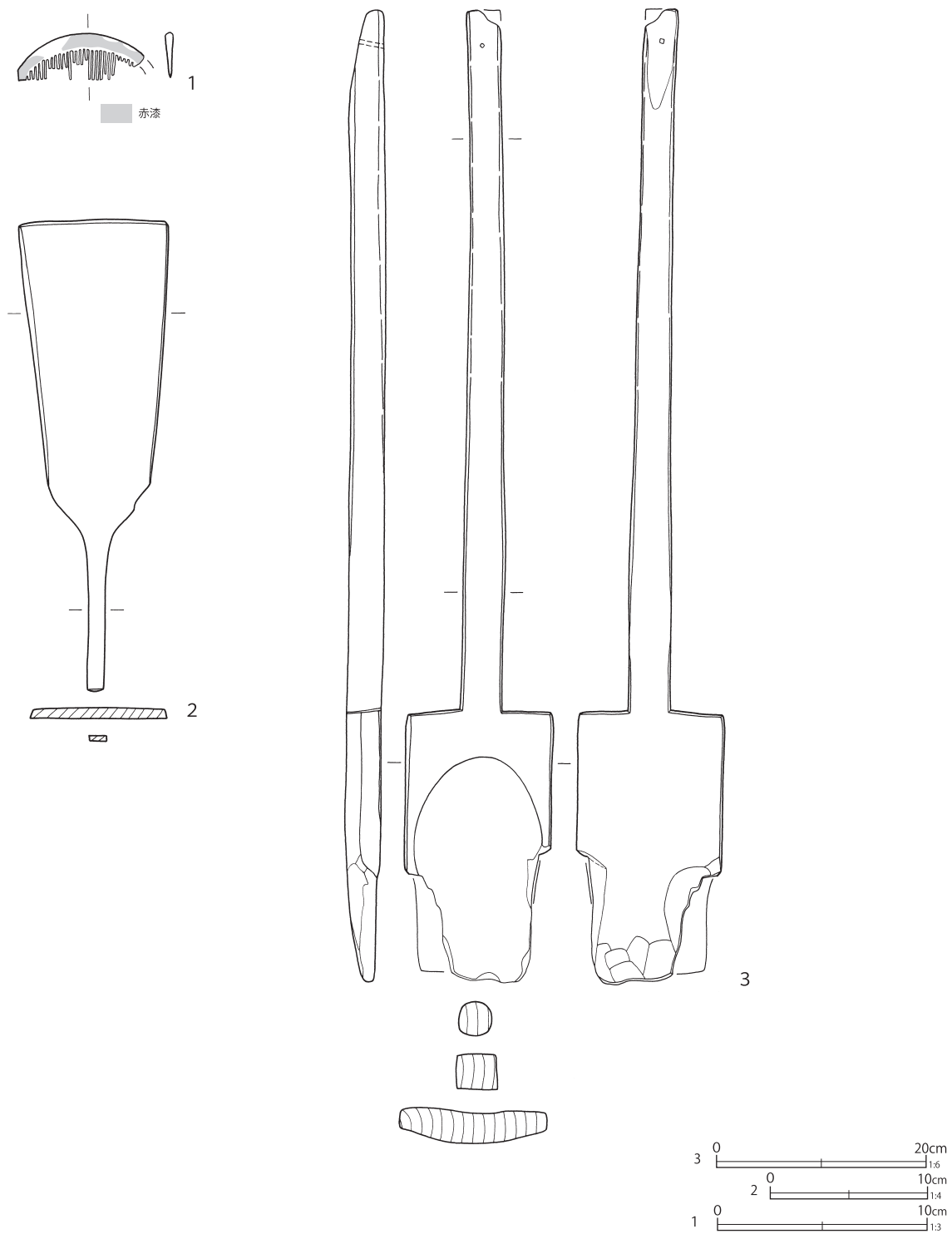
第 305 図 第 141 号土壙出土遺物 (2)



第 306 図 第 141 号土壙出土遺物 (3)

第154表 第141号土壙出土遺物観察表(1)(第304~306図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	9.2	4.8	3.5	-	95	良好	白	SK141	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗)	
2	磁器	碗	10.3	5.8	4.0	-	55	良好	白	SK141	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗)	
3	磁器	碗	9.0	3.9	3.0	-	65	良好	白	SK141	瀬戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・青・緑) 一部被熱	132-7
4	磁器	碗	6.3	[3.5]	-	-	40	良好	白	SK141	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (湯呑形碗)	
5	磁器	坏	(6.3)	4.5	(2.9)	-	40	良好	白	SK141	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト ト染付	
6	磁器	坏	7.8	4.6	3.9	-	95	良好	白	SK141	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染 付 同文別個体3あり	
7	磁器	坏	5.1	1.8	1.6	-	60	良好	白	SK141	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	132-8
8	磁器	紅坏	2.2	1.0	0.9	-	100	良好	白	SK141	肥前系 型成形 内外面施釉 外面しのぎ 状施文	
9	磁器	皿	(14.8)	3.5	6.4	-	40	良好	白	SK141	肥前系 内外面施釉 内面上絵付(茶・金・ 青・緑・赤) 漆継痕	133-1
10	磁器	皿	-	[1.5]	-	-	5	良好	白	SK141	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ印(赤)	133-2
11	磁器	皿	13.9	4.2	8.6	-	90	良好	白	SK141	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目凹形高 台 墨書	133-3
12	磁器	壺	-	[11.0]	6.2	-	40	良好	白	SK141	肥前系 外面施釉 高台部外面に釘書「上」 2箇所	133-4
13	磁器	瓶類	-	[5.2]	6.2	-	15	良好	白	SK141	瀬戸美濃系 外面施釉・染付 底部焼き継 ぎ印(赤)	133-5
14	磁器	急須	7.2	[9.5]	7.7	-	90	良好	白	SK141	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバル ト染付 底部墨書	133-6
15	磁器	蓮華	-	5.1	-	-	95	良好	灰白	SK141	淡路珉平系 内外面緑釉 内面型押施文 底面に刻印・窯道具痕 長12.0cm 幅 5.5cm	133-7
16	陶器	皿	21.9	2.6	15.2	EI	90	良好	にぶい黄橙	SK141	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面鉄絵・目跡 5 被熱して底部煤付着	134-1
17	陶器	灯明皿	10.0	2.1	5.0	IK	100	良好	灰白	SK141	瀬戸美濃系 内外面柿釉 底部拭き取り 外面直重ね焼き痕	
18	陶器	灯明皿	10.0	1.8	4.1	IK	75	良好	にぶい黄橙	SK141	瀬戸美濃系 内外面柿釉 底部拭き取り 外面直重ね焼き痕	
19	陶器	灯明皿	10.0	1.8	4.0	IK	100	良好	にぶい黄橙	SK141	瀬戸美濃系 内外面柿釉 底部拭き取り 内面目跡5	
20	陶器	灯明皿	8.4	2.1	3.7	HIK	95	良好	明黄褐	SK141	内面~外面上位灰釉	134-2
21	陶器	灯明皿	10.0	2.4	4.7	IK	85	良好	灰白	SK141	内面~外面上位灰釉 内面直重ね焼き痕	134-3
22	陶器	合子	(5.4)	2.2	(3.1)	CDIK	45	良好	灰白	SK141	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面下位墨書	134-4
23	陶器	香炉	8.3	3.4	4.8	K	85	良好	灰白	SK141	瀬戸美濃系 内面上位~外面灰釉 底部墨書「E」「かどや」	134-5
24	陶器	德利	-	[13.9]	12.0	IK	40	良好	灰	SK141	外面灰釉 鉄絵文字「廿」「口澤」 底部二次穿孔(植木鉢転用)	134-6
25	陶器	水鉢	(38.2)	[8.4]	-	HI	15	良好	赤灰	SK141	内外面施釉 口縁部施文 炆器質	
26	陶器	甕	-	[5.0]	-	DEIK	5	良好	褐灰	SK141	常滑 13~14c	
27	陶器	爛德利	-	[4.9]	-	IK	5	良好	灰白	SK141	飯能系 外面灰釉 イッチン掛け	134-7
28	陶器	行平	-	[4.7]	-	HIK	5	良好	灰	SK141	内外面鉄釉 外面トビガンナ状施文 把手型成形・型押施文	135-1
29	陶器	土瓶	(6.5)	[3.5]	-	IK	10	良好	灰白	SK141	大堀相馬系か 外面糠白釉 弱く被熱	135-2
30	陶器	土瓶	7.0	10.9	6.5	IK	90	良好	灰褐	SK141	松岡系 外面海鼠釉 底部少量煤付着	135-3
31	陶器	急須	(5.5)	5.6	(5.0)	I	45	良好	灰	SK141	外面灰釉 上絵付(桃・赤・緑・黄・白・金) 一部被熱・黒化	
32	陶器	急須	5.6	5.6	4.7	-	80	良好	灰白	SK141	外面灰釉・銅緑釉流掛か(赤変) 底部墨書	135-4
33	瓦質土器	鉢	(21.0)	5.6	(14.5)	ACIK	25	普通	灰白	SK141	底部糸切痕 強く燻す	135-5
34	瓦質土器	目皿	22.1	4.0	20.4	ACIK	70	普通	灰	SK141	被熱して赤変、上面白化 外面に朱書	135-7
35	瓦質土器	竈鏝	(30.9)	3.4	(32.7)	CIK	15	普通	灰褐	SK141	上面刻書 全体煤付着 最大径(38.0)cm	135-6
36	土師質土器	焙烙	33.4	6.3	34.5	CFHIK	60	普通	にぶい橙	SK141	底部シワ状痕 体部外面煤付着	135-8
37	かわらけ	小皿	(7.7)	1.7	(4.3)	AEI	35	普通	灰白	SK141	底部糸切痕(左) 胎土粉質	



第 307 図 第 141 号土壙出土遺物 (4)

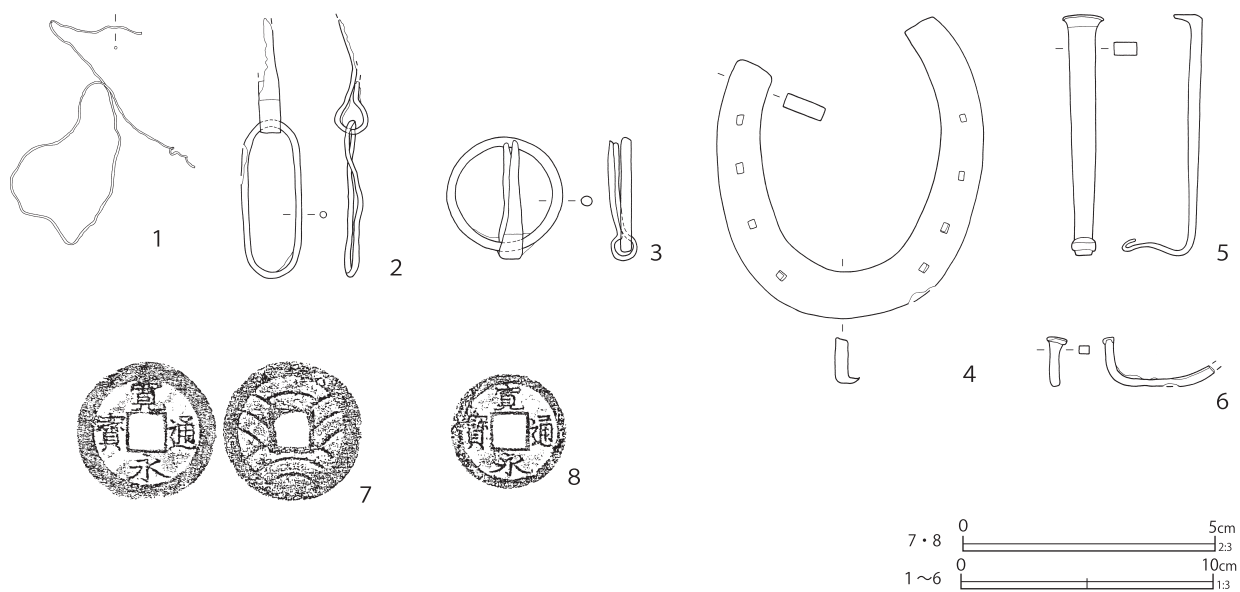
第 155 表 第 141 号土壙出土遺物観察表 (2) (第 307 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径 / 径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	櫛	[6.0]	2.2	0.3	-	-	-	不明	SK141	両面赤漆	264-6
2	木製品	羽子板	30.0	9.5	0.7	-	-	-	板目	SK141		264-4
3	木製品	鋤	93.8	14.2	3.4	-	-	-	分割材	SK141	孔 1	264-5

外面底部は回転ケズリが施され、釉薬は拭き取られる。18は第145号土壌の遺物と接合している。明るい色調の柿釉が掛けられる。受部は径7.1cm、外面下位には径6.9cmの重ね焼き痕が巡る。外面底部には回転ケズリが施され、釉薬は拭き取られる。19～21は灯明皿（油皿）で、遺構上位から出土している。19は瀬戸美濃系陶器で、光沢の無い柿釉が施される。内面にピン痕状の目跡が五箇所、環状に並んでいる。外面底部は回転ケズリが施され、釉薬は拭き取られる。20・21は産地不詳のものである。20は黄色味の強い灰釉が施されるもので、厚手、口唇部は尖る。外面底～体部は回転ケズリで整形され、口縁部はヨコナデで仕上げられる。21は緑色味のある光沢が強い灰釉が施される。内面に環状の重ね焼き痕（径

4.3cm）が残る。外面底～体部は回転ケズリで整形され、口縁部はヨコナデで仕上げられる。底部が薄手で、身が深い器形的特徴がある。

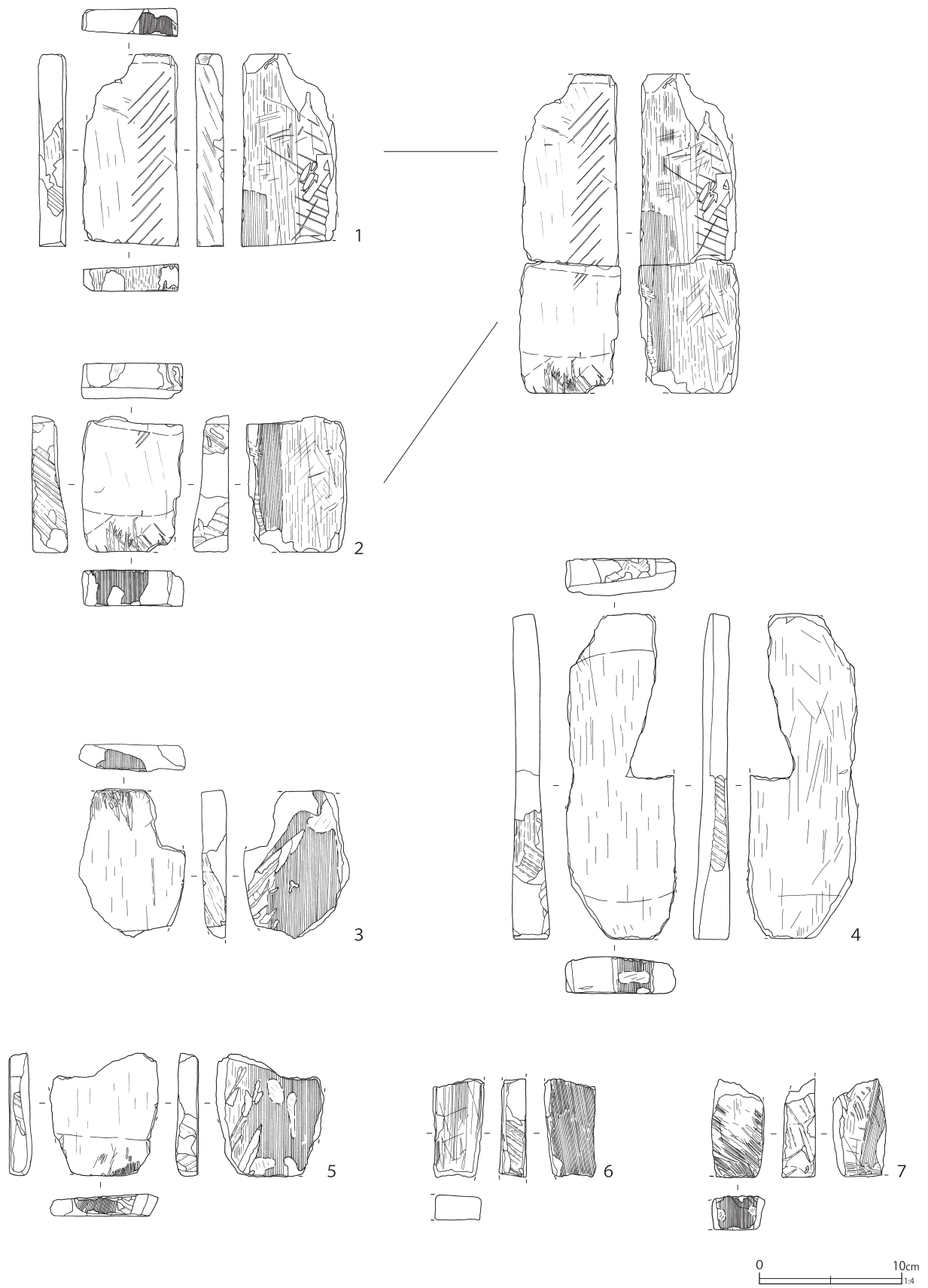
22は瀬戸美濃系陶器の合子で、遺構上位から出土している。底部は削り底で、体部下位に墨書が書かれる。23は瀬戸美濃系陶器の香炉で、外面にやや緑色味を帯びる灰釉が施される。底部と周辺に墨書があり、底部は「卍」、周囲には「かどや」とある。第7区画の「角屋七兵衛」を表すものであろう。遺構上位の出土である。24は遺構上位のものと同第142号土壌出土のものが接合した。産地不詳の通い徳利で鉄絵で「廿」「口澤」の文字が書かれる。底部を二次穿孔して植木鉢に転用しており、その際に胴部上位も打ち欠いていると思われる。



第308図 第141号土壌出土遺物（5）

第156表 第141号土壌出土遺物観察表（3）（第308図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	針金	縦8.9 横7.3 厚さ0.1 重さ1.2	SK141		
2	鉄製品	吊金具	径6.2×2.3 縦[10.2] 厚さ0.2 重さ6.5	SK141		276-1
3	鉄製品	吊金具	径4.5 縦4.8 厚さ0.4 重さ15.2	SK141	下層	276-1
4	鉄製品	蹄鉄	縦11.9 横10.6 厚さ0.6 重さ165.1	SK141	下層 孔3 内部に留釘残存	276-2
5	鉄製品	釘	長さ9.5 幅1.0 厚さ0.5 重さ26.2	SK141	下層	
6	鉄製品	釘	長さ[1.9] 幅0.4 厚さ0.3 重さ2.6	SK141		
7	銅製品	銭貨	径28.3 厚さ1.2 重さ4.3	SK141	寛永通寶（新）11波	
8	銅製品	銭貨	径23.4 厚さ1.3 重さ2.5	SK141	寛永通寶（新）	



第 309 图 第 141 号土壤出土遺物 (6)

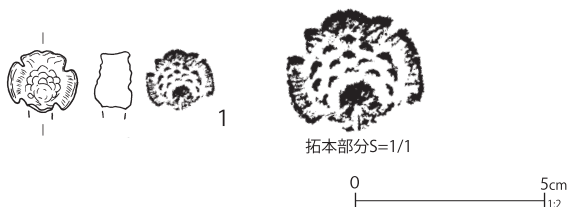
第 157 表 第 141 号土壙出土遺物観察表（4）（第 309 図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1+2	石製品	砥石	22.5	7.1	2.5	570.1	ホルンフェルス	SK141	ノコギリ痕 幅広工具痕 刃物痕 使用面 3	281-9
1			13.6	6.7	1.9	302.2			上部破片	
2			9.6	7.1	2.5	267.9			下部破片	
3	石製品	砥石	[10.4]	[7.6]	1.8	169.3	ホルンフェルス	SK141	ノコギリ痕 刃物痕 砥面 2	281-10
4	石製品	砥石	22.8	[7.8]	2.6	513.3	ホルンフェルス	SK141	ノコギリ痕 幅広工具痕 砥面 2	281-11
5	石製品	砥石	[8.6]	[7.6]	1.6	132.6	ホルンフェルス	SK141	ノコギリ痕（摩耗）幅広工具痕 砥面 2	281-12
6	石製品	砥石	[6.9]	[3.6]	[1.9]	84.6	ホルンフェルス	SK141	ノコギリ痕 幅広工具痕 砥面 1	281-13
7	石製品	砥石	[6.9]	[3.6]	2.4	96.1	ホルンフェルス	SK141	ノコギリ痕 幅広工具痕 刃物痕 砥面 2	281-14

25は陶器水鉢と思われる。口縁部は縁帯状に肥厚し、外面にローラーによると思われる施文がみられる。内外面ともに施釉され、口縁部上端面は露胎とする。胎土は炻器質である。26は中世の常滑焼甕の頸部破片である。内面は指頭圧痕をヨコナデで消している。外面は強いヨコナデで、下位に僅かに降灰がみられる。27は陶器爛徳利の破片で、外面に細いイッチン絵付けがみられる。イッチンの細さや早い走り具合などから飯能焼と判断される。瓢箪文の蔓か、仮名文字などの一部のようである（富元久美子氏の御教示）。28は陶器行平である。体部外面にはトビガンナ状の文様が確認される。把手部分は上下の型合せ成形と思われ、上面に獅子の文様が型押し施文される。29は陶器土瓶で、外面に糠白釉が施釉される。大堀相馬系陶器の可能性が高い。30は松岡系陶器の土瓶で、海鼠釉を施釉する。肩部に明瞭な稜がある。底面は回転ケズリ後に外周をナデ調整、体部下位（露胎部）はケズリ後にナデを

施す。31・32は陶器の急須で、産地は不詳である。31は灰釉を施し、上位に赤色の釉薬が流し掛けられるが、被熱して緑釉が変色しているものと考えられる。32は灰釉を施した後に、桃色を主体に上絵付けを施す。以上、25～32までは遺構上位の出土である。

33は瓦質土器の鉢で、硬質・瓦質に燻し焼きされる。底部は糸切痕を残す。植木鉢、あるいは仕切り盤の可能性が高い。胎土には雲母と少量の角閃石が含まれる。34は瓦質土器の目皿であるが、使用による熱変で胎土は赤く変色し、上面は白化している。上面は丁寧なナデ調整である。下面もナデ調整で、砂目などは残らない。胎土には角閃石とともに白雲母が含まれるが、雲母は主に下面に付着した状態で、離れ砂のように使用されたものの可能性が高い。孔は32箇所と推定される。側面に朱書きがみられる。35は瓦質土器の竈鏝で、上面に焼成前のへら書きがみられる。反転復元で図示したが、破片が小さく、復元径に若干の誤差があるかもしれない。胎土には角閃石が多く含まれる。36は土師質土器の焙烙である。内底面は中心まで回転ナデが施される。外面体部はヨコナデで仕上げられ、体部下位はケズリ後にヨコナデされているようだが、ケズリの痕跡はほぼ消されている。底部上端にケズリが一周巡る。底部はシワ状の痕跡である。胎土には角閃石を多



第 310 図 第 141 号土壙出土遺物（7）

第 158 表 第 141 号土壙出土遺物観察表（5）（第 310 図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考	図版
1	硝子製品	筭	1.6	1.8	1.0	6.0	SK141	下層 透明 中実 飾部分被熱（白化）	284-8

く含む。37はかわらけ小皿で、底部に左回転の糸切痕を残す。胎土に雲母を含む江戸在地系のものである。以上、33～37の土器類は遺構上位の出土である。

本跡の出土遺物には時期差が大きい。上層は19世紀後半以降、下層は19世紀中頃と推定される。本跡は、調査時に上面を完掘した後に、底まで掘り足りていなかったものと判断して再度掘削を行った。しかし、遺物内容を鑑みれば、結果的には下層は別遺構であった可能性もあろう。

第307図1～3は木製品である。1は櫛である。背の丸みが強い。全面赤漆塗りである。2は羽子板で、軸がやや曲がる。持ち手部が4.0cmと細身である。3は鋤である。身部先端は鉄刃を装着するための抉りがある。柄部は上部に向かって削られ、薄くなっている。

第308図は金属製品である。1は銅製品の針金、2・3は鉄製品の吊り金具である。4は鉄製品の蹄鉄である。蹄鉄については、同じ区画の第140号土壙からも出土しており（第375図7）、鍛冶に伴って持ち込まれたものの可能性がある。5・6は鉄釘である。

第309図は石製品で、全てホルンフェルス製の砥石である。石材は同質で、7点とも極めて類似する製品である。このうち1・2はもともとは一つの砥石であったものが、破損後に各々再利用されたものである。いずれも切断後に破損面を研磨（使用）している。1は上面・長軸方向の二側面を研磨して使用している。破損面と反対側の端面には成形時のノコギリ状の工具痕が認められる。裏面側も全体が弱く研磨されているようだが、ノコギリ状の工具痕や粗い削痕もみられ、基本的には使用面ではないようである。一方で、切断面は顕著に研磨・使用している。なお、表面側には製作時の工具痕や、使用時の刃ならし痕とは異なる傷が、斜めに等間隔で刻まれている。目的は不明だが、切断後の再利用時に、本来の表面を使用し

ないように付けた「印」である可能性もあろう。後述するように、これらの砥石は、切断後に主に側面を再利用する状況が確認されるからである。

2は1に比較して、切断後の使用の度合いが少ないようである。切断面は1よりも研磨が部分的である。側縁や端面・裏面にノコギリ状の工具痕が残り、また、長軸方向の側縁に刃幅の広い工具（手斧状工具か）による粗い成形痕を有す。一部に青色塗料の付着が認められる。

3は、側縁部の角が丸みを帯びる砥石である。サイズから、1・2と同様の過程を経て切断・再利用されたものの可能性がある。なお、曲線になる側面角の一部は研磨されていないため、曲線部分を最初に再加工してから、研磨を始めるものと考えられる。

4は、第145号土壙から出土した破片と接合している。1・2と同様に切断後、再利用された可能性もあるが、その破損面には使用痕が認められない。また、側縁の角を曲線状に再加工した部分も破損前の（本来の）砥石の両端面側に認められるので、元から側縁を再加工・使用しているものとみられる。なお、側縁には刃幅の広い工具の痕跡とノコギリ状の工具痕を認める。

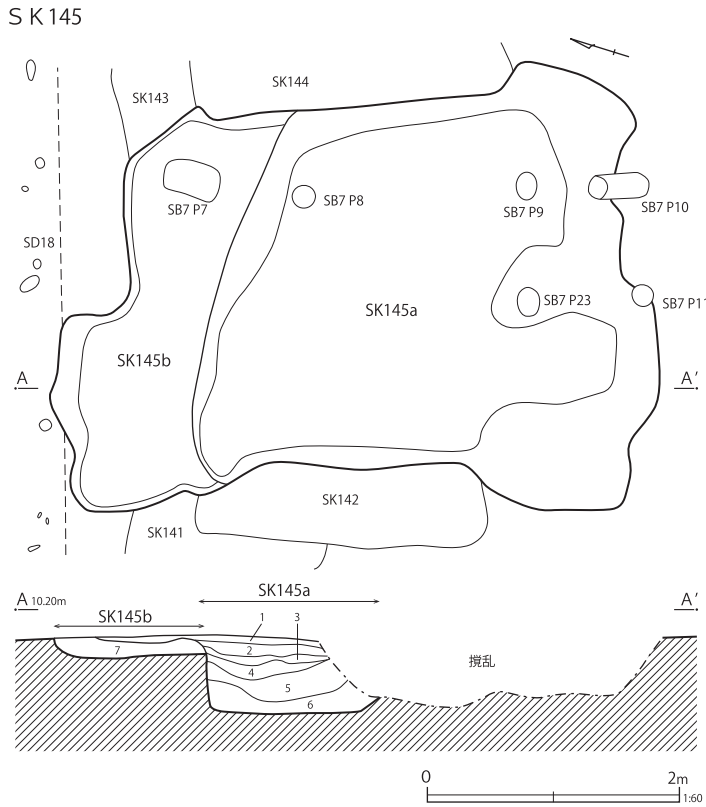
5も同様に、側縁角が曲線状に丸みを帯びるものであるが、側縁部の研磨痕は不明瞭である。6・7は、同質の石材の砥石の破片であるが、側縁部の再加工は認められない。

本跡からはこのように、再加工痕のある砥石が多く出土した。側縁角が曲線状に丸みを帯びる砥石は、新宿区四谷一丁目遺跡の鍛冶関連資料にも同形態・同質石材のものが認められ、鍛冶行為に関わる蓋然性が高い（東京都埋蔵文化財センター2020）。

第310図1は硝子製品で、簪ないし筭の飾り部分である。真上から見た、飛翔する雀をモチーフにしている。

このほか、大量に出土した鞆の羽口を第586図





- 第145号土壌
- |         |  |
|---------|--|
| 1 暗灰色土  | 炭化物粒子少量 粘性あり しまり強 (SK145a)                           |
| 2 暗灰褐色土 | 炭化物 (φ3 cm) 少量 粗砂粒混 粘性・しまりあり (SK145a)                |
| 3 暗褐色土  | シルト質 炭化物粒子少量 粘性・しまり中 (SK145a)                        |
| 4 暗灰色土  | シルト質 炭化物 (φ5 cm) 粗砂粒・鉄滓混入 粘性あり しまり弱 (SK145a)         |
| 5 暗灰褐色土 | シルト質 粗砂粒・木片・鍛造剥片・鉄滓混入 炭化物 (φ3 cm) 粘性あり しまり弱 (SK145a) |
| 6 暗灰色土  | シルト質 木片・鍛造剥片・炭化物 (φ2 cm) 混入 粘性あり しまり弱 (SK145a)       |
| 7 暗灰色土  | シルト質 炭化物粒子少量 粘性あり しまり強 (SK145b)                      |

第311図 第145号土壌

12～28に、鍛冶滓類を第600図5～7に示した。

遺物の内容から本跡は鍛冶行為に伴う廃棄土壌と考えられ、砥石などが独特の形態に再加工されていることが注目される。

### 第145号土壌 (第311～323図)

区画東部のE7-I6・J6グリッドに位置する。長軸3mを超える大型の土壌である。本跡は、もともと1つの遺構として調査されたものであるが、遺構の北部が極端に浅いこと、その部分で土層が変化することから、整理段階で2つの遺構が重複しているものと捉え直した。深い南側の部分を第145a号土壌、浅い北側の部分を145b号土壌として分別しておきたい。その場合、二

基は重複しており、第145a号土壌が新しい。一方、覆土最上層(1層)はa・b両土壌の上部に跨るが、これは遺構より上層の整地層である可能性が高い。なお、a号土壌の南側上部にも大きな攪乱が及んでいた。覆土をみるとa号土壌の下層に多くの鍛造剥片・鍛冶滓が含まれており、本跡は鍛冶行為に伴う廃棄土壌である可能性が高い。

以上のような経緯から、遺物についてはa・bどちらの土壌に伴うものかは判断としないが、大多数は深く範囲も広いa号土壌に伴うものであろう。

第312～317図に出土した陶磁器を示した。

1～3は肥前系磁器の小丸碗である。

1・2は草花文、3は半菊文を染付する。4は瀬戸美濃系磁器の丸碗で、内底面に壽文、外面には蝙蝠文を描く。5～9は瀬戸美濃系磁器の端反碗である。10は中国清朝磁器の端反碗で、十錦手のものである。口縁部に口鏝、高台内に銘款がある。11は瀬戸美濃系磁器の端反碗で、内底面と外面に赤・緑の色絵が施される。

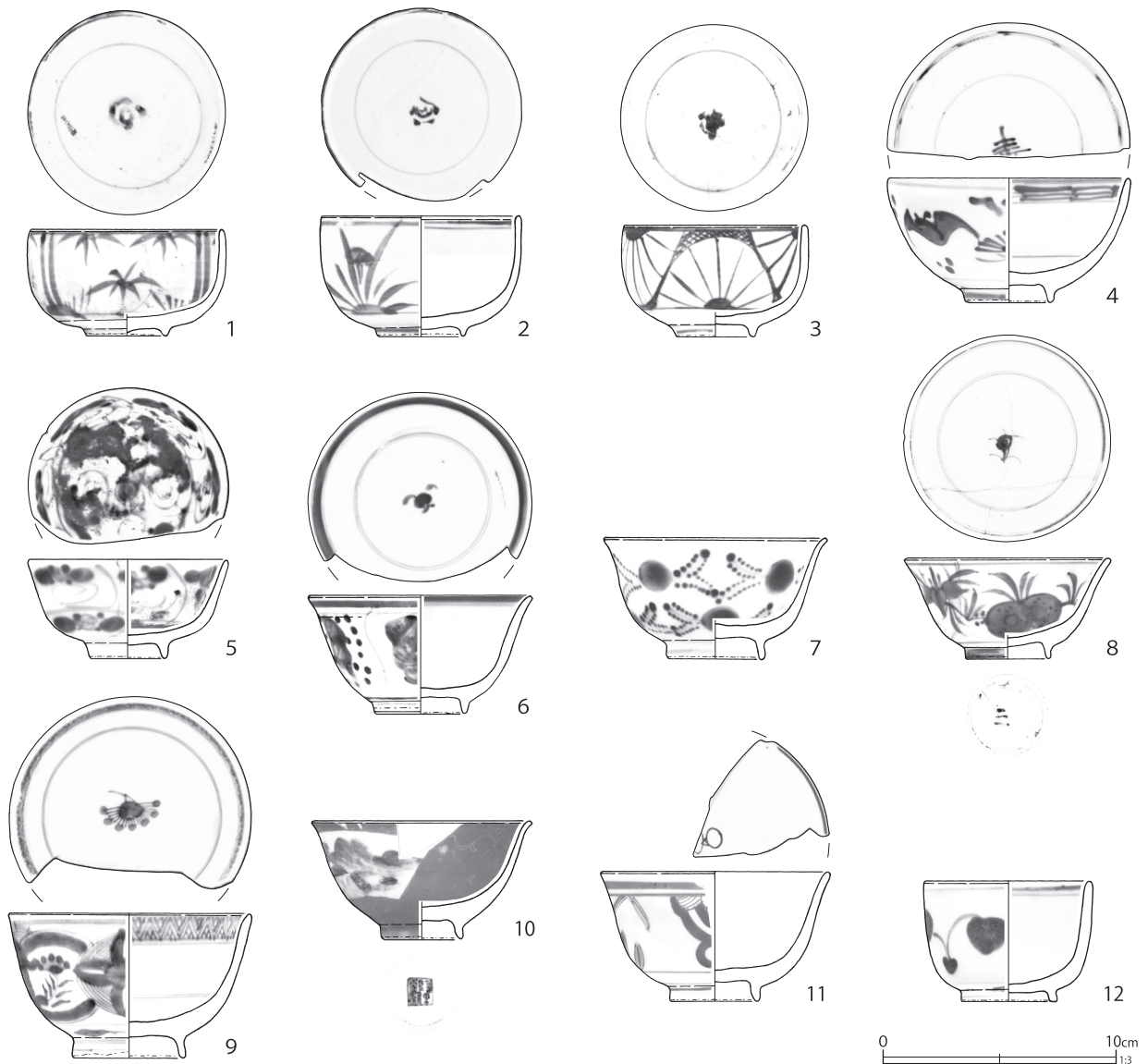
12は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。外面に木型打込と染付で葵文を描く。13・14は湯呑形の坏である。13の外面は瑠璃釉の単彩とし、口紅が施される。14はやや厚手のもので、高台端部が屈曲する。被熱して煤が付着している。15は内底面に型押し of 壽文を表すもので、高台内に釉薬下に刻印が認められる。16は瀬戸美濃系磁器の端反坏である。17・18は背の高い端反形の坏で、酸化コバルト染付が施される。19は卵殻手酒坏で、外面の釉にはムラがある。高台部外面と高台内に楯歯状文を染付する。20は瀬戸美濃系磁器の丸形の坏で、内外面に同心円文状に酸化コバルト染付を施す。21は瀬戸美濃

系磁器の坏で、蛇の目状の高台は露胎とする。外面には施釉前に陰刻状の施文を有す。内底面には渦巻き状の刻みがある。22は磁器の紅坏、23は磁器の紅皿である。

24は肥前系磁器の小型の皿で、内面に笹文、外面に篆刻文を染付する。25は瀬戸美濃系磁器の壽文皿である。26は瀬戸美濃系磁器の皿で、酸化クロム青磁釉に、緑・白盛の絵付けで草花文を描く。

27は肥前系磁器の皿で、内面に山水楼阁文を染付する。全体的に焼き継ぎ痕が顕著にみられ、

高台内には焼き継ぎ印とみられる赤字で「くり」「かじや」とある。本区画に関わる『鍛冶屋』とみられる。なお、「かじや」の部分には、うっすらと別の赤字の痕跡が見え、先行して別の文字が書かれていた可能性がある。28は肥前系磁器の皿で、内面に崩れた山水楼阁文が染付される。蛇の目状高台部に墨書と焼き継ぎ印とみられる赤字がみられる。29・30は瀬戸美濃系磁器の鉢で、ともに酸化コバルト染付が施される。29の高台内に「七」の釘書きがある。31は瀬戸美濃系磁器の仏飯器で、坏部外面に蛸唐草文を染付する。

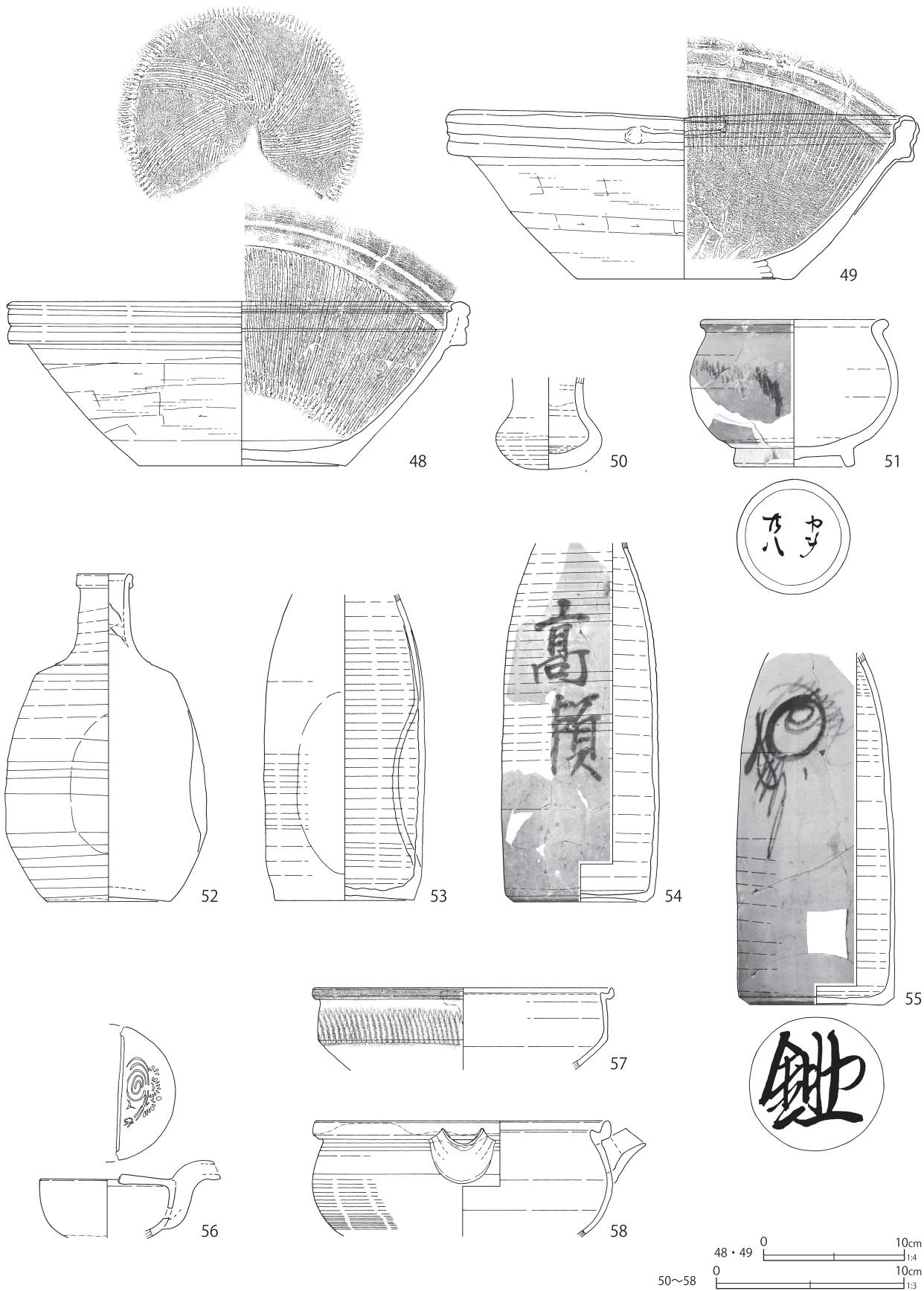


第 312 図 第 145 号土壙出土遺物 (1)

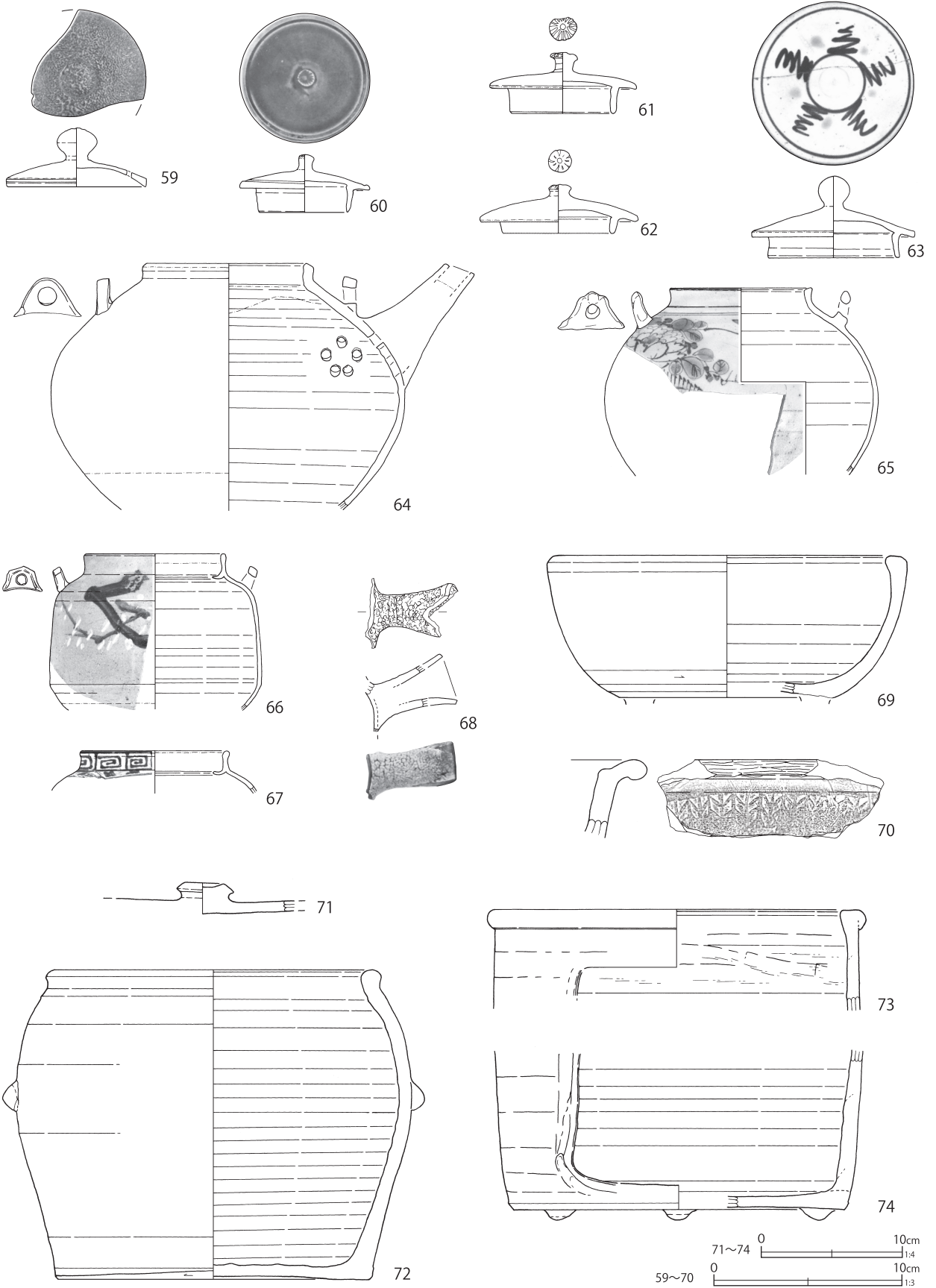


第 313 图 第 145 号土坑出土遗物 (2)

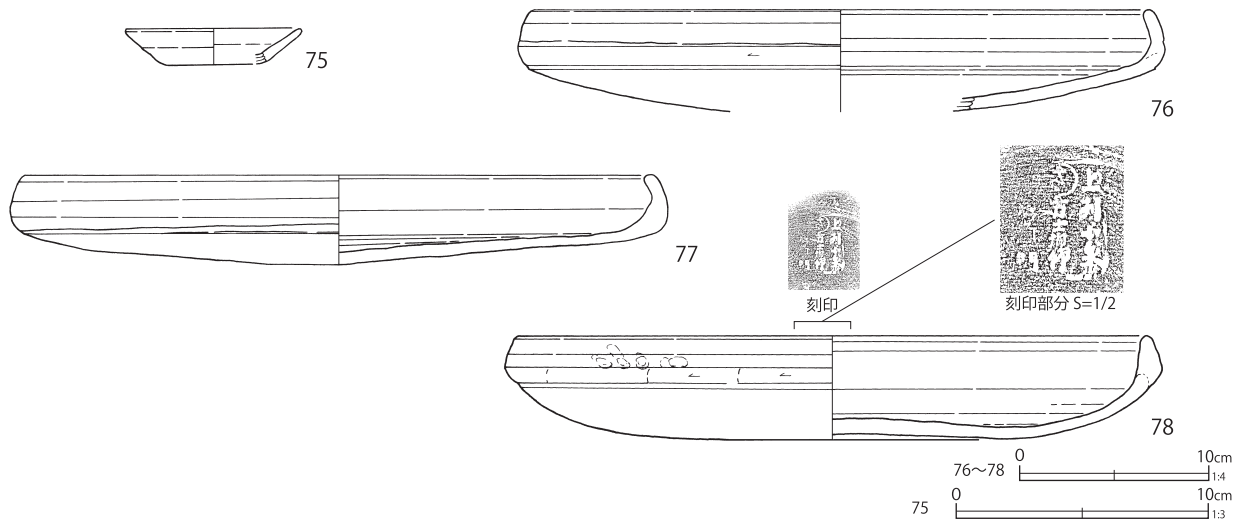




第 315 图 第 145 号土坑出土遗物 (4)



第 316 图 第 145 号土壙出土遺物 (5)



第 317 図 第 145 号土壙出土遺物 (6)

第 159 表 第 145 号土壙出土遺物観察表 (1) (第 312 ~ 317 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	8.2	4.5	3.4	-	100	良好	白	SK145	肥前系 内外面施釉・染付 (小丸碗)	138-3
2	磁器	碗	8.4	5.1	3.6	-	75	良好	白	SK145	肥前系 内外面施釉・染付 (小丸碗)	138-4
3	磁器	碗	7.8	4.7	3.4	-	100	良好	白	SK145	肥前系 内外面施釉・染付 (小丸碗)	138-5
4	磁器	碗	10.6	5.3	3.6	-	50	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	138-6
5	磁器	碗	8.4	4.2	3.3	-	50	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗)	138-8
6	磁器	碗	9.4	5.0	3.8	-	70	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗)	138-7
7	磁器	碗	9.5	5.1	4.0	-	75	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (端反碗)	139-1
8	磁器	碗	8.4	4.3	3.5	-	100	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印 (赤)	139-3
9	磁器	碗	10.2	6.1	4.7	-	60	良好	灰白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗)	139-2
10	磁器	碗	9.2	5.0	3.4	-	55	良好	白	SK145	中国景德镇系 内外面施釉 外面色絵 (赤・緑・茶) 高台内染付	139-4
11	磁器	碗	(9.8)	5.7	(3.7)	-	20	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面色絵 (赤・緑) (端反碗)	139-5
12	磁器	碗	7.2	5.1	3.9	-	65	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (湯呑形碗)	139-6
13	磁器	坏	6.8	5.7	3.0	-	45	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉 (外面瑠璃釉) 口紅	139-7
14	磁器	坏	-	[3.6]	3.4	-	20	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 煤付着	140-1
15	磁器	坏	7.2	5.4	3.4	-	50	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉 口紅 内面型押施文 高台内刻印	140-2
16	磁器	坏	(6.2)	3.0	2.6	-	50	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	140-3
17	磁器	坏	(6.2)	4.1	(3.0)	-	30	良好	灰白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面~口縁部酸化コバルト染付	140-4
18	磁器	坏	(6.6)	4.4	(3.0)	-	35	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	140-5
19	磁器	坏	(5.8)	2.9	2.6	-	40	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (卵殻手酒杯)	141-1
20	磁器	坏	7.8	3.6	3.2	-	85	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 高台内露胎	140-6
21	磁器	坏	7.5	3.5	3.5	-	70	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面陰刻状施文	141-2
22	磁器	紅坏	2.1	1.0	0.8	-	100	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 外面型押施文	
23	磁器	紅皿	6.4	1.7	2.1	-	100	良好	灰白	SK145	瀬戸美濃系 型成形 内面~口縁部施釉 外面型押施文 (陰刻状)	141-3
24	磁器	皿	9.3	2.5	4.6	-	85	良好	白	SK145	肥前系 内外面施釉・染付	141-4

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
25	磁器	皿	(9.5)	2.2	(5.1)	-	45	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面型押施文 (壽文皿)	142-1
26	磁器	皿	10.3	2.0	6.2	-	95	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁釉 内面上絵付 (緑・白盛)	142-2
27	磁器	皿	14.6	4.7	8.1	-	70	良好	白	SK145	肥前系 内外面施釉 内面染付 蛇の目状高台 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印 (赤)	141-5
28	磁器	皿	-	[2.1]	8.5	-	60	良好	白	SK145	肥前系 内外面施釉 内面染付 蛇の目状高台部に墨書・焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印 (赤)	141-6
29	磁器	鉢	14.1	6.4	7.2	-	70	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 蛇の目状高台内に釘書「七」	142-4
30	磁器	鉢	(18.4)	[7.3]	-	-	20	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕	
31	磁器	仏飯器	6.7	5.9	3.9	-	70	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	142-3
32	磁器	蓮華	-	[3.5]	-	-	65	良好	白	SK145	肥前系 型成形 内外面施釉 内面染付	142-5
33	磁器	蓮華	-	[2.1]	-	-	50	良好	白	SK145	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面型押施文・染付	142-6
34	磁器	水滴	-	6.0	-	-	40	良好	白	SK145	肥前系 型成形 外面型押施文・鉄釉・染付 穿孔2	143-1
35	陶器	碗	(8.6)	4.7	3.0	K	35	良好	灰白	SK145	京都信楽系 内外面透明釉 (貫入多い)	
36	陶器	餌入れ	4.4	2.4	4.4	IK	90	良好	灰白	SK145	瀬戸美濃系 底部離糸切痕 内外面灰釉	143-2
37	陶器	皿	(8.5)	1.9	(3.4)	D	45	良好	にぶい黄橙	SK145	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 (大部分白化)	143-3
38	陶器	灯明皿	9.1	2.3	3.9	IK	100	良好	にぶい黄橙	SK145	瀬戸美濃系 内外面柿釉、外面下位拭き取り 直重ね焼き痕	143-4
39	陶器	灯明皿	9.5	2.2	3.3	IK	100	良好	灰黄	SK145	瀬戸美濃系 内外面柿釉、外面下位拭き取り 内面直重ね焼き痕	143-5
40	陶器	灯明皿	9.2	1.9	3.8	DK	90	良好	灰白	SK145	瀬戸美濃系 内外面柿釉、外面下位拭き取り 内面直重ね焼き痕	143-6
41	陶器	灯明皿	9.7	2.4	4.6	DIK	100	良好	灰黄	SK145	瀬戸美濃系 内外面柿釉、外面下位拭き取り・直重ね焼き痕 底部煤付着	143-7
42	陶器	灯明皿	8.2	1.7	2.7	HIK	55	良好	灰白	SK145	京都信楽系 内面～外面上位透明釉 内面ピン痕2 遺存 口縁部少量煤付着	144-1
43	陶器	灯明皿	8.6	1.5	3.3	K	90	良好	灰白	SK145	京都信楽系 内面～外面上位透明釉 口縁部・内面少量煤付着	144-2
44	陶器	灯火具	4.6	4.8	4.9	CI	85	良好	灰白	SK145	京都信楽系 内外面透明釉	144-3
45	陶器	皿	(8.2)	3.3	4.8	IK	45	良好	灰黄	SK145	一部白化粧後内外面灰釉・鉄絵	144-4
46	陶器	甕	(20.5)	[3.3]	-	IK	5	良好	灰白	SK145	内外面糠白釉・鉄釉流掛	144-5
47	陶器	蓋物	(10.8)	[1.3]	-	DI	5	良好	灰褐	SK145	備前系か	144-6
48	陶器	播鉢	31.8	11.6	14.7	DEIK	60	良好	暗赤灰	SK145	堺明石系 砂目底 内面播目	144-7
49	陶器	播鉢	31.5	11.9	(15.2)	DIK	75	良好	赤褐	SK145	堺明石系 砂目底 内面播目、下位使用により摩耗 口縁部一部被熱	145-1
50	陶器	瓶類	-	[4.8]	2.0	IK	30	良好	灰	SK145	備前系 内外面上位灰釉 胎土硬質	145-2
51	陶器	甕	(9.4)	7.8	6.0	IK	55	良好	灰白	SK145	瀬戸美濃系 内外面柿釉 底部墨書 上下接点ない破片から図上復元	145-4
52	陶器	德利	2.8	17.3	6.5	IK	100	良好	にぶい黄橙	SK145	瀬戸美濃系 内外面柿釉・底部拭き取り 体部窪ます	145-3
53	陶器	德利	-	[16.2]	7.4	I	40	良好	灰白	SK145	底部一方向ナデ 外面柿釉 体部窪ます	145-5
54	陶器	爛德利	-	[19.0]	7.0	IK	35	良好	浅黄	SK145	外面灰釉・鉄絵「高瀬」	145-6
55	陶器	爛德利	-	[18.7]	7.1	K	60	良好	灰白	SK145	京都信楽系 外面施釉・鉄絵 底部墨書	146-1
56	陶器	水滴	(7.1)	[4.2]	-	K	30	良好	灰白	SK145	京都信楽系 内外面透明釉 上面施文	146-2
57	陶器	鍋	(15.7)	[4.3]	-	IK	15	良好	灰黄	SK145	内面柿釉 外面トビガンナ状施文 (行平か)	
58	陶器	行平	(15.3)	[6.1]	-	IK	20	良好	灰黄褐	SK145	吉見焼 内面透明釉 外面鉄釉 上下接点ない2破片から図上復元	146-3
59	陶器	蓋	-	3.0	(7.2)	IK	55	良好	褐灰	SK145	上面鮫肌釉 胎土硬質	146-4
60	陶器	蓋	-	3.0	4.6	I	90	良好	灰白	SK145	上面鉄釉 最大径6.8cm (土瓶の蓋)	146-5
61	陶器	蓋	-	3.2	5.3	IK	95	良好	灰白	SK145	上面青緑釉 最大径7.8cm (土瓶の蓋)	146-6
62	陶器	蓋	-	2.6	5.8	IK	100	良好	灰	SK145	上面青緑釉 最大径8.4cm (土瓶の蓋)	146-7
63	陶器	蓋	-	4.2	6.8	IK	90	良好	灰白	SK145	上面白化粧後施釉 絵付 (鉄絵・緑釉)・三彩 (土瓶の蓋) 最大径8.6cm	147-1
64	陶器	土瓶	8.4	[13.0]	-	IK	80	普通	灰白	SK145	外面青緑釉	147-2



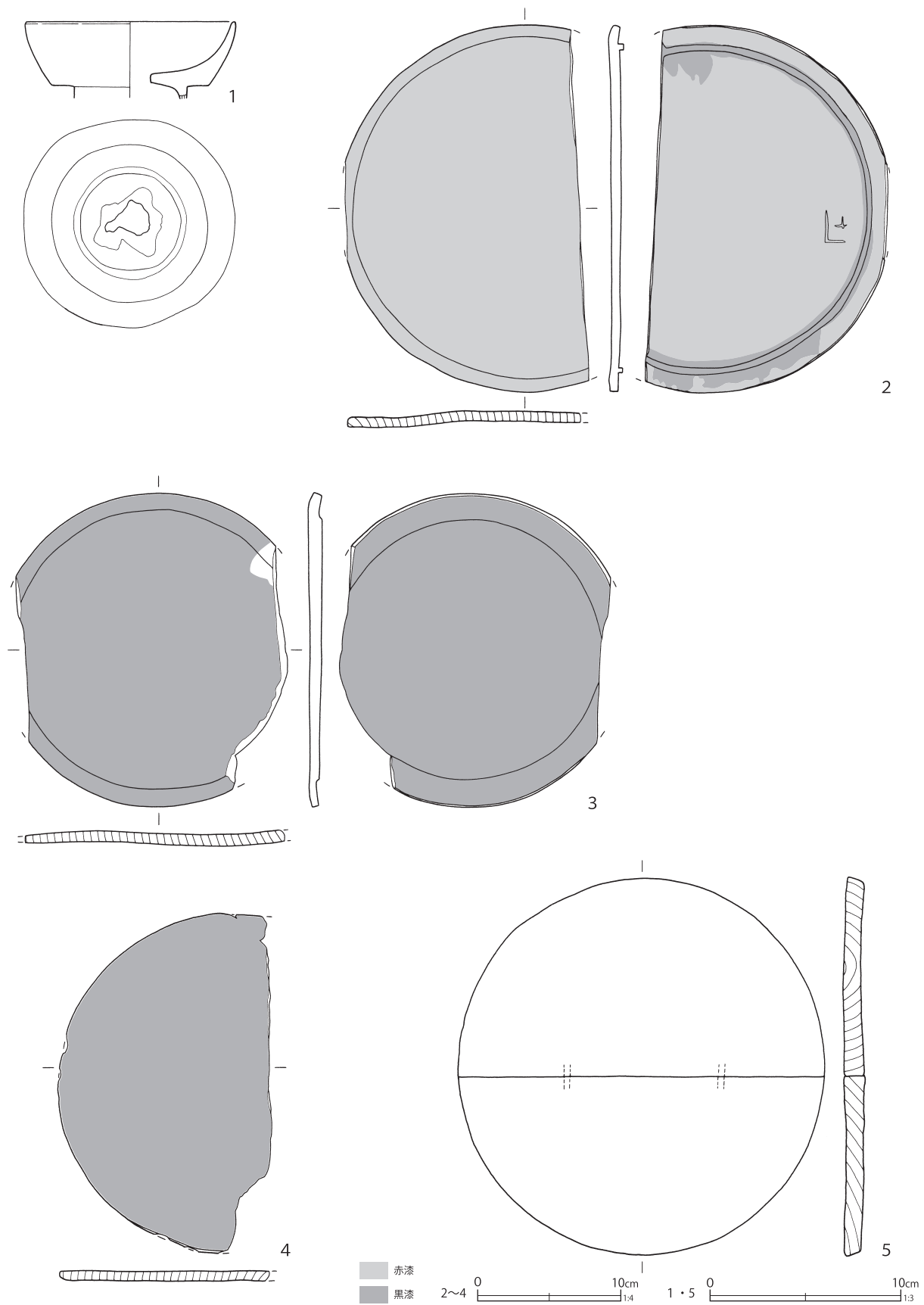
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
65	陶器	土瓶	(7.4)	[9.9]	-	I	35	良好	黄灰	SK145	外面白化粧後施釉 絵付・三彩(鉄絵・緑釉)	
66	陶器	土瓶	(7.4)	[8.2]	-	IK	20	良好	灰白	SK145	外面灰釉・鉄絵・白盛絵付	
67	陶器	土瓶	7.6	[2.2]	-	I	5	良好	灰白	SK145	外面施釉・白土染付	
68	陶器	急須	-	[4.1]	-	K	5	良好	灰褐	SK145	外面鮫肌釉	147-3
69	瓦質土器	火鉢	17.3	[7.5]	(11.2)	CHIK	30	普通	にぶい黄橙	SK145	底部ヘラナデ 脚欠失 やや酸化炎焼成	147-5
70	瓦質土器	火鉢	-	[4.1]	-	CIK	5	普通	灰白	SK145	口縁部ミガキ 外面施文 燻す	
71	瓦質土器	蓋	-	[2.2]	-	CHIK	5	普通	灰白・褐灰	SK145	上面砂目	147-4
72	瓦質土器	火消壺	(22.5)	21.9	22.0	CIK	35	普通	灰白・褐灰	SK145	砂目底 弱く燻す 口縁部内面煤付着	147-6
73	瓦質土器	竈	(25.6)	[7.1]	-	CGIKL	5	普通	灰白	SK145	燻す 窓部幅は任意値で復元 内面煤付着	
74	瓦質土器	竈	-	[11.9]	(23.5)	CHIK	10	普通	灰白・暗灰	SK145	砂目底 燻す 内底面煤付着	147-7
75	かわらけ	小皿	(6.9)	[1.3]	(3.7)	AHIK	20	普通	にぶい橙	SK145	胎土粉質	
76	土師質土器	焙烙	(32.4)	[5.3]	(33.1)	CHIK	30	普通	にぶい黄橙	SK145	底部シワ状痕 体部外面煤付着	148-2
77	土師質土器	焙烙	33.1	4.7	33.4	CFIK	90	普通	灰白	SK145	砂目底 内面～外面体部煤付着	147-8
78	土師質土器	焙烙	33.2	5.5	34.8	CHIK	75	普通	灰白	SK145	底部シワ状痕 内面刻印「上州小泉 / (㊦) 万土 [ 師口カ ] / [ ] 門」 体部指圧痕あり 煤付着	148-1

32は肥前系磁器、33は瀬戸美濃系磁器の蓮華で、いずれも底面は露胎とする。33は内面に火焰宝珠文が型押しされ、そこに染付が施される。34は肥前系磁器の水滴で、左右の合せ型成形で内面には指頭痕が顕著である。外面は型押文に染付・鉄釉で装飾が施される。

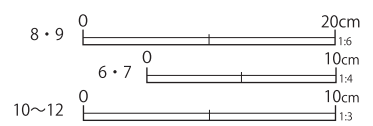
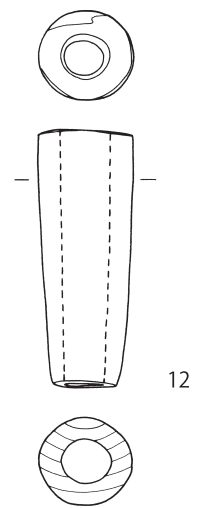
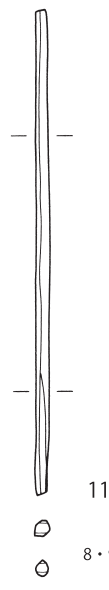
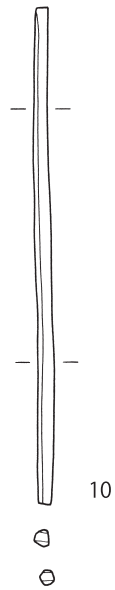
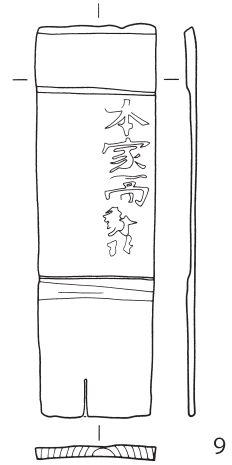
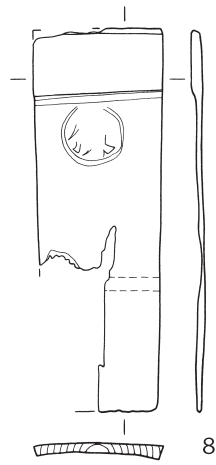
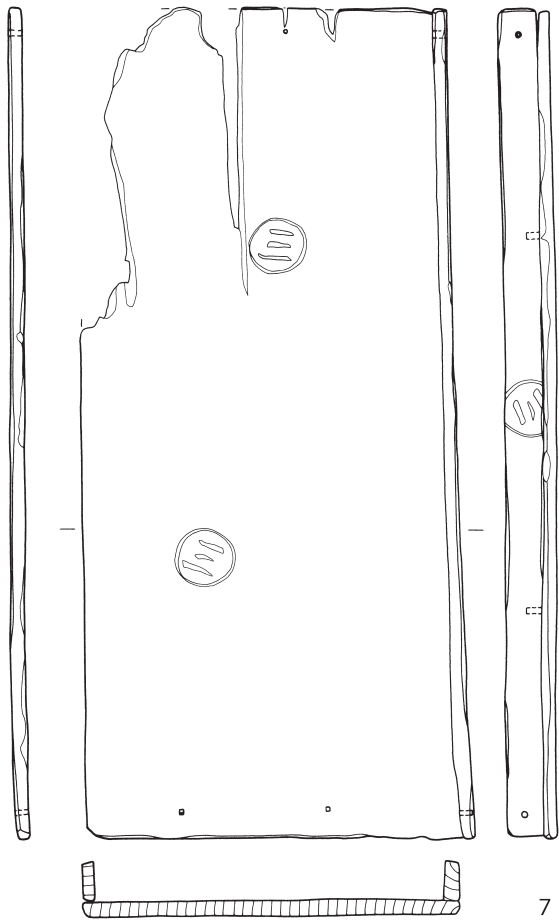
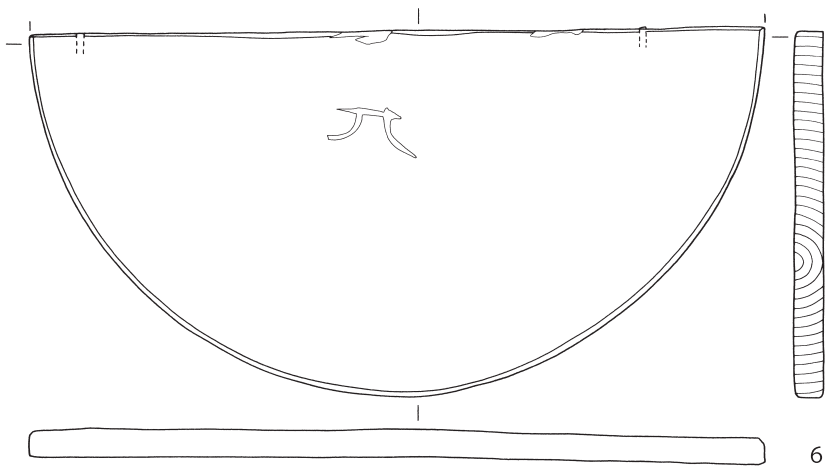
35は京都信楽系陶器の端反碗で、透明釉には細かな貫入がある。36は瀬戸美濃系陶器の餌入れで、光沢の強い灰白色の灰釉を施す。底部は離し糸切りである。37は瀬戸美濃系陶器の皿で、内外面の釉は錆釉だが大部分は白色に変色する。底部は割り底である。38～41は瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿である。38は光沢が弱いザラつく柿釉が施され、内面に径5.1cm、外面に径6.3cm程度の重ね焼き痕がある。39は光沢の強い柿釉がやや薄く施釉され、内底面に細かな回転ナデ痕が明瞭に残る。内面の中心からずれた位置に重ね焼き痕がある。外面の重ね焼き痕は確認できない。40はやや薄手のもので、柿釉は全体にしっかり掛かるが厚みは無く光沢も弱い。内底面は雑に幅広の回転ナデが施される。内面の重ね焼き痕は楕円形で径3.8～4.8cm、外面の重ね焼き痕は底部外縁に沿ってあり、径4.0cm程度である。41は受皿で、柿釉の掛かり方はややムラがある。厚

くかかる部分には光沢がある。内底面は弱い回転ナデ、外面の重ね焼き痕は一部二重に見えるが、径6.9cm程、内面受部の径も6.9cmである。受部の切り込みは崩れたU字状である。器壁が全体に厚い。42・43は京都信楽系陶器の灯明皿である。42の油皿は内面にピン痕が二箇所遺存し、本来は三箇所あったものと考えられる。外面下位はケズリ、上位～口縁部はヨコナデで調整される。43の受皿は、扁平なもので受部には浅いU字状の切り込みを有す。外面下位はケズリで仕上げる。44は脚(油溜り)の付く灯火具で、京都信楽系陶器である。透明釉には貫入が多い。

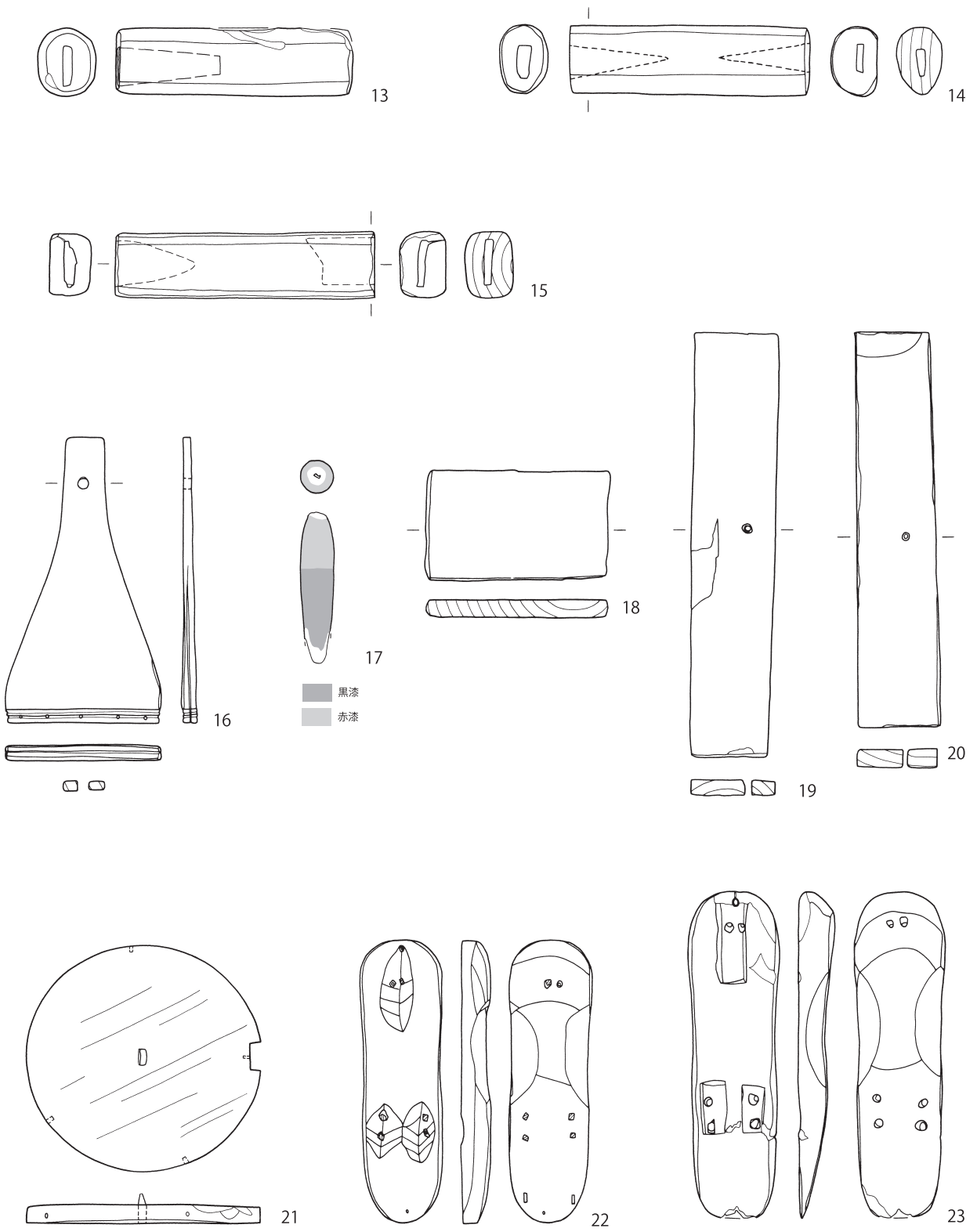
45は産地不詳の陶器皿で、平面形は四隅に切り込みを持つ正方形である。一部白化粧を施した上に灰釉を施釉し、白土部分は文様になる。さらに鉄絵で草花文を描く。体部下位は細かなケズリで整形し、高台部は削り出し高台で幅広である。胎土は硬質で緻密である。46も産地不詳の陶器甕で、口縁部の折り返しの一部を器面に押し付けて加飾する。糠白釉を基調に鉄釉を流し掛けている。胎土は硬質で緻密である。47は炆器質の陶器で、蓋物と考えられる。胎土の特徴から備前系陶器の可能性もある。48・49は堺明石系陶器の播鉢である。48は第141・142号土壙と接合関



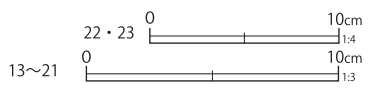
第 318 図 第 145 号土壙出土遺物 (7)



第 319 图 第 145 号土壙出土遺物 (8)



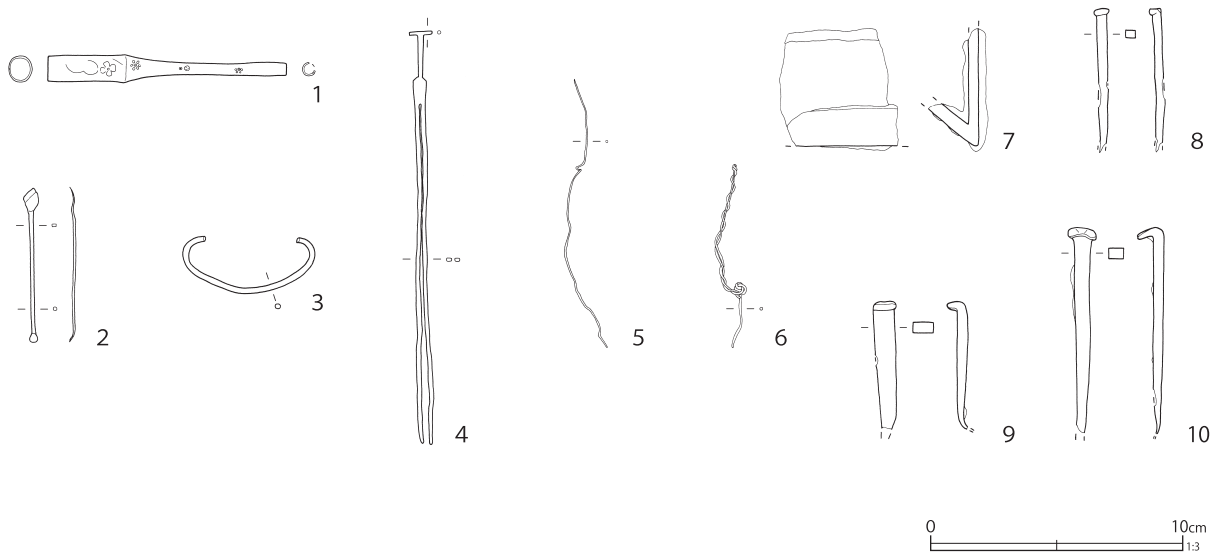
■ 黒漆  
■ 赤漆



第 320 図 第 145 号土壙出土遺物 (9)

第 160 表 第 145 号土壌出土遺物観察表 (2) (第 318 ~ 320 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆碗	-	-	-	11.0	[4.0]	-	横木取り	SK145	内・外側黒漆 底部穿孔	
2	木製品	蓋	25.5	[16.5]	0.9	-	-	-	板目	SK145	表裏面茶漆 裏面に刻印「干」、側面に黒漆附着	
3	木製品	蓋	22.0	[18.3]	0.9	-	-	-	板目	SK145	表裏面黒漆	
4	木製品	蓋	23.7	[14.7]	0.7	-	-	-	板目	SK145	表裏面黒漆	
5	木製品	樽	-	-	1.1	19.6	-	-	板目	SK145	表面墨書「正味 イ上梅干 五駄分入」 孔 2 木釘残 2 裏面黒色塗料 第 241 表 25	
6	木製品	樽	[19.5]	[38.5]	1.9	-	-	-	板目	SK145	蓋 焼印	
7	木製品	箱	44.3	20.2	-	-	2.9	-	板目	SK145	底板側板に焼印「㊦」	
8	木製品	樽	30.7	10.3	1.2	-	-	-	板目	SK145	側板 焼印 9 と同一個体	
9	木製品	樽	31.3	9.2	0.8	-	-	-	板目	SK145	側板 焼印「本家高口□」8 と同一個体	
10	木製品	箸	19.5	0.7	0.7	-	-	-	削出し	SK145		
11	木製品	箸	19.1	0.7	0.6	-	-	-	削出し	SK145		
12	木製品	呑口	10.5	-	-	3.7	-	-	分割材	SK145		
13	木製品	柄	11.9	3.5	3.0	-	-	-	板目	SK145	包丁の柄か	
14	木製品	柄	12.2	3.5	2.3	-	-	-	分割材	SK145	両端に差し込み口	
15	木製品	柄	13.0	3.4	2.4	-	-	-	分割材	SK145	両端に差し込み口	
16	木製品	刷毛	14.4	7.9	0.8	-	-	-	板目	SK145		
17	木製品	浮子	[7.6]	-	-	1.6	-	-	板目	SK145	上部黒漆 下部赤漆	
18	木製品	木札	5.6	9.2	0.9	-	-	-	板目	SK145	表裏墨書 第 241 表 22	
19	木製品	木札	21.3	4.3	0.8	-	-	-	板目	SK145	墨書 第 241 表 23	
20	木製品	木札	20.0	4.0	1.0	-	-	-	板目	SK145	墨書 第 241 表 24	
21	木製品	曲物	-	-	-	11.4	[1.4]	-	板目	SK145	真ん中に木釘 端部に切り込み 表面のこぎり痕	
22	木製品	下駄	19.0	5.2	-	-	2.0	-	板目	SK145	無眼下駄	
23	木製品	下駄	22.0	5.6	-	-	2.5	-	板目	SK145	無眼下駄	

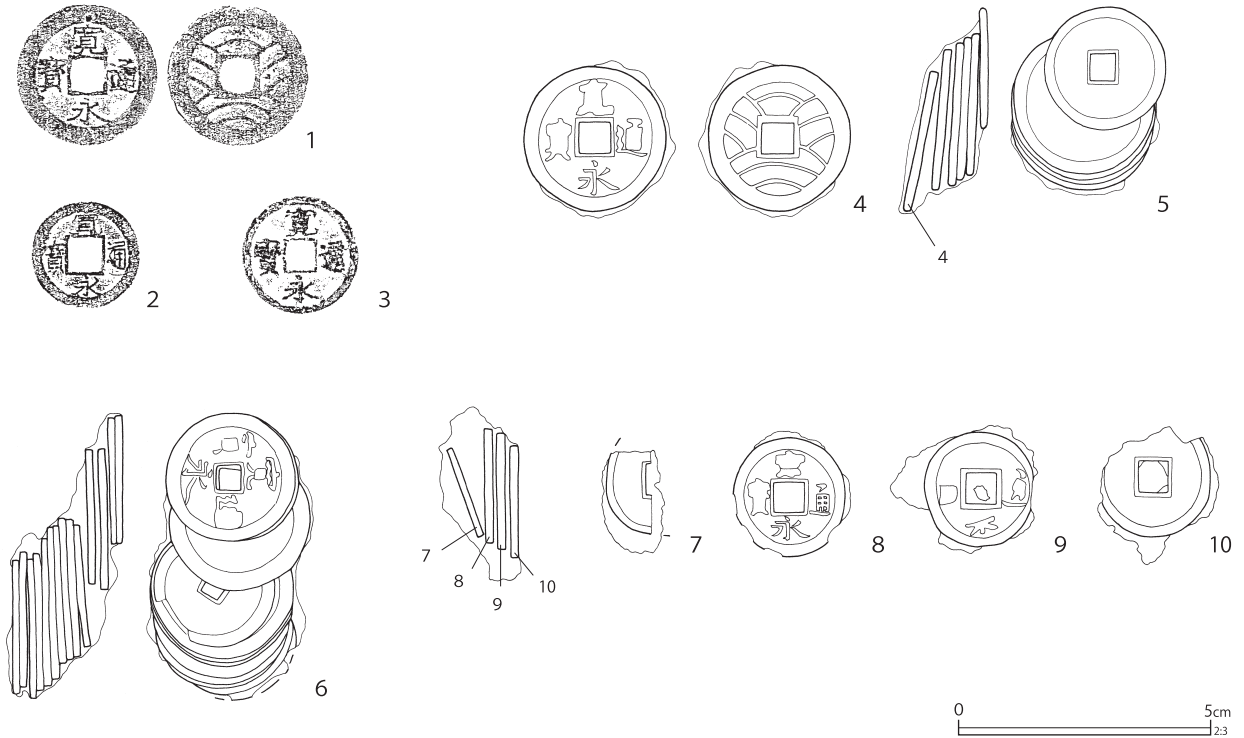


第 321 図 第 145 号土壌出土遺物 (10)

第 161 表 第 145 号土壌出土遺物観察表 (3) (第 321 図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ 9.5 小口径 1.0 × 0.9 口付径 0.5 重さ 5.9	SK145	吸口 花文	273-1
2	銅製品	耳搔き	長さ 6.1 厚さ 0.1 重さ 0.5	SK145		
3	銅製品	把手	縦 2.3 横 5.2 厚さ 0.2 重さ 3.1	SK145		
4	銅製品	簪	長さ 16.3 幅 0.5 厚さ 0.2 重さ 5.5	SK145	頭 T 字状 飾欠失か	274-1

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
5	銅製品	針金	縦10.7 横1.7 厚さ0.1 重さ0.2	SK145		
6	銅製品	針金	縦7.2 横1.2 厚さ0.1 重さ0.8	SK145	振りあり	
7	鉄製品	不明	縦[4.1] 横[4.7] 厚さ[2.0] 重さ53.2	SK145		
8	鉄製品	釘	長さ[5.7] 幅0.4 厚さ0.3 重さ2.5	SK145		
9	鉄製品	釘	長さ[5.0] 幅0.8 厚さ0.4 重さ5.7	SK145		
10	鉄製品	釘	長さ[8.1] 幅0.6 厚さ0.4 重さ9.5	SK145		



第322図 第145号土壙出土遺物(11)

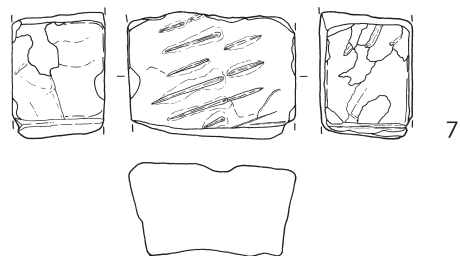
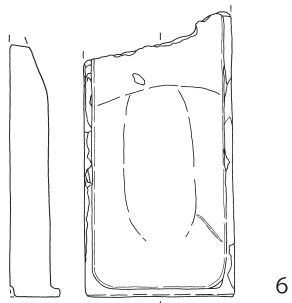
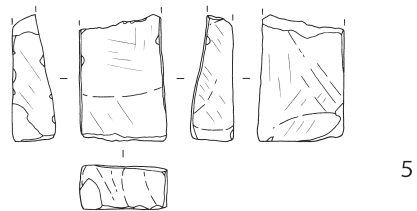
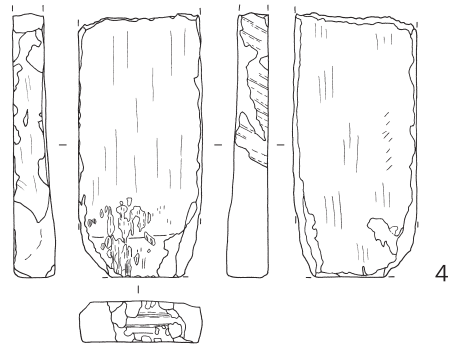
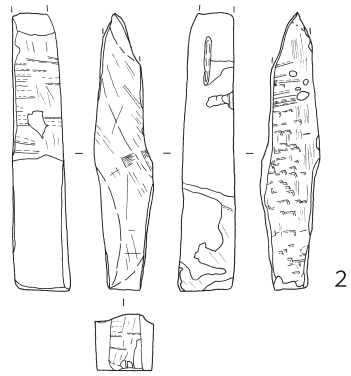
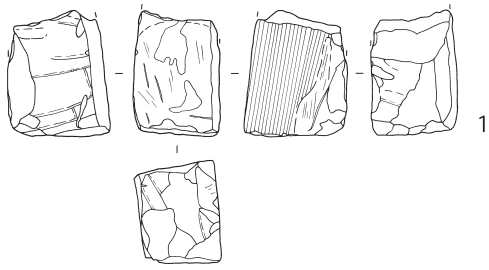
第162表 第145号土壙出土遺物観察表(4)(第322図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径28.2 厚さ0.9 重さ4.1	SK145	寛永通寶(新) 11波	
2	銅製品	銭貨	径21.4 厚さ1.0 重さ2.3	SK145	寛永通寶(新)	
3	銅製品	銭貨	径23.5 厚さ1.2 重さ2.6	SK145	寛永通寶(新)	
4	銅製品	銭貨	径29.0 厚さ2.3 重さ7.6	SK145	寛永通寶(新) 11波	
5	銅製品	銭貨	縦36.0 横30.5 厚さ11.0 重さ21.5	SK145	銭名不明 5枚	
6	銅製品	銭貨	径25.8 厚さ1.3 縦3.2 横5.7 厚さ2.2 重さ54.1	SK145	寛永通寶(新) 含む14枚	
7	鉄製品	銭貨	径(18.0) 厚さ1.8 重さ1.5	SK145	銭名不明	
8	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ1.7 重さ2.6	SK145	寛永通寶	
9	鉄製品	銭貨	径23.0 厚さ1.7 重さ2.6	SK145	寛永通寶か	
10	鉄製品	銭貨	径(23.0) 厚さ1.7 重さ1.6	SK145	銭名不明	

係がある。内面の播目は一単位11条で、内底面の播目は放射パターンである。外面体部はケズリ痕をナデで消す。49は内面に一単位9条の播目がみられるが、下位は使用による摩耗が著しく、ほとんど播目が残らない。従って内底面の播目パターンも不明である。外面体部はケズリ後にナデ

で消しているが、48より丁寧なヨコナデが加えられている。口縁部の一部が被熱・細かく剥離しており、特に片口部で顕著である。

50は、底部を回転ケズリで丸底状に成形した備前系陶器の瓶類である。胎土は緻密・硬質である。上半部に自然釉が掛かる。51は瀬戸美濃系



第 323 図 第 145 号土壙出土遺物 (12)

第 163 表 第 145 号土壙出土遺物観察表（5）（第 323 図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[6.6]	4.6	5.4	242.7	流紋岩	SK145	ノコギリ痕 幅広工具痕 砥面 5 被熱（一部剥落・黒化）	282-1
2	石製品	砥石	[14.7]	3.1	3.0	187.7	ホルンフェルス	SK145	幅広工具痕 砥面 4	282-2
3	石製品	砥石	23.5	6.3	2.3	451.0	ホルンフェルス	SK145	幅広工具痕 ノコギリ痕 刃物痕 砥面 1	
4	石製品	砥石	[13.9]	6.5	2.2	373.5	ホルンフェルス	SK145	幅広工具痕 深い刃物痕 砥面 3 被熱（一部黒色化）	281-15
5	石製品	砥石	[6.6]	4.6	2.3	112.5	流紋岩	SK145	幅広工具痕 砥面 4	282-3
6	石製品	硯	[14.9]	7.9	-	393.6	凝灰岩	SK145	器高 2.6 cm 黒色付着物あり	
7	石製品	切石石材	9.5	[13.5]	7.4	1031.3	凝灰岩	SK145	正面・側面ツルハシ状工具痕 下端面に切断痕 正面・端面幅広工具痕 削り痕あり	282-4

陶器の柿釉甕で、小型のものである。底部に墨書がみられる。底部と口縁部は接点が無かったが、図上復元して示す。52は瀬戸美濃系陶器のぺこかん徳利で、全体に柿釉が掛けられ、底部は拭き取りされる。肩部に微突帯がめぐり、肩部・体部下位に器形変化に伴う強い稜が出る。体部の窪みは対向して二箇所である。53は産地不詳の徳利で、体部を窪ます。胎土は炆器質で緻密である。底部は一方向からのナデで処理される。光沢の強い柿釉が外面に施釉される。54は陶器の爛徳利で、外面に灰釉が掛けられ、「高瀬」銘の文字が鉄絵で書かれる。底部は回転ケズリである。55も陶器の爛徳利で外面に鉄絵を描く。底部は回転ケズリで、墨書がある。56は京都信楽系陶器の水滴で、光沢の強い透明釉が掛かる。57は陶器の鍋で、外面露胎部にトビガンナ状施文が見られる。58は施釉土器質の行平で、内面は暗い鶯色に発色する透明釉、外面は薄く鉄釉が施される。吉見焼の特徴に一致するものである。

59～63は陶器の蓋である。59は赤茶色を呈する鮫肌釉を施釉する。胎土は硬質である。60は明るい褐色の鉄釉を掛ける土瓶の蓋で、上面の外周に沿って沈線が巡る。61・62は青緑釉土瓶の蓋である。つまみは花卉形に整えられる。63は三彩土瓶の蓋である。つまみは球形である。64～67は陶器の土瓶で、64は青緑釉土瓶、65は三彩で花文を描くもの、66は灰釉に鉄絵・白盛で梅樹を描くものである。67は白土染付で口縁部

に角渦文を描く。68は急須の把手で、鮫肌状の灰釉である。遺物の様相から栗橋 9 期の遺構である。

第318～320図は木製品である。1は漆椀である。底部に穴があげられている。内外面黒漆塗りである。2・3は曲物の蓋である。2の裏面には「干」の文字が刻まれる。一部側板が残存する。5は樽の蓋で、二枚をつないで作られる。墨書で「梅干」の文字が書かれる。6は樽の蓋である。側面に木釘が残存し、二枚以上をつないで作られていたと考えられる。表面には焼印が押される。7は箱である。底板と側板の長辺が残存する。「㊦」の焼印が底板に二箇所、側板に一箇所ずつ押されている。8・9は樽の側板で、形状から同一個体と考えられる。8の表には丸の中に何らかの文字、9には「本家高口口」の焼印が押されている。13～15は刃物柄である。13は、側面一面にのみ柄穴が作られる。14・15は2つの側面に柄穴が作られている。柄の長さが12cm程度であり、両側面に刃がついていたとは考えにくい。再加工の可能性が考えられる。18～20は木札である。22・23は無眼下駄である。22の踵裏面には金具の痕跡が見られる。鼻緒の位置の挟りは楕円形で、木釘が残る。

第321図には金属製品を示した。1～6は銅製品で、1は煙管の吸い口で、花文が施文されている。2は耳搔きで両端が匙状になる。3は把手である。4は簪である。5・6は針金である。7～



10は鉄製品で、7は厚い板状を呈す用途不明の製品、8～10は釘である。

第323図には石製品を示した。1は流紋岩製の砥石で、上野砥沢産と思われる。使用面は研磨されており、側面と下面にノコギリ状工具と刃幅の広い工具（手斧状工具か）による痕跡が残る。一部煤けて黒化している。2・3はホルンフェルス製の砥石で、第141号土壌から出土したものとよく似ている。2は表面は使用により研磨されているが、破損後にも使用しているらしい。側面には刃幅の広い工具による成形痕跡が顕著である。裏面は研磨されているが、やや粗い削痕も目立ち、使用による研磨か否か判断し難い。また、幅5mm程度の平ノミ状工具痕のような痕跡が全体にみられるが、あるいは刃幅の広い工具の角を使って付けられた痕跡かもしれない。側面端部に僅かに漆のような付着物が認められる。3の表面は使用により研磨されている。縦方向も横方向も破損しており、一側面と端面、裏面の一部が残る。側面には刃幅の広い工具による痕跡、端面と裏面にはノコギリ状工具痕が残る。

このほか、凝灰岩製の炉寄石が出土しており、鍛冶関連遺物とともに第592図98・99に図示した。鍛冶炉で、鞆側からの送風により炎が流れる先に据えられたものと考えられる。図示したのは遺存状態の良い二点で、いずれも表面側が黒化・滓化するなど、強く被熱している。

本跡からは鍛冶関連遺物の出土が多く、第588～592図39～97に出土した鞆の羽口を、第600・601図10～21に鉄滓を示した。第238表には、鍛冶関連遺物の重量を示した。

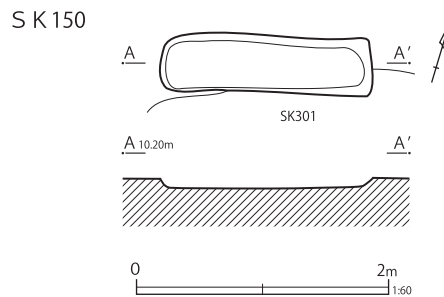
### 第150号土壌（第324～327図）

区画の中央付近、E7-J5グリッドから検出された土壌で、長軸1.68m、短軸0.44mの隅丸長方形の土壌である。第301号土壌と一部が重複するが、新旧関係は明らかではない。

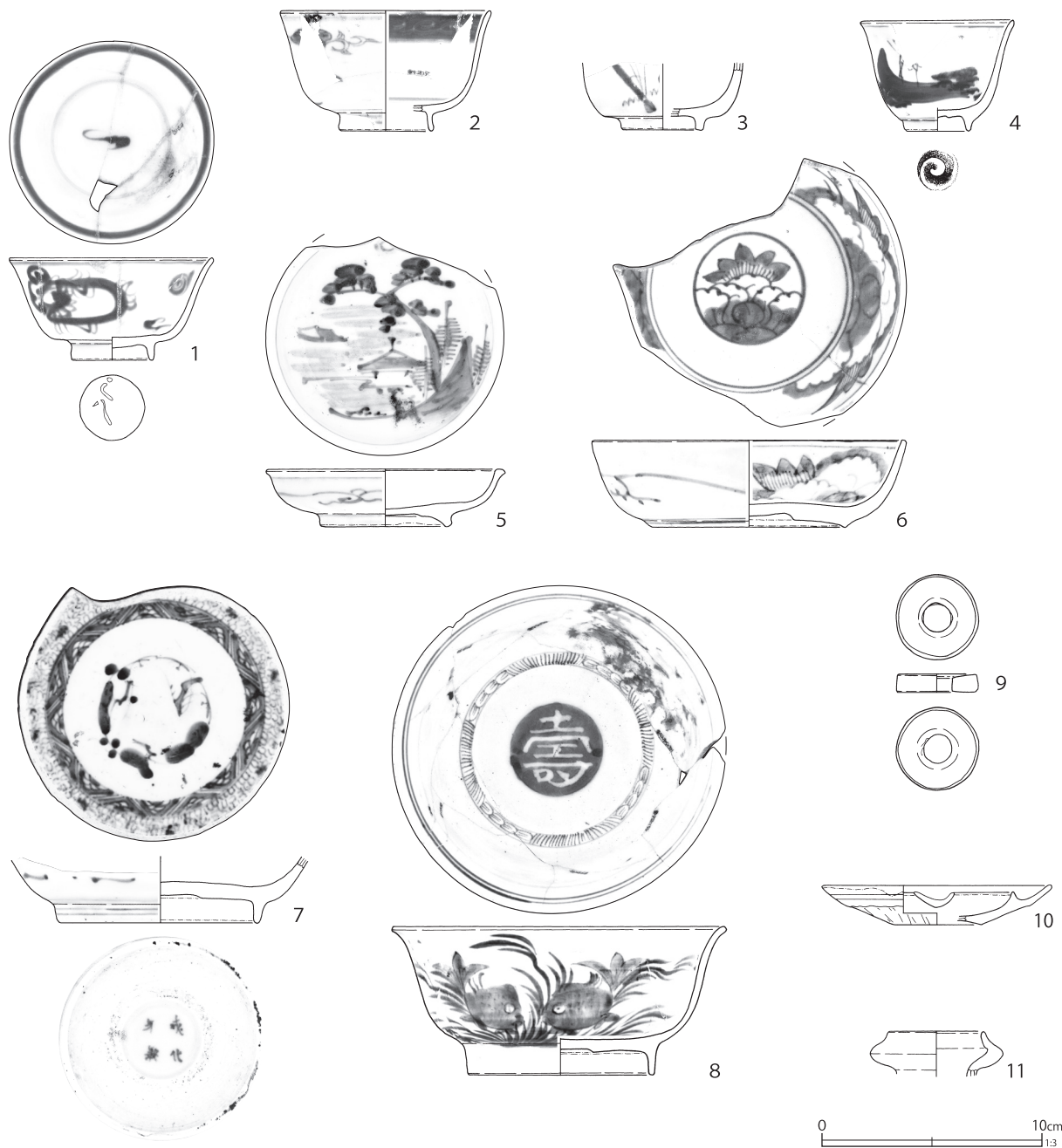
第325～326図に出土した陶磁器を示した。

1・2は瀬戸美濃系磁器の端反碗である。いずれも薄手である。1は外面に宝珠・雲・獅子等を、内面口縁部に濃み塗りの圏線、底部に崩れた雲文を染付する。腰部が大きく張る特徴のものである。2は外面に宝珠文などが描かれ、内面口縁部には濃み塗りに渦文を墨弾きした圏線を染付する。焼き継ぎされ、底部に焼き継ぎ印の一部が確認できる。3は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、腰部が屈曲する。高台は幅広い。4は瀬戸美濃系磁器の端反になる坏で、酸化コバルト染付で船を描く。高台内を露胎とし、そこに渦巻き状のケズリの痕跡が残っている。5は瀬戸美濃系磁器の小型の皿で、内面には山水楼閣文、外面には一重線で唐草文を染付する。高台は蛇の目凹形であるが、畳付部を除き施釉されている。6・7は肥前系磁器の皿である。6は内面に牡丹文、外面に一重線の唐草文を染付するもので、蛇の目凹形高台である。焼き継ぎ痕跡がみられる。7は内底面に環状松竹梅文、体部は鹿の子状の微塵唐草文を染付する。高い蛇の目状高台を有し、その中心に「成化年製」銘を染付する。8は肥前系磁器の鉢で、蛇の目状高台のものである。外面に三匹の金魚とみられる魚、内底面に壽文を染付する。9は肥前系磁器の戸車だが、全面露胎である。

10は京都信楽系陶器の灯明皿である。外面下位に幅2cmほどで、工具をノッキングしたケズリ痕跡を認める。11は柿釉を施した瀬戸美濃系陶器瓶類の頸部と考えられる。12は笠間益子系



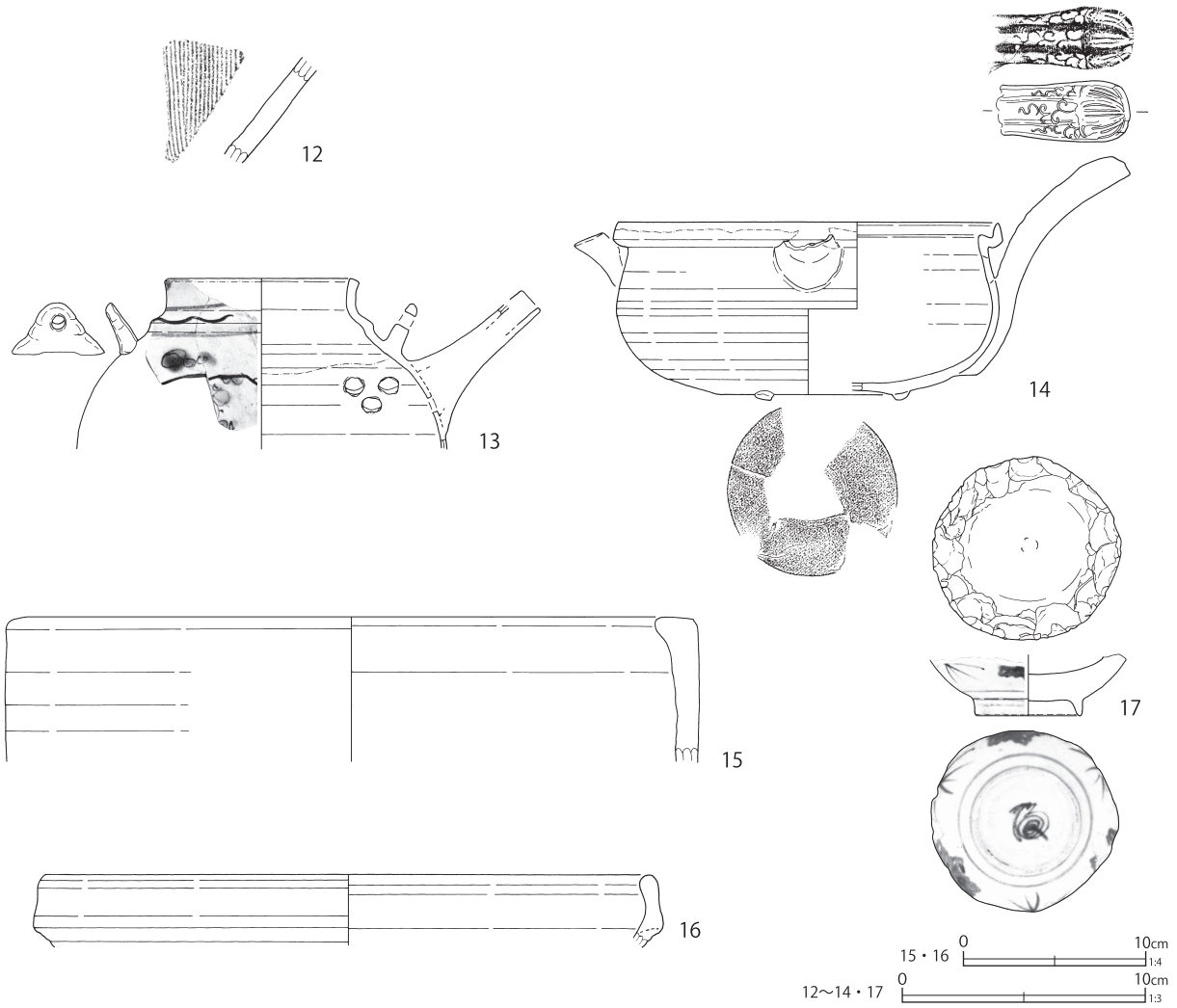
第324図 第150号土壌



第325図 第150号土壙出土遺物(1)

陶器の挿鉢破片である。13は陶器の三彩土瓶で、頸部の屈曲や、耳の断面形が特徴的なものである。14は吉見系陶器の行平である。口縁部から内面は透明釉を施釉し、橙色に発色する。外面は薄く鉄釉を施し、体部には細かいケズリがみられる。底面も回転ケズリ、鉄釉施釉である。把手は特徴的な唐草文を型押する。近年、同文のものが吉見焼の窯に存在することを確認した。15・

16は土器類である。15はサイズから竈と考えられる。角閃石・赤色粒子を含み在地系であるが、胎土はほぼ酸化炎焼成であり土師質土器とした。径2～3mmの赤色粒子(鉄分粒子状)を多く含む。16は土師質土器の焙烙で、底部が高く立ち上がる特徴的な形態のものである。胎土には角閃石とともに微細な光沢のある鉱物が含まれる。また、径1～2mmの赤色粒子を多く含んでいる。色

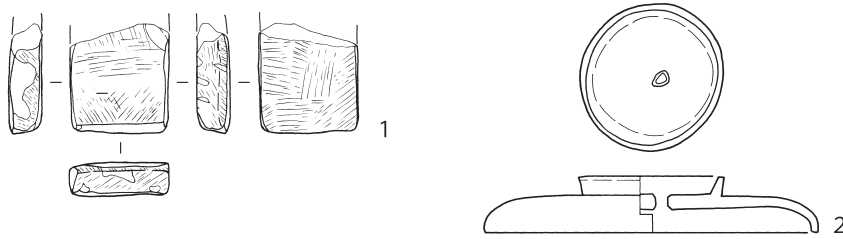


第 326 図 第 150 号土壙出土遺物 (2)

第 164 表 第 150 号土壙出土遺物観察表 (1) (第 325・326 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	9.1	4.6	3.5	-	95	良好	白	SK150	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) (端反碗)	
2	磁器	碗	(9.4)	5.4	(4.1)	-	25	良好	白	SK150	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(白)の一部 (端反碗)	
3	磁器	碗	-	[3.0]	(3.6)	-	20	良好	白	SK150	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
4	磁器	坏	6.7	5.0	2.7	-	80	良好	白	SK150	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
5	磁器	皿	10.6	2.6	5.5	-	80	良好	白	SK150	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 蛇の目凹形高台	149-7
6	磁器	皿	(13.8)	3.9	8.7	-	55	良好	白	SK150	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目凹形高台 焼き継ぎ痕	
7	磁器	皿	-	[2.9]	8.9	-	50	良好	白	SK150	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目状高台	149-8
8	磁器	鉢	14.9	6.7	8.2	-	95	良好	白	SK150	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目状高台	150-1
9	磁器	戸車	3.4	0.8	3.5	-	100	良好	白	SK150	肥前系 施釉せず	
10	陶器	灯明皿	(10.2)	1.7	(4.0)	I	50	良好	灰白	SK150	京都信楽系 内外面透明釉 外面上位煤付着	
11	陶器	瓶類	(4.2)	[2.0]	-	IK	5	良好	灰白	SK150	瀬戸美濃系 内外面柿釉	
12	陶器	播鉢	-	[4.3]	-	EHIK	5	良好	灰	SK150	笠間益子系 外面柿釉 内面播目	
13	陶器	土瓶	(7.2)	[6.9]	-	IK	10	良好	灰黄	SK150	外面施釉 三彩絵付	
14	陶器	行平	15.5	9.9	7.0	EIK	70	良好	にぶい橙	SK150	吉見系 内面透明釉 外面鉄釉 把手型押施文 施釉土器質	150-2

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
15	土師質土器	竈か	(34.0)	[7.9]	-	CHIK	5	普通	にぶい赤褐	SK150	内外面煤付着 小破片からの反転図化	150-3
16	土師質土器	焙烙	(33.0)	[3.9]	(34.7)	CEHIK	5	普通	にぶい橙・褐灰	SK150		
17	磁器	碗	-	[2.5]	4.2	-	20	良好	白	SK150	肥前系 内外面施釉 外面染付 円盤状製品転用 直径7.6cm 重さ95.0g	150-4



第 327 図 第 150 号土壌出土遺物 (3)

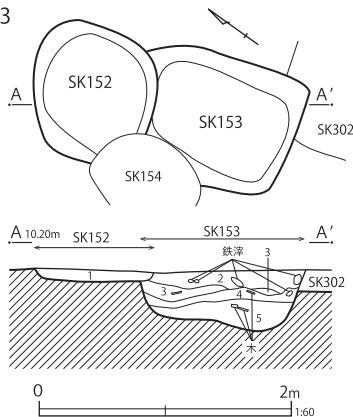
第 165 表 第 150 号土壌出土遺物観察表 (2) (第 327 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径 / 径	高さ	底径	遺構	備考	図版
1	瓦	転用品	4.3	3.9	-	-	-	-	SK150	胎土 AIK 色調灰白色 砥具転用 線状痕全面	254-8
2	木製品	漆碗蓋	つまみ径 4.7	-	-	13.2	2.2	-	SK150	横木取り 内面赤漆 外面黒漆	265-2

調は橙色味が強い。

17は肥前系磁器の粗製碗を転用した円盤状製品である。外面はコンニャク印判による染付、高台内に渦福の染付である。底部を残して、周囲を細かく打ち欠いている。

非掲載の磁器には型紙摺絵染付の平碗が1片含  
SK152・153



第 152・153 号土壌

- |   |         |                                     |
|---|---------|-------------------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色土 | 粗砂・炭化物・酸化鉄少量 (SK152)                |
| 2 | 黒色土     | 炭化物多量 鉄滓少量 鍛造剥片微量 (SK153)           |
| 3 | にぶい黄褐色土 | シルト質土 炭化物含む ラミナ発達 粗砂・鍛造剥片少量 (SK153) |
| 4 | 黒色土     | 炭化物多量 (SK153)                       |
| 5 | 暗褐色土    | 鉄滓・鍛造剥片・木製品微量 粘性弱 (SK153)           |

第 328 図 第 152・153 号土壌

まれるが混入の可能性がある。いずれにしても4の磁器などから、栗橋9期でも比較的古い段階に帰属する遺構と考えられる。

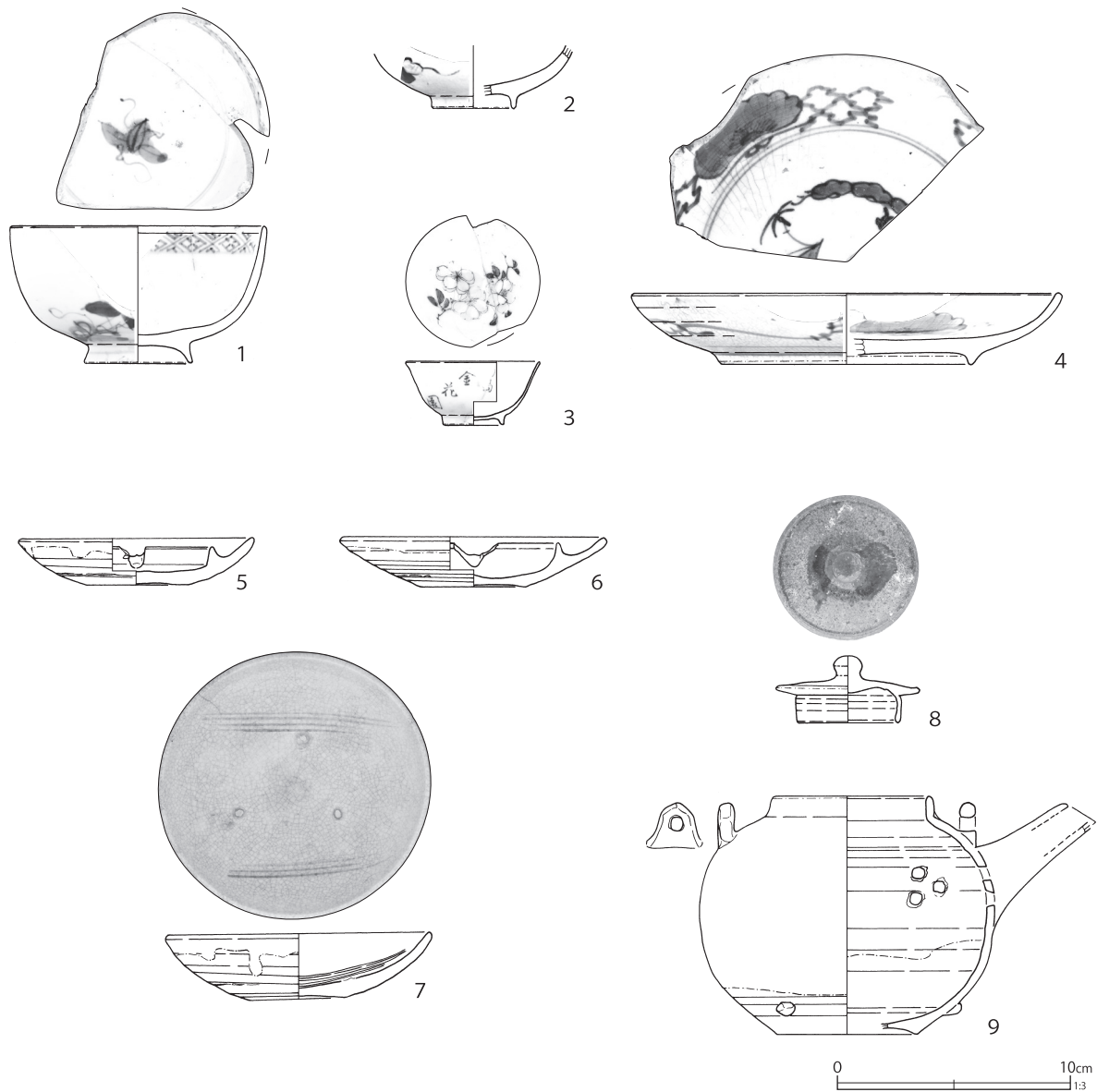
第327図1は瓦を転用した砥具、2は木製品の漆碗蓋である。

本跡からも多くの鍛冶関連遺物が出土している。鞆の羽口は12点出土している。このうち第593図105～111に、出土した鞆の羽口7点と鉄滓を示した。第238表には、鉄滓類などの重量を示した。

#### 第152・153号土壌 (第328～330図)

区画のやや西側、E7-J5グリッドから検出された重複する二基の土壌である。第152号土壌は、一辺1m内外の隅丸方形の土壌で、覆土は砂を交えるにぶい黄褐色土の単層である。出土遺物が極めて少なく、陶磁器は陶器2点、土器5片のみである。第330図1に出土した鉄製品を示した。両方に柄が付く両手包丁である。餅切りなど、荷重が必要な素材に使用するものである。

第153号土壌は、長軸1.33m以上、短軸1.03m

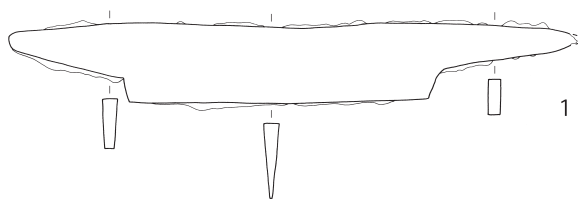


第 329 図 第 153 号土壙出土遺物

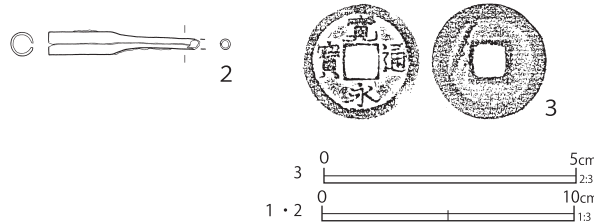
第 166 表 第 153 号土壙出土遺物観察表 (第 329 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(10.8)	5.8	4.5	-	40	良好	白	SK153	肥前系 内外面施釉・染付	150-5
2	磁器	碗	-	[2.6]	(3.4)	-	30	良好	白	SK153	肥前系 内外面施釉 外面色絵(赤・緑・茶)	151-1
3	磁器	坏	5.6	2.7	2.5	-	90	良好	白	SK153	瀬戸美濃系 内外面施釉・上絵付(茶・桃・赤)(卵殻手酒坏)	151-2
4	磁器	皿	(18.0)	3.0	(10.6)	-	25	良好	灰白	SK153	肥前系 内外面施釉・染付	
5	陶器	灯明皿	9.8	2.0	4.3	I	100	良好	灰白	SK153	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位拭き取り、直重ね焼き痕	
6	陶器	灯明皿	11.1	2.1	4.4	I	100	良好	灰白	SK153	京都信楽系 内面～外面上位透明釉	151-4
7	陶器	灯明皿	11.1	2.8	4.1	IK	100	良好	灰白	SK153	京都信楽系 内面～外面上位透明釉 内面櫛歯状文・ピン痕 3	151-4
8	陶器	蓋	-	2.8	4.2	IK	100	良好	褐灰	SK153	胎土炆器質 上面柿釉・鉄釉流掛 最大径 6.1 cm	
9	陶器	土瓶	(6.6)	10.1	6.0	K	60	良好	灰白	SK153	大堀相馬系 外面灰釉(青ヒビ)	151-3

S K 152



S K 153



第 330 図 第 152・153 号土壙出土遺物

第 167 表 第 152・153 号土壙出土遺物観察表 (第 330 図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	包丁	長さ 22.5 刃長 11.8 刃幅 3.0 背幅 0.6 重さ 103.8	SK152	両手包丁	275-2
2	銅製品	煙管	長さ [6.0] 小口径 0.9 重さ 6.0	SK153	吸口 口付欠損	273-1
3	銅製品	銭貨	径 22.7 厚さ 1.1 重さ 2.8	SK153	寛永通寶 (新) 裏に斜線	

の隅丸長方形の土壙である。重複する第302号土壙より新しく、第152・154号土壙より古い。覆土には鍛造剥片や鉄滓が少量含まれ、上部を中心に炭化物が多く含まれる。

第329図は出土した陶磁器類である。

1は肥前系磁器の碗で、高台部がハの字状に開くものである。外面に草花文、内面外周に四方禰文、底部に昆虫文を染付する。2は肥前系磁器の碗で、外面に赤を主体に色絵が描かれる。3は瀬戸美濃系磁器の卵殻手酒杯で、口縁部は端反になる。内面は桜花文、外面には「□島/金花園」の文字が上絵付けされる。「□島/金花園」は、向島百花園、あるいはその向こうを張った名称であろうか。向島百花園は骨董店主の佐原(北野)鞠塙が文化元年に開園した私立公園で、当初は「新梅屋敷」と呼ばれ、次いで「花やしき」となる。ただし「百花園」と呼ばれるようになったのは明治20年代に入ってからとされ(田中2014)、遺構の年代とは乖離がある。4は肥前系磁器の皿で内面には環状松竹梅文を染付する。5は瀬戸美濃系陶器の灯明皿で、光沢の弱い柿釉が厚く掛かる。外面下位は拭き取っており、径6.3cmの重ね焼き痕がある。受部は低めで径6.3cm、切り込みは崩れたU字状である。6・7は京都信楽系陶器

の灯明皿で、透明釉を施釉するものである。7は深手、大振りのもので、内面には対向して二箇所にも櫛目がある。櫛目は一単位四条である。また、内底面に三箇所のピン痕がある。外面は上位のみヨコナデ後に施釉し、下位は回転ケズリ痕を無調整で残す。その部分に径7.1cmほどで、重ね焼き状の痕跡が僅かに残っている。6は受皿で釉調やサイズは5に準ずる。受部は径7.3cm、三角形の切れ込みがある。上端部は釉剥ぎされる。外面口縁部はヨコナデ、体部はケズリで仕上げられ、体部下位に径6.6cm程で、重ね焼き状の痕跡が僅かに残っている。8は土瓶の蓋で、上面に暗い色調の柿釉を掛け、つまみ部分から鉄釉を流し掛ける。赤味を帯びる炆器質の胎土である。9は陶器土瓶で、外面には所謂、青ヒビ釉を掛ける。口縁部に鉄分の付着が著しい。

磁器の卵殻手酒杯、京都信楽系陶器の灯明皿、青ヒビ釉土瓶や鉄釉土瓶蓋が出土しており、非掲載遺物には陶器の三彩土瓶破片がみられる。陶磁器の総数はやや少なく、「□島/金花園」銘酒杯の時期も気になるが、栗橋7期後半ないし8期の遺構と捉えるのが妥当だろう。

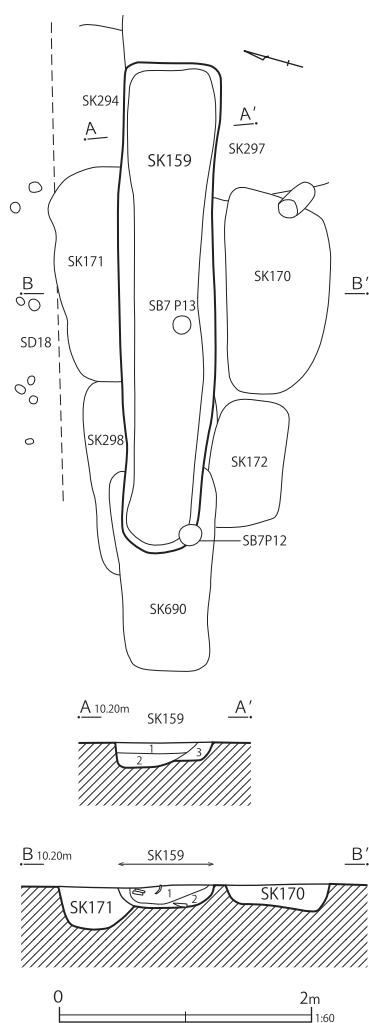
本跡からは鞆羽口が13点出土しており、そのうち7点を第593図113~119に図示した。鉄滓等

の重量は第238表に示した。覆土中の鍛造剥片や鉄滓量は、第4区画の中ではやや控えめな量だが、覆土に含まれる炭化物などから、鉄滓などの廃棄土壌とは若干異なる性格の土壌だった可能性もある。このほか、第330図2に金属製品の煙管、3に寛永通寶の新寛永を示した。

### 第159号土壌 (第331～337図)

区画中央の北側、E 7-I 5・6グリッドから検出された。長軸3.88m、短軸0.76mの隅丸長

SK 159



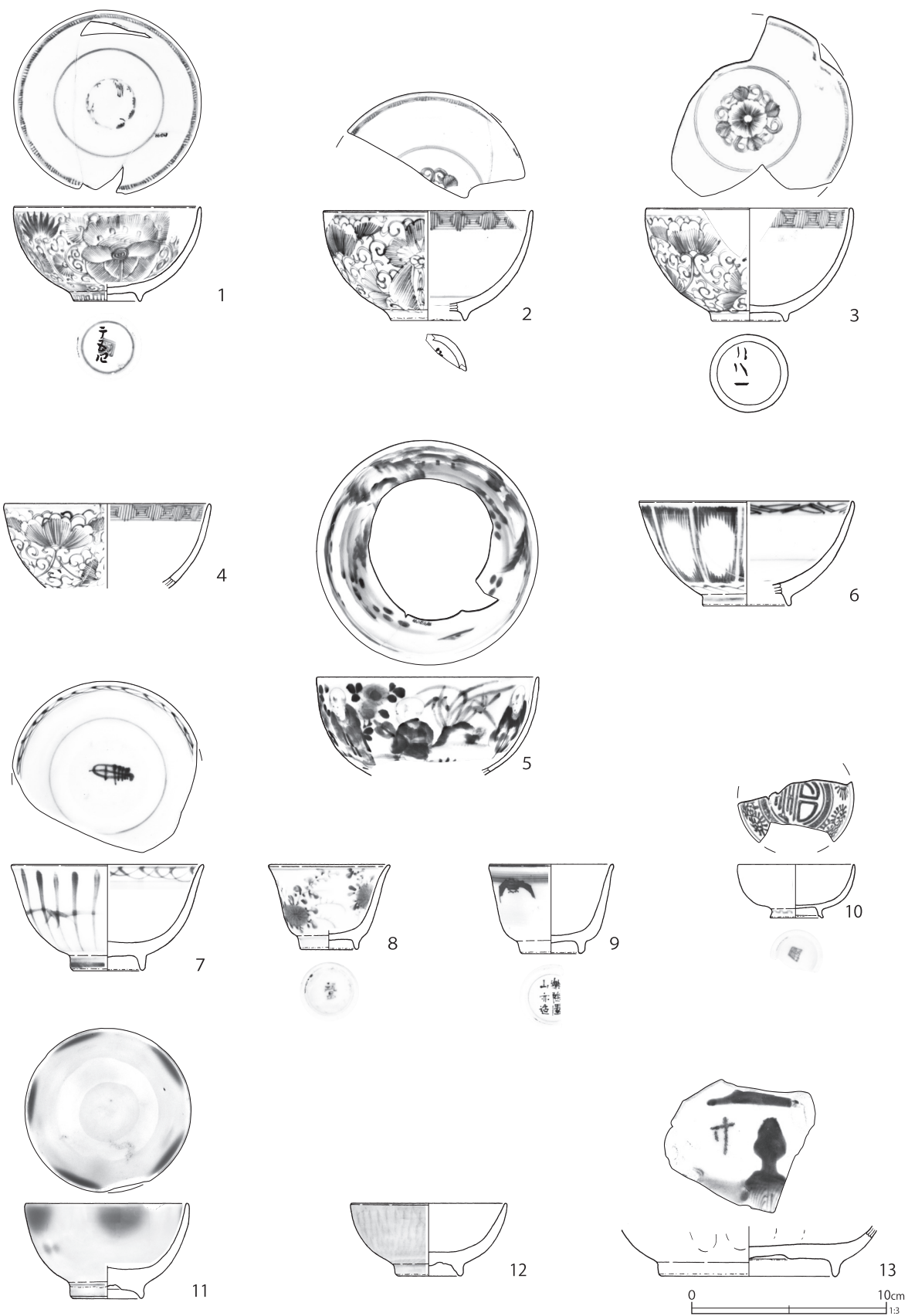
- |         |                               |
|---------|-------------------------------|
| 第159号土壌 | A-A'                          |
| 1 暗褐色土  | 均一 木材を多く含む                    |
| 2 暗褐色土  | 均一 木材を含まない                    |
| 3 灰色土   | 均一 シルト層                       |
| 第159号土壌 | B-B'                          |
| 1 暗褐色土  | 粘質 炭化物粒子少量 木片が腐食したもの 粘性・しまりあり |
| 2 暗灰色土  | 粘質 炭化物粒子少量 瓦片混入 粘性・しまりあり      |

第331図 第159号土壌

方形の土壌である。土壌が周囲に密集しており、本跡は、第171・294・297・298・690号土壌より新しい。覆土の上層に木材・木片を多く含んでいる。

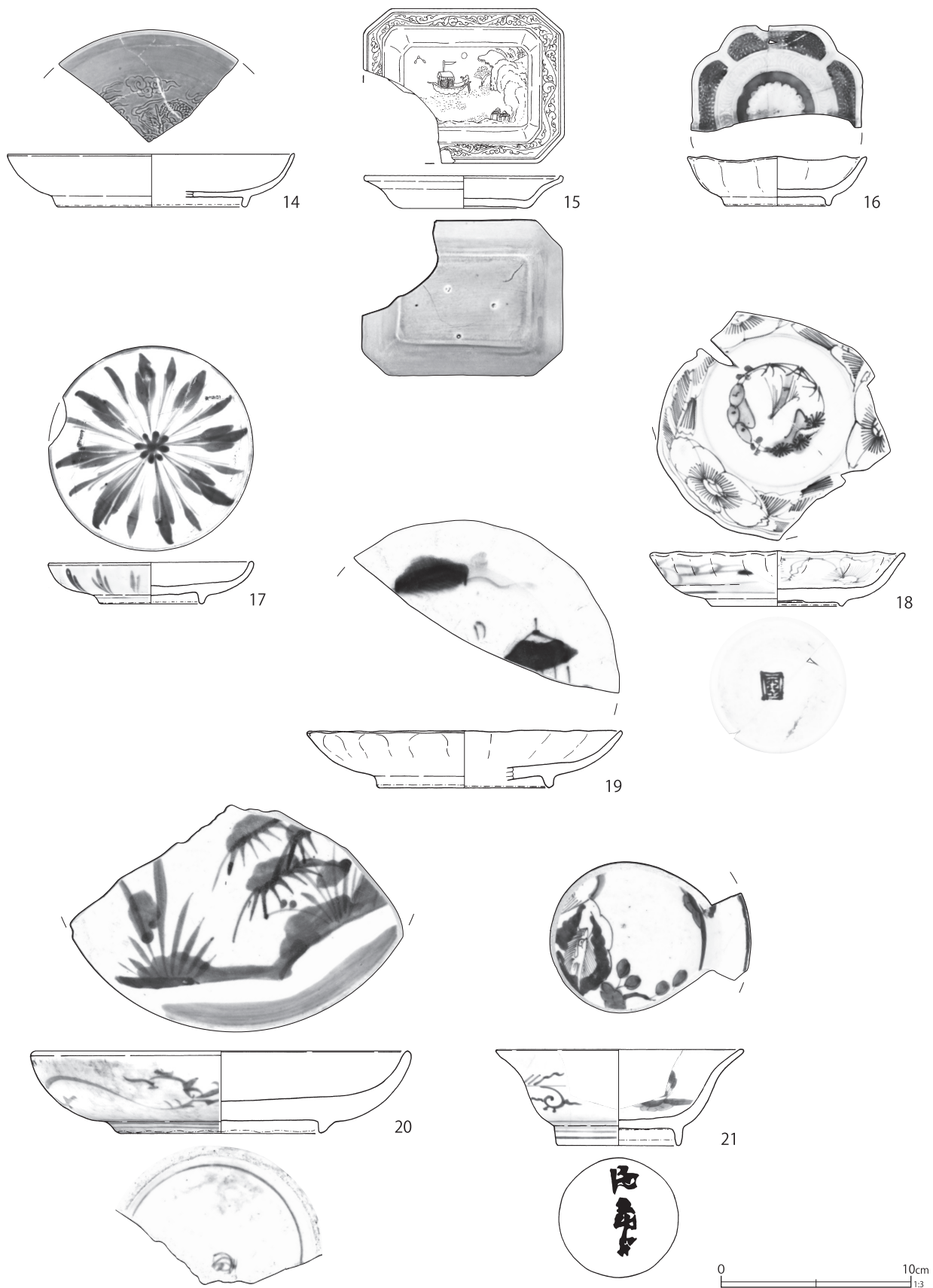
第332～335図に出土した陶磁器類を示した。

1～4は肥前系磁器の半球形碗で、いずれも外面に唐花と唐草文を細線で染付し、焼き継ぎを行っている。1がやや小型で口径9.4cm、他はほぼ同大の資料とみられ、口径10.5cm前後である。5も肥前系磁器の半球形碗である。呉須はより鮮やかな青みで発色し、外面に唐子等を、内面に山水文を染付する。比較的上質な碗である。6は瀬戸美濃系磁器の丸碗で、酸化コバルトで染付される。7は瀬戸美濃系磁器の端反碗で、外面は縦格子文と笹文、内面底部に変形壽文を染付する。8・9は瀬戸美濃系磁器の端反の坏で、酸化コバルト染付が施される。8の高台内に「玩品」、9の高台内に「楽陶園／山亦造」の銘款がみられる。10は瀬戸美濃系磁器の薄手の坏で、いわゆる卵殻手酒杯である。内面底部に壽文、体部に蛸唐草文を青の江戸絵付けで描く。11・12は瀬戸美濃系磁器で、酸化クロム青磁釉の坏である。13は肥前系磁器の皿で、内面に「サ」の釘書きがみられる。14・15は淡路珉平系磁器の皿である。14は鮮やかな緑釉を施釉する。内面に龍を型押し施文する。高台畳付部を露胎とする。15は平面形が四隅が切れる長方形の皿で、鮮やかな黄色の釉を施釉する。内面に山水文と船などを型押し施文する。底部は総釉で3つのピン痕が残る。16は瀬戸美濃系磁器の型押し皿である。17・18は瀬戸美濃系磁器の皿で、17は小型の皿、18は蛇の目凹形高台の皿である。19・20は肥前系磁器の皿で、19は内面に一枚絵で崩れた山水楼阁文を染付する。被熱などの痕跡は明確ではないが、内面に細かい傷がやや目立つ。20は粗製・厚手の皿で、内面に笹文などの草花文を染付する。外面体部は太い一重線の唐草文、高台内には

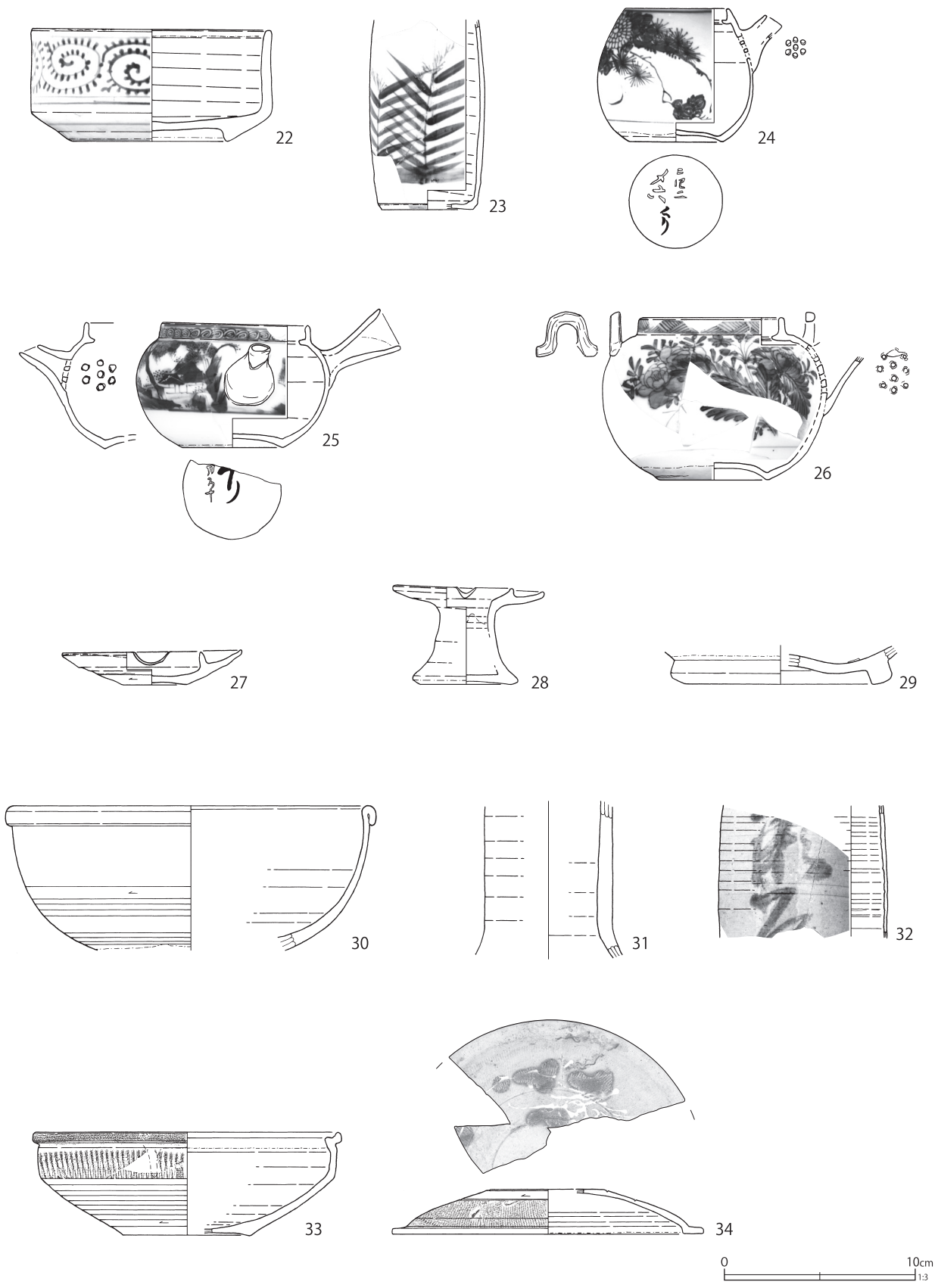


第 332 図 第 159 号土壙出土遺物 (1)

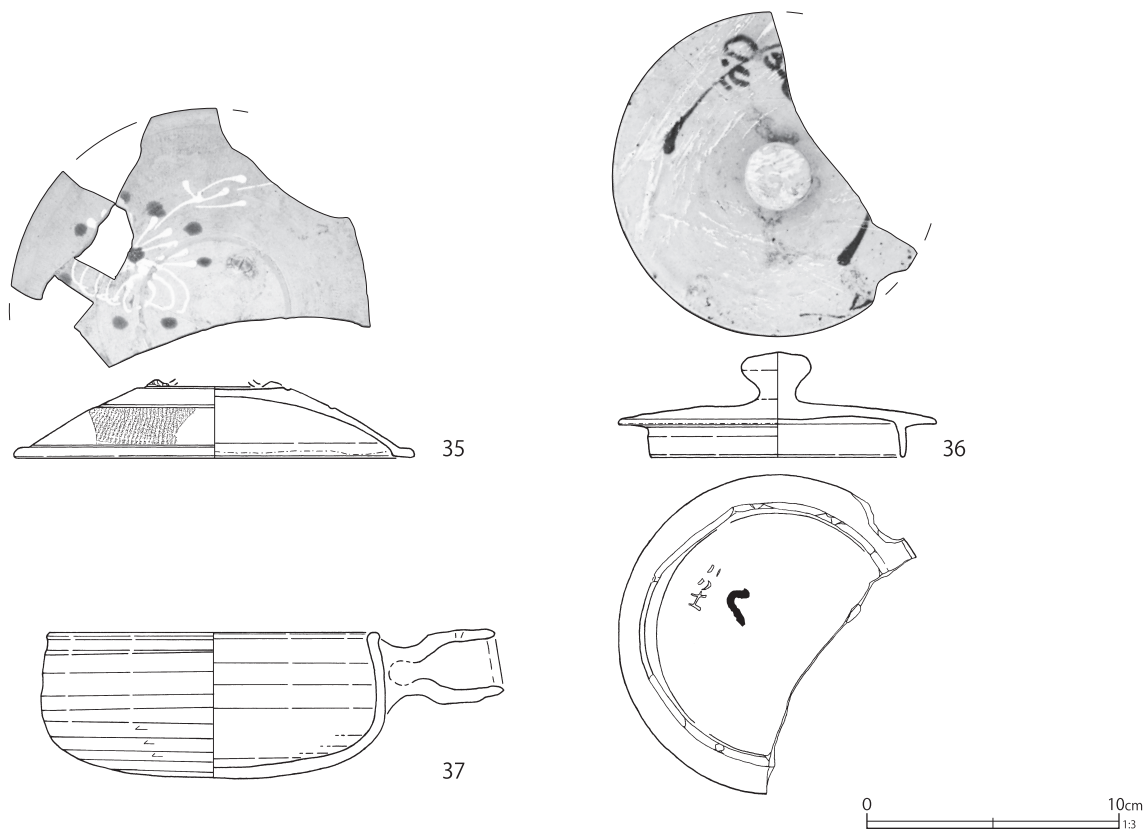




第 333 图 第 159 号土壙出土遺物 (2)



第334图 第159号土壙出土遺物(3)

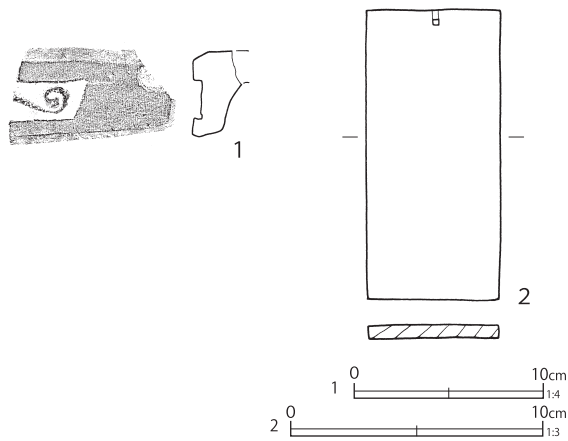


第 335 図 第 159 号土壌出土遺物 (4)

第 168 表 第 159 号土壌出土遺物観察表 (1) (第 332 ~ 335 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	9.4	4.8	3.4	-	90	良好	白	SK159	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・ 焼き継ぎ印 (赤)	151-6
2	磁器	碗	(10.5)	5.6	3.7	-	20	良好	白	SK159	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・ 焼き継ぎ印 (赤)	151-7
3	磁器	碗	(10.6)	5.8	3.8	-	40	良好	白	SK159	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・ 焼き継ぎ印 (赤)	152-1
4	磁器	碗	10.5	[4.3]	-	-	30	良好	白	SK159	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕	152-2
5	磁器	碗	11.3	[5.0]	-	-	60	良好	白	SK159	肥前系 内外面施釉・染付	152-3
6	磁器	碗	(11.0)	5.3	4.4	-	35	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染 付 焼き継ぎ痕	152-4
7	磁器	碗	(9.8)	5.4	3.6	-	40	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗)	152-5
8	磁器	坏	6.2	4.3	2.8	-	100	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバル ト染付	152-6
9	磁器	坏	(6.4)	4.5	3.0	-	45	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバル ト染付	152-7
10	磁器	坏	6.0	2.7	2.6	-	35	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面 上絵付 (青) (卵殻手酒杯)	152-8
11	磁器	坏	8.4	4.8	3.6	-	90	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁釉、一 部酸化コバルト染付 口紅	153-1
12	磁器	坏	(8.0)	3.7	3.2	-	50	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁釉 し のぎ状施文	
13	磁器	皿	-	[2.3]	(9.0)	-	15	良好	白	SK159	肥前系 内外面施釉 内面染付 釘書「サ」 蛇の目状高台	153-2
14	磁器	皿	(15.0)	[2.7]	(9.8)	-	20	良好	白	SK159	淡路珉平系 型成形 内外面緑釉 内面型 押施文	153-3
15	磁器	皿	10.2	1.7	6.5	-	80	良好	白	SK159	淡路珉平系 型成形 内外面黄色釉 内面 型押施文 外底面ビン痕	153-4
16	磁器	皿	9.4	2.5	5.3	-	50	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面染 付・型押施文 焼き継ぎ痕	153-5

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
17	磁器	皿	10.6	2.2	5.2	-	95	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 口紅	153-6
18	磁器	皿	13.2	2.9	6.8	-	50	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 蛇の目凹形高台	153-7
19	磁器	皿	(16.4)	2.9	(9.0)	-	30	良好	白	SK159	肥前系 内外面施釉 内面染付	154-1
20	磁器	皿	(19.5)	4.2	(10.6)	-	40	良好	白	SK159	肥前系 内外面施釉・染付 少量煤付着	154-2
21	磁器	鉢	(12.9)	5.0	6.3	-	40	良好	白	SK159	肥前系 内外面施釉・染付 口紅 底部墨書	154-3
22	磁器	段重	12.4	5.8	8.0	-	90	良好	白	SK159	肥前系 内外面施釉 外面染付	154-4
23	磁器	爛德利	-	[9.8]	(4.8)	-	30	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付	154-5
24	磁器	急須	5.2	6.9	4.9	-	60	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 底部墨書「くり」	154-6
25	磁器	急須	(7.4)	7.1	(5.1)	-	70	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 底部墨書「くり」か	155-1
26	磁器	土瓶	7.2	[8.7]	5.7	-	70	良好	白	SK159	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	155-2
27	陶器	灯明皿	9.2	1.7	3.3	IK	80	良好	にぶい橙	SK159	内面～外面口縁部柿釉	155-3
28	陶器	灯火具	7.8	5.1	4.8	HIK	90	良好	灰白	SK159	京都信楽系 内外面透明釉	155-4
29	陶器	甕	-	[2.0]	(9.8)	EIK	5	良好	灰白	SK159	瀬戸美濃系 内外面柿釉 内底面目跡2遺存 漆継ぎ痕	
30	陶器	鉢	(18.4)	[7.5]	-	IK	15	良好	灰白	SK159	内外面柿釉	
31	陶器	德利	-	[8.2]	-	IK	10	良好	黄灰	SK159	内外面鉄釉・糠白釉流掛	155-6
32	陶器	爛德利	-	[6.9]	-	IK	10	良好	灰白	SK159	外面灰釉 呉須で文字「□瀬屋」	155-5
33	陶器	鍋	(15.7)	[5.3]	(6.1)	K	20	良好	灰白	SK159	内面灰釉 外面トビガンナ状施文	
34	陶器	蓋	-	2.3	(16.2)	IK	40	良好	灰白	SK159	内面灰釉 外面トビガンナ状施文、イッチン・呉須絵付	156-1
35	陶器	蓋	-	3.0	(15.6)	IK	35	良好	灰白	SK159	内面灰釉 外面トビガンナ状施文、イッチン・呉須絵付	156-2
36	陶器	蓋	-	4.1	(9.9)	IK	65	良好	灰白	SK159	上面灰釉、呉須絵 部分的に白色の釉 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 墨書「く」 最大径 12.6 cm	156-3
37	土師質土器	把手付鍋	(13.0)	5.8	-	CEHIK	40	普通	灰白	SK159	底部ケズリ 把手部は接合せず図上復元 穿孔1	156-4



第 336 図 第 159 号土壙出土遺物 (5)

渦福文を染付する。全体に少量の煤が付着している。21は肥前系磁器の鉢で、内面に龍文などを、外面体部には一重の唐草文を染付する。高台内は畳付部～高台内側下位を露胎とするほか、高台内の上面部を全面露胎とする。この部分に墨書がみられる。22は肥前系磁器の段重で、外面に蛸唐草文を染付する。23は瀬戸美濃系磁器の爛德利で、外面に葦を染付で描く。24・25は瀬戸美濃系磁器の急須であり、いずれも酸化コバルト染付が施され、焼き継ぎがみられる。24は外面に「松風亭」と文字が染付される。底部に墨書

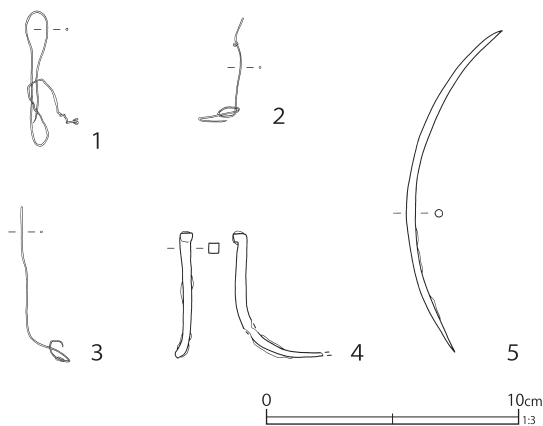
第 169 表 第 159 号土壙出土遺物観察表 (2) (第 336 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒椀瓦	[3.1]	[9.2]	-	ACIK	普通	灰白	SK159	胎土軟質	254-9
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	径	高さ	木取り	遺構	備考	図版
2	木製品	木札	11.4	5.2	厚 0.5	-	-	柾目	SK159	片面墨書 木釘 孔 第 241 表 26	

「くり」と、朱色の焼き継ぎ印がみられる。25は外面口縁部に渦文、体部に山水楼閣文を染付する。注口部先端は焼き継ぎに際して、大きく補修される。底部に墨書「[くり]カ」と、朱色の焼き継ぎ印がみられる。26は瀬戸美濃系磁器の土瓶で、外面に酸化コバルトで草花文を染付する。

27は産地不詳の灯明皿で地方窯の製品とみられる。器壁は薄手、体部はロクロ成形で下位にケズリを施す。受部は低く径5.2cm、上端は露胎とする。柿釉を付け掛けし、外面露胎部には径5.5cmほどの環状重ね焼き痕がみられる。胎土はにぶい橙色を呈し、微細な黒色粒子が多く含まれる。28は京都信楽系陶器の灯火具である。底部と受部上端を除く全体に細かい貫入のある透明釉が施される。受部は径4.6cmでU字の切れ込みがある。底部は回転ケズリで処理され、径4.1cmの環状の重ね焼き痕が残る。29は瀬戸美濃系陶器の柿釉甕で、内底面に目跡が二箇所遺存する。断面に漆継痕が明瞭に残る。30は陶器鉢で、内外面とも柿釉を施釉する。胎土は灰色・緻密・硬質で

ある。片口鉢の可能性もある。31は陶器徳利の頸部である。長頸の所謂「すず徳利」であるが、サイズはかなり大きい。光沢のある漆黒の鉄釉を地に青白い不透明の糠白釉を流し掛けするが、内面の鉄釉下には、薄い柿釉が下地に施されている状況が認められる。胎土は硬質で混入鉱物はあまりみられない。還元して濃い黄灰色を呈する。32は陶器の爛徳利で、器壁は薄手、内面には細かいロクロナデ痕が明瞭に残る。外面は鶯色の光沢の強い灰釉で、細かな貫入が見られる。呉須で「口瀬屋」と書かれる。明治後期の『埼玉県営業便覧』には、第9地点から日光道中を挟んだ反対側に「旅館 高瀬屋 高瀬倉之助」とある。33は陶器の鍋である。内面は口縁部を除き薄く灰釉が施され、外面は体部上位にトビガンナ状の施文がみられる。外面、口縁部下の一部に鶯色の透明な灰釉が残る部分があり、おそらく両手鍋の耳部分を中心に灰釉が施されるのであろう。胎土は灰白色で緻密だが、僅かに微細な黒色粒子が含まれる。34・35は陶器の蓋である。いずれも内面には外周（口縁部）を除き薄く灰釉が施される。外面は露胎で、上端が回転ケズリ後に回転ナデ、体部上位は回転ケズリ、下位は細かいトビガンナ状の施文を地として、イッチン・青呉須で絵付けをする。34の蓋の上端部には、ブリッジ状のつまみの痕跡がある。胎土は灰白色で緻密である。胎土・内面の釉調から、いずれかが33の鍋と組み合わせる可能性が高い。36は陶器蓋で、大型の土瓶の蓋である。上面に光沢の強く透明感のある灰釉を掛け、呉須絵を描く。全体に白色の釉を細く乱れ掛けする。焼き継ぎ痕があり、下面には赤の焼き継ぎ印と、墨書「く」がみられる。墨書は「く



第 337 図 第 159 号土壙出土遺物 (6)

第 170 表 第 159 号土壙出土遺物観察表 (3) (第 337 図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	針金	縦 5.3 横 2.0 厚さ 0.08 重さ 0.4	SK159		
2	銅製品	針金	縦 4.2 横 1.5 厚さ 0.08 重さ 0.2	SK159		
3	銅製品	針金	縦 6.2 横 1.9 厚さ 0.08 重さ 0.2	SK159		
4	鉄製品	釘	長さ [4.9] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 3.5	SK159		
5	鉄製品	不明	長さ 12.8 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 5.5	SK159		

り」の略であろうか。37は土師質土器の把手付き鍋である。身と把手部の接点は見いだせなかったが、同一個体であり図上復元した。体部内面は口縁部はヨコナデ、以下はロクロナデと思われる回転ナデだが、あまり稜は出ていない。内底面には回転ナデ痕は見え、平滑である。外面は口縁部直下に凹線状に沈線を入れ、以下はロクロナデ、下位～底部は回転ケズリで処理する。内底面は僅かに黒化しており、使用痕とみられる。胎土には角閃石を含む。

出土遺物から、栗橋9期でも古い段階に位置付けられる。

第336図1は軒棧瓦の瓦当面の破片である。文様は子葉が無く、唐草は瓦当面の端で渦を巻く。

第336図2は木製品の札である。上段に「第八区／栗橋宿／紀州屋殿行／卯 第拾月廿二日」下段に「第拾二区／（以下二行分不明）」の墨書を有す。記述のとおり「紀州屋」は南隣の第3区画に相当する。

第337図は金属製品である。1～3は銅製品の針金、4は鉄製品の釘、5は用途不明の棒状鉄製品である。

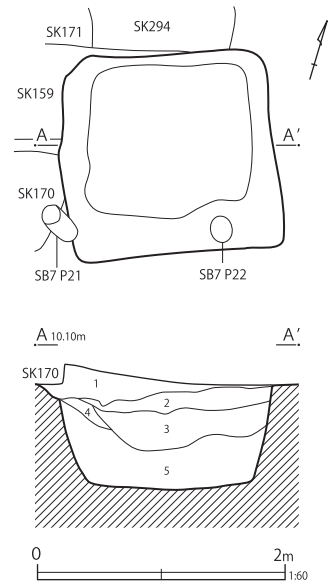
このほか、鞆の羽口16片が出土している。出土した鉄滓などの重量は第238表に示した。

### 第297号土壌 (第338～342図)

区画中央よりやや北東よりの、E7-I6グリッドに位置する。長軸1.7m、短軸1.57mのほぼ方形を呈する。土壌が周囲に密集し、複数の土壌と重複する。第159・170号土壌より古い。

覆土は、最上層が暗灰色砂質土、以下には、鉄滓・木炭・灰の混土層、その下層に木質を含む腐植土中に鞆の羽口や陶磁器が含まれている。最下層は木質繊維を多く含む粘質土である。従って、開口していた初期には粘質土が堆積していたようだが、埋没に従って、鍛冶に関わる廃棄土壌となり、最終的に砂質土で埋め戻されていると考えられる。

S K 297



第297号土壌

- |   |       |                   |                 |               |
|---|-------|-------------------|-----------------|---------------|
| 1 | 暗灰色土  | 砂質・黄灰色砂粒・明灰色粘土の混土 | 埋土              | しまり良好         |
| 2 | 黒褐色土  | 粘質                | 木炭・鉄滓・灰の混土      | しまりに欠ける       |
| 3 | 黒色土   | 粘質                | 鞆羽口・木炭・木質含む腐植土  | 陶磁器含む しまりに欠ける |
| 4 | 暗青灰色土 | シルト質              | 木質多く含む・砂粒と粘土の混土 | 崩落土           |
| 5 | 暗青灰色土 | 粘質                | 木質繊維多く含む        | しまり良好         |

第338図 第297号土壌

第339図に出土した陶磁器を示した。

1は肥前系磁器の広東碗で、外面に稲束文と飛翔する鳥、内面口縁部には二重圏線を染付する。焼き継ぎ痕が認められる。2は肥前系磁器の皿で、内面には花文が染付される。蛇の目凹形高台の露胎部に墨書があり、「王」ともみえる。類似の店印らしい文は、木製品下駄の焼印にも見られる(第340図4)。

3は瀬戸美濃系陶器の餌入れで、完形のものである。4は瀬戸美濃系陶器の花生で、鉄釉・灰釉を掛け分ける。底部の露胎部に墨書があり「二千／アイ」とも読めるが、「ア」がこざとへの「𠂔」で、「部」を崩している可能性もある。

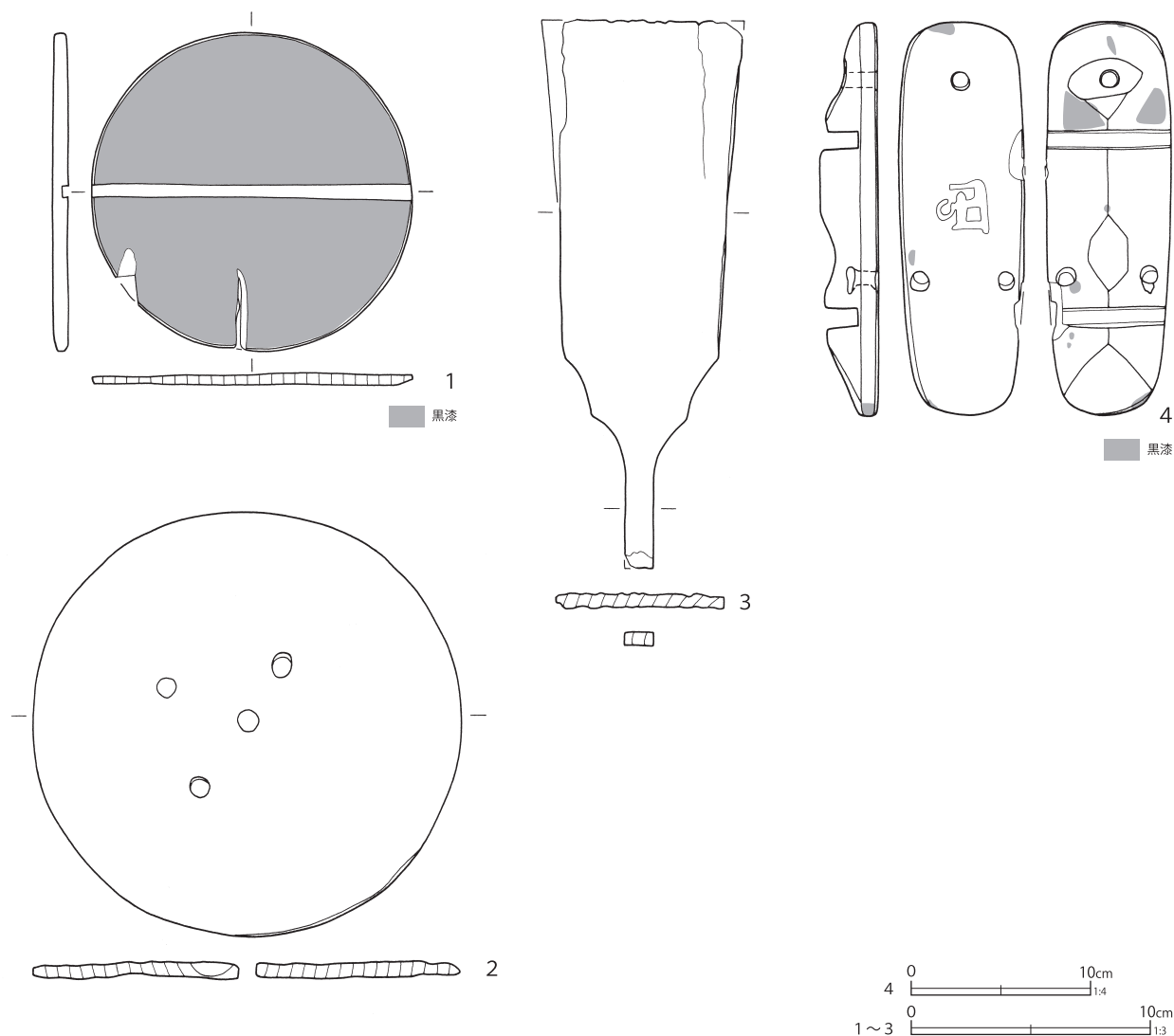
5は外面に鉄釉が掛かる陶器の爛徳利で、大振りのものである。6は京都信楽系陶器の土瓶とみられ、薄手で胎質も良い。体部最下位の底部に近い部分に沈線が巡るのが特徴的である。透明釉は貫入が多い。露胎部に使用時の煤が付着する。7



第 339 図 第 297 号土壙出土遺物 (1)

第 171 表 第 297 号土壙出土遺物観察表 (1) (第 339 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(11.7)	6.5	(7.0)	-	20	良好	白	SK297	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕 (広東碗)	
2	磁器	皿	13.8	4.2	8.7	-	60	良好	白	SK297	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目凹形高台 墨書	222-3
3	陶器	餌入	5.0	2.8	3.2	IK	100	良好	灰白	SK297	瀬戸美濃系 内外面灰釉	222-4
4	陶器	花生	-	[12.3]	5.6	DI	70	良好	灰白	SK297	瀬戸美濃系 底部糸切痕(右)・墨書 内面上位~外面灰釉 外面下位鉄釉	222-6
5	陶器	爛徳利	-	[17.7]	(7.6)	K	50	良好	灰白	SK297	京都信楽系 外面鉄釉	222-5
6	陶器	土瓶	5.1	10.1	5.0	-	70	良好	灰白	SK297	京都信楽系 外面透明釉 露胎部煤付着	223-1
7	陶器	行平	(15.2)	[4.0]	-	I	20	良好	にぶい褐	SK297	吉見系 内面透明釉 外面鉄釉	223-2
8	陶器	甕	-	[6.0]	-	EIK	5	普通	灰白	SK297	常滑 内外面ヘラナゲ(刷毛目状) 13c	223-3
9	陶器	瓶掛	22.0	14.3	16.0	K	90	良好	灰白	SK297	瀬戸美濃系 内外面緑釉 外面上位スタンブ文 下位鉄釉 内面下位鉄釉刷毛塗り	223-5
10	陶器	風炉	(20.0)	17.5	18.6	DIK	70	普通	淡黄	SK297	瀬戸美濃系 内面上位~外面灰釉・うのふ釉流掛 内外底面鉄化粧(刷毛塗り)	223-4
11	土師質土器	焙烙	(33.0)	[5.2]	(32.7)	ACDFH	30	普通	にぶい赤褐・赤灰	SK297	底部シワ状痕, 少量煤付着	
12	陶器	鍋	5.4	2.3	2.1	I	40	良好	灰黄	SK297	内外面鉄釉 ミニチュア 8.6g	245-14



第 340 図 第 297 号土壙出土遺物 (2)



第 172 表 第 297 号土壙出土遺物観察表 (2) (第 340 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	遺構	備考	図版
1	木製品	漆蓋	-	-	0.6	13.4	-	-	柁目 SK297	表・裏・側面(把手部分以外)黒漆	
2	木製品	樽	17.7	17.8	0.7	-	-	-	板目 SK297	蓋 孔 4	271-3
3	木製品	羽子板	23.0	7.6	0.6	-	-	-	板目 SK297		271-4
4	木製品	下駄	21.9	7.0	-	-	[3.2]	-	板目 SK297	陰卯下駄 黒漆 焼印	271-5

は施釉土器質の陶器行平である。内面の透明釉はやや緑色味を帯びて発色する。外面は鉄釉である。その特徴から吉見焼の可能性が高い。

8は常滑焼の甕と思われるもので、中世の所産である。全体が還元炎焼成で灰白色を帯びる。内外面ともに刷毛目状の工具ナデが認められる。9は瀬戸美濃系陶器の瓶掛で、内面は鉄釉を拭き取り、刷毛塗りのようになる。外面は上位に緑釉を施釉し、下位には厚く柿釉が施される。内外面それぞれの底面に目跡が六箇所認められる。10は瀬戸美濃系陶器の風炉である。内面は鉄釉を拭き

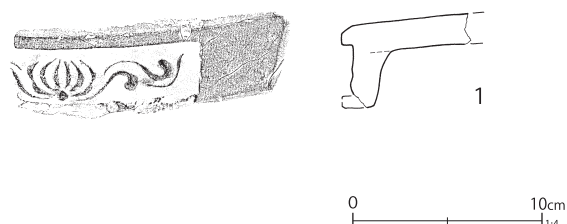
取り、刷毛塗りのようになる。外面は灰釉を施し、上位から緑釉・うのふ釉が流し掛けされる。底部に墨書があり「花雨風呂／口千本口元／壬[五カ]年十月」などと読める。11は土師質土器の焙烙である。

瀬戸美濃系の磁器は認められないが、5の陶器燗徳利、6の陶器土瓶に加えて、松岡系陶器の土瓶も出土している。組成にやや偏りがあるが、栗橋7期後半頃の遺構とみられる。

第340図に木製品を示す。1は黒漆塗りの蓋である。把手部は残存しない。2は樽の蓋と考えられるが、穴が四箇所あけられている。3は羽子板で、柄が短い。4は陰卯下駄である。裏面の前壺周辺と、中央部に窪みが作られる。表面に焼印が押される。

第341図1は軒棧瓦である。中心飾りは片側3枚の蓮華文、唐草は大きく曲線を描く。

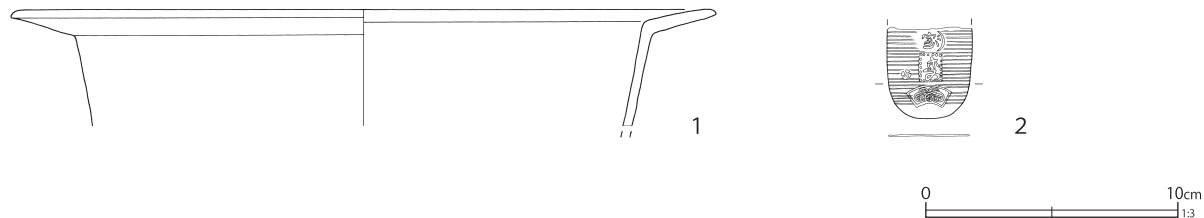
第342図は金属製品で、1は鉄製の鍋、2は銅



第 341 図 第 297 号土壙出土遺物 (3)

第 173 表 第 297 号土壙出土遺物観察表 (3) (第 341 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[8.3]	[15.6]	-	AIK	普通	灰白	SK297		



第 342 図 第 297 号土壙出土遺物 (4)

第 174 表 第 297 号土壙出土遺物観察表 (4) (第 342 図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	鍋	口径 (27.6) 器高 [4.6] 厚さ 0.4 重さ 481.7	SK297		
2	銅製品	飾金具	縦 [3.6] 横 3.3 厚さ 0.02 重さ 2.3	SK297	小判を模した飾り物	

製品で小判を模した飾り物である。吊るし飾りなどに用いられたものだろうか。

#### 第4区画のその他の土壌 (第343～378図)

第4区画の土壌は重複が著しく、個々の規模・形態等を明確にするのが難しいものが多い。以下、遺物が多く出土している土壌を中心に様相を略述しておく。第343～347図には遺構図、第348～378図には遺物図版を示した。なお、第4区画では多くの鍛冶関連遺物が出土している。これらは鞆の羽口と鉄滓を中心に第586～602図に示したので、適宜参照されたい。

第135号土壌は、区画西側で検出された隅丸方形の土壌だが、西側は調査区外で全体の形状は不明である。南北長は2.65mである。第136・137号土壌はこれと一部重複する土壌で、第136号土壌が長軸約2mの不整形、第137号土壌が一辺1.5m程の隅丸方形土壌である。三基の土壌の出土遺物は一括で取上げられており、第348～350図1～18に出土した陶磁器を示す。個々の遺物の帰属は不明確だが、三基のうちのいずれかは、栗橋9期でも新しい段階の土壌である。第369図1・2は軒棧瓦で、刻印を有すものである。第586図7は、機械成形の煉瓦に鉄滓が付着するものである。煉瓦における機械成形の導入は明治22年以降であり、その段階まで鍛冶行為が行われていたことを示している。

第138号土壌は、区画のほぼ中央から検出された隅丸方形を呈する土壌である。長軸は1.17mである。覆土上層を中心に鉄滓・鞆の羽口が含まれる。陶磁器は第350・351図に示す。19は瀬戸美濃系磁器の小型の碗で、内外面に赤を主体とした色絵が施される。22は瀬戸美濃系磁器の紅皿である。外面は蛸唐草文の型押し文で、高台内にまで及んでいるように見える。高台内には陽刻状の刻印があるようだが、不明瞭である。24は瀬戸美濃系磁器の卵殻手酒杯で内面に青の上絵付けで船が描かれ、木の葉状の枠内に「津口」の文字

がみえる。

27は産地不詳の灯火具で、貫入が多いオリーブ色の灰釉が掛けられる。底面には径3.4cmの環状の窯道具痕が残る。28は長頸壺形の徳利で、所謂「すず徳利」である。30は土師質土器の瓦燈の下部である。底面は砂目を残す。一見江戸在地系にみえるが、微細な雲母の包含はやや少なく、胎土も少し硬質である。

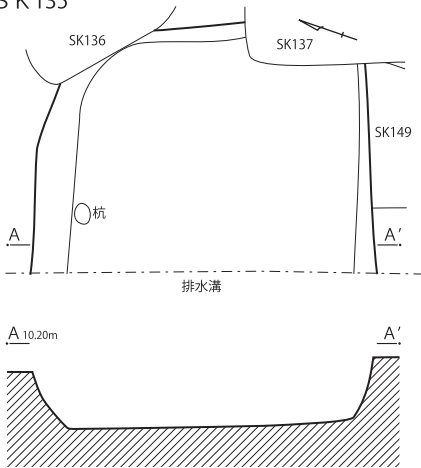
出土遺物には、銅版転写染付の磁器も認められるが少数である。総体的には型紙摺絵染付の磁器が目立ち、特に平碗が多い傾向である。鉄滓・炉壁・鞆の羽口などが少量含まれる。

第140号土壌は区画西部に位置する土壌で、長軸2m強の隅丸長方形を呈する。出土した磁器碗類をみると、型紙摺絵と銅版転写技法のものが同程度含まれている。遺構の時期がやや降るので、第351～355図32～68には、特徴的な資料と文字資料を中心に掲載した。

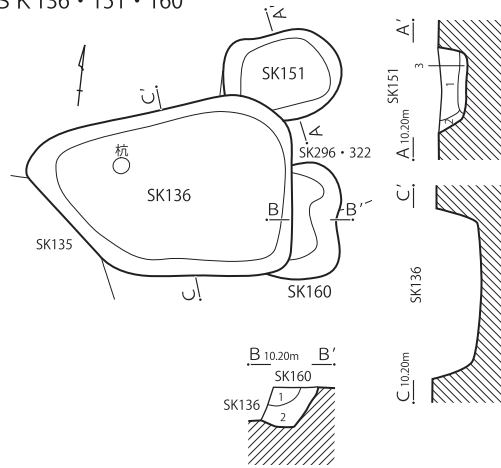
33～35は焼き継ぎ印がみられる磁器碗である。36は瀬戸美濃系磁器の所謂「子供茶碗」である。40～42は磁器の紅皿である。40の型押し文による蛸唐草文は陰刻状である。高台内には陽刻状の刻印がある。41は全体的に施釉されており、高台暈付部のみ露胎とする。外面の型押し文による蛸唐草文は陰刻状である。42の内面は全面施釉されるが、外面は口縁部の一部にしか釉が掛からない。型押し文による蛸唐草文は陰刻状である。高台内には陰刻状の刻印「尙」がある。44は瀬戸美濃系磁器の水注で、外面に酸化コバルト染付が施される。ブリッジ状の把手が付くが、注口側では途中で二股に分かれて、体部に接合する。

46～49は陶器の灯火具で、いずれも地方窯の製品と考えられる。50は陶器の甕で、内面は透明釉、内面上位～外面は糠白釉を施して緑釉を流し掛けする。胎土は硬質で、長石が僅かに含まれる。笠間・益子系陶器の胎土と異っており、信

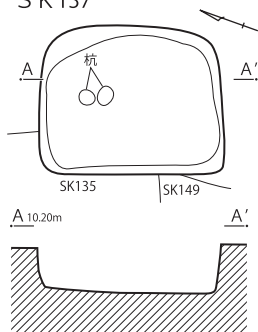
S K 135



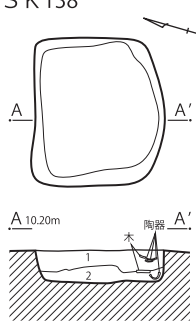
S K 136・151・160



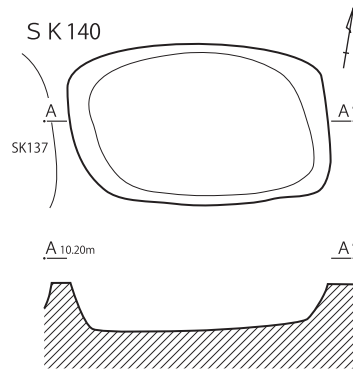
S K 137



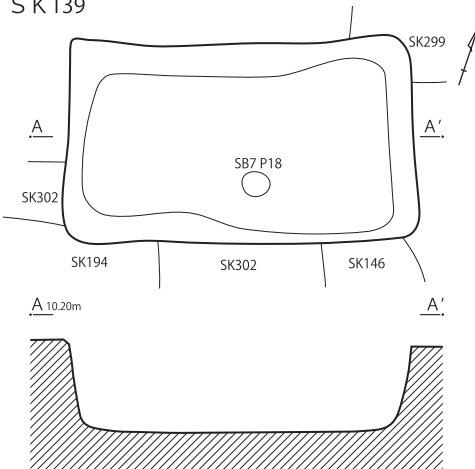
S K 138



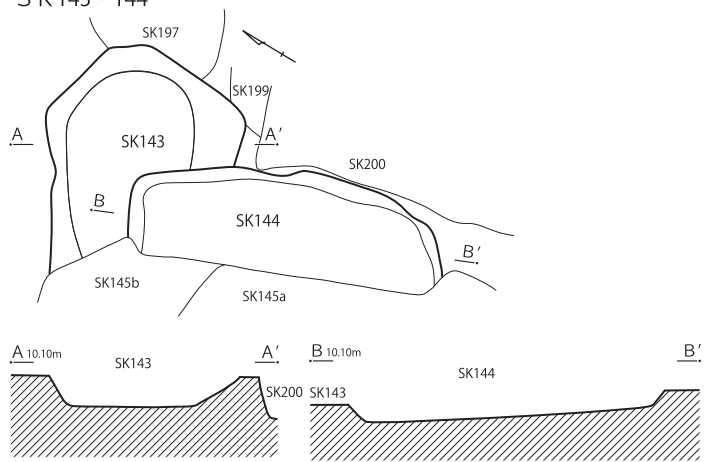
S K 140



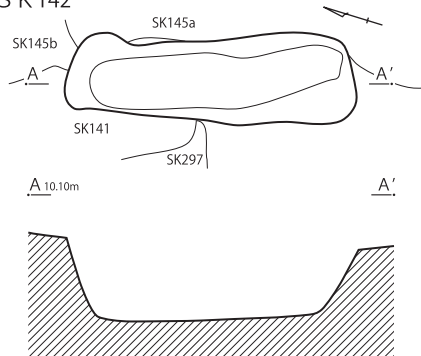
S K 139



S K 143・144

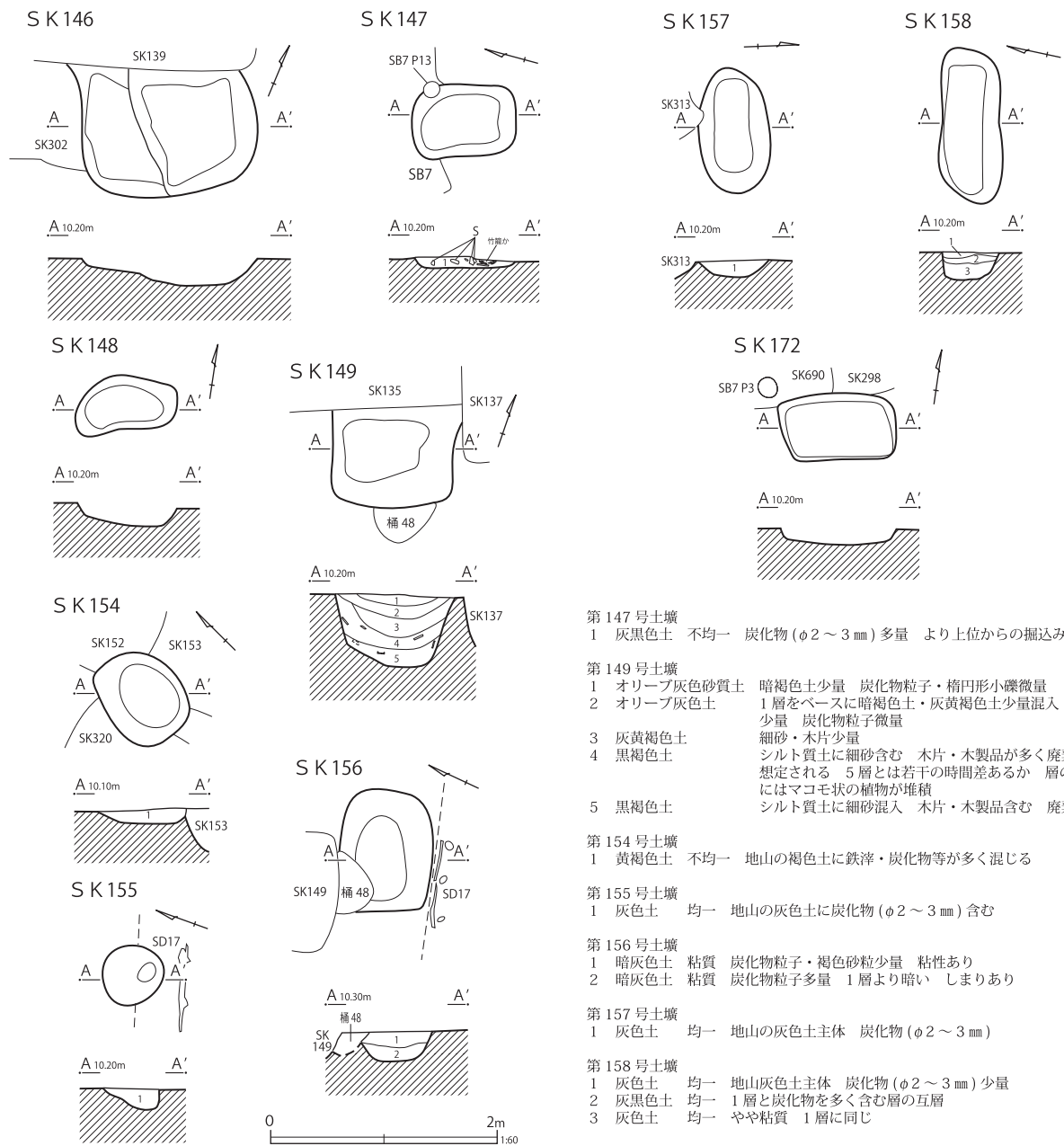


S K 142



- 第 138 号土層  
 1 灰色土 不均一 ラミナ発達 炭化物(φ2~5mm末)含む 鉄滓(φ5~10mm)部分的に多く含む  
 2 灰色土 不均一 ラミナ発達 1層より暗色
- 第 151 号土層  
 1 褐色土 不均一 木片・硝子を多く含む  
 2 灰色土 均一 地山の灰色シルトに炭化物が含まれたもの 1層より炭化物小さい  
 3 黒灰色土 やや不均一 地山の灰色シルトに炭化物が含まれたもの
- 第 160 号土層  
 1 黄灰色土 やや均一 黄灰色土主体 炭化物(2~5mm)・焼土(φ10mm)少量  
 2 灰色土 均一 ややシルト質 炭化物(φ2~3mm)少量

第 343 図 第 4 区画の土層 (1)



第 344 図 第 4 区画の土壌 (2)

楽系陶器の可能性がある。51~54は陶器の植木鉢であり、図示したもの全ての底部に墨書がある。このうち51は「栗橋宿／舎／紀州屋」と読める。55は瀬戸美濃系陶器の瓶類である。灰釉は透明で漬け掛けである。

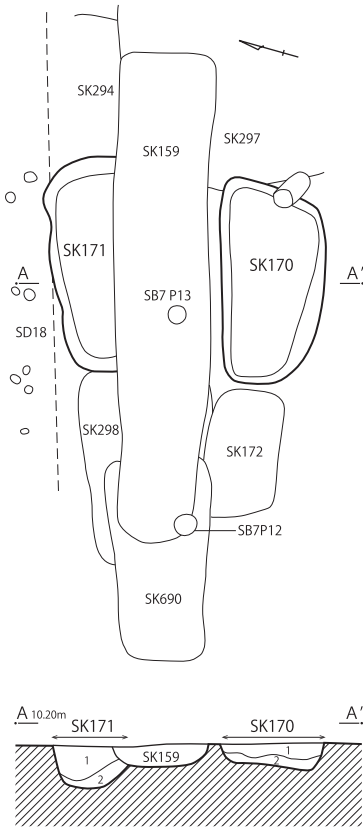
62~64は瓦質土器の竈である。このうち、63は内面の体部と底面に朱書きがみられ、体部には店印が二箇所書かれているらしい。68は瓦質土器の竈鏝で上面に「五」とみられるへら書きがあ

る。

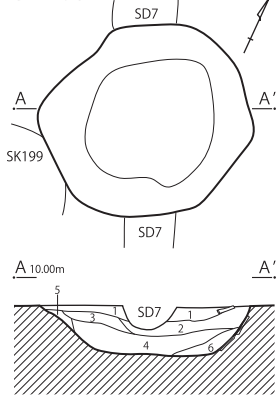
瓦類の出土も多く、一部を第370・371図7~22に示す。

第372図1~5は木製品の櫛である。1~3は結櫛である。1・2は柄が長く端部が尖る。2はやや櫛の目が粗く、1より小型である。3は背の左右端で角度が異なる。4・5は唐櫛である。4の櫛には鞆と皮革が残っている。皮革は櫛と同じ幅であることから、櫛の入れ物であると考えられ

S K 170・171



S K 293



第 170 号土壌

- 1 暗灰褐色土 粘質 炭化物粒子多量 粘性あり しまり弱
- 2 暗灰褐色土 粘質 炭化物粒子多量 木板出土 粘性・しまりあり

第 171 号土壌

- 1 暗灰褐色土 粘質 炭化物多量 多量の石混入 粘性・しまりあり
- 2 暗灰色土 粘質 炭化物多量 粘性・しまりあり

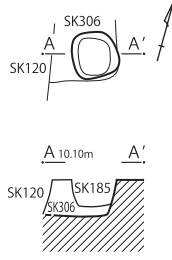
第 197 号土壌

- 1 暗褐色土 オリーブ灰色土小ブロック含む 炭化物粒子 (φ3~8mm)3%混入

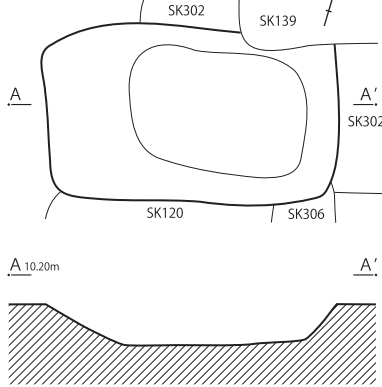
第 275 号土壌

- 1 暗灰褐色土

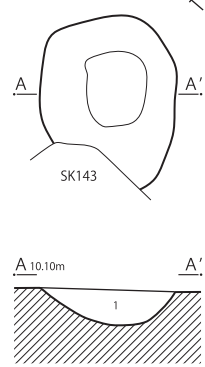
S K 185



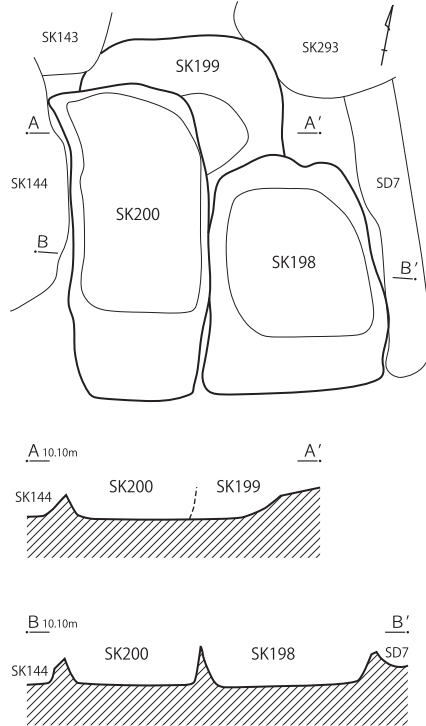
S K 194



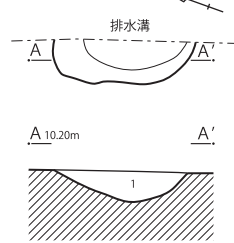
S K 197



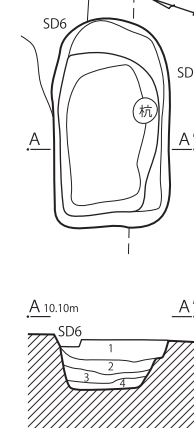
S K 198・199・200



S K 275



S K 287

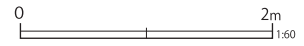


第 287 号土壌

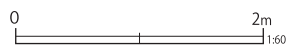
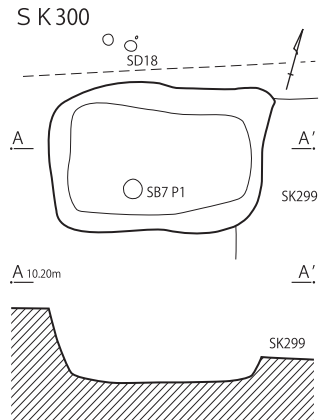
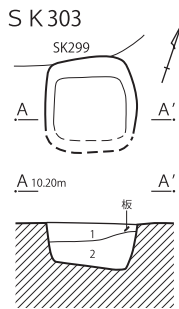
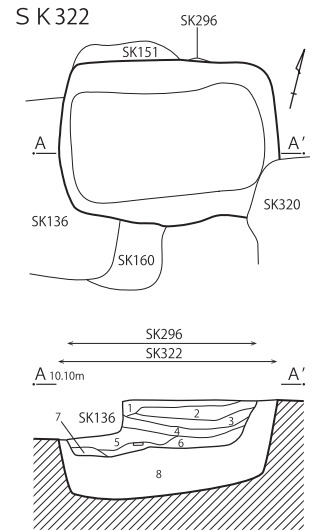
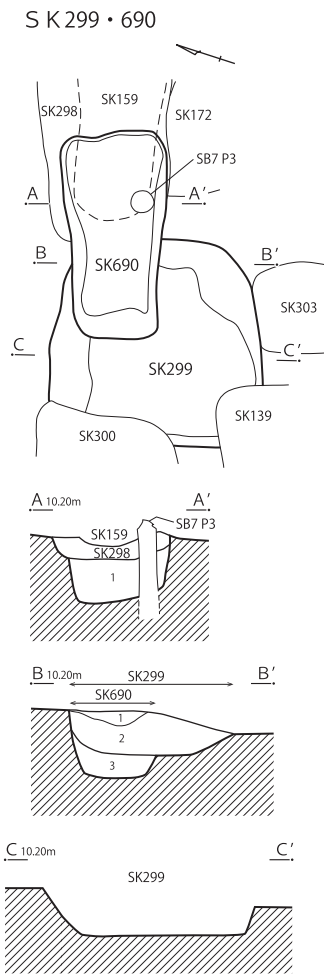
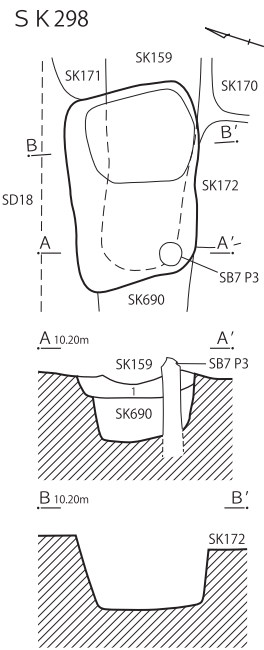
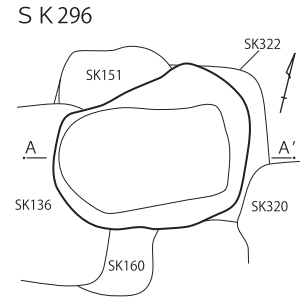
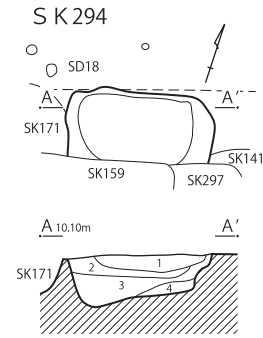
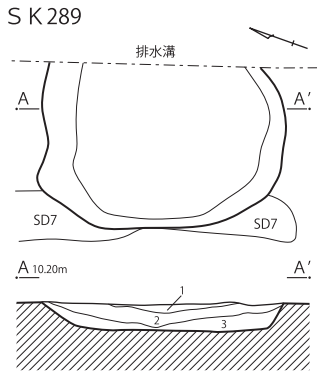
- 1 暗褐色土 シルト質 鉄分・炭化物多量 粘性・しまりややあり
- 2 暗褐色土 シルト質 鉄分・炭化物少量 粘性・しまりややあり
- 3 暗褐色土 シルト質 鉄分多量 炭化物含む 粘性・しまりややあり
- 4 暗褐色土 シルト質 木質多く含む 鉄分少量 炭化物含む 粘性・しまりややあり

第 293 号土壌

- 1 暗灰色土 砂質 鉄分・炭化物少量 粘性・しまり弱
- 2 暗灰色土 シルト質 鉄分微量 炭化物含む 粘性・しまりややあり
- 3 暗灰褐色土 シルト質 炭化物・鉄分少量 粘性・しまりややあり
- 4 暗灰褐色土 シルト質 鉄分含む 炭化物多量 粘性・しまりややあり
- 5 暗灰色土 砂質 鉄分少量 炭化物微量 粘性なし しまり弱
- 6 暗灰色土 砂質 炭化物多量 粘性・しまり弱



第 345 図 第 4 区画の土壌 (3)



第 289 号土壙

- 1 暗灰色土 鉄分含む 炭化物多量 粘性弱 しまりややあり
- 2 暗灰褐色土 木質多く含む 灰色砂少量 粘性弱 しまりややあり
- 3 暗灰褐色土 暗灰色砂含む 粘性弱 しまりややあり

第 294 号土壙

- 1 灰色土 粘質 明灰色粘土・暗灰色粘土・炭化材の混土 しまりややあり
- 2 黒色土 木炭層 粘性なし しまりに欠ける
- 3 暗灰色土 粘質 暗灰色粘土・木質・木炭の混土 しまりに欠ける
- 4 暗青灰色土 粘質 灰色粘土・灰の混土 しまりに欠ける

第 296・322 号土壙

- 1 暗灰色土 砂質 焼土少量 粘性弱 しまりあり (SK296)
- 2 灰色土 砂質 焼土少量 粘性弱 しまりあり (SK296)
- 3 灰色土 シルト質 鉄分少量 粘性・しまりややあり (SK296)

- 4 灰色土 シルト質 暗灰色砂質土多量 粘性・しまりややあり (SK296)
- 5 暗灰色土 シルト質 鉄分多量 粘性・しまりややあり (SK296)
- 6 暗灰色土 シルト質 鉄分少量 粘性・しまりややあり (SK296)
- 7 暗灰褐色土 シルト質 鉄分少量 粘性あり しまりややあり (SK296)
- 8 暗灰褐色土 シルト質 鉄分多量 粘性・しまりややあり (SK322)

第 298 号土壙

- 1 暗灰色土 礫・陶磁器の混土 しまり強

第 690 土壙 A-A'

- 1 暗灰色土 粘質 鉄滓・木炭の混土 しまりに欠ける

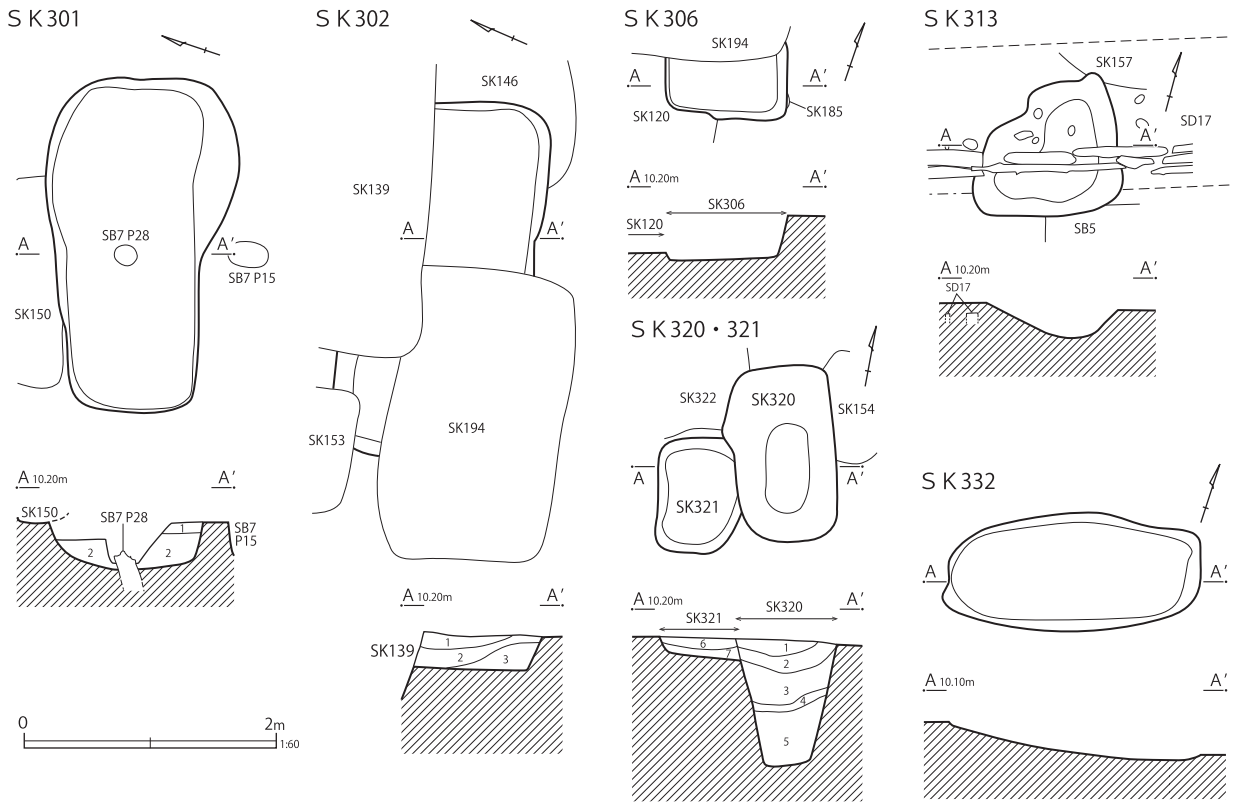
第 299・690 号土壙 B-B'

- 1 灰色土 粘質 木炭・鉄滓多量 しまりに欠ける (SK299)
- 2 暗灰色土 粘質 暗灰色粘土と砂粒と木炭の混土 しまり弱 (SK299)
- 3 暗灰色土 粘質 黄灰色砂粒と明灰色粘土の混土 しまりに欠ける (SK690)

第 303 号土壙

- 1 灰色土 粘質 灰・木炭の互層 しまりあり
- 2 黒色土 粘質 鉄滓・木炭の混土 しまり弱

第 346 図 第 4 区画の土壙 (4)



第 301 号土壌

- 1 灰色土 シルト質 粘土と砂粒の混土 しまり強
- 2 黒色土 粘質 瓦・木炭・陶磁器の混土 しまり弱

第 302 号土壌

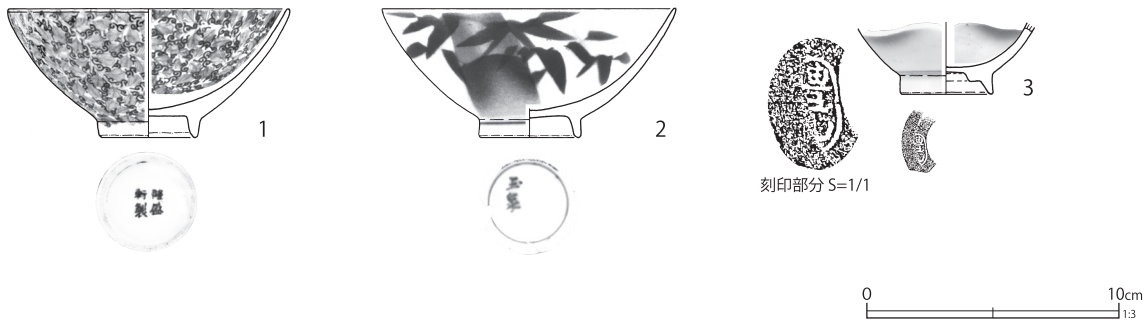
- 1 明灰色土 シルト質 明灰色粘土・砂粒・炭化物の混土 しまり良好
- 2 暗灰色土 砂質 砂粒多量 木炭の混土 しまりに欠ける
- 3 灰色土 粘質 灰色粒子・砂粒少量 木炭・焼土の混土 しまりやや良

第 320・321 号土壌

- 1 明灰色土 シルト質 砂粒と粘土の混土 しまり良好 (SK320)
- 2 暗灰色土 粘質 暗灰色粘土ブロック多量 木炭少量 しまりやや良 (SK320)
- 3 黒褐色土 シルト質 木炭・鉄滓・陶磁器多量 しまりに欠ける (SK320)
- 4 明灰褐色土 粘質 明灰色粘土帯状堆積 しまりやや良 (SK320)
- 5 黒色土 粘質 木炭・木質繊維層 しまりに欠ける (SK320)
- 6 灰褐色土 粘質 灰色粘土ブロック多量 しまり良好 (SK321)
- 7 黒色土 シルト質 木炭・鉄滓多量 しまりに欠ける (SK321)

第 347 図 第 4 区画の土壌 (5)

SK 135~137



第 348 図 第 4 区画の土壌出土遺物 (1)

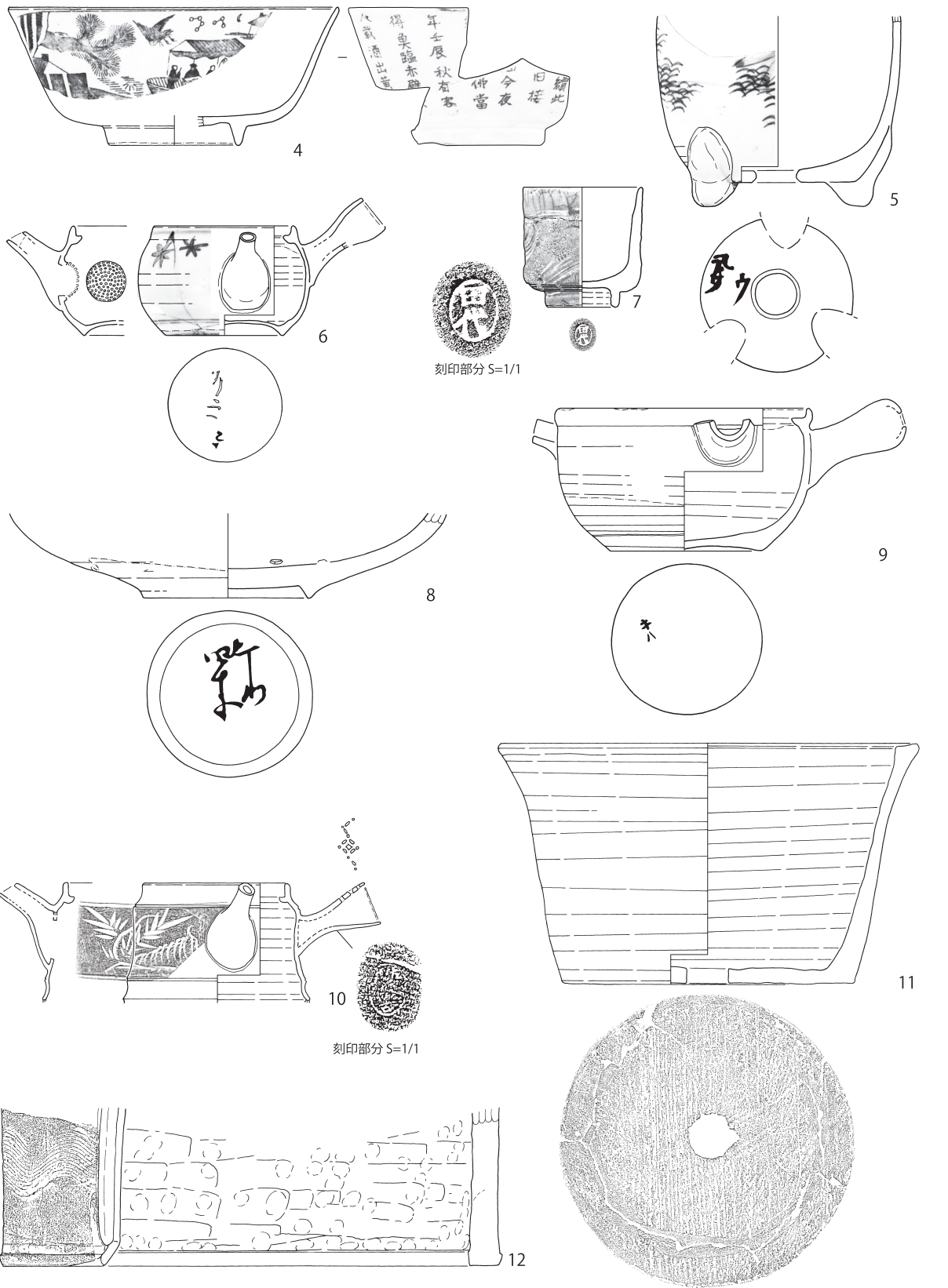
る。5は鞆の中に櫛の一部が残る。

なお、本跡では鍛冶関連遺物の出土は少なく、鞆の羽口は8片に留まる。

第142号土壌は区画中央やや東側に位置する。長軸2.3mの隅丸長方形を呈する土壌である。第

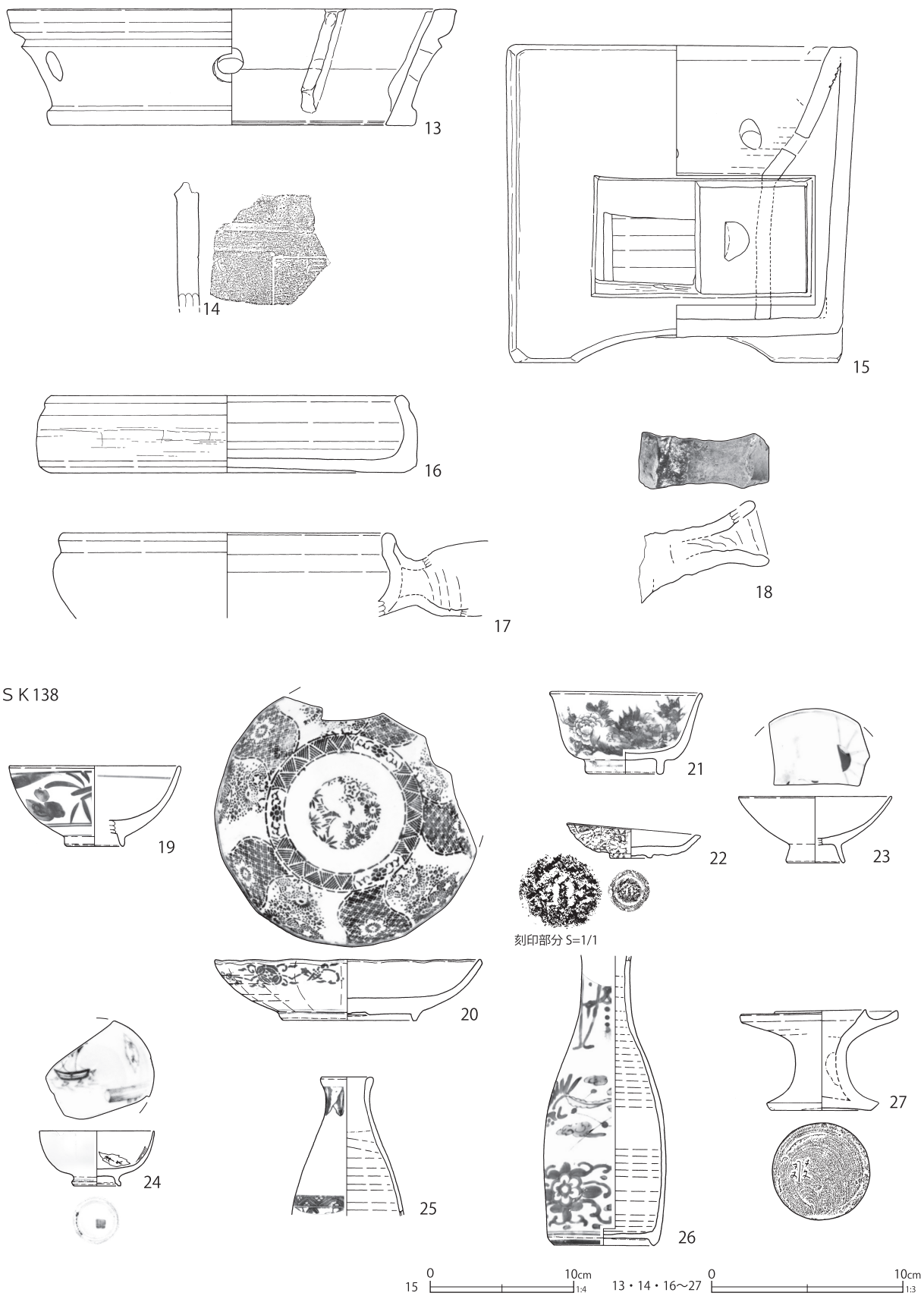
355・356図69~91に出土した陶磁器を示す。

72は瀬戸美濃系磁器の坏で、染付は施されない。底部に「五平」の刻印がある。74は瀬戸美濃系磁器の坏で、内面に青・金の上絵付けで「島中領/豊作/いなりや」銘がみられる。80は外

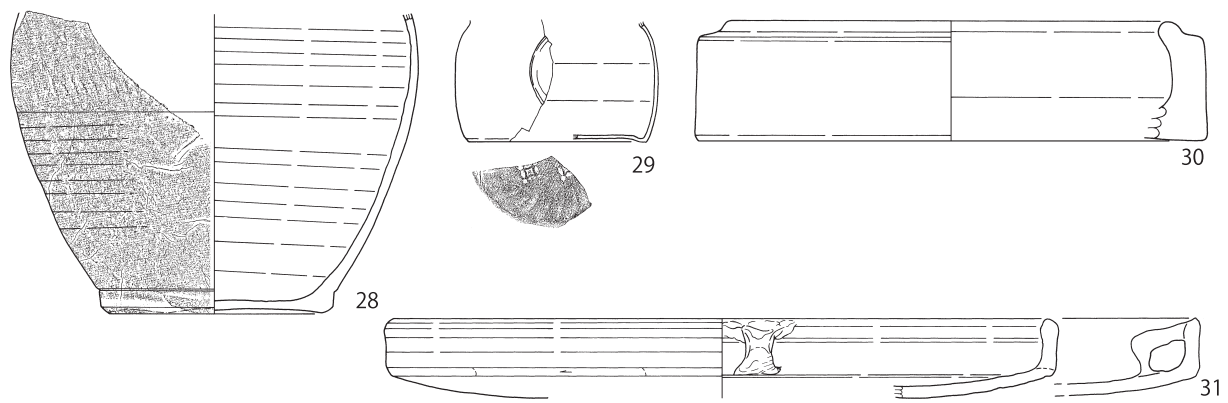


第 349 図 第 4 区画の土壇出土遺物 (2)

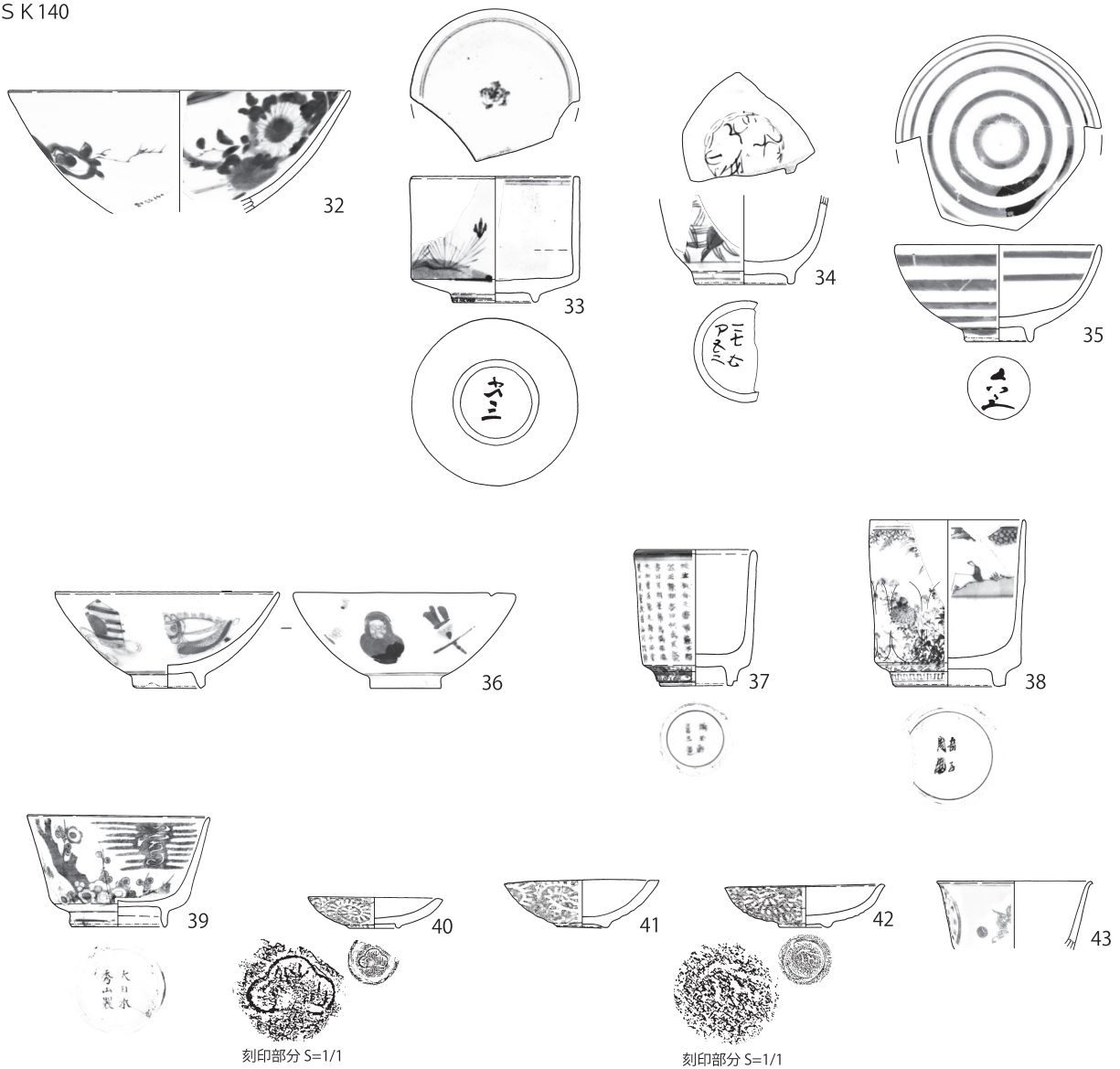




第 350 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (3)



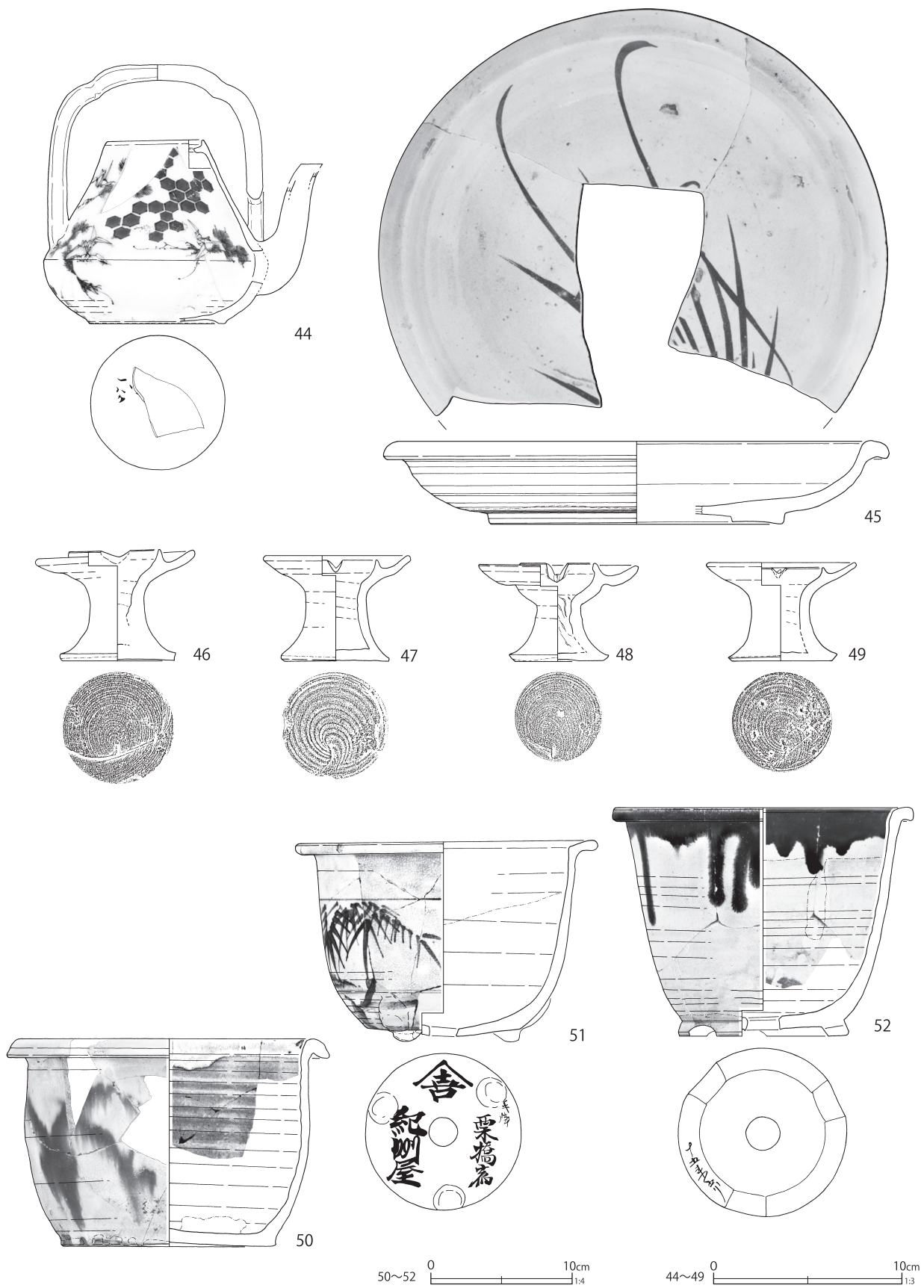
S K 140



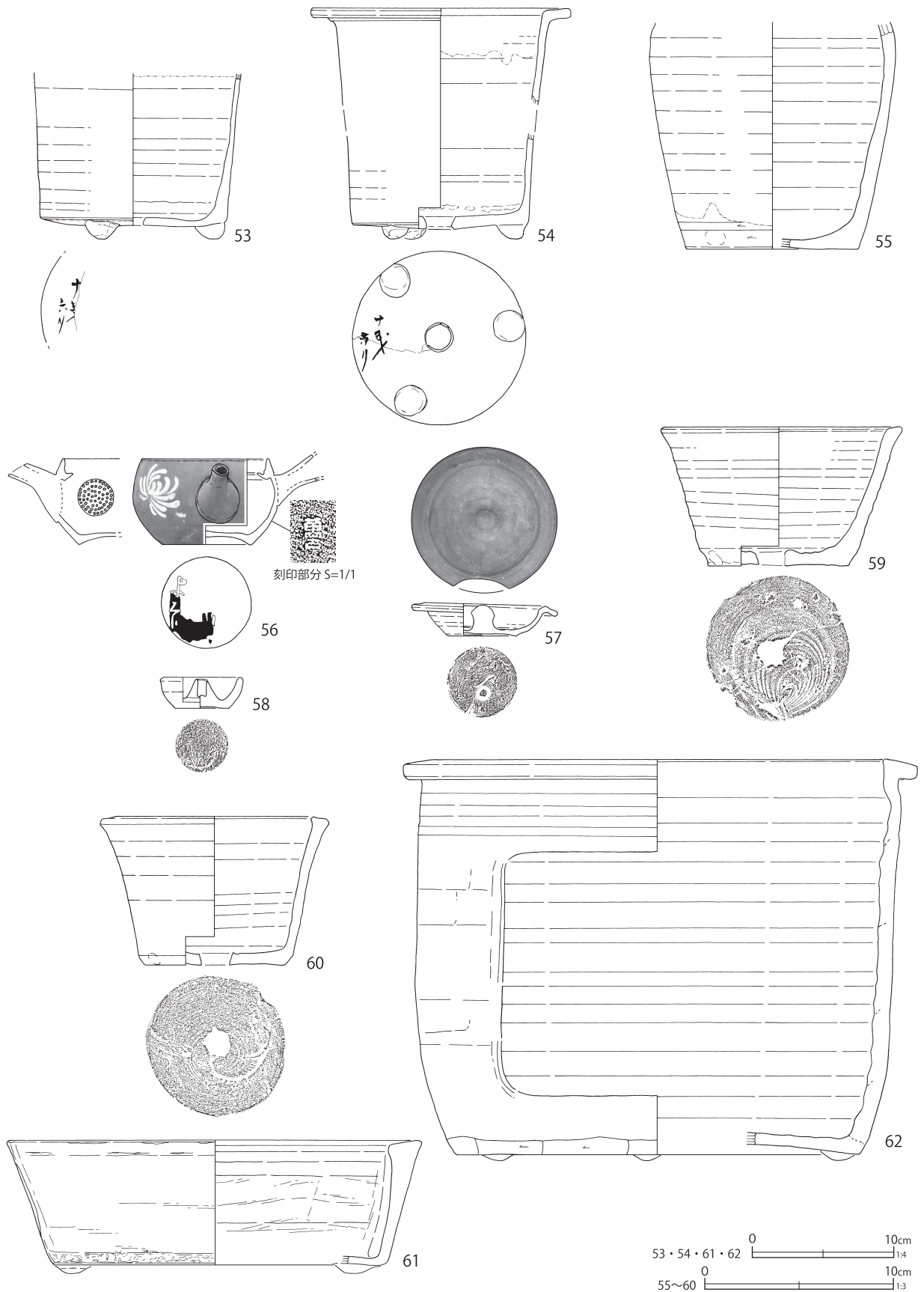
0 10cm  
31 1:4

0 10cm  
28~30・32~43 1:3

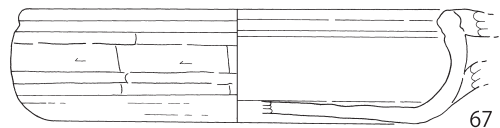
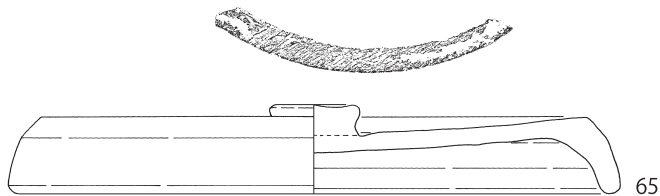
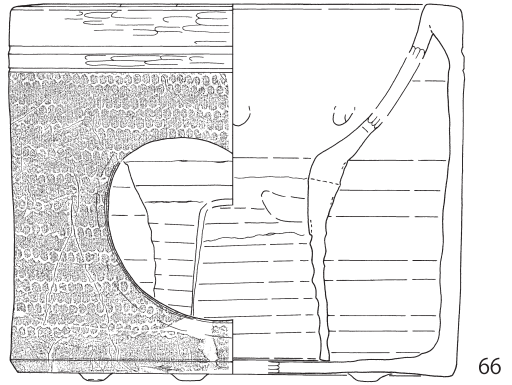
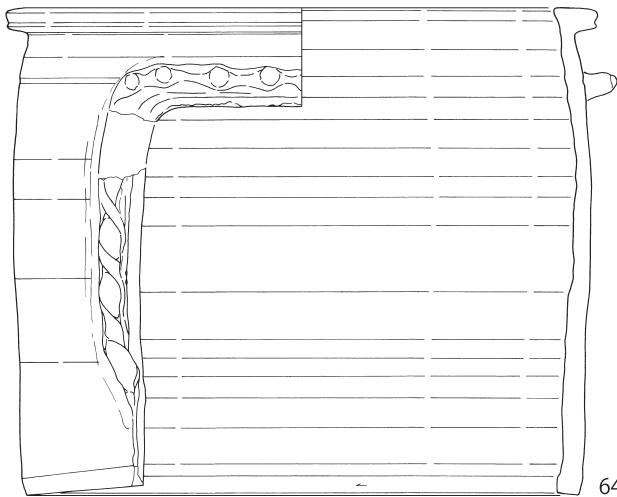
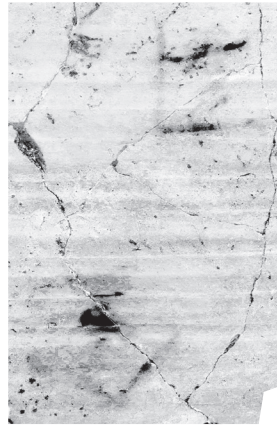
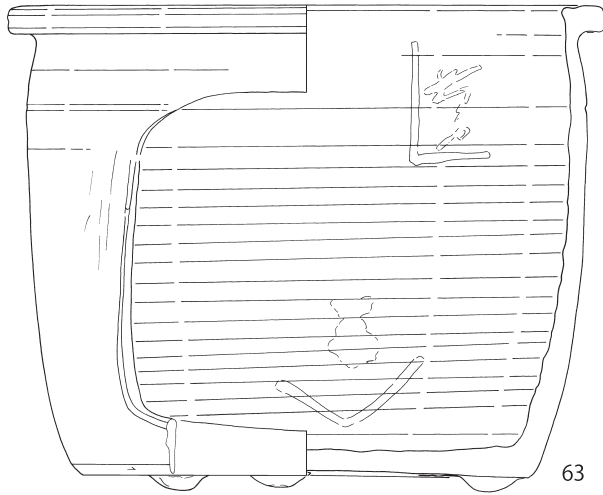
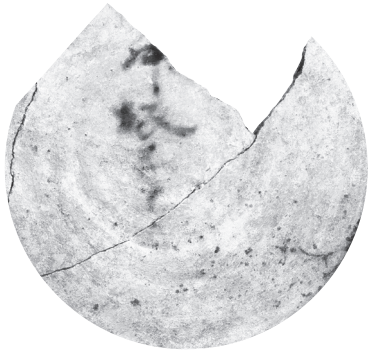
第 351 図 第 4 区画の土壌出土遺物 (4)



第 352 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (5)



第 353 図 第 4 区画の土壙出土遺物（6）



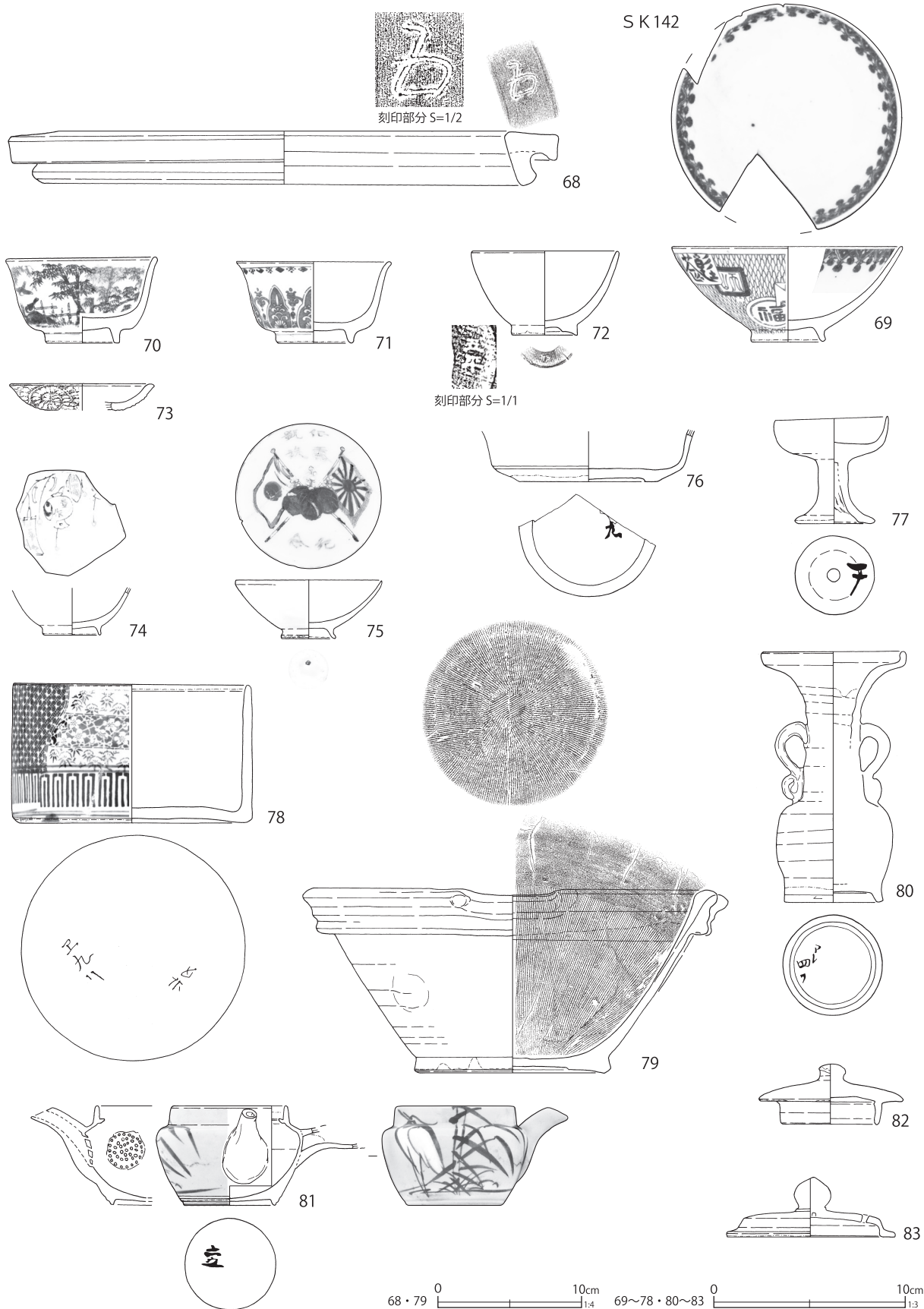
63・64・66

0 10cm  
1:4

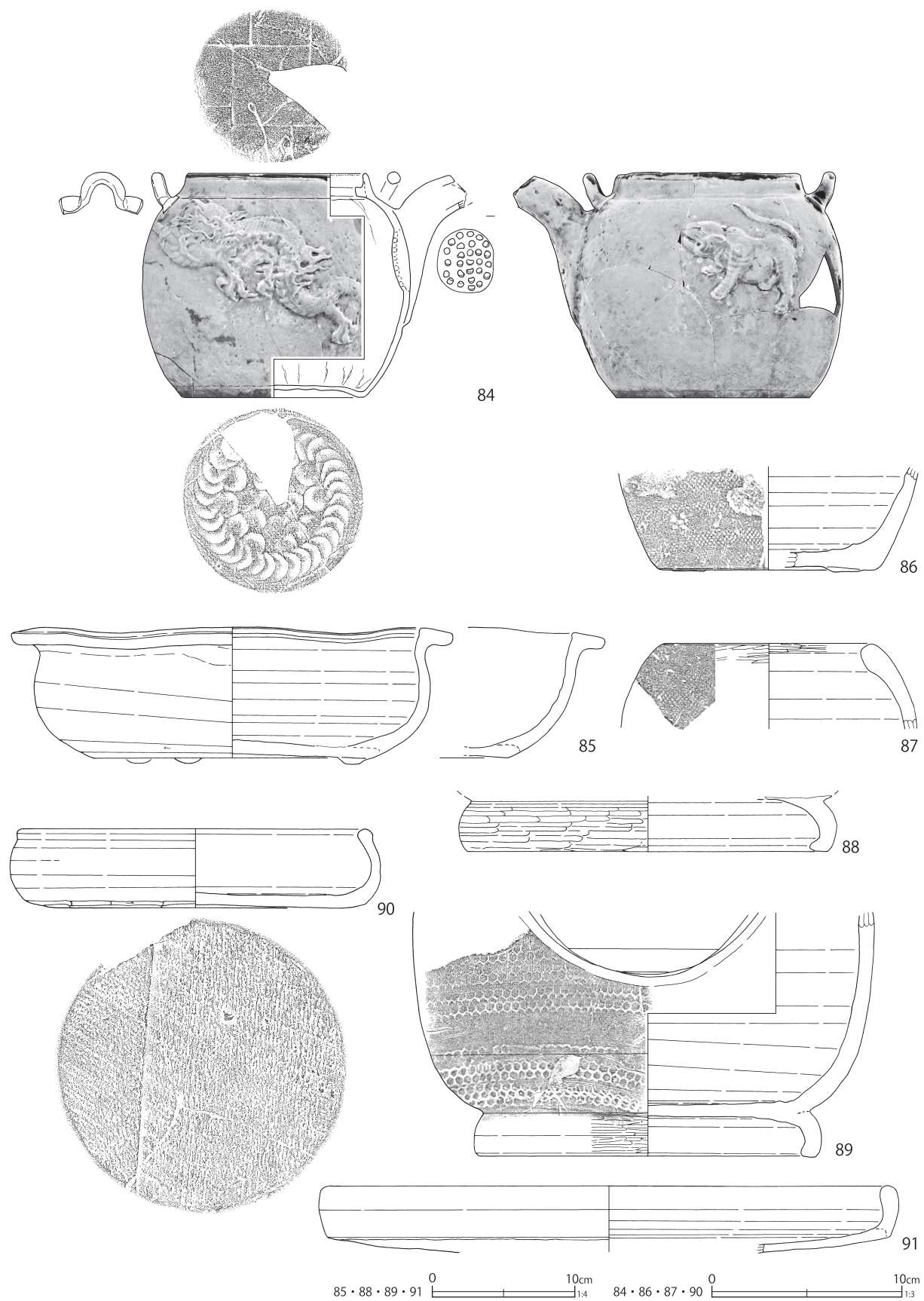
65・67

0 10cm  
1:3

第 354 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (7)

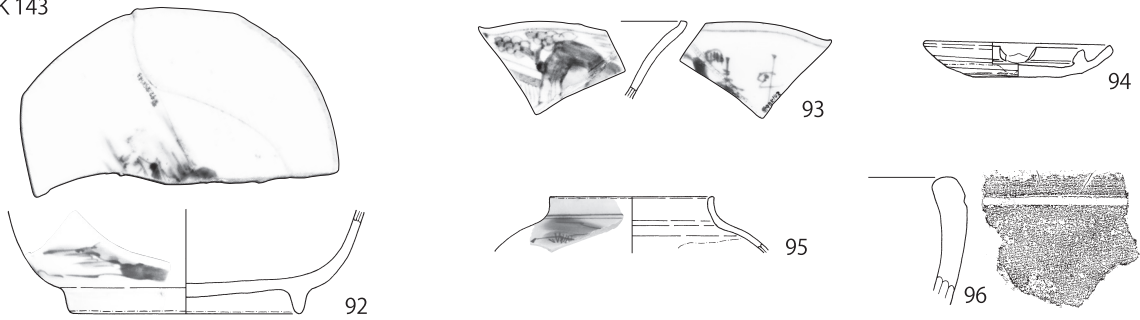


第355図 第4区画の土壌出土遺物(8)



第 356 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (9)

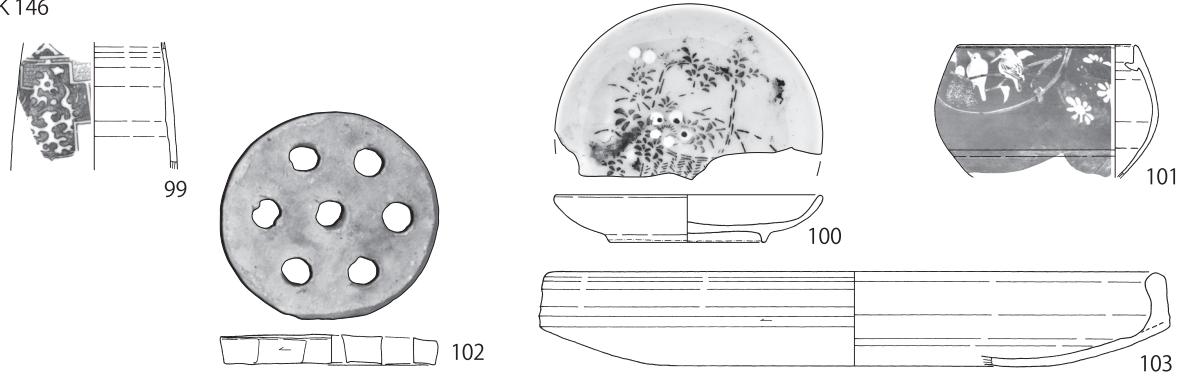
SK143



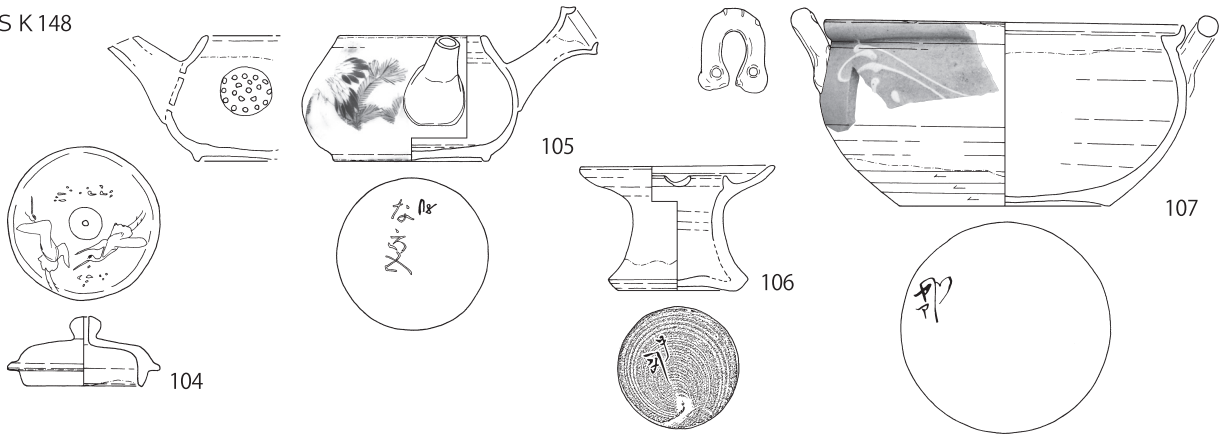
SK144



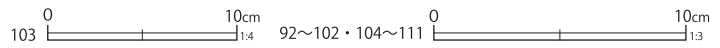
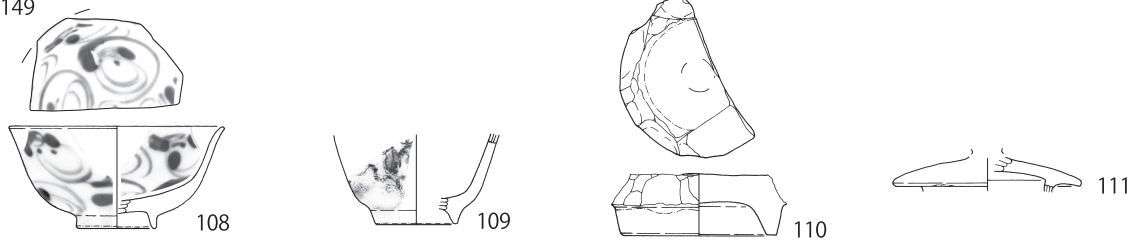
SK146



SK148

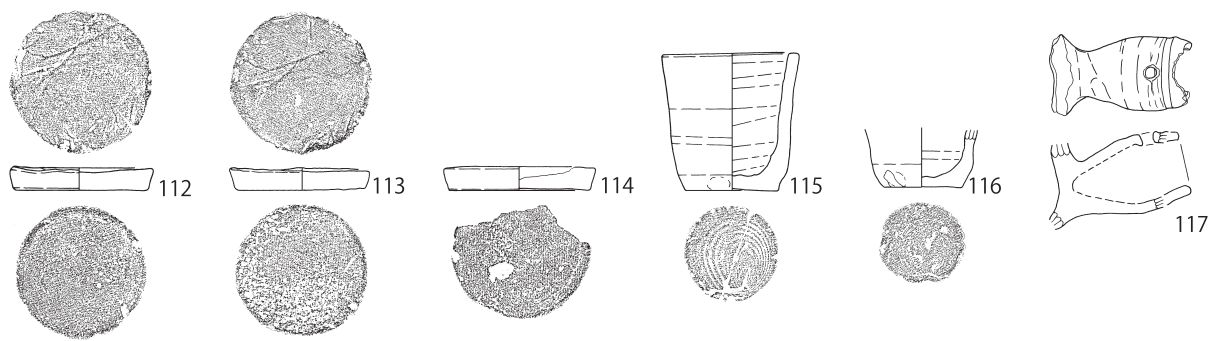


SK149

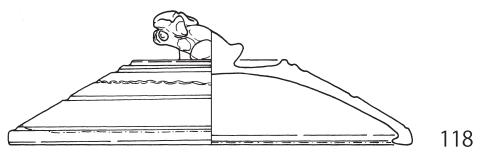


第357図 第4区画の土壌出土遺物(10)



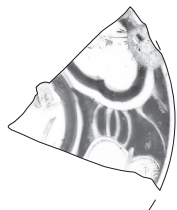


SK 156

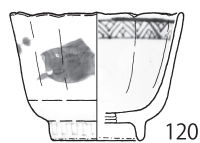


118

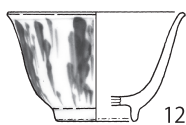
SK 160



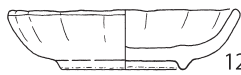
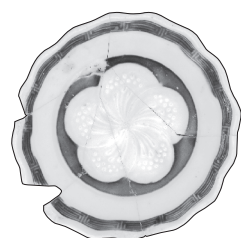
SK 170



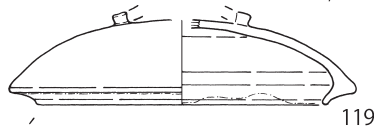
120



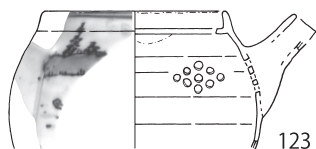
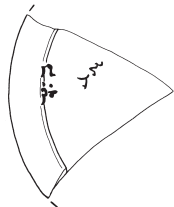
121



122



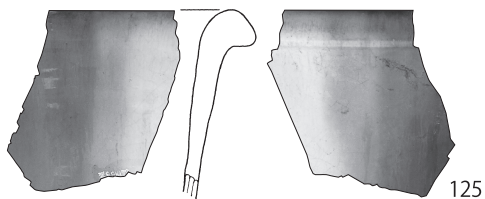
119



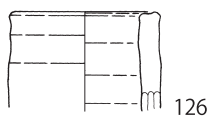
123



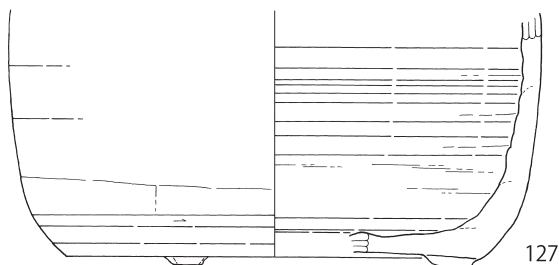
124



125



126



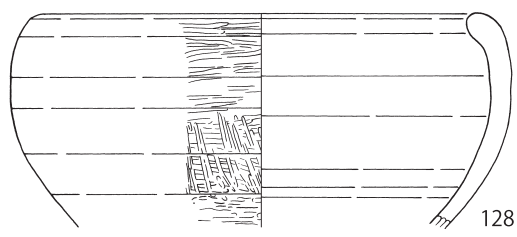
127

0 10cm 1:4

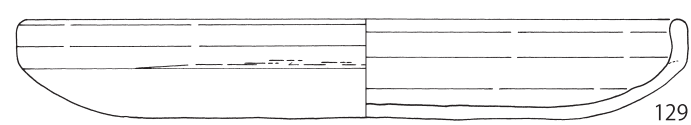
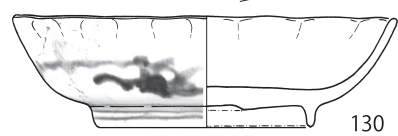
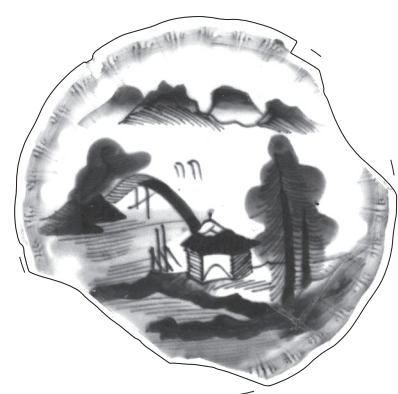
0 10cm 1:3

第 358 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (11)

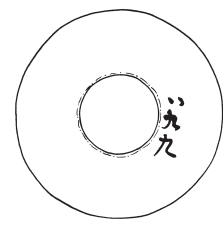
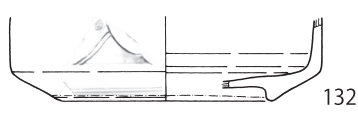
S K171



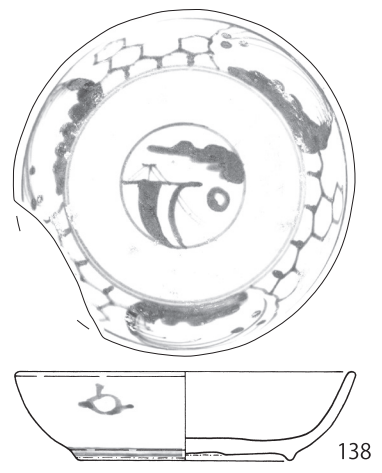
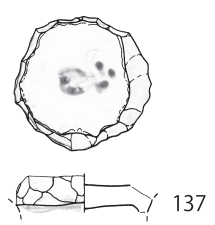
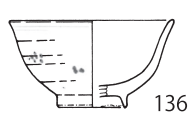
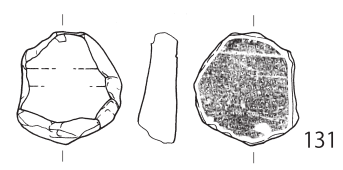
S K172



S K198



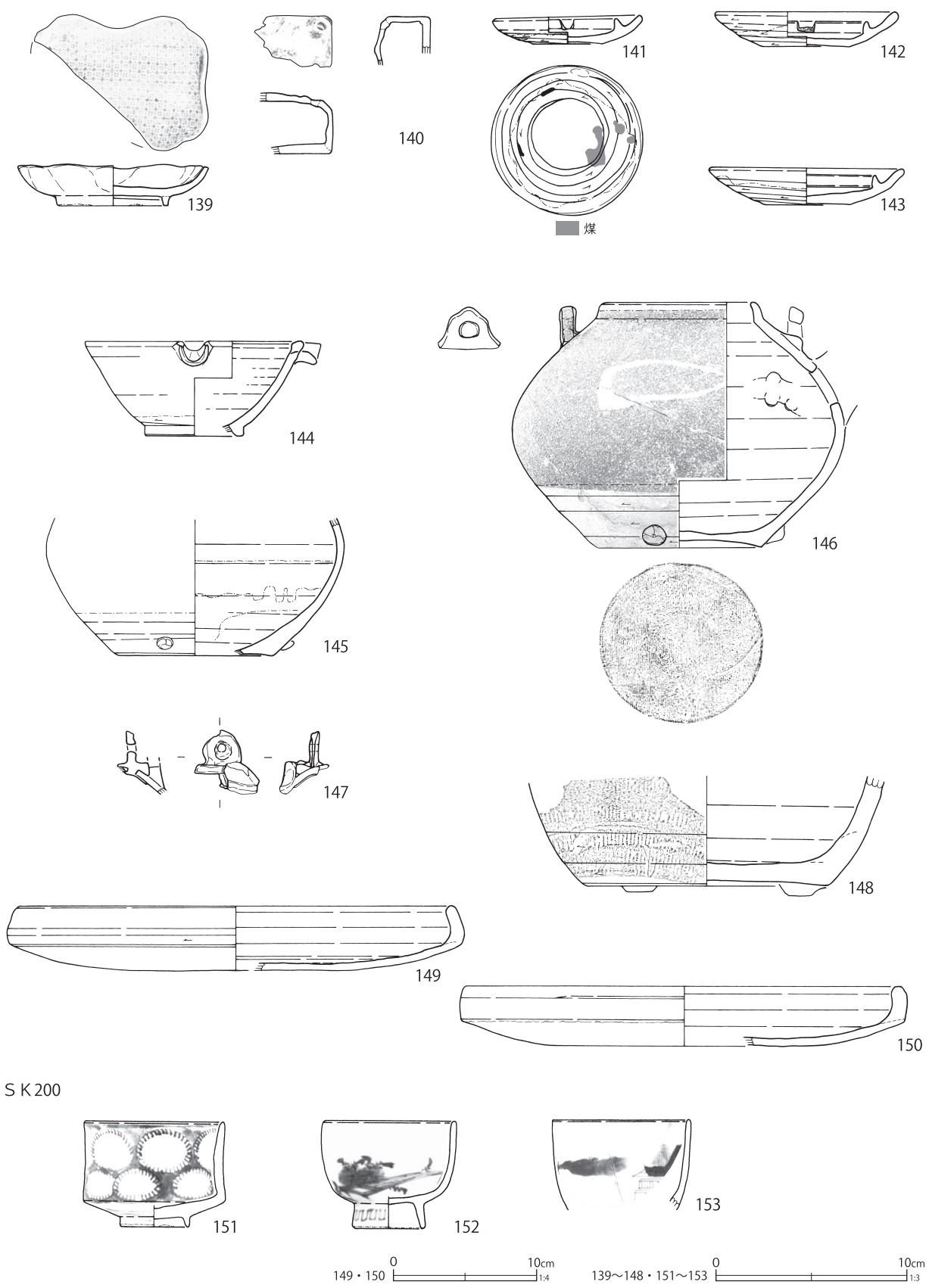
S K199



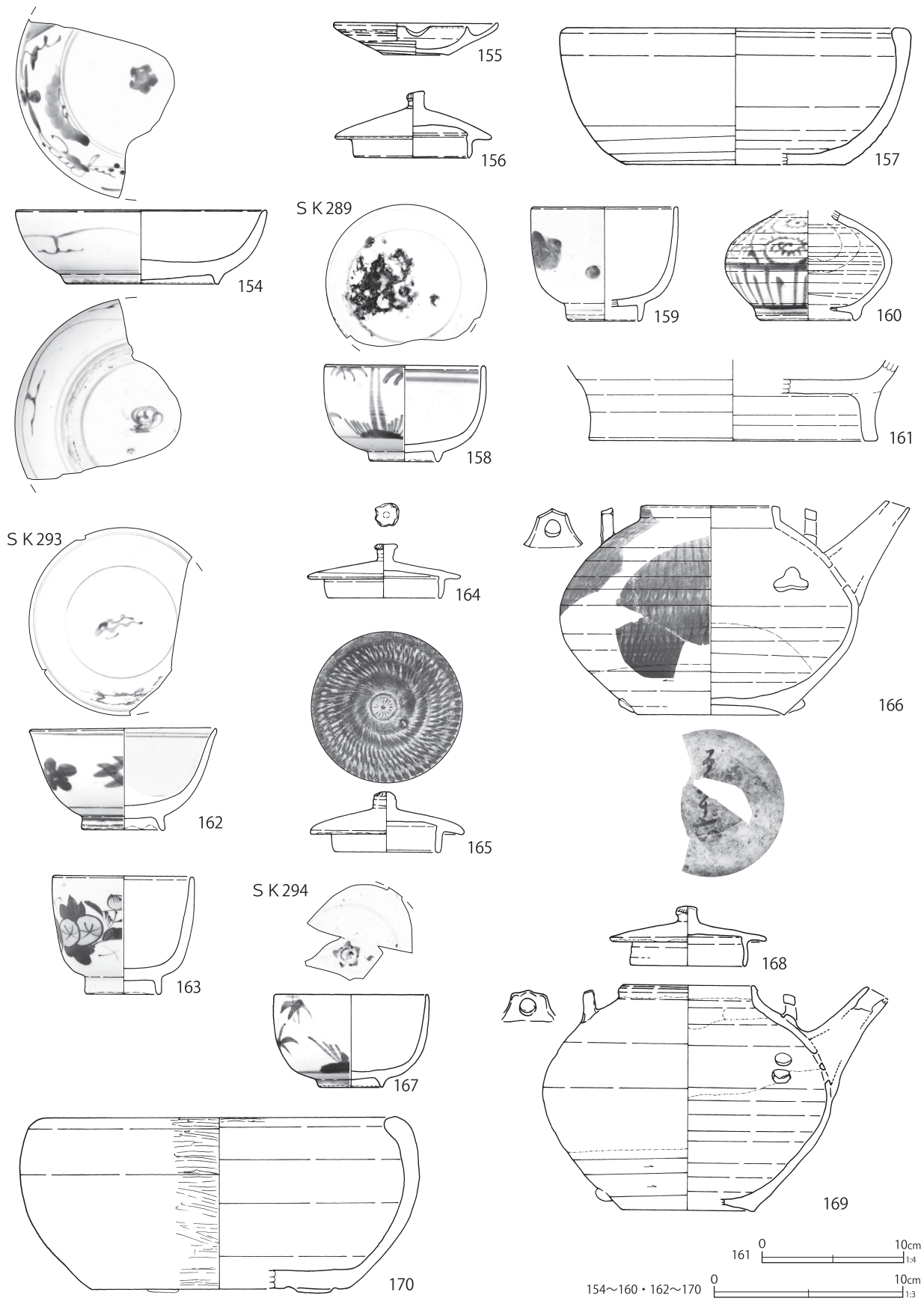
0 10cm  
129 1/4

0 10cm  
128・130~138 1/3

第 359 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (12)

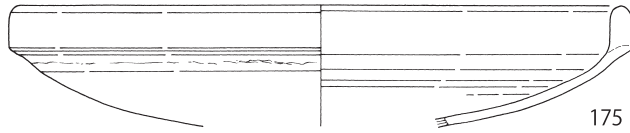
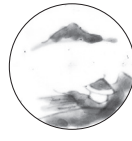
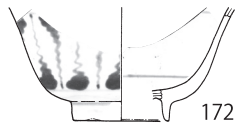
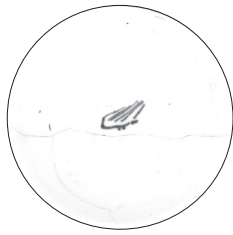


第 360 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (13)

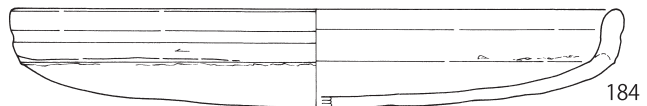
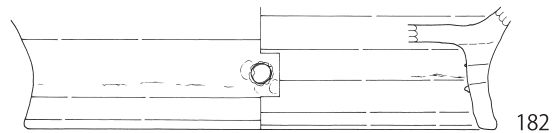
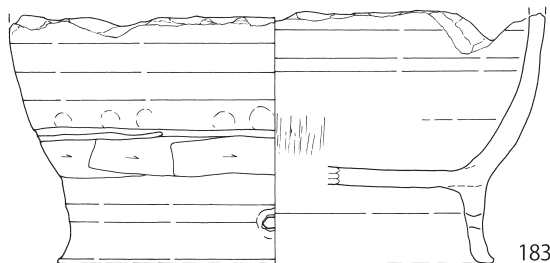
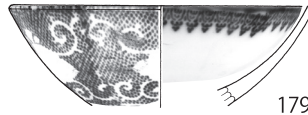
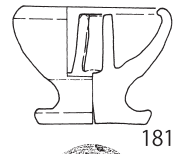
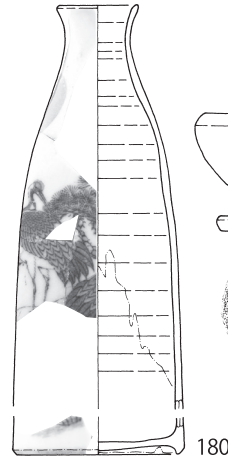
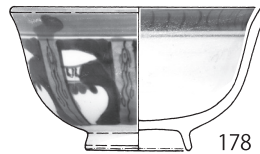
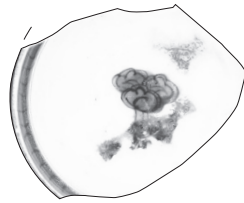
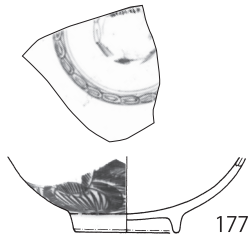
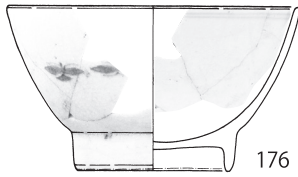
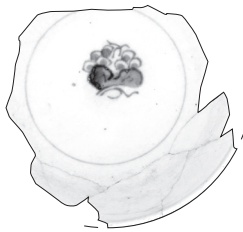


第361図 第4区画の土壌出土遺物(14)

S K296



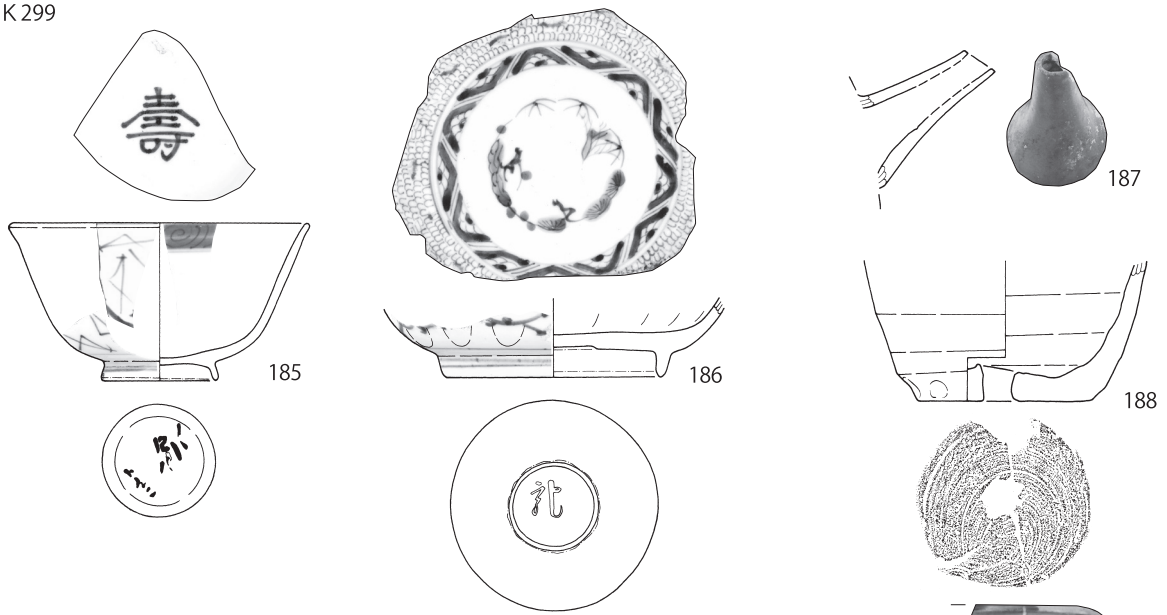
S K298



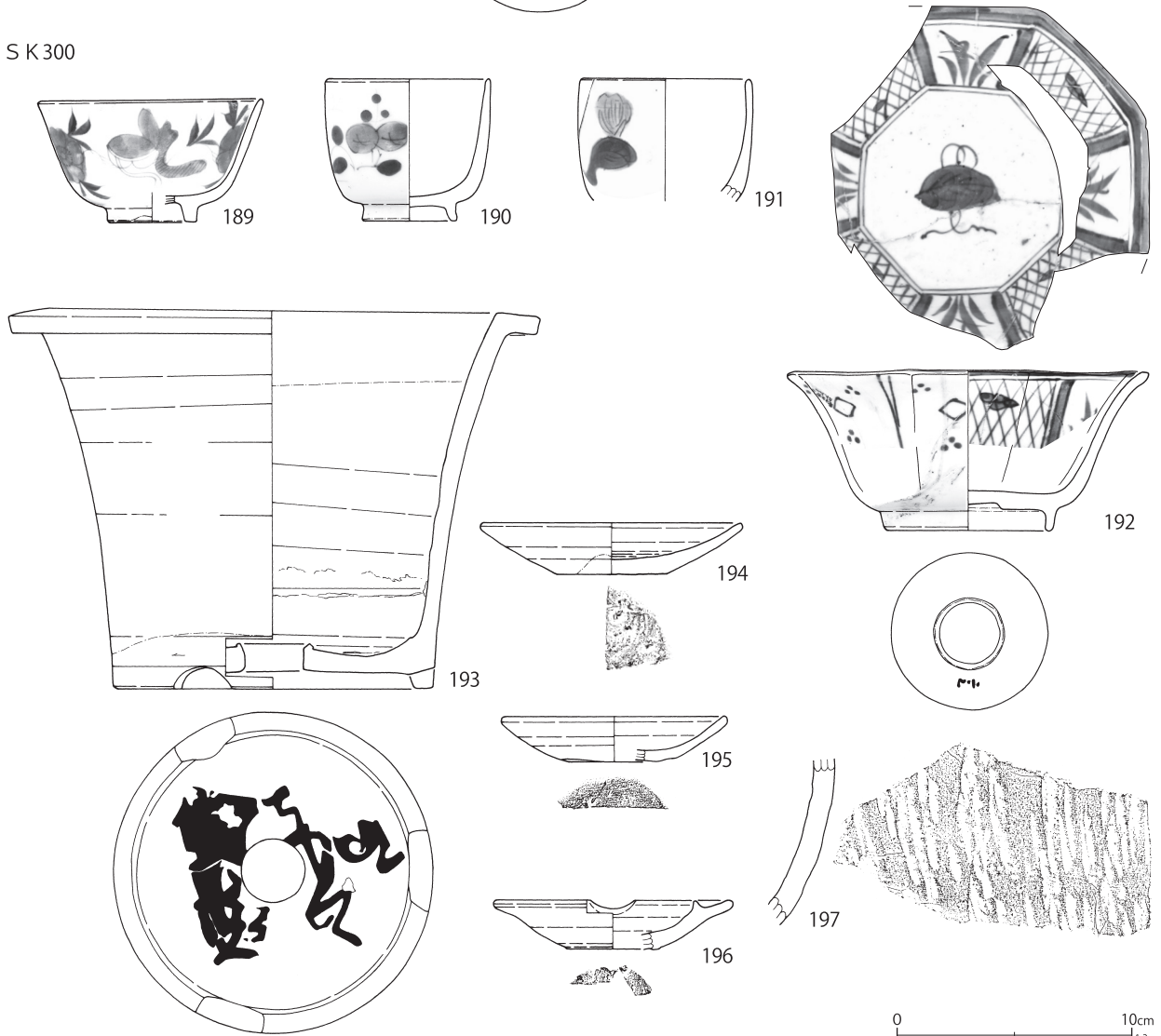
175・182~184 0 10cm 1/4 171~174・176~181 0 10cm 1/3

第 362 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (15)

S K 299

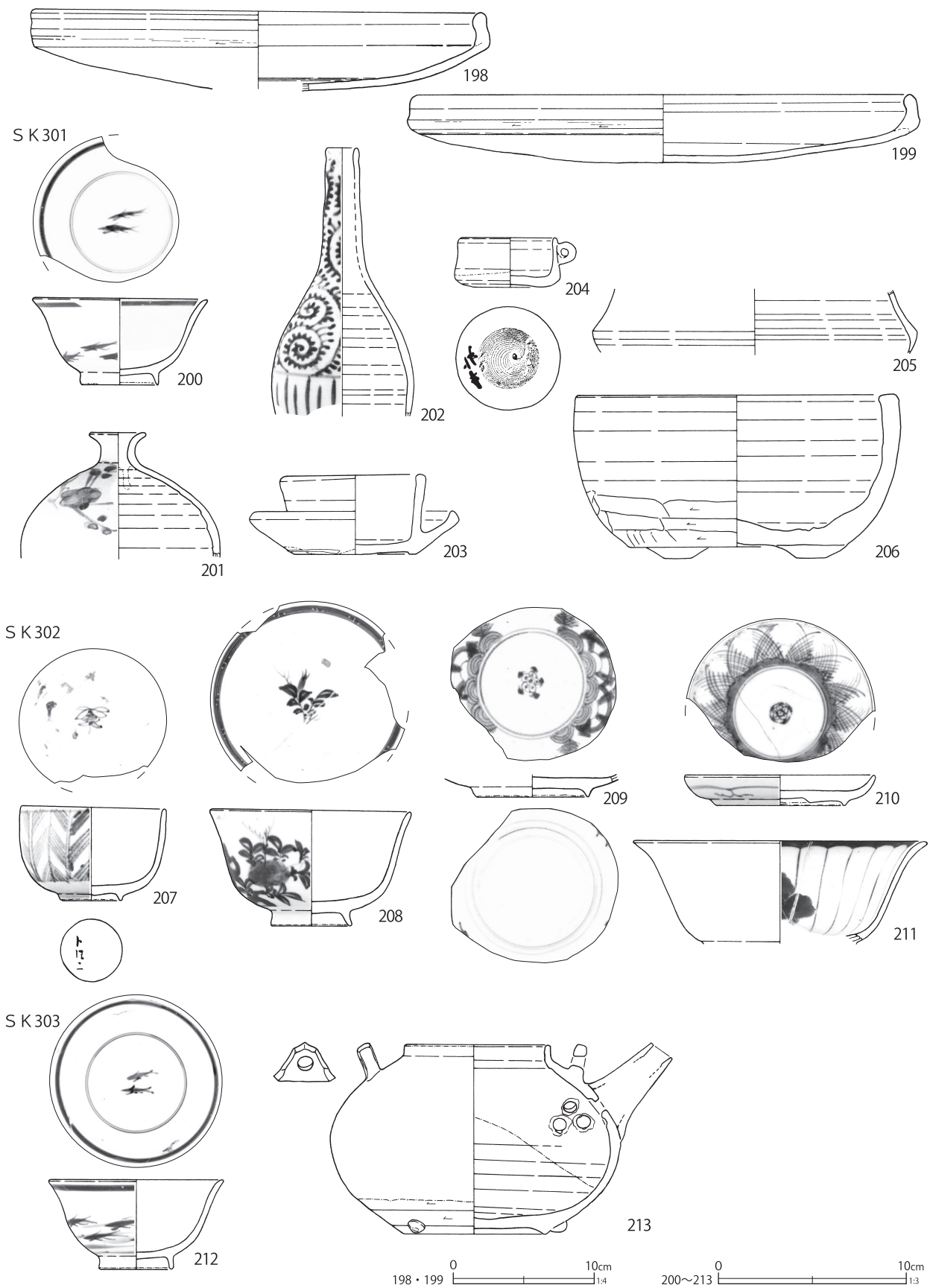


S K 300



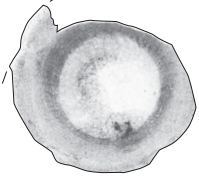
0 10cm 1:3

第 363 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (16)

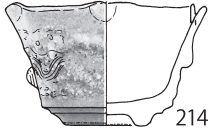
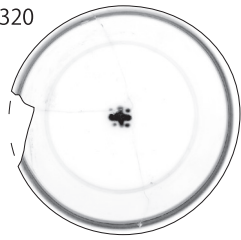


第 364 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (17)

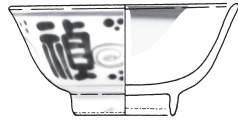
S K 313



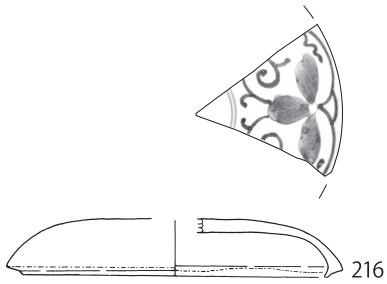
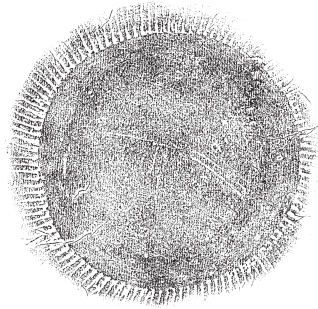
S K 320



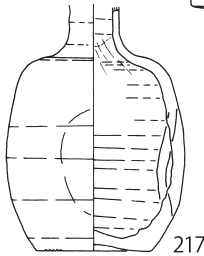
214



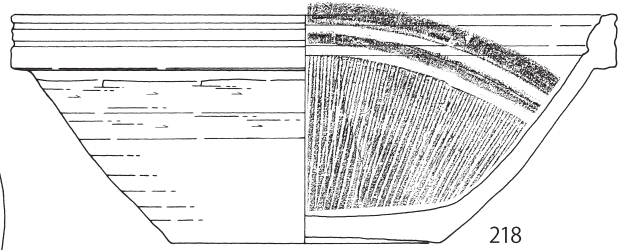
215



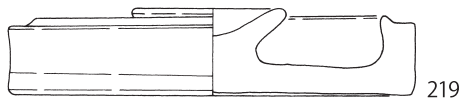
216



217

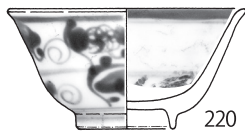
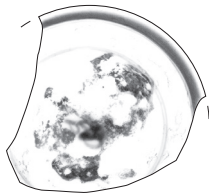


218

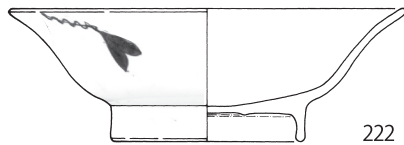
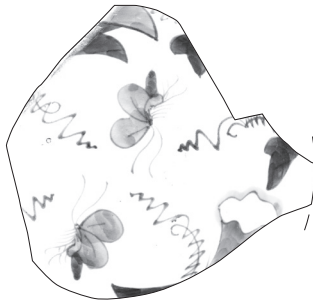


219

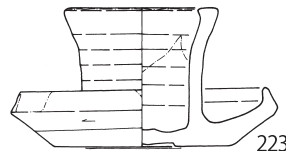
S K 322



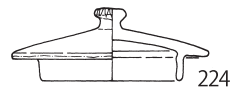
220



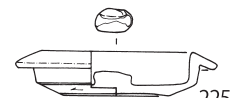
222



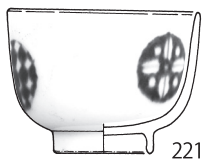
223



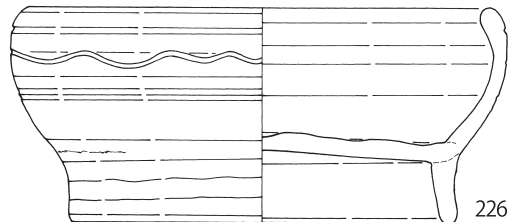
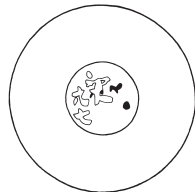
224



225



221



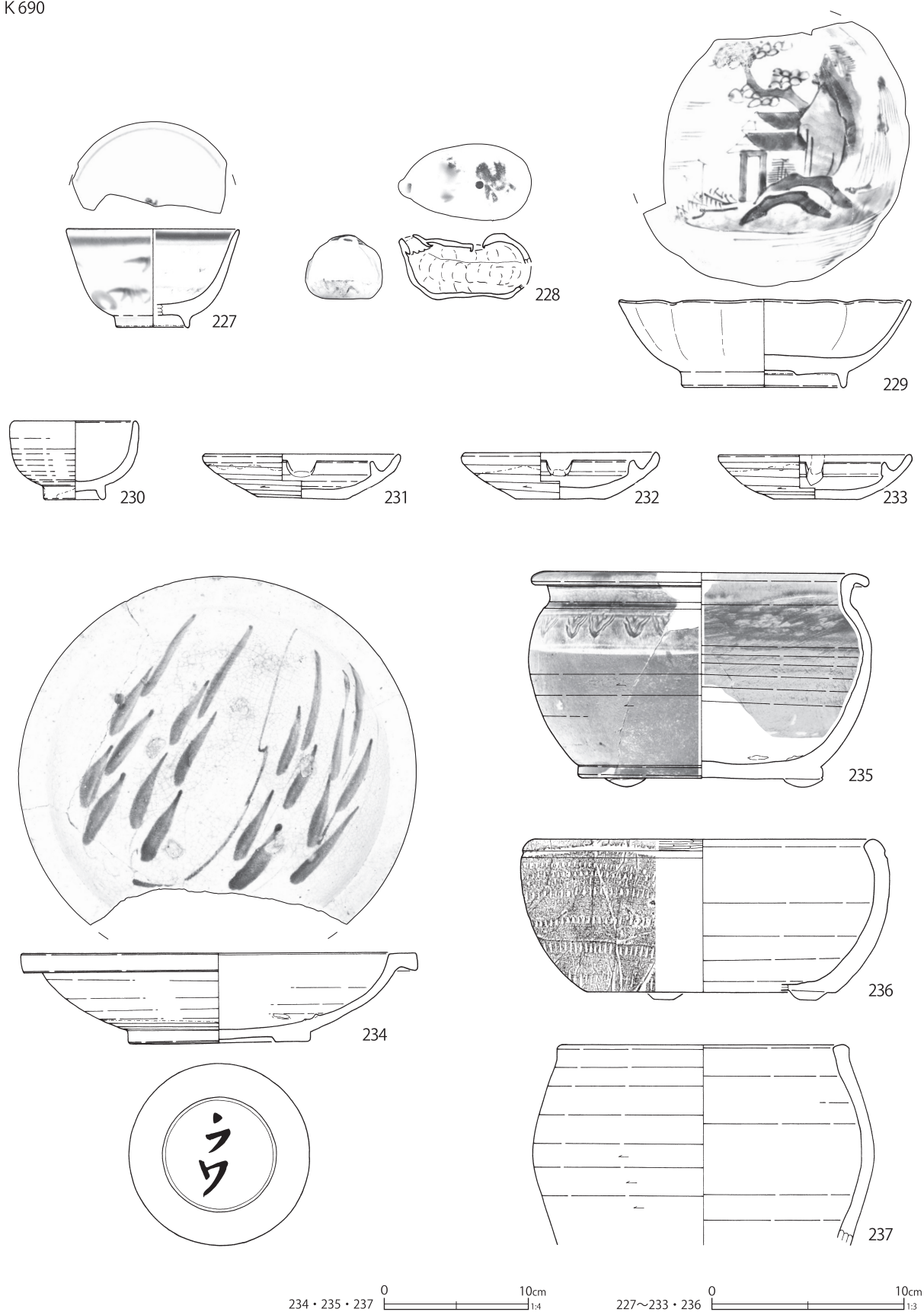
226

0 10cm 1:4

0 10cm 1:3

第 365 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (18)





第 366 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (19)

第175表 第4区画の土壌出土遺物観察表(1)(第348～366図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(11.0)	5.0	3.7	-	55	良好	白	SK135・136・137	瀬戸美濃系 内外面施釉 銅版転写染付	
2	磁器	碗	(11.5)	5.0	3.8	-	50	良好	白	SK135・136・137	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面吹絵(黒)・酸化コバルト染付	
3	磁器	坏	-	[2.7]	(3.5)	-	20	良好	白	SK135・136・137	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁釉・酸化コバルト染付 高台内刻印	128-6
4	磁器	鉢	(16.4)	6.9	(6.4)	-	25	良好	白	SK135・136・137	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付	
5	磁器	植木鉢	-	[9.5]	7.7	-	35	良好	灰白	SK135・136・137	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 底部穿孔・墨書	128-7
6	磁器	急須	6.9	6.9	5.9	-	80	良好	白	SK135・136・137	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 底部墨書・焼き継ぎ印(赤)	128-8
7	陶器	坏	5.9	5.9	3.4	K	95	良好	灰白	SK135・136・137	大堀相馬系 内面～外面上位灰釉(青ヒビ)・外面下位施文 底部刻印「田代」	129-1
8	陶器	鉢	-	[4.2]	8.4	HIK	35	良好	灰白	SK135・136・137	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡5 底部墨書 被熱 少量煤付着	129-2
9	陶器	行平	12.4	7.6	7.6	AIK	100	良好	にぶい橙	SK135・136・137	内外面鉄釉 外面下位重ね焼き痕 底部墨書「キハ」	129-3
10	陶器	急須	6.9	[6.0]	-	I	70	良好	褐灰	SK135・136・137	萬古系 外面施文 刻印「佐/□/□古」	
11	瓦質土器	植木鉢	28.0	16.2	19.5	CHIK	90	普通	明褐灰	SK135・136・137	底部板目状の圧痕・穿孔 燻す	
12	瓦質土器	竈	-	[10.6]	(33.4)	ACDF GHIK	5	普通	にぶい赤褐	SK135・136・137	外面櫛描波状文 内面煤付着 窓幅は任意値で復元 やや酸化炎焼成 弱く燻す	
13	土師質土器	器台	(23.4)	6.0	(19.0)	AI	10	普通	橙	SK135・136・137	三河産か 上面煤付着	
14	土師質土器	焜炉	-	[6.3]	-	ADEHIK	5	普通	にぶい橙	SK135・136・137	三河産 刻印「三[ / 製造[ / 齊藤[ ]」	
15	土師質土器	焜炉	23.6	22.1	22.6	ADEHIK	80	良好	にぶい赤褐	SK135・136・137	三河産 外面ミガキ 中筒部内面上位白化 上面煤付着	129-4
16	土師質土器	把手付鍋	(18.3)	4.0	(18.4)	CDFHIK	40	普通	にぶい橙	SK135・136・137	砂目底を一方向工具ナデ 外面煤多量に付着	
17	土師質土器	把手付鍋	(17.2)	[4.3]	-	CFHIK	15	普通	にぶい褐	SK135・136・137		
18	土師質土器	把手付鍋	-	[4.9]	-	CHIK	5	普通	にぶい橙	SK135・136・137		
19	磁器	碗	8.8	4.1	2.9	-	45	良好	白	SK138	瀬戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・青・黄・緑)	
20	磁器	皿	13.7	3.1	6.9	-	80	良好	灰白	SK138	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙摺絵染付 蛇の目状高台	
21	磁器	碗	7.7	4.2	3.7	-	100	良好	白	SK138	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付(青・茶)	
22	磁器	紅皿	7.0	1.7	1.9	-	60	良好	白	SK138	瀬戸美濃系 型成形 内面～口縁部施釉 外面型押施文 歪み大きい	129-5
23	磁器	坏	(7.9)	3.4	(2.9)	-	40	良好	白	SK138	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(赤・金)	
24	磁器	坏	(5.9)	2.8	2.3	-	55	良好	白	SK138	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(青) 外面酸化コバルト染付 (卵殻手酒杯)	
25	磁器	爛德利	2.5	[7.2]	-	-	20	良好	白	SK138	瀬戸美濃系 内面上位～外面施釉 外面銅版転写染付 同文別個体1以上あり	
26	磁器	爛德利	-	[15.0]	(5.2)	-	55	良好	白	SK138	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 僅かに煤付着	
27	陶器	灯火具	4.6	5.2	5.2	IK	90	良好	にぶい黄橙	SK138	底部糸切痕(右)・窯道具痕 内外面灰釉 底部墨書	129-6
28	陶器	德利	-	[11.8]	8.4	IK	25	良好	灰	SK138	外面灰釉、上位トビガンナ状施文	129-7
29	陶器	急須	-	[4.7]	(7.0)	I	20	良好	褐灰	SK138	萬古系 型成形 底部刻印	
30	土師質土器	瓦橙	(17.0)	4.7	(20.0)	AEHIK	5	普通	にぶい橙・灰	SK138	江戸在地系か 砂目底	
31	土師質土器	焙烙	(34.6)	[4.1]	(34.8)	CEHI	15	普通	灰白	SK138	砂目底(粗い) 底部に煤付着	
32	磁器	碗	(14.6)	[5.2]	-	-	15	良好	白	SK140	肥前系 内外面施釉・染付(うがい茶碗)	129-8
33	磁器	碗	(7.2)	5.4	3.5	-	55	良好	白	SK140	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)(筒形碗)	130-2
34	磁器	碗	-	[3.8]	4.0	-	20	良好	白	SK140	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 弱く被熱(湯呑形碗)	130-1

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
35	磁器	碗	(8.7)	4.2	2.7	-	60	良好	白	SK140	瀬戸美濃系 内外面施釉・赤絵 焼き継ぎ印(赤)	130-3
36	磁器	碗	9.5	4.1	2.6	-	95	良好	白	SK140	瀬戸美濃系 内外面施釉 色絵(赤・黄・黒・青・緑) (子ども茶碗)	
37	磁器	坏	5.0	5.9	3.0	-	95	良好	白	SK140	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
38	磁器	坏	(6.6)	7.2	4.3	-	55	良好	白	SK140	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
39	磁器	坏	7.7	4.8	3.9	-	100	良好	白	SK140	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付	
40	磁器	紅皿	5.8	1.3	2.0	-	55	良好	白	SK140	瀬戸美濃系 型成形 内面施釉 外面型押施文 高台内刻印	130-4
41	磁器	紅皿	6.6	2.1	2.2	-	100	良好	白	SK140	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 外面型押施文	130-6
42	磁器	紅皿	6.9	1.8	2.0	-	95	良好	白	SK140	瀬戸美濃系 型成形 内面～外面上位施釉 外面型押施文 高台内刻印か	130-7
43	磁器	坏	(6.5)	[2.9]	-	-	15	良好	白	SK140	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付	
44	磁器	水注	5.1	14.1	7.3	-	85	良好	白	SK140	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 底部墨書	130-5
45	陶器	皿	24.4	4.4	15.5	HIK	70	良好	浅黄	SK140	内外面灰釉 内面鉄絵	
46	陶器	灯火具	4.8	5.8	5.9	IK	95	良好	にぶい橙	SK140	底部糸切痕(右) 内外面灰釉	130-8
47	陶器	灯火具	7.5	5.5	5.7	IK	95	良好	明褐灰	SK140	底部糸切痕(右) 内外面灰釉	130-9
48	陶器	灯火具	3.9	5.1	4.6	IK	95	良好	にぶい黄橙	SK140	底部糸切痕(右) 内外面灰釉	130-10
49	陶器	灯火具	7.6	5.1	5.2	I	100	良好	橙	SK140	底部糸切痕(右) 内外面灰釉	131-1
50	陶器	甕	(20.6)	14.7	14.8	IK	70	良好	灰白	SK140	内外面施釉 外面糠白釉・緑釉流掛 内面目跡4	131-3
51	陶器	植木鉢	20.9	14.1	10.9	I	75	良好	灰白	SK140	瀬戸美濃系か 内面上位～外面施釉・呉須絵 底部墨書「□□/栗橋宿/舎/紀州屋」	131-2
52	陶器	植木鉢	(20.7)	16.1	11.8	IK	55	良好	灰白	SK140	外面灰釉 口縁部鉄釉掛け分け 底部焼成前穿孔・墨書	131-4
53	陶器	植木鉢	-	[11.7]	12.9	IK	40	良好	灰白	SK140	瀬戸美濃系 内面上位～外面灰釉 底部焼成前穿孔・墨書	131-5
54	陶器	植木鉢	18.0	(16.2)	12.2	K	25	良好	灰白	SK140	瀬戸美濃系 内面上位～外面灰釉 底部焼成前穿孔・墨書 弱く被熱	131-6
55	陶器	瓶類	-	[11.9]	(9.0)	I	30	良好	灰白	SK140	瀬戸美濃系 外面灰釉 弱く被熱	
56	陶器	急須	6.6	[4.7]	4.7	I	95	良好	褐灰	SK140	萬古系 口唇部施釉 外面絵付(白盛・緑・赤・黄・金) 把手下刻印「萬古」 底部布圧痕・墨痕・朱書	131-7
57	陶器	蓋	6.4	1.7	3.6	I	95	良好	にぶい褐	SK140	下面糸切痕(右) 胎土拓器質	132-1
58	施釉土器	灯火具	4.0	1.6	2.8	AHIK	95	普通	橙	SK140	江戸在地系 底部糸切痕(左) 内外面透明釉 灯芯受上端煤付着	132-2
59	瓦質土器	植木鉢	(12.4)	7.2	7.4	AI	60	普通	灰白・灰	SK140	底部糸切痕(左) 胎土粉質 燻す	
60	瓦質土器	植木鉢	(10.4)	7.8	7.4	ACHIK	55	普通	にぶい黄橙	SK140	底部糸切痕(左)・焼成前穿孔 燻す	
61	瓦質土器	角火鉢	(28.7)	9.4	(23.2)	CFHIK	20	普通	灰白	SK140	底部シワ状痕 内面下位の火箸状痕跡は少ない 一部被熱・赤変	132-5
62	瓦質土器	竈	31.7	28.3	(28.1)	CIK	35	普通	灰白・黒	SK140	底部シワ状痕 燻す 内面煤付着	132-3
63	瓦質土器	竈	30.1	25.6	23.4	CHIK	85	普通	橙	SK140	底部シワ状痕 内面側面と底面に朱書 燻す	132-4
64	瓦質土器	竈	(29.2)	25.7	29.4	CHIJK	40	普通	にぶい黄橙	SK140	燻す 底部開放 窓部幅は任意値で復元図化	
65	瓦質土器	蓋	(21.4)	3.5	(23.2)	CHIK	25	普通	にぶい褐	SK140	上面砂目 燻す (火消壺の蓋)	
66	瓦質土器	焜炉	(20.3)	19.9	23.0	CGHIK	40	普通	灰黄褐・黒	SK140	底部は砂目をナゲで消す 口縁部ミガキ 体部外面施文 燻す	
67	土師質土器	把手付鍋	(16.4)	4.5	(14.1)	CFHIK	25	普通	灰白	SK140	底部ヘラナゲ 把手欠失	
68	瓦質土器	竈鏝	31.6	3.7	33.6	CI	55	普通	褐灰	SK140	上面ヘラ書き「五」 煤付着 最大径38.4cm	132-6
69	磁器	碗	11.9	4.9	3.7	-	80	良好	白	SK142	瀬戸美濃系 内外面施釉・銅版転写染付	
70	磁器	坏	7.6	4.4	3.7	-	80	良好	白	SK142	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付 同文別個体3あり	
71	磁器	坏	8.0	4.2	3.8	-	90	良好	白	SK142	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付 同文別個体1あり	
72	磁器	坏	7.5	4.3	3.3	-	95	良好	白	SK142	瀬戸美濃系 内外面施釉 蛇の目状高台部に刻印「五平」	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
73	磁器	紅皿	(7.4)	1.3	-	-	25	良好	白	SK142	瀬戸美濃系 型成形 内面～口縁部施釉 外面型押施文	
74	磁器	坏	-	[2.4]	2.9	-	50	良好	白	SK142	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(金・青) 「島中領」「豊作」「いなりや」銘	136-1
75	磁器	坏	7.5	3.0	2.7	-	100	良好	白	SK142	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面コバルト染付 内面上絵付(青・赤・緑・金)	
76	磁器	鉢	-	[2.6]	(7.2)	-	15	良好	白	SK142	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁釉 焼き継ぎ印(赤)「九」	136-2
77	磁器	仏飯器	5.8	5.6	3.7	-	90	良好	白	SK142	瀬戸美濃系 内外面施釉(外面瑠璃釉単彩) 底部墨書	136-3
78	磁器	蓋物	12.2	7.2	11.6	-	80	良好	白	SK142	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面型紙摺絵染付(青・赤) 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	136-4
79	陶器	播鉢	27.4	12.8	12.7	IK	90	良好	褐灰	SK142	益子系 内面上位～外面柿釉 内面播目	
80	陶器	花生	(7.2)	13.0	5.1	K	90	良好	灰白	SK142	外面青緑釉 底部墨書	136-5
81	陶器	急須	5.8	5.1	4.7	-	90	良好	灰白	SK142	外面施釉・鉄絵 底部墨書	
82	陶器	蓋	-	3.1	4.8	K	95	良好	灰白	SK142	上面灰釉 弱く被熱 最大径7.4cm(土瓶の蓋)	136-6
83	陶器	蓋	-	3.1	8.6	IK	95	良好	灰白	SK142	型成形 下面布目をナデ消し 上面灰釉、つまみ上端鉄釉 穿孔1(84の蓋)	137-1
84	陶器	土瓶	9.2	11.8	9.6	IK	90	良好	灰白	SK142	型成形 外面灰釉・貼付文 口唇部・耳上端・注口端部に鉄釉 内面・底部布目痕	137-1
85	瓦質土器	盤	(27.2)	9.5	(19.6)	CHIK	60	普通	にぶい黄橙	SK142	砂目底 内底面に装飾物の剥離痕(5箇所) 内外面燻す(箱庭道具)	137-2
86	瓦質土器	火鉢	-	[5.4]	(11.0)	AHIK	20	普通	にぶい褐・褐灰	SK142	江戸在地系 砂目底をへラナデ 外面施文胎土粉質	137-3
87	瓦質土器	火鉢	(10.6)	[4.4]	-	AHI	15	普通	にぶい橙・褐灰	SK142	江戸在地系 外面施文 口縁部ミガキ 胎土粉質 86と同一個体	
88	瓦質土器	火鉢	-	[3.9]	(25.7)	CGHIK	10	普通	にぶい橙	SK142	外面ミガキ 燻す	
89	瓦質土器	焜炉	-	17.1	23.5	CEHIK	70	普通	橙	SK142	砂目底 体部外面施文 脚部外面ミガキ燻す	137-4
90	土師質土器	把手付鍋	(17.8)	4.1	15.0	ACHIK	70	普通	にぶい橙	SK142	底部筵状圧痕 外面煤付着	137-6
91	土師質土器	焙烙	(39.2)	[4.6]	(39.5)	ACHIK	10	普通	にぶい橙	SK142	砂目底 外面一部煤付着	
92	磁器	鉢	-	[4.1]	8.9	-	20	良好	白	SK143	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)「十七」	137-5
93	磁器	鉢	-	[3.0]	-	-	5	良好	白	SK143	肥前系 内外面施釉・染付 口紅 焼き継ぎ痕 92と同一個体	137-7
94	陶器	灯明皿	7.2	1.4	3.5	IK	100	良好	灰白	SK143	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位拭き取り 直重ね焼き痕	138-1
95	陶器	土瓶	(6.3)	[2.2]	-	K	5	良好	灰黄	SK143	外面施釉・三彩絵付	
96	瓦質土器	火鉢	-	[5.0]	-	CHIK	5	普通	橙・褐灰	SK143	やや酸化炎焼成 口縁部二次敲打痕	
97	陶器	徳利	-	[3.5]	(6.2)	EK	10	良好	灰白	SK144	瀬戸美濃系 外面柿釉・底部拭き取り 体部窪ます(べこかん徳利)	
98	陶器	土瓶	(7.0)	[3.1]	-	EIK	5	良好	灰	SK144	松岡系 外面海鼠釉	138-2
99	磁器	爛徳利	-	[4.9]	-	-	10	良好	白	SK146	瀬戸美濃系 外面施釉・銅版転写染付	
100	磁器	皿	(10.4)	1.8	6.1	-	50	良好	白	SK146	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面酸化クロム青磁釉・絵付(緑・白盛)	
101	陶器	急須	(7.0)	[5.2]	-	IK	20	良好	褐灰	SK146	萬古系 口唇部施釉 外面絵付(黄・緑・白・赤・金)	
102	土師質土器	目皿	8.5	1.2	8.2	EIK	100	普通	灰黄	SK146	穿孔7	148-3
103	土師質土器	焙烙	(32.0)	[4.9]	(33.4)	CEHIK	35	普通	にぶい橙	SK146	底部シワ状痕 内外面煤付着	
104	磁器	蓋	-	2.7	4.5	-	95	良好	白	SK148	瀬戸美濃系 内外面施釉 上面上絵付(金・白・赤) つまみ穿孔 最大径6.0cm	148-4
105	磁器	急須	5.6	6.0	6.0	-	90	良好	白	SK148	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面上絵付(青・緑・黒・金) 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 底部墨書	148-4
106	陶器	灯火具	7.6	4.9	4.6	IK	100	良好	灰白	SK148	京都信楽系 内外面透明釉 底部墨書	148-5
107	陶器	鍋	14.0	7.5	8.3	I	70	良好	灰黄	SK148	内外面灰釉 外面イチン絵付 底部墨書	148-6
108	磁器	碗	(8.2)	4.0	(3.0)	-	25	良好	白	SK149	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 口紅(端反碗)	
109	磁器	坏	-	[3.5]	(3.0)	-	10	良好	白	SK149	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化クロム青磁釉・絵付(黒・緑・茶)	
110	陶器	鉢	-	[2.4]	(6.0)	IK	10	良好	灰白	SK149	肥前系 内面灰釉・蛇の目状釉刺 円盤状製品転用 直径6.3cm 重さ45.3g	149-1

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
111	陶器	蓋	-	[1.3]	-	EIK	15	良好	灰白	SK149	上面糠白釉 最大径(7.4)cm (土瓶の蓋)	149-2
112	土師質土器	蓋	5.5	0.9	5.0	ACTK	100	普通	にぶい橙	SK149	胎土粉質 (焼塩壺の蓋)	149-3
113	土師質土器	蓋	5.4	0.9	4.9	AHIK	100	普通	にぶい橙	SK149	胎土粉質 (焼塩壺の蓋)	149-4
114	土師質土器	蓋	(6.0)	0.9	(5.4)	AHIK	50	普通	にぶい橙	SK149	被熱・赤化 (焼塩壺の蓋)	149-5
115	土師質土器	焼塩壺	5.4	5.4	3.6	AIK	80	普通	にぶい橙	SK149	底部糸切痕(左) 胎土粉質	149-6
116	土師質土器	焼塩壺	-	[2.3]	3.1	AHIK	35	普通	にぶい橙	SK149	底部糸切痕(左) 胎土粉質	
117	土師質土器	把手付鍋	-	[3.8]	-	CEIK	5	普通	にぶい橙	SK149	上面穿孔	
118	陶器	蓋	-	5.2	15.7	K	100	良好	灰白	SK156	瀬戸美濃系か 内外面柿釉	151-5
119	磁器	蓋	-	[3.6]	11.2	-	20	良好	白	SK160	肥前系 内外面施釉 外面染付・色絵(赤・黒・緑) 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	156-5
120	磁器	碗	(6.6)	5.0	(3.4)	-	30	良好	白	SK170	肥前系 内外面施釉・染付 (湯呑形碗)	159-5
121	磁器	坏	(6.7)	4.3	(3.0)	-	35	良好	白	SK170	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
122	磁器	皿	8.8	2.3	4.7	-	95	良好	白	SK170	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面型押施文・染付	159-7
123	磁器	急須	(7.0)	[5.4]	-	-	15	良好	白	SK170	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼き継ぎ痕	
124	陶器	灯明皿	10.2	1.9	3.7	IK	100	良好	灰黄	SK170	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位拭き取り 内面直重ね焼き痕	159-8
125	陶器	鉢	-	[7.4]	-	IK	5	良好	灰白	SK170	内外面緑釉・糠白釉流掛	160-1
126	土師質土器	焼塩壺	(5.4)	[3.8]	-	AHIK	10	普通	にぶい橙	SK170	厚手 ロクロ成形	
127	瓦質土器	竈	-	[13.4]	(22.0)	CHIK	10	普通	にぶい黄橙・灰	SK170	砂目底 燻す 内底面の外周に煤付着	
128	瓦質土器	火鉢	(17.0)	[8.4]	-	AIK	25	普通	外:灰黄内:黄灰	SK171	江戸在地系 外面ミガキ 硬質・瓦質 燻す	
129	土師質土器	焙烙	(34.5)	5.2	(35.0)	HIK	40	普通	灰・橙	SK171	底部シワ状痕 外面煤付着	
130	磁器	皿	14.8	4.4	8.3	-	80	良好	白	SK172	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目状高台 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	160-2
131	土師質土器	火鉢	-	-	-	AIK	5	普通	にぶい黄橙	SK172	江戸在地系 外面に沈線・摩耗 胎土粉質 円盤状製品転用 直径4.4cm 重さ24.8g	
132	磁器	段重	-	[3.3]	(8.4)	-	5	良好	白	SK198	肥前系 内外面施釉 外面染付・色絵(赤・黄) 焼き継ぎ痕	196-4
133	磁器	碗	8.8	4.7	3.4	-	80	良好	白	SK199	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(端反碗)	196-5
134	磁器	碗	9.0	4.7	3.8	-	60	良好	白	SK199	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(端反碗)	
135	磁器	坏	(7.0)	3.2	2.5	-	40	良好	白	SK199	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	196-6
136	磁器	坏	(6.6)	3.4	(2.6)	-	40	良好	白	SK199	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	197-1
137	磁器	碗	-	[1.4]	-	-	10	普通	灰白	SK199	肥前系 内外面施釉・染付 二次加工(円盤状製品転用)	197-2
138	磁器	皿	13.2	3.5	8.4	-	90	良好	白	SK199	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目凹形高台 焼き継ぎ痕	197-3
139	磁器	皿	(10.0)	2.1	(5.7)	-	60	良好	白	SK199	肥前系 型成形 内外面施釉 内面型紙摺絵染付	197-4
140	陶器	水滴	-	[3.2]	-	H	15	良好	白	SK199	京都信楽系 外面施釉 上面型押施文 底部煤付着	197-5
141	陶器	灯明皿	7.6	1.5	3.6	I	100	普通	灰白	SK199	瀬戸美濃系 内外面柿釉・外面下位拭き取り 直重ね焼き痕 煤付着	197-6
142	陶器	灯明皿	9.4	1.8	4.4	EK	80	普通	褐灰	SK199	瀬戸美濃系 内外面柿釉・体部下位拭き取り 直重ね焼き痕	
143	陶器	灯明皿	9.9	1.9	4.5	E	70	普通	灰白	SK199	瀬戸美濃系 内外面柿釉・外面下位拭き取り 直重ね焼き痕	
144	陶器	片口鉢	(11.4)	4.9	(5.0)	GI	20	良好	浅黄橙	SK199	瀬戸美濃系 内外面灰釉 小型	
145	陶器	土瓶	-	[7.1]	(8.0)	I	20	良好	灰白	SK199	大堀相馬系か 外面糠白釉	197-7
146	陶器	土瓶	7.6	12.8	8.5	DEHIK	75	良好	浅黄橙	SK199	松岡系 外面鮫肌釉・糠白釉流掛	198-2
147	施釉土器	土瓶	-	[3.3]	-	I	5	普通	にぶい橙	SK199	吉見系か 内外面鉄釉 二次穿孔して銅製耳を取り付け	198-1
148	瓦質土器	火鉢	-	[6.2]	12.6	CHI	40	普通	にぶい褐	SK199	底部ヘラナゲ 外面トビガンナ状施文 燻す	
149	土師質土器	焙烙	(30.2)	4.5	(31.0)	CEFI	45	良好	にぶい橙	SK199	底部シワ状痕 外面煤付着	
150	土師質土器	焙烙	(30.4)	4.1	(30.9)	CEI	20	普通	にぶい橙	SK199	底部シワ状痕 外面煤付着	
151	磁器	碗	7.2	5.5	3.4	-	100	良好	白	SK200	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱(筒形碗)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
152	磁器	碗	6.7	5.6	3.6	-	60	良好	白	SK200	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (湯呑形碗)	
153	磁器	碗	(7.0)	[4.6]	-	-	20	良好	白	SK200	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (湯呑形碗)	
154	磁器	皿	(13.0)	3.9	(8.0)	-	25	良好	灰白	SK200	肥前系 内外面施釉・染付	
155	陶器	灯明皿	8.5	1.6	3.4	I	80	良好	にぶい橙	SK200	京都信楽系 内面〜口縁部透明釉 内面煤附着	
156	陶器	蓋	-	3.5	6.0	H	50	良好	灰白	SK200	大堀相馬系か 外面糠白釉 最大径8.2cm	198-3
157	瓦質土器	火鉢	(18.1)	7.2	(11.6)	CEI	20	良好	にぶい橙	SK200	底部ヘラナデ	
158	磁器	碗	8.4	5.0	3.5	-	85	良好	白	SK289	肥前系 内外面施釉・染付 (小丸碗)	219-7
159	磁器	碗	(7.6)	6.0	(3.6)	-	40	良好	白	SK289	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (湯呑形碗)	
160	磁器	油壺	-	[5.8]	5.0	-	35	普通	白	SK289	肥前系 外面施釉・染付	
161	瓦質土器	火鉢	-	[5.7]	(20.2)	CHIK	10	普通	橙	SK289	底部シワ状痕をヘラナデ やや酸化炎焼成	
162	磁器	碗	9.8	5.4	4.2	-	80	良好	白	SK293	肥前系 内外面施釉・染付	
163	磁器	碗	7.4	6.2	3.9	-	85	良好	白	SK293	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
164	陶器	蓋	-	2.8	5.9	A	100	普通	黒褐	SK293	土器質 燻す 最大径8.0cm	221-2
165	陶器	蓋	-	3.2	5.5	K	100	普通	にぶい黄橙	SK293	大堀相馬系か 外面トビガンナ状施文・鉄釉 最大径8.1cm	221-3
166	陶器	土瓶	(6.8)	11.3	7.8	HIK	65	普通	灰白	SK293	大堀相馬系か 外面トビガンナ状施文・鉄釉 底部墨書	221-4
167	磁器	碗	(8.0)	4.9	(3.2)	K	25	良好	白	SK294	肥前系 内外面施釉・染付 (小丸碗)	
168	陶器	蓋	-	3.1	5.9	K	90	良好	灰白	SK294	大堀相馬系か 外面糠白釉 最大径8.2cm	221-5
169	陶器	土瓶	6.9	11.9	7.0	DK	80	良好	灰白	SK294	大堀相馬系か 外面糠白釉 (貫入多い) 底部煤附着	221-6
170	瓦質土器	火鉢	(18.4)	9.2	(13.6)	AIKL	35	普通	にぶい黄橙	SK294	江戸在地系 底部スノコ状圧痕 外面ミガキ 燻す	221-7
171	磁器	碗	8.8	5.6	3.4	-	100	良好	白	SK296	肥前系 内外面施釉・染付 (小丸碗)	222-1
172	磁器	碗	-	[4.4]	(3.8)	-	20	良好	白	SK296	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗)	
173	磁器	蓋	4.9	0.9	4.7	-	100	良好	白	SK296	肥前系 内外面施釉 外面染付 (合子の蓋)	222-2
174	磁器	合子	3.9	1.2	4.0	-	100	良好	白	SK296	肥前系 内外面施釉	222-2
175	土師質土器	焙烙	(31.8)	[6.4]	(33.0)	CHIK	30	普通	にぶい橙	SK296	底部シワ状痕 外面煤附着	
176	磁器	碗	(11.4)	6.5	5.9	-	50	普通	白	SK298	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ印 (広東碗)	223-6
177	磁器	碗	-	[2.9]	(4.0)	-	15	普通	白	SK298	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印 (赤)	224-1
178	磁器	碗	(10.0)	5.6	(4.0)	-	60	良好	白	SK298	肥前系 内外面施釉・染付 少量煤附着	
179	磁器	碗	(11.8)	[3.9]	-	-	20	良好	白	SK298	瀬戸美濃系 内外面施釉 型紙摺絵染付	
180	磁器	徳利	(3.0)	(17.8)	(6.4)	-	25	良好	白	SK298	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付	
181	陶器	乗燭	5.4	4.6	4.2	IK	100	良好	灰白	SK298	瀬戸美濃系 内外面鉄釉	224-2
182	瓦質土器	火鉢	-	[6.4]	(24.6)	CEHIK	15	普通	にぶい橙	SK298	砂目底 やや酸化炎焼成 上端破損面二次研磨か	
183	瓦質土器	火鉢	-	[13.3]	23.0	DGHI	80	普通	にぶい黄橙	SK298	底面シワ状痕 口縁部欠け面を整形 内面煤附着 脚部孔は1 やや酸化炎焼成	224-3
184	土師質土器	焙烙	(31.6)	5.1	(31.8)	CDEGHIK	40	普通	橙	SK298	砂目底 底部煤附着	
185	磁器	碗	(11.7)	[6.1]	4.5	-	30	普通	白	SK299	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印 (赤) 「□□/四ハ/ト□ニ」 (端反碗) 接点ない2破片から図上復元	224-5
186	磁器	皿	-	[3.1]	8.4	-	30	普通	白	SK299	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目状高台	
187	陶器	土瓶	-	[5.4]	-	EIK	5	普通	橙	SK299	吉見焼か 外面鉄釉	224-4
188	土師質土器	植木鉢	-	[5.5]	(6.8)	ACEH	20	普通	明赤褐	SK299	江戸在地系 底部糸切痕 (左) 胎土粉質	
189	磁器	碗	(9.4)	5.1	(3.6)	-	40	良好	白	SK300	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (端反碗)	
190	磁器	碗	6.8	6.0	4.0	-	85	普通	白	SK300	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (湯呑形碗)	
191	磁器	碗	(7.0)	[5.2]	-	-	15	良好	白	SK300	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面木型打込施文・染付 (湯呑形碗)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
192	磁器	鉢	(14.8)	6.8	6.9	-	60	普通	白	SK300	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	225-1
193	陶器	植木鉢	19.1	16.1	13.3	HK	90	普通	灰白	SK300	瀬戸美濃系 内面上位～外面灰釉 内面重ね焼き痕	225-3
194	施釉土器	灯明皿	(11.0)	2.1	(4.7)	AEK	20	普通	明赤褐	SK300	江戸在地系 内外面施釉 胎土粉質	
195	陶器	灯明皿	(9.4)	1.9	(4.4)	HI	10	普通	橙	SK300	江戸在地系 内外面透明釉 胎土粉質 口縁部少量煤付着	
196	陶器	灯明皿	(10.0)	2.0	(4.0)	EH	40	普通	橙	SK300	江戸在地系 内外面透明釉 胎土粉質 口縁部一部煤付着	225-2
197	瓦質土器	火鉢	-	[6.9]	-	CEI	5	普通	黒褐	SK300	外面施文 燻す	225-4
198	土師質土器	焙烙	31.8	[5.6]	32.5	CIK	60	普通	灰白	SK300	底部シワ状痕 体部外面煤付着	
199	土師質土器	焙烙	(34.8)	4.7	(34.7)	CHIK	20	普通	にぶい黄橙	SK300	底部シワ状痕 外面煤付着	225-5
200	磁器	碗	(9.2)	4.6	4.0	-	40	良好	白	SK301	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(端反碗)	
201	磁器	油壺	2.9	[6.6]	-	-	30	良好	白	SK301	肥前系 外面施釉・染付	225-6
202	磁器	御神酒德利	(1.6)	[14.2]	-	-	30	良好	白	SK301	肥前系 外面施釉・染付	
203	陶器	灯火具	7.0	4.2	6.5	I	100	良好	淡黄	SK301	瀬戸美濃系 内外面灰釉	225-7
204	陶器	餌入れ	4.9	2.6	3.0	EIK	100	良好	灰白	SK301	瀬戸美濃系 底部離糸切・墨書 内外面灰釉	226-1
205	陶器	土瓶	-	[3.4]	-	IK	5	良好	橙	SK301	吉見系 外面鉄釉	226-3
206	瓦質土器	火鉢	(16.8)	8.6	(11.4)	CFHI	30	普通	灰黄	SK301	弱く燻す	226-2
207	磁器	碗	7.6	5.0	3.2	-	80	普通	白	SK302	肥前系 内外面施釉 外面染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)「ト四二」(小丸碗)	226-4
208	磁器	碗	10.4	6.2	4.2	-	80	普通	白	SK302	肥前系 内外面施釉・染付(端反碗)	226-5
209	磁器	皿	-	[1.2]	6.0	-	55	良好	白	SK302	肥前系 内外面施釉・染付 漆継ぎ痕	
210	磁器	皿	(10.0)	1.6	6.8	-	60	良好	白	SK302	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目状高台	226-6
211	磁器	鉢	(15.3)	[5.4]	-	-	20	良好	白	SK302	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕	
212	磁器	碗	9.1	4.7	3.8	-	100	普通	白	SK303	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(端反碗)	227-1
213	陶器	土瓶	7.5	10.1	7.5	K	80	普通	灰白	SK303	SK302 接合 外面青緑釉	227-2
214	陶器	坏	7.7	4.9	2.6	K	70	良好	灰	SK313	大堀相馬系 内外面灰釉一部うのふ釉状に青白く発色 外面下位塗土・櫛描波状文	228-3
215	磁器	碗	8.9	4.4	3.8	-	95	普通	白	SK320	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(端反碗)	
216	磁器	蓋	-	[2.2]	(12.0)	-	15	普通	白	SK320	肥前系 内外面施釉 外面染付 焼き継ぎ痕 最大径(13.2)cm	
217	陶器	德利	-	[9.7]	4.5	IK	60	良好	灰	SK320	瀬戸美濃系 外面柿釉・底部拭き取り 頸部は接点ない破片から図上復元	
218	陶器	播鉢	(32.0)	12.0	14.2	EGL	60	良好	明赤褐	SK320	堺明石系 底部ヘラナデ・刻書か 内面挿目・使用により摩耗	229-3
219	土師質土器	瓦燈	13.8	3.4	15.8	AEHI	95	普通	橙	SK320	江戸在地系 胎土粉質 一部煤付着	229-4
220	磁器	碗	(9.3)	4.7	3.8	-	50	良好	白	SK322	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(端反碗) 同文別個体1あり	229-5
221	磁器	碗	7.4	5.7	3.6	-	70	良好	白	SK322	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	229-6
222	磁器	鉢	(15.5)	5.2	7.4	-	45	良好	白	SK322	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目状高台 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(白・赤)「□□/九七」他	229-7
223	陶器	灯火具	(5.6)	5.5	7.0	DEK	85	普通	灰	SK322	瀬戸美濃系 内面灰釉 底部重焼痕	229-8
224	陶器	蓋	-	2.8	5.5	HK	95	普通	灰白	SK322	上面青緑釉 最大径7.8cm	230-1
225	陶器	蓋	6.0	1.7	4.1	I	85	良好	灰白	SK322	京都信楽系 上面透明釉	230-2
226	瓦質土器	火鉢	(24.4)	11.3	20.2	CFH	60	普通	橙	SK322	底部ヘラナデ 外面波状文 被熱・赤変 口縁部煤付着	230-3
227	磁器	碗	(8.9)	5.1	(3.6)	-	35	良好	白	SK690	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(端反碗)	
228	磁器	水滴	-	3.3	-	-	100	良好	白	SK690	長6.9cm 幅3.9cm 瀬戸美濃系 上下合型成形 外面施釉・染付・型押施文、一部鉄絵	
229	磁器	皿	14.9	4.5	8.3	-	70	良好	白	SK690	肥前系 内外面施釉 内面染付 蛇の目状高台	
230	陶器	坏	(6.4)	4.0	2.9	IK	40	良好	灰白	SK690	瀬戸美濃系 内外面灰釉	
231	陶器	灯明皿	10.0	2.3	4.7	IK	95	良好	灰黄	SK690	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位拭き取り 直重ね焼き痕	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
232	陶器	灯明皿	9.9	2.4	4.6	IK	90	良好	灰白	SK690	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位拭き取り直重ね焼き痕	
233	陶器	灯明皿	9.9	2.3	4.5	IK	85	良好	灰白	SK690	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位拭き取り直重ね焼き痕	
234	陶器	皿	27.5	6.4	7.9	EIK	80	良好	灰白	SK690	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面呉須絵・目跡5 底部墨書「ラフ」(石皿)	231-4
235	陶器	火鉢	(21.5)	14.9	16.4	DGIK	70	良好	淡黄	SK690	瀬戸美濃系 内面鉄釉刷毛塗り 口縁部～外面上位灰釉, スタンプ文 外面下位鉄釉 内外面の底部に目跡6	231-5
236	瓦質土器	火鉢	17.1	8.3	13.0	AIK	40	普通	灰白・灰	SK690	江戸在地系 口縁部ミガキ 外面トビガンナ状施文, 下位ナゲ消し 胎土粉質 燻す	
237	瓦質土器	火消壺	(19.6)	[13.8]	-	CIK	25	普通	灰白	SK690	燻す	

面を青緑釉の単彩とする陶器花生である。底部に墨書が見られる。83・84は土瓶の蓋と身で同一個体と考えられる。83の蓋はつまみ上端に鉄釉が施される。内面に布圧痕があるが、これを一方にナゲ消す。84の身には、口唇部と耳上端・注口端部に鉄釉が施される。体部外面には対向して龍と虎の貼付け文がみられる。内面全体に布圧痕が残り、加えて底面には一辺4.2～4.4cmほどの方形の型圧痕と搾り状の皺がみられる。底部外面からは、連続的に指頭で押圧されている。

86・87は同一個体と考えられる瓦質土器である。火鉢類としたがサイズは小さい。江戸在地系と考えられる。

第367図1は土製玩具の鳩笛である。第375図11～13は金属製品で、12は支点を中央に持つ鉞である。植木鉞と思われる。13は丸棒に針金が螺旋状に巻付く。把手の一部と考えられる。なお、本跡には少量の鍛冶関連遺物が認められるが、重複する第145号土壇からの混在の可能性もある。第587図29～33に鞆の羽口を示す。

第143号土壇は、長軸1.85m以上の不整形を呈する土壇で、区画北東隅に所在する。第357図92～98に出土した陶磁器を示す。

第357図92・93は肥前系磁器の鉢である。いずれも焼き継ぎ痕がみられ、92の底部には焼き継ぎ印「十七」がある。両者は同一個体の可能性がある。94は瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿で、小型のものである。

陶磁器は全体的に少なかったが、95に示した

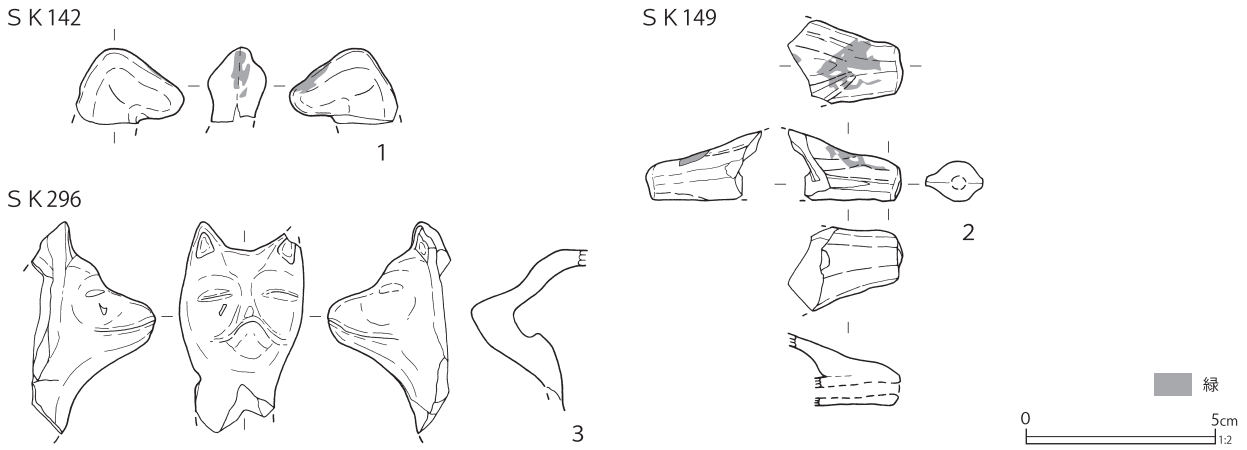
陶器三彩土瓶から、栗橋7～8期頃の遺構と考えられる。

これに近接する第144号土壇は、長軸2.5m弱の不整楕円形を呈する土壇である。陶磁器は極めて少なかった。第357図97は瀬戸美濃系陶器の柿釉徳利で、所謂ぺこかん徳利である。98は松岡系陶器の土瓶で、青味の強い海鼠釉が施される。遺物の時期は19世紀第2四半期以降と考えられ、第145号土壇との重複関係に問題もあるが、栗橋7～8期頃の遺構と考えられる。

第146号土壇は、長軸1.55mの隅丸長方形を呈する土壇である。第357図99に示した爛徳利のように、銅版転写染付の磁器を含む。第375図16～20は金属製品で、このうち16は持ち手が欠失した手鏡である。銘は「薩摩守家長」である。

第149号土壇は、区画西部に位置する。長軸1.16mの隅丸長方形を呈する土壇である。覆土下層を中心に木材・木製品が多く含まれ、廃棄土壇と考えられる。第357図108は瀬戸美濃系磁器の小型の端反碗である。109は瀬戸美濃系磁器の端反になる坏の底部で、酸化クロム青磁釉に絵付けを施す。110は肥前系陶器の鉢で、内面は蛇の目状釉剥ぎされる。周囲を打ち欠き、円盤状製品に転用されている。111は陶器土瓶の蓋で、上面に大きな貫入のある糠白釉を掛ける。胎土は灰色・硬質で、大堀相馬系陶器の可能性が高い。112～114は土師質土器塩焼壺の蓋で、いずれも下面は砂目をナゲ消すようである。また、上面に掌や指頭による圧痕が顕著に残る。114のみ明確

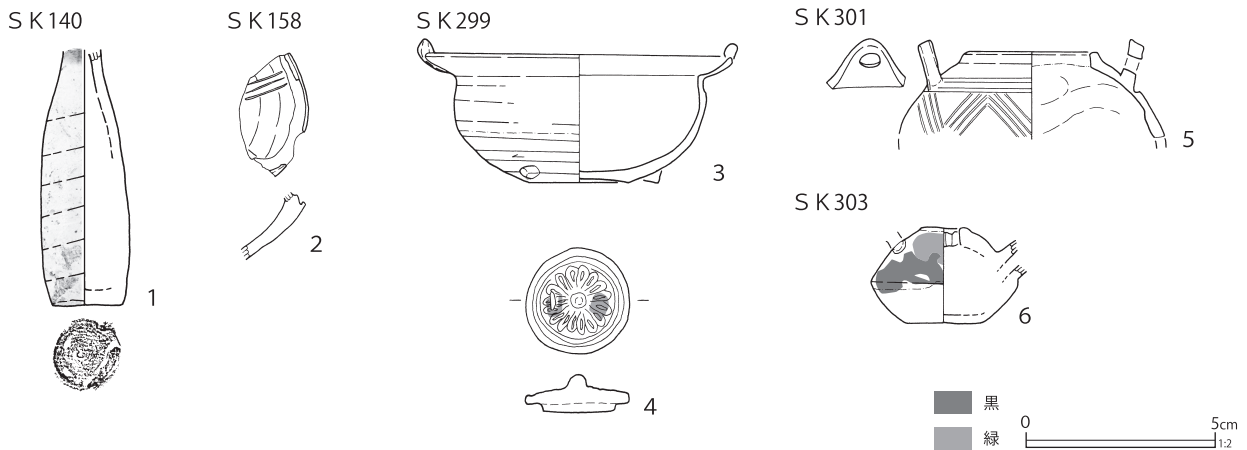




第 367 図 第 4 区画の土壇出土遺物 (20)

第 176 表 第 4 区画の土壇出土遺物観察表 (2) (第 367 図)

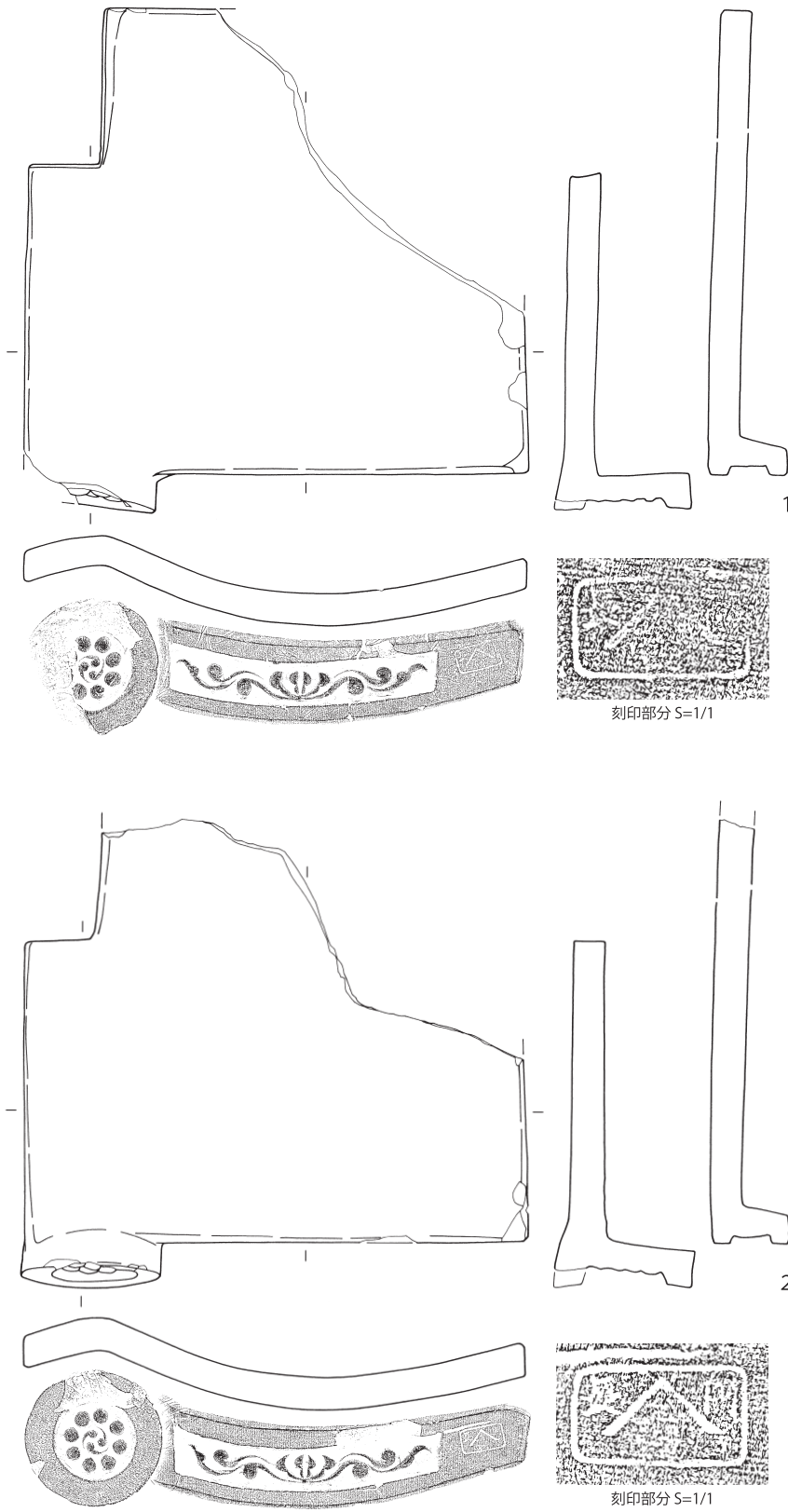
番号	種別	器種	幅/長	高さ	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	鳩笛	1.5/ [2.0]	-	2.9	5.5	-	良好	橙	SK142	江戸在地系 左右合二枚型成形	243-12
2	土製品	鳩笛	[2.2] / [3.0]	-	(1.9)	5.8	IK	良好	橙	SK149	江戸在地系 上下合二枚型成形 外面施釉 彩色 (白・緑)	243-13
3	土製品	人形	3.2/ [5.6]	-	[3.2]	18.2	AHK	良好	橙	SK296	狐 前後合二枚型成形 中空	245-13



第 368 図 第 4 区画の土壇出土遺物 (21)

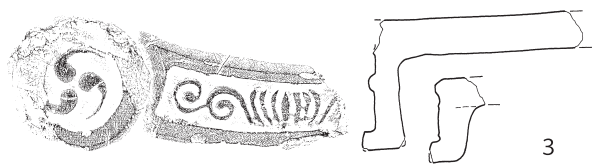
第 177 表 第 4 区画の土壇出土遺物観察表 (3) (第 368 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	施釉土器	ミニチュア	-	[6.7]	1.8	21.5	K	良好	灰白	SK140	京都系 底部糸切痕 (中心・左) 外部施釉 緑釉流し掛け	243-11
2	施釉土器	ミニチュア	-	[1.8]	-	3.5	-	良好	にぶい黄橙	SK158	内面黄色釉 内面摺目	243-14
3	陶器	ミニチュア	7.8	3.7	2.7	26.2	I	普通	灰	SK299	鍋 内外面柿釉	
4	施釉土器	ミニチュア	-	1.0	1.8	4.0	AI	普通	灰白	SK299	京都系 蓋 一枚型成形 下部貼付 上面施釉・緑釉 最大径 2.7	245-15
5	施釉土器	ミニチュア	(3.2)	[2.3]	-	4.2	EK	普通	灰白	SK301	京都系 土瓶 上下合二枚型成形 外面陰刻文 施釉 外面上位部分的緑釉	
6	施釉土器	ミニチュア	1.2	2.5	1.9	21.1	AIK	普通	にぶい橙	SK303	土瓶 型成形 外面白化粧 上位施釉 (一部緑釉) 被熱 (一部黒化)	245-16

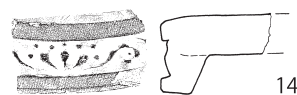
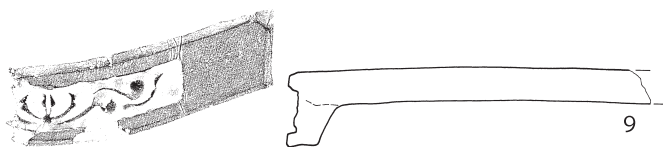
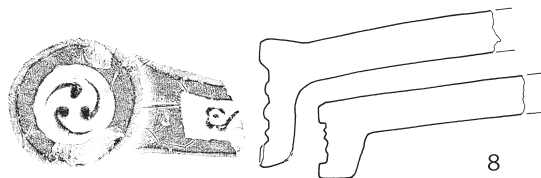
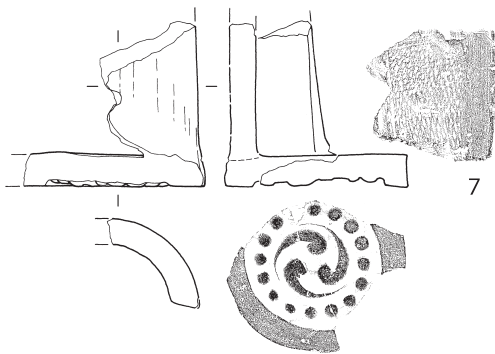


0 10cm  
1/4

第 369 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (22)

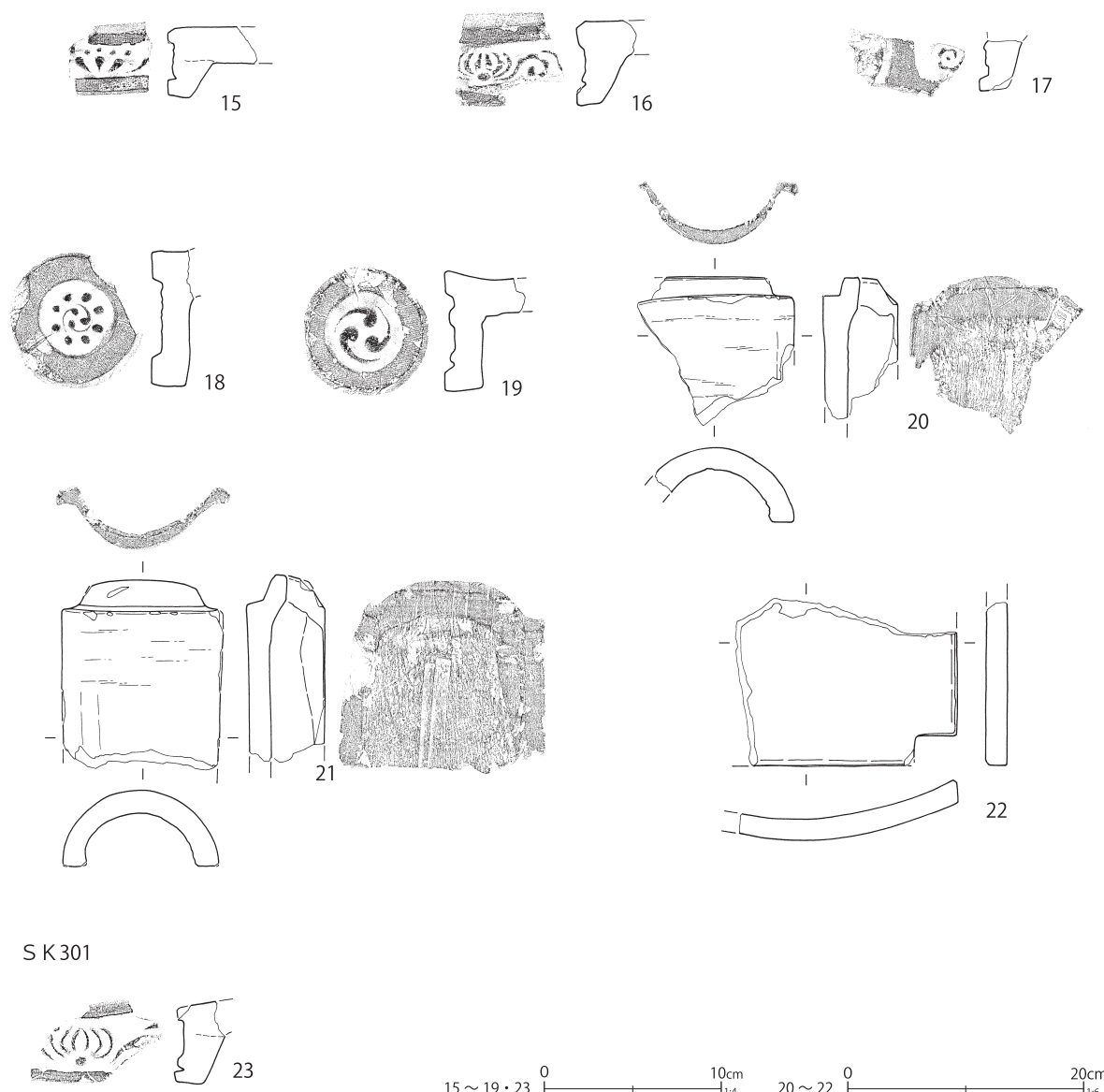


SK140

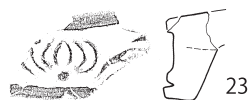


3~6・8~14 0 10cm 1/4 7 0 20cm 1/6

第 370 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (23)



SK301



15 ~ 19・23 0 10cm 1/4 20 ~ 22 0 20cm 1/6

第 371 図 第 4 区画の土壇出土遺物 (24)

第 178 表 第 4 区画の土壇出土遺物観察表 (4) (第 369 ~ 371 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	28.8	28.6	7.7	AIK	普通	灰	SK135・136・137	右巻き 8 珠文 刻印	254-3
2	瓦	軒棧瓦	26.8	[28.8]	7.8	AIK	良好	灰	SK135・136・137	右巻き 8 珠文 刻印 胎土硬質	254-4
3	瓦	軒棧瓦	[11.3]	[18.2]	7.3	AIK	普通	灰白	SK135・136・137	左巻き	254-2
4	瓦	軒棧瓦	[5.8]	[12.1]	-	AIK	良好	灰白	SK135・136・137	胎土硬質	
5	瓦	軒棧瓦	[9.3]	[18.4]	-	AIK	良好	灰白	SK135・136・137	胎土硬質	254-5
6	瓦	軒棧瓦	[6.3]	[11.8]	-	ACIK	良好	灰白	SK135・136・137	胎土硬質	
7	瓦	軒丸瓦	[13.1]	14.6	(13.6)	IK	普通	灰白	SK140	右巻き 16 珠文 凸面ヘラナデ後ナデ 凹面ゴザメ	
8	瓦	軒棧瓦	[14.2]	[12.7]	6.6	AIK	良好	灰白	SK140	右巻き	
9	瓦	軒棧瓦	[19.0]	[15.1]	-	AIK	良好	灰白	SK140	胎土硬質	

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
10	瓦	軒棧瓦	[10.7]	[13.3]	-	AIK	普通	灰白	SK140	被熱・変色	254-6
11	瓦	軒棧瓦	[9.9]	[14.6]	-	AIK	良好	灰白	SK140	東海式文様	
12	瓦	軒棧瓦	[3.0]	[12.3]	-	AIK	普通	灰白	SK140	被熱・赤変	
13	瓦	軒棧瓦	[2.6]	[14.2]	-	HK	普通	灰黄	SK140	被熱・赤変	254-7
14	瓦	軒棧瓦	[6.6]	[8.4]	-	CE	普通	灰白	SK140	東海式文様 被熱・変色	
15	瓦	軒棧瓦	[5.2]	[6.1]	-	AHI	普通	灰白	SK140	東海式文様 被熱・赤変 胎土軟質	
16	瓦	軒棧瓦	[3.2]	[6.6]	-	ACIK	普通	灰白	SK140		
17	瓦	軒棧瓦	-	[7.7]	-	ACIK	普通	灰白	SK140		
18	瓦	軒棧瓦	-	[7.7]	7.4	AIK	良好	灰白	SK140	右巻き 8珠文 胎土硬質	
19	瓦	軒棧瓦	[4.7]	-	6.7	ACEIK	普通	灰白	SK140	胎土軟質	
20	瓦	丸瓦	[12.7]	[13.5]	-	AIK	普通	灰白	SK140	凸面ナデ 凹面ゴザメ、内叩き 胎土軟質	
21	瓦	丸瓦	[16.0]	13.9	-	AIK	普通	灰白	SK140	凸面ヘラナデ後ナデ消し 凹面ゴザメ、一部内叩き 胎土軟質 被熱・変色	
22	瓦	棧瓦	[14.2]	[19.0]	-	ACIK	普通	灰白	SK140	被熱・変色	
23	瓦	軒棧瓦	[3.0]	[7.7]	-	AIK	普通	灰白	SK301		

な被熱がみられる。これらの胎土には微細な金雲母が多く含まれる。115・116は土師質土器塩焼壺である。117は土師質土器の把手付鍋で、把手部分のみ残る。胎土に角閃石が含まれる。第367図2は土製玩具の鳩笛である。

第372図8・9は木製品である。8は杓子で、柄の端部を欠損する。残存する長さは21.8cmと大振りである。9は傘で、頭轆轤、手元轆轤、柄、骨の一部が残る。柄と骨は竹で作られる。骨端部には骨をつなぐための穴があげられている。

第170・171号土壇は、区画中央部やや北側に位置する。

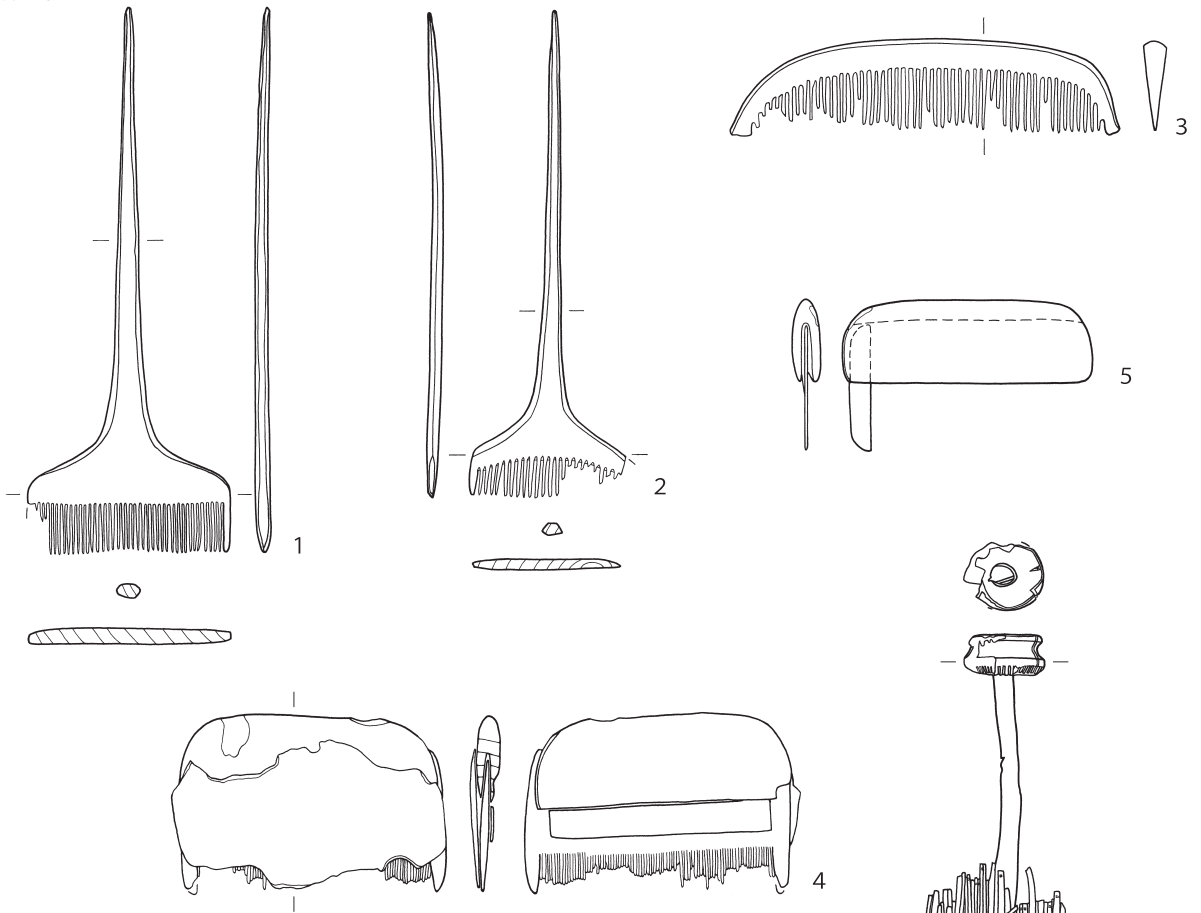
第170号土壇は長軸1.57mの隅丸長方形を呈する土壇である。覆土は粘質の暗灰色土で木製品を含む。第358図120は肥前系磁器の湯呑形碗で、口縁部は輪花状に仕上げられる。焼き継ぎ痕がみられる。121は瀬戸美濃系磁器の端反の坏である。外面に施された染付は、酸化コバルト染付の可能性もあるが、判断に迷う。122は瀬戸美濃系磁器の型成形の皿で、内面には陽刻状になる梅花文・角渦文を型押施文し、その上から染付を施す。123は瀬戸美濃系磁器の急須で外面に山水文を染付するものらしい。焼き継ぎ痕がみられる。124は瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。125は陶

器の鉢類としたが、深手であり水鉢のような器形が想定される。外面に緑釉・糠白の二彩釉を流し掛けする。胎土は白色・硬質だが滑らかさはなく、信楽産の可能性が考えられる。126はロクロ成形の土師質土器焼塩壺で・厚手・筒形のものである。胎土に微細な雲母を多く含むほか、輝石と考えられる鉱物を微量に含む。127は瓦質土器の竈である。全体的には栗橋8期の陶磁器様相を示すが、121の瀬戸美濃系磁器の坏から、栗橋9期でも古い段階での廃絶と考えられる。第373図14には木製品の漆椀蓋を示す。

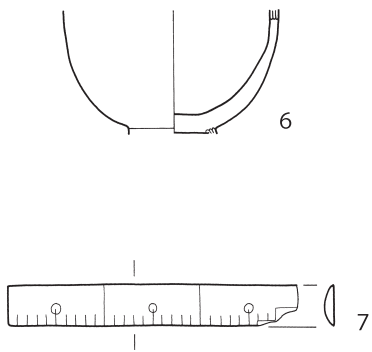
第171号土壇は、長軸1.7mの隅丸長方形を呈する。重複関係から、栗橋9期の第159号土壇より古い。第359図128・129には出土した土器を示す。128は江戸在地系土器の丸火鉢で、瓦質のものである。129は土師質土器の焙烙で、厚手のものである。陶磁器の出土は少なかったが、瀬戸美濃系磁器端反碗や大堀相馬系陶器の可能性があり、糠白釉土瓶が含まれ、栗橋7～8期の帰属であろう。轆の羽口(第593図121～123)等、鍛冶関連遺物も多い。

第199号土壇は、区画東部に位置する。長軸1.57m以上の隅丸長方形を呈する土壇と思われるが、他の土壇との重複が多く、形態は判然とし

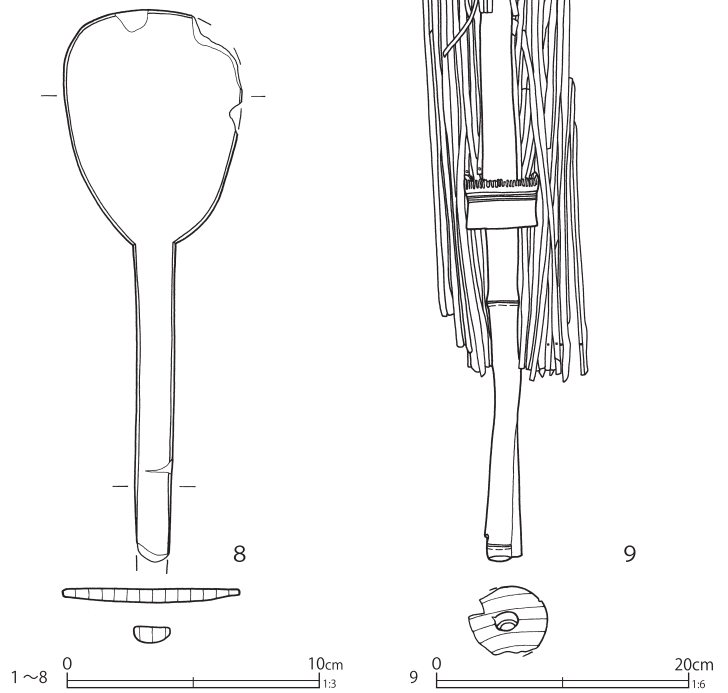
SK140



SK142

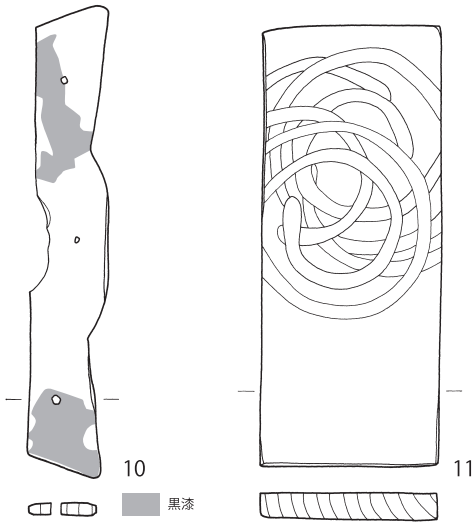


SK149

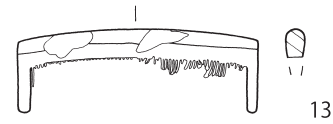
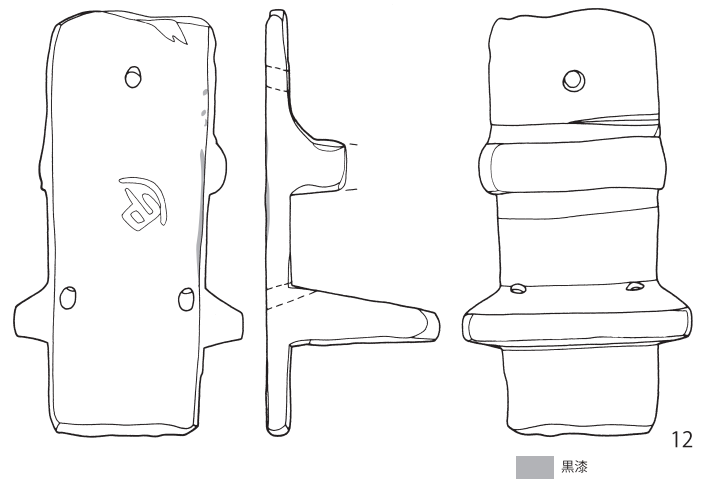


第 372 図 第 4 区画の土壌出土遺物 (25)

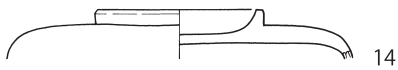
S K 151



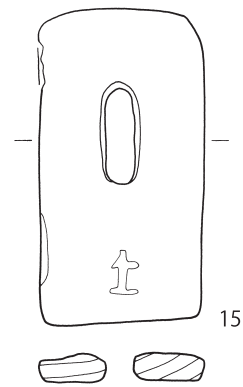
S K 156



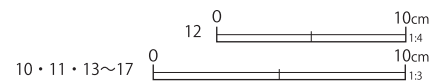
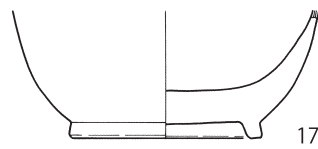
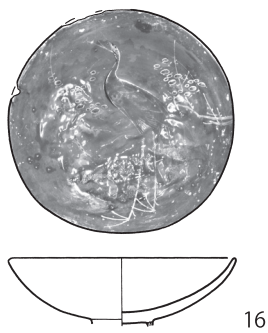
S K 170



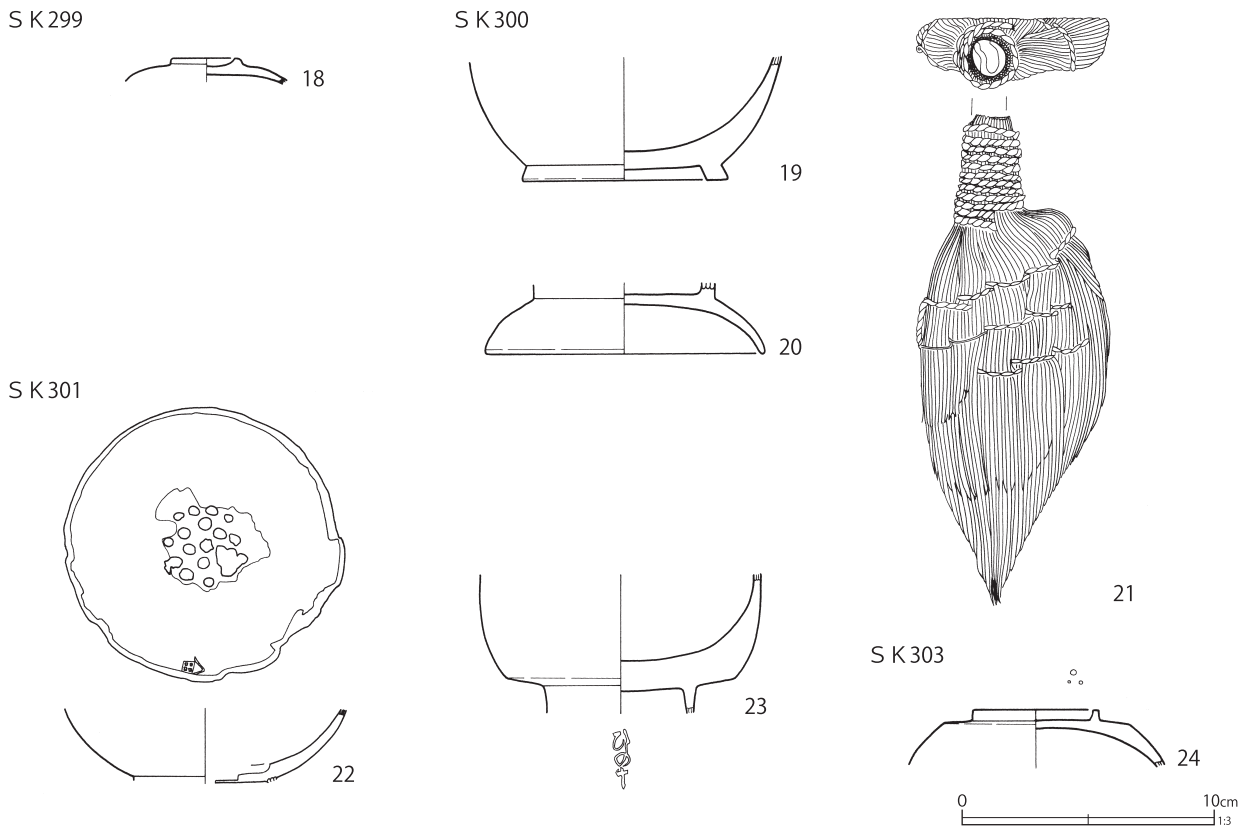
S K 171



S K 289



第 373 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (26)



第374図 第4区画の土壌出土遺物(27)

ない。

第359・360図133～150は出土した陶磁器である。133・134は瀬戸美濃系磁器の端反碗である。135・136は瀬戸美濃系磁器の坏で、口縁部が端反りになる。137は肥前系磁器碗の底部で、円盤状製品に転用される。内面底部に花文を染付する。138・139は肥前系磁器の皿である。138は蛇の目凹形高台の皿である。139は型押の変形皿で、内面に型紙摺絵染付がみられる。

140は京都信楽系陶器の水滴である。141～143は瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。

144は瀬戸美濃系陶器の片口鉢で、小型のものである。145・146は陶器の土瓶である。145は外面に不透明で光沢の強い糠白釉が施される。胎土はやや黄色を帯びたクリーム色といった印象で、緻密である。大堀相馬系陶器の可能性もある。

146は松岡系と考えられる鮫肌釉の土瓶で、外面の一部にうのふ状の釉が流し掛けされる。胎土

は橙色を帯びた色調で、黒色小粒子が多く混在する。底部は回転ケズリだが、周縁部のみやや幅広くナデ調整している。147は吉見系の可能性のある鉄釉土瓶で、補修痕がある。施釉土器質のもので、内面は露胎とする。二次穿孔して銅製の耳を補っている。

148は瓦質土器の火鉢で、外面は下位のケズリ後にトビガンナ状の施文が施される。149・150は土師質土器の焙烙である。

以上のように、陶磁器は栗橋8期の様相を示すが、図示し得なかった磁器に酸化コバルト染付を施す爛徳利が1点含まれる。本跡は栗橋9期はじめ頃の遺構とするのが妥当であろう。鍛冶関連遺物も多く、第594図125～132に鞆の羽口を示す。

第200号土壌は、第199号土壌と重複して検出されたもので、長軸2.51mの隅丸長方形を呈する。第360・361図151～157に出土した陶磁器を示す。152・153は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で



第179表 第4区画の土壌出土遺物観察表(5)(第372~374図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	櫛	21.6	8.0	0.6	-	-	-	板目	SK140	(筋立て)	263-8
2	木製品	櫛	19.1	[6.0]	0.5	-	-	-	板目	SK140	(筋立て)	264-1
3	木製品	櫛	15.4	3.5	0.9	-	-	-	不明	SK140		264-2
4	木製品	櫛	10.8	[6.9]	1.0	-	-	-	桎目	SK140	鞘残存(鞘の木取りは板目)皮残存	264-3
5	木製品	櫛	5.8	9.8	1.1	-	-	-	桎目	SK140	鞘と櫛の一部	
6	木製品	漆椀	-	-	-	-	[4.8]	-	不明	SK142	内面赤漆 外面黒漆	
7	木製品	定規	[11.5]	1.6	0.4	-	-	-	-	SK142	裏面黒漆 竹製	264-7
8	木製品	杓子	[21.8]	6.9	0.5	-	-	-	桎目	SK149		265-1
9	木製品	傘	75.7	11.8	-	-	-	-	板目	SK149	手元轆轤と柄黒漆 頭轆轤孔内に横木 柄と骨は竹製 骨に孔あり	
10	木製品	提灯	18.7	3.3	0.4	-	-	-	桎目	SK151	把手 表裏面黒漆	
11	木製品	板	17.4	7.0	1.1	-	-	-	板目	SK151	焼印「渦巻」5	265-3
12	木製品	下駄	22.5	8.0	-	-	9.2	-	板目	SK156	連歯下駄 焼印 表面一部に黒漆	265-4
13	木製品	櫛	9.5	3.2	0.8	-	-	-	板目	SK156	側面背に黒漆	
14	木製品	漆椀蓋	つまみ径6.0		-	-	[1.9]	-	板目	SK170	内面赤漆 つまみ縁黒漆	
15	木製品	樽側板	12.4	6.5	1.2	-	-	-	板目	SK171	焼印あり「土」か	
16	木製品	漆坏	-	-	-	8.9	[2.6]	[2.4]	横木取り	SK289	内外面赤漆 内面金・茶で文様(内面に金字で鶴と梅の木の絵)	270-16
17	木製品	漆椀	-	-	-	-	5.0	7.3	横木取り	SK289	内面赤漆 外面黒漆	271-1
18	木製品	漆椀蓋	つまみ径-		-	-	[0.9]	-	横木取り	SK299	内面赤漆 外面黒漆	
19	木製品	漆椀	-	-	-	-	[4.8]	7.9	横木取り	SK300	内面赤漆 外面黒漆 20とセット	271-6
20	木製品	漆椀蓋	つまみ径-		-	11.0	2.8	-	横木取り	SK300	19とセット	271-7
21	木製品	帚	[19.4]	7.6	2.8	-	-	-	-	SK300	棕櫚帚 柄は笹	271-8
22	木製品	漆椀	-	-	-	-	[2.9]	-	板目	SK301	底部多孔 内外面黒漆 金で文字「尙」	272-1
23	木製品	漆椀	-	-	-	-	[5.5]	-	横木取り	SK301	内外面黒漆高台内赤漆で「ひの十」	272-2
24	木製品	漆椀蓋	つまみ径5.0		-	-	[2.2]	-	横木取り	SK303	内外面赤漆 つまみ内黒で三つ星	

ある。156は糠白釉を掛ける陶器土瓶の蓋で、大堀相馬系陶器の可能性が有る。このほか、トビガンナ状文を有す「すず徳利」も出土しており、栗橋8期の土壌と考えられる。本跡からも鍛冶関連遺物が多く出土しており、第594図131・132に鞆の羽口2点を示す。

第289・293号土壌は区画東側に位置する。いずれも少量の鍛冶関連遺物が出土している。第289号土壌は長軸1.93mの円形を呈する土壌である。断面は浅い播鉢状で、覆土に礫・陶磁器を交える。第361図158~161に陶磁器を示す。159の磁器の湯呑形碗が認められ、栗橋7期後半ないし8期の遺構と考えられる。第373図16・17は木製品の漆器類である。

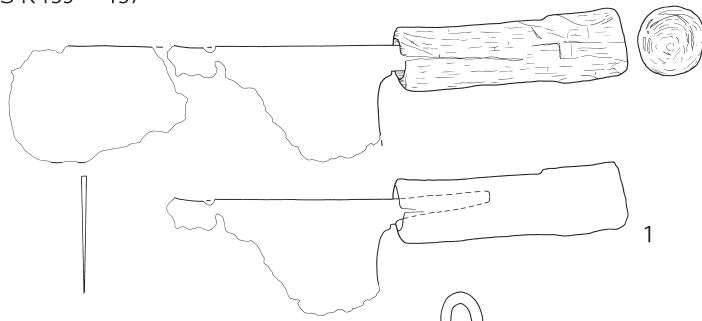
第293号土壌は長軸1.7mの円形を呈する土壌で、断面形は播鉢状で、最上層と下層は砂質土、

中層がシルト質土である。第361図162~166に陶磁器を示す。166の陶器土瓶は、トビガンナ状の施文を有し、明るい褐色の鉄釉を施す。大堀相馬系陶器と思われる。底部の墨書は「百□□六」で、三文字目は「十」あるいは「近」の可能性が有る。

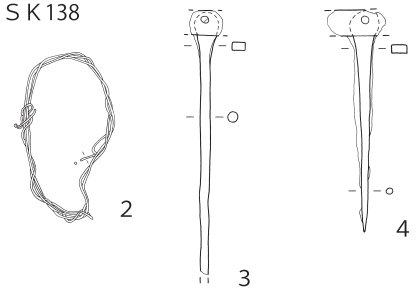
第294号土壌は区画北部に位置し、長軸1.16mの隅丸長方形を呈する。本跡からは鍛冶関連遺物は出土していないが、覆土中層には木炭の薄層が認められる。第361図167~170に出土した陶磁器を示す。栗橋7~8期の様相である。

第296号土壌は長軸1.56mの不整形を呈する土壌である。覆土上層に砂質土が堆積し、下層はシルト質土である。第362図171は肥前系磁器の小丸碗で外面に山水文、内底面に崩れた岩波文の染付である。172は瀬戸美濃系磁器の端反碗で、

SK 135 ~ 137



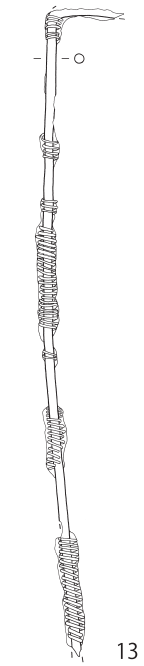
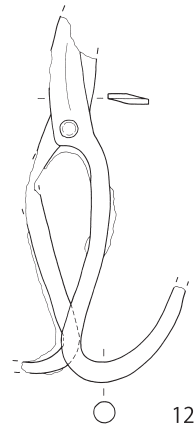
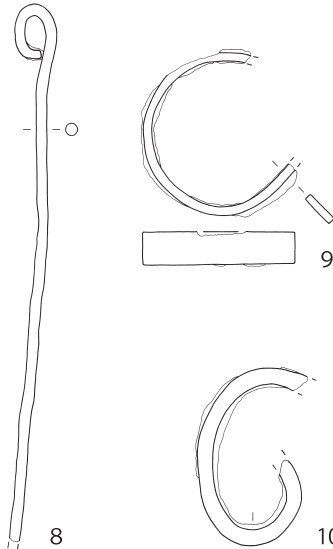
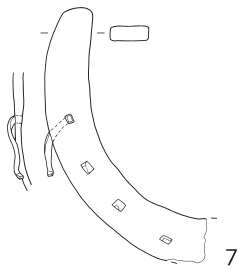
SK 138



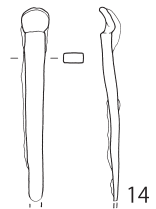
SK 140



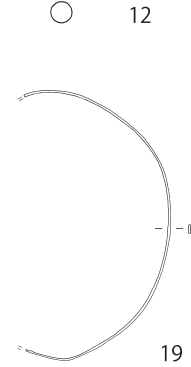
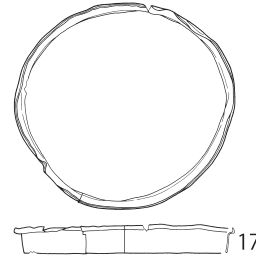
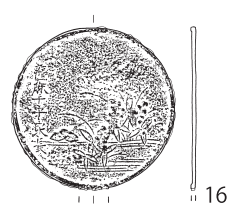
SK 142



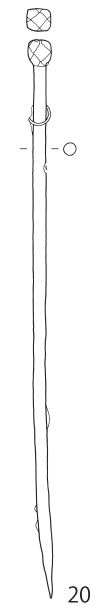
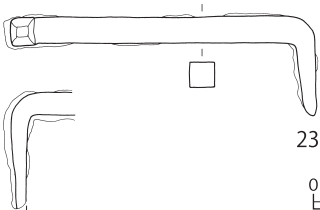
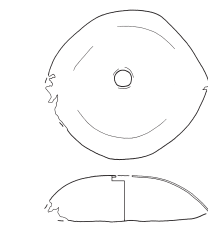
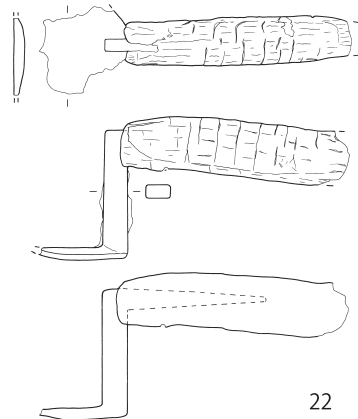
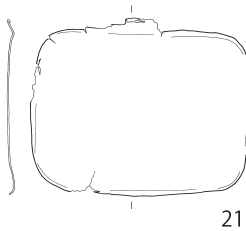
SK 143



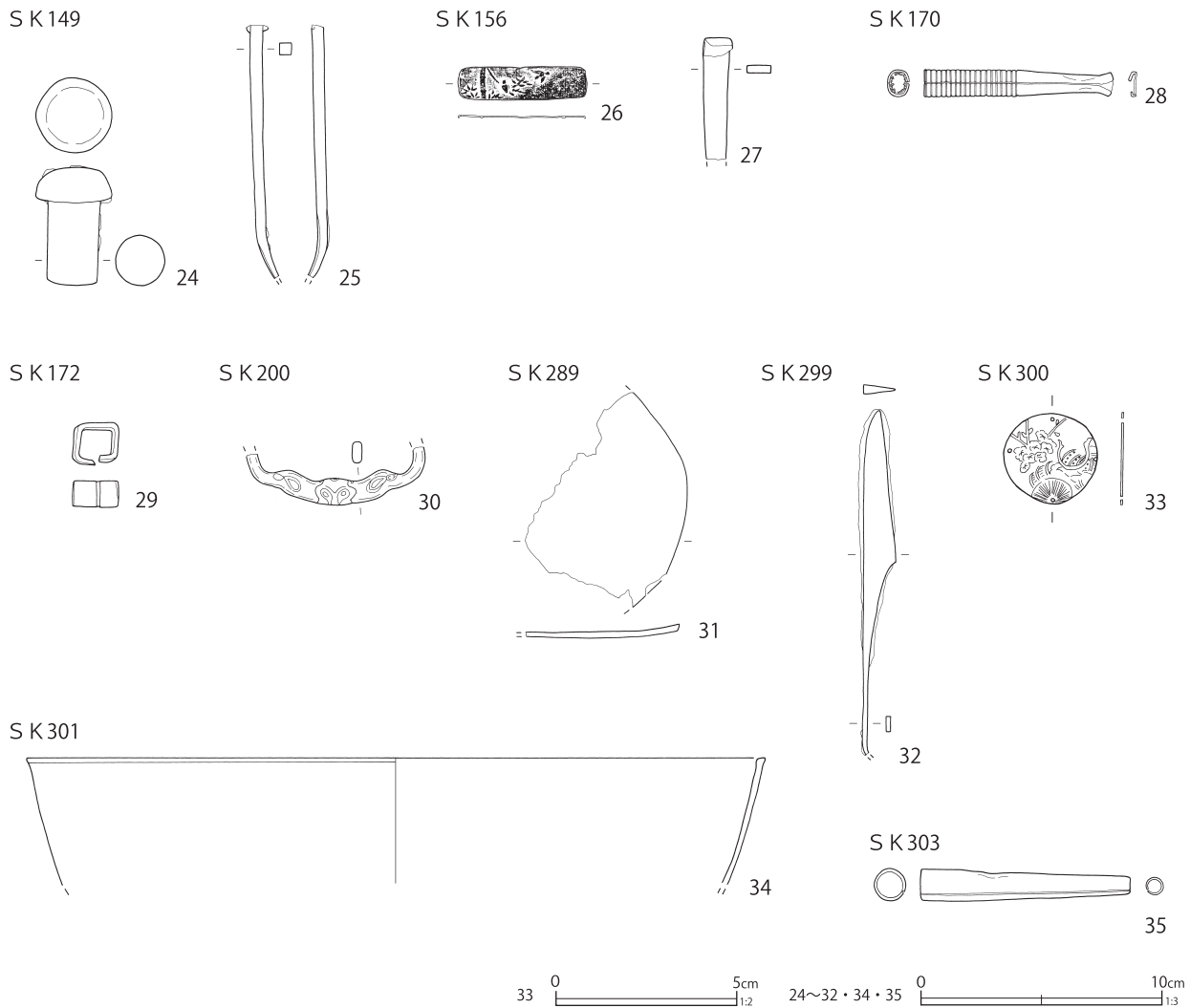
SK 146



SK 148



第 375 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (28)



第 376 図 第 4 区画の土壌出土遺物 (29)

第 180 表 第 4 区画の土壌出土遺物観察表 (6) (第 375・376 図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	包丁	長さ [18.3] 刃長 [8.5] 刃幅 4.6 背幅 0.2 重さ 54.2	SK135・136・137	木柄付き	275-1
2	銅製品	針金	縦 6.7 横 4.0 厚さ 0.1 重さ 3.1	SK138	径約 5.5 × 2.5cm の棒状品に括り付けられていた形状を残す	
3	鉄製品	不明	長さ [10.4] 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 7.4	SK138	端部接合 円形で小孔あり	
4	鉄製品	不明	長さ 8.7 幅 0.6 厚さ 0.3 重さ 7.4	SK138	錐先端 端部接合 円形で小孔あり	
5	銅製品	スプーン	長さ [3.9] 幅 1.3 厚さ 0.08 重さ 3.1	SK140	柄先端 縁取りあり	
6	銅製品	飾金具か	長さ [7.3] 幅 3.8 厚さ 0.03 重さ 3.8	SK140	縁に釘孔 4	
7	鉄製品	蹄鉄	縦 [10.0] 横 [6.4] 厚さ 0.6 重さ 54.3	SK140	留釘 1 残存	
8	鉄製品	火箸	長さ [21.3] 厚さ 0.5 重さ 23.4	SK140	箸頭環状	
9	鉄製品	環金具	径 [6.4] × 6.0 幅 1.3 厚さ 0.3 重さ 27.9	SK140		
10	鉄製品	不明	縦 7.0 横 [4.4] 厚さ 0.7 重さ 29.0	SK140		
11	銅製品	煙管	長さ 6.5 小口径 0.8 口付径 0.6 重さ 5.6	SK142	吸口 内部に羅宇残存	273-1
12	鉄製品	鋏	長さ [14.5] 刃幅 1.5 背幅 0.2 重さ 83.0	SK142	植木鋏	
13	鉄製品	把手か	長さ [25.8] 高さ [3.5] 厚さ 0.4 重さ 24.8	SK142	丸棒に鉄線が螺旋状に巻付く	
14	鉄製品	釘	長さ [7.7] 幅 0.8 厚さ 0.4 重さ 7.7	SK143		

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
15	鉄製品	釘	長さ [7.1] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 4.2	SK143		
16	銅製品	手鏡	径 6.4 厚さ 0.13 重さ 29.5	SK146	「薩摩守家長」銘 笹に南天 持ち手欠失	278-1
17	銅製品	襖引手	径 8.1 × 8.7 高さ 1.2 重さ 8.6	SK146	側板のみ	
18	銅製品	釘隠しか	縦 5.8 横 6.4 厚さ 0.03 重さ 6.4	SK146		
19	銅製品	不明	縦 10.8 横 [5.8] 厚さ 0.08 重さ 2.3	SK146		
20	鉄製品	火箸	長さ 22.2 厚さ 0.5 重さ 31.0	SK146	箸頭切り状 鉄線付着	
21	銅製品	蓋	縦 7.1 横 8.8 厚さ 0.04 重さ 11.2	SK148	石鹼箱の蓋か	
22	鉄製品	コテ	長さ [12.3] 幅 [3.0] 厚さ 0.5 重さ 33.0	SK148	木柄付き	
23	鉄製品	錠	長さ 12.1 幅 1.0 厚さ 1.0 重さ 65.2	SK148		
24	鉄製品	栓	径 3.1 高さ 4.8 重さ 119.2	SK149		
25	鉄製品	釘	長さ [10.5] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 10.8	SK149		
26	銅製品	煙草入れの金具	縦 1.4 横 5.3 厚さ 0.04 重さ 2.5	SK156	前金具 裏金欠失 笹に鳥	273-2
27	鉄製品	釘	長さ [5.0] 幅 1.0 厚さ 0.3 重さ 8.7	SK156		
28	銅製品	煙管	長さ [7.8] 小口径 1.1 × 0.9 口付径 1.0 × 0.4 重さ 14.0	SK170	吸口 口付潰れる 内部に羅字残存	273-1
29	鉄製品	不明	縦 1.8 横 1.9 高さ 1.1 厚さ 0.2 重さ 9.5	SK172		
30	鉛製品	引出しの把手	縦 [2.4] 横 [7.4] 厚さ 0.4 重さ 26.4	SK200		274-2
31	鉄製品	鍋か	縦 [8.9] 横 [6.7] 厚さ 0.3 重さ 35.1	SK289	鍋の底か	
32	鉄製品	握鉄	長さ [14.3] 刃幅 1.3 背幅 0.4 重さ 18.4	SK299		
33	銅製品	飾金具	径 2.5 厚さ 0.03 重さ 1.2	SK300	団扇形 梅?に兜 鍍金あり	279-2
34	鉄製品	鍋	口径 (30.6) 器高 [5.2] 厚さ 0.3 重さ 31.9	SK301		
35	銅製品	煙管	長さ 8.7 小口径 1.3 口付径 0.7 重さ 13.4	SK303	吸口	

S K 156



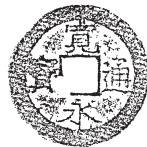
1

S K 198



2

S K 287



3

S K 299



4

S K 300



5

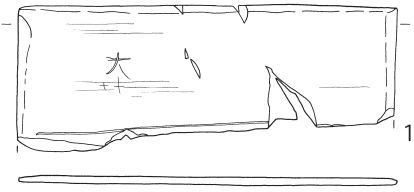


第 377 図 第 4 区画の土壌出土遺物 (30)

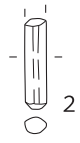
第 181 表 第 4 区画の土壌出土遺物観察表 (7) (第 377 図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径 23.1 厚さ 1.1 重さ 2.9	SK156	寛永通寶 (新)	
2	銅製品	銭貨	径 22.9 厚さ 1.0 重さ 2.5	SK198	寛永通寶 (新)	
3	銅製品	銭貨	径 28.3 厚さ 1.4 重さ 5.5	SK287	寛永通寶 (新) 11 波	
4	銅製品	銭貨	径 23.4 厚さ 1.1 重さ 2.2	SK299	寛永通寶 (新)	
5	銅製品	銭貨	径 22.9 厚さ 1.0 重さ 2.3	SK300	寛永通寶 (新)	

S K 142



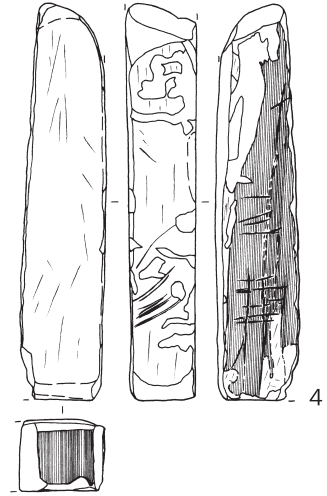
S K 146



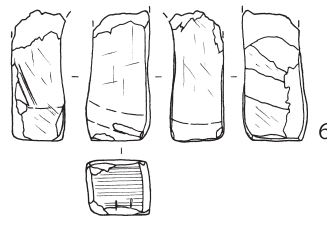
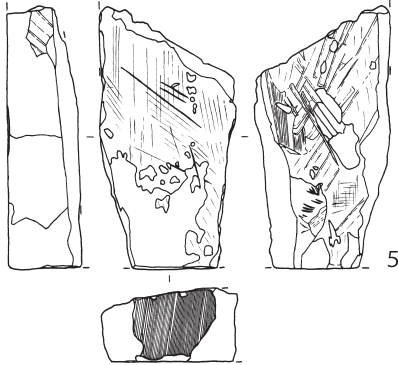
S K 147



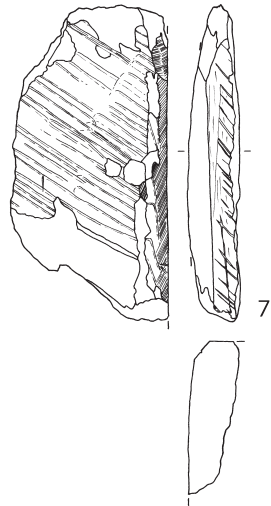
S K 296



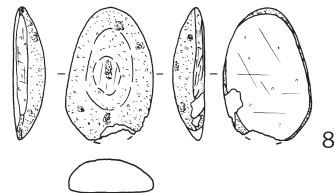
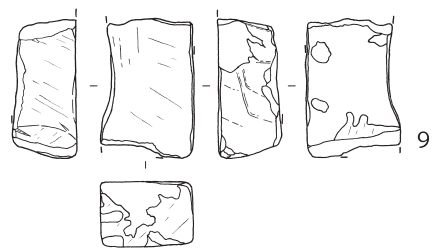
S K 298



S K 299



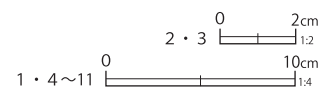
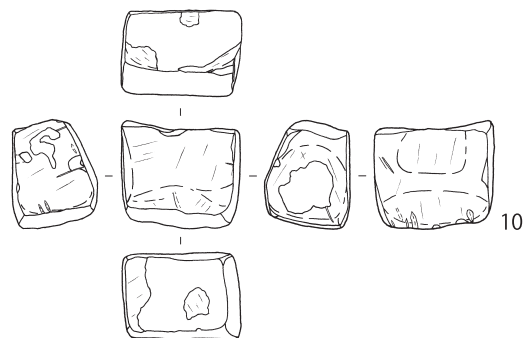
S K 320



S K 690



S K 322



第 378 図 第 4 区画の土壙出土遺物 (31)

第182表 第4区画の土壌出土遺物観察表(8)(第378図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	石板	[7.7]	20.1	0.4	104.9	粘板岩	SK142	刻書「大」	
2	石製品	石筆	[2.4]	径0.5		1.3	不明	SK146		284-2
3	石製品	石筆	3.7	径0.5		1.9	不明	SK147		284-2
4	石製品	砥石	[21.0]	[4.5]	3.8	675.4	ホルンフェルス	SK296	ノコギリ痕 砥面2 被熱(一部黒色化)	283-7
5	石製品	砥石	[13.9]	[7.2]	3.9	560.8	ホルンフェルス	SK298	ノコギリ痕 幅広工具痕(再加工あり) 砥面2 被熱(剥落)	
6	石製品	砥石	[6.9]	[3.4]	2.9	111.3	流紋岩	SK298	側縁部ノコギリ痕 砥面4 被熱(剥落)	
7	石製品	砥石	[16.7]	[8.3]	[2.4]	410.3	ホルンフェルス	SK299	幅広工具痕 砥面1	
8	石製品	磨石	7.0	4.7	1.7	31.0	角閃石安山岩	SK299	多孔質 自然面遺存 使用面4	284-1
9	石製品	砥石	[7.3]	[4.6]	[3.4]	195.8	流紋岩	SK320	幅広工具痕 砥面4	
10	石製品	砥石	5.7	6.3	4.5	253.4	砂岩	SK322	砥面6 被熱(一部赤色化)	
11	石製品	砥石	23.2	[4.0]	3.1	481.9	ホルンフェルス	SK690	幅広工具痕 ノコギリ痕 刃物痕 砥面2 一部剥落	283-13

やや薄手のものである。173・174は肥前系磁器の合子の蓋と身である。175は土師質土器の焙烙で、厚手のものである。他に、京都信楽系陶器の土瓶蓋が認められ、栗橋7期の様相である。第367図3は土製の人形で狐を模す。

本跡からは比較的多量の鍛冶関連遺物が出土している。第594～595図134～139に鞆の羽口を示す。

第297号土壌は、区画中央部のやや北東に位置し、長軸1.7mの方形を呈する土壌である。下層は木質繊維を多く含む粘質土、中層に鞆の羽口や炭化物を多く含む、上層は砂質土で覆われる。

陶磁器には、蛸唐草文を染付する肥前系磁器御神酒徳利・広東碗、陶器では松岡焼土瓶片が認められ、栗橋7期後半の様相である。酸化コバルト染付の磁器平碗が1点含まれるが、全体的な様相から混在と見られる。鍛冶関連遺物も比較的多い。第595・596図140～168に鞆の羽口を示す。

第298号土壌は、長軸1.53mの隅丸長方形を呈する浅い土壌である。重複する第159号土壌より古い。第362図179に示した型紙摺絵染付の磁器平碗が出土しているが、全体的には古手の遺物が多い。これは下層の第690号土壌の遺物が混在しているためと思われる。本跡からも鍛冶関連遺物が多く出土したが、これらにも第690号土壌の遺物が混在するようである。第596図169～171に鞆の羽口を示す。

第299号土壌は、区画中央よりやや北西に位置する。長軸1.66mの隅丸方形を呈し、覆土には鉄滓が多量に含まれる。第363図185～188には古手の遺物を中心に示したが、他に複数の型紙摺絵染付・銅版転写染付の磁器もみられる。第374図18は漆椀蓋で、内面赤漆、外面黒漆塗りである。つまみ径2.7cm、口縁が欠けるが下部径6.4cmと小形の器種である。

重複する第300号土壌は、長軸1.72mの隅丸長方形を呈する土壌である。第363・364図189～199に出土した陶磁器を示す。189は木型打込で、施文した上に染付を施す磁器の端反碗である。遺物の様相から栗橋8期の帰属で、第299号土壌よりも古いと考えられる。

第374図19～21に木製品を示す。19の漆椀と20の漆椀蓋はセットと考えられる。19の外面は腰の張りがなく、緩やかに立ち上がる。20のつまみ径は7.1cmほどと推定され、つまみの大きな器形である。21は箒である。棕櫚を紐で編み、穂先とする。笹竹の柄が一部残存する。第376図33は金属製品で、団扇を模した飾り物である。

第299・300号土壌のいずれからも鍛冶関連遺物の出土が認められた。第597図172～186に鞆の羽口を示す。

第301号土壌は区画中央のやや南に位置し、長軸2.65mの隅丸長方形を呈する土壌である。覆土下層に瓦・陶磁器を含むので、廃棄土壌である。

う。

第364図200～206は出土した陶磁器で、栗橋7期の様相である。第374図22・23は出土した木製品である。22は漆椀である。内面底部に多数の穴があげられている。内外面黒漆塗りで、内面には金で「畚」の文字が書かれる。23は内外面黒漆塗りで、高台内に赤で「ひの十」の文字が書かれる。鍛冶関連遺物も出土しており、第597図187～193に鞆の羽口を示す。

第302号土壌は区画中央より西側に位置し、第153号土壌（栗橋7期後半～8期）より古い。長軸2.85mの隅丸長方形を呈する土壌とみられる。陶磁器は第364図207～211に示したもののほか、陶器青緑釉土瓶等が含まれる。栗橋7期の帰属とみられる。本跡からは鍛冶関連遺物は出土していない。

第303号土壌は区画中央部のやや西側に位置し、一辺0.75m前後の方形を呈する土壌である。覆土上層は灰・木炭の互層、下層は鉄滓・木炭を含む粘質土である。鍛冶関連遺物が比較的多く、第598図194～197に鞆の羽口を示す。以上の所見から、本跡は鍛冶関連の廃棄土壌と考えられる。

第364図212・213に示したように、瀬戸美濃系磁器の端反碗・陶器土瓶が出土しており、栗橋7期に帰属する。

第313号土壌は、地境溝である第17号溝跡と重複する土壌で、長軸1.2mの不整形を呈する。第365図214には大堀相馬系陶器の坏を示した。他に銅版転写染付の磁器類が出土している。

第320号土壌は、区画西側に位置する。長軸1.4mの隅丸長方形を呈する土壌である。深さ1.0mと深度があり、間に薄い粘土層を挟んで、上下に鉄滓を多量に含む。第365図215～219は出土した陶磁器で、215の瀬戸美濃系磁器端反碗を含む。陶磁器の様相は栗橋7期である。鍛冶関連遺物は碗形滓2,758gおよび鞆の羽口1点（第598図198）である。

第322号土壌は、第296号土壌と全体が重複しており、本跡のほうが古い。長軸1.72mの隅丸長方形を呈する土壌である。覆土は鉄分を多く含むシルト質土である。第365図220～226に出土した陶磁器を示す。220の瀬戸美濃系磁器端反碗、221の薄手の湯呑形碗、224・225の陶器土瓶類が出土しており、第296号土壌とあまり時期差の無い栗橋7期の様相である。鍛冶関連遺物も出土しており、第598図199～204に鞆の羽口を示す。第599図205は凝灰岩製の石材で、強く被熱して表面の一部が溶けている。炉寄石と考えられる。詳細は「第VI章 調査のまとめ」で触れる。

第690号土壌は、区画中央部の少し北東側に位置し、長軸1.65mの隅丸長方形を呈する。覆土は鉄滓・木炭を含む粘質土である。第366図227～237は出土した陶磁器である。概ね栗橋7期までの様相であるが、非掲載資料に酸化コバルト染付の土瓶が認められる。

このように第4区画では、土壌から鍛冶関連遺物が多く出土している。その時期は遅くとも栗橋7期には始まっている。以後、明治後半期以降まで継続したと考えられる。

(5) 第5区画(区画W)

第5区画(区画W)では、区画中央部を中心に、密に土壌が展開する。具体的に遺構配置を確認してみると、区画の西側には疎らに小規模～中規模の土壌が分布するが、中央部付近には、南北軸が長い土壌をはじめ、中規模の土壌が多く重複して検出されている。東側には、調査区際寄って大型の第183号土壌をはじめ、中型～大型の土壌が複雑に重複して検出されている。第5区画か

らは明確な建物跡は検出されていないが、土壌の特徴的な分布は、建物をも含む敷地の使い方と関わるものであろう。『絵図』によれば「塩物屋彦兵衛」、『営業便覧』の「穀商 鈴木惣七」にあたる区画とみられる。

以下、第5区画の土壌の中から、区画東側の大型土壌の一つである第184号土壌と、第290号土壌、区画中央部に所在する廃棄土壌の第226号土壌・第260号土壌について取り上げる。

第183表 第5区画土壌一覧表 単位:m

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
161	5	E7-I5	円形	0.70	0.65	0.15	N-88°-E		415
162	5	E7-I4	楕円形	0.90	0.70	0.10	N-50°-E		415
163	5	E7-I4	長楕円形	2.20	0.65	0.10	N-71°-E	SK177 重複	415
164	5	E7-I4/5	隅丸方形	1.40	1.20	0.30	N-68°-E		415
165	5	E7-I5	楕円形	1.25	1.10	0.20	N-21°-W	SK166 重複	415
166	5	E7-I5	楕円形	(0.65)	0.60	0.15	N-34°-W	SK165 重複	415
167	5	E7-I4	隅丸長方形	1.20	0.75	0.30	N-17°-W	SK168 重複	415
168	5	E7-I4	円形	0.70	0.60	0.10	N-0°	SK167 重複	415
169	5	E7-I5	隅丸長方形	4.10	0.95	0.20	N-18°-W	SK259 より新 SK193 重複	415
173	5	E7-I5	長楕円形	1.15	0.70	0.15	N-49°-W	SK196 より新 SK181 重複	415
174	5	E7-I5	楕円形	0.85	0.70	0.05	N-90°	SK314 重複	415
175	5	E7-I5	不整隅丸長方形	2.70	0.60	0.15	N-17°-W	桶 23・SD19・SK176/201/314 重複	415
176	5	E7-I5	楕円形	0.95	(0.50)	0.10	N-49°-W	SK175/314 重複	415
177	5	E7-I4	隅丸長方形	1.80	1.30	0.15	N-77°-E	SK163 重複	415
178	5	E7-I4	楕円形	0.75	0.55	0.15	N-16°-W		415
179	5	E7-I4	楕円形	1.00	0.65	0.10	N-68°-E		415
181	5	E7-I5	長楕円形	2.15	1.30	0.25	N-20°-W	SK196 より古 SK201 より新 SK173/259/314 重複	415
182	5	E7-I6	不明	(2.20)	1.90	0.20	N-72°-E	SK184/337 より新 SK183/290 重複	416
183	5	E7-H6, I6	不整形	4.00	3.80	0.45	N-74°-E	SK182/184/208/212 重複	416
184	5	E7-H6, I6	不明	(2.75)	1.25	0.40	N-15°-W	SK182/212/218 より古 SK183/337 重複	379
186	5	E7-I5	不整形	1.35	(1.25)	0.25	N-4°-W	SK187/226/227 重複	416
187	5	E7-I5	楕円形	(1.00)	0.70	0.25	N-62°-E	SK186 重複	416
188	5	E7-I5/6	楕円形	1.30	(0.95)	0.20	N-70°-E	SK189 重複	416
189	5	E7-I5	不整楕円形	1.45	1.40	0.30	N-30°-E	SK188/190/221/260 重複	416
190	5	E7-I5	不整長方形	(1.60)	1.10	0.30	N-21°-W	SK189/209/221/260 重複	416
193	5	E7-I5	楕円形	(0.60)	0.60	0.20	N-48°-E	SK169 重複	416
195	5	E7-I4/5	楕円形	1.10	0.80	0.45	N-35°-W		416
196	5	E7-I5	隅丸長方形	2.30	1.10	0.25	N-10°-W	SK173 より古 SK181/201 より新 SK314 重複	415
201	5	E7-I5	不明	1.10	(0.75)	-	-	SK181/196 より古 SK175/314 重複	415
202	5	E7-I5	不整形	1.55	1.35	0.35	N-21°-E	SK209/308 重複	416
208	5	E7-H6, I6	隅丸方形	1.60	(1.15)	0.35	N-87°-E	SK183 重複	416
209	5	E7-I5	楕円形	(0.80)	0.70	0.10	N-56°-E	SK190/202/260 重複	417
210	5	E7-I5	楕円形	1.20	0.95	0.20	N-4°-E	SK217 重複	417
212	5	E7-H6, I6	不明	1.35	(0.40)	0.55	N-72°-E	SK184 より新 SK183 重複	417
217	5	E7-I5	隅丸長方形	2.30	1.35	0.45	N-63°-E	SK210 重複	417
218	5	E7-H6, I6	隅丸長方形	0.70	0.70	0.45	N-71°-E	SK184 より新	417
221	5	E7-I5	隅丸長方形	1.10	(0.75)	0.25	N-75°-E	SK308 より新 SK189/190/260 重複	417
224	5	E7-I4, J4	不整形	3.25	(0.60)	0.40	N-19°-W		417



番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
226	5	E7-I5	隅丸長方形	1.70	1.00	0.70	N-72° -E	SK186/227 重複	389
227	5	E7-I5	不明	1.05	(0.80)	0.10	N-53° -E	SK186/226 重複	417
252	5	E7-I5/6	隅丸長方形	2.25	1.70	0.50	N-20° -W		417
253	5	E7-I5/6	不整形	1.35	1.20	0.40	N-60° -E		417
259	5	E7-I5	不整形	2.00	1.10	0.10	N-30° -W	SK169 より古 SK181 重複	417
260	5	E7-I5	不整形	3.50	1.55	0.40	N-24° -W	SK189/190/209/221 重複	400
290	5	E7-H6, I6	隅丸方形	2.60	(1.00)	0.35	N-21° -W	SK182/337 重複	413
308	5	E7-I5	不明	(0.50)	0.50	0.20	N-33° -W	SK221 より古 SK202 重複	418
314	5	E7-I5	不整形	2.25	2.05	0.30	N-28° -W	SK174/175/176/181/196/201 重複	418
337	5	E7-H6, I6	不整形	3.70	1.70	0.35	N-11° -W	SK182 より古 SK184/290・E7-I6 P2 重複	418

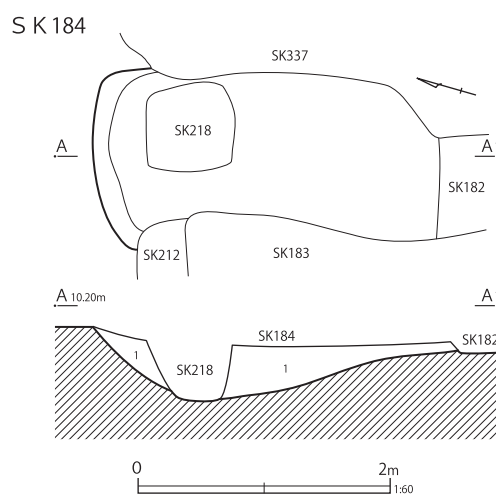
### 第184号土壌 (第379～387図)

区画の東側、E7-H6、I6グリッドに位置する。多くの土壌と重複するが、その中でも古いもので、断面観察などによって、第182・212・218号土壌よりも古いことが確認されている。

他の土壌との重複が多く、規模・形状がはっきりしないが、長軸2.75m以上、短軸1.25m以上の規模である。北辺以外は遺存しないが、本来は隅丸長方形であったと思われる。覆土は黒褐色土の単層で、木片等の遺物も多く含むことから、生活用具の廃棄土壌と考えられる。

第380～384図には出土した陶磁器を示した。

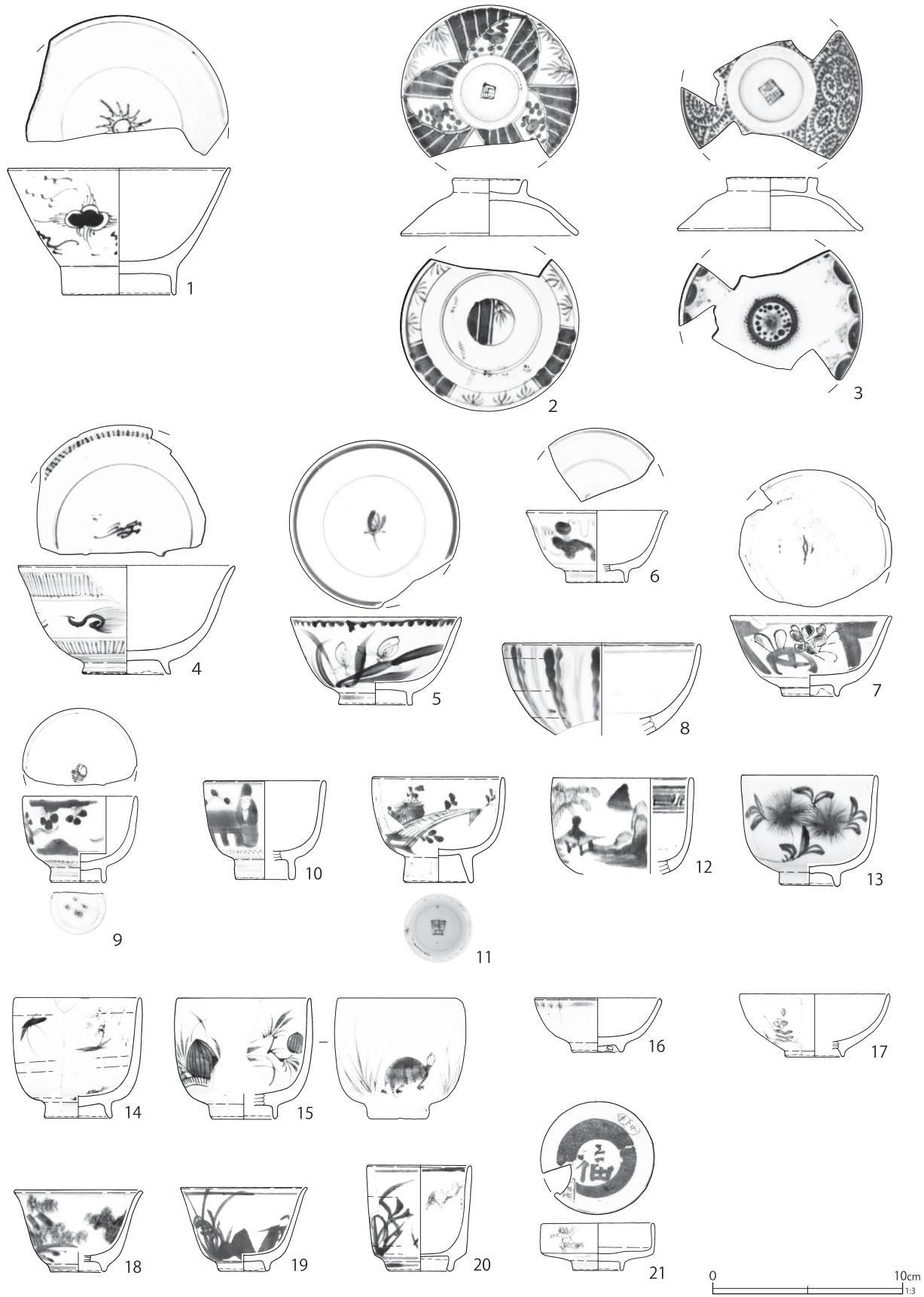
1～23までは磁器の碗・坏類である。1は肥前系磁器の広東碗で、外面は崩れた宝珠文と雲竜文、内面口縁部に二重圏線、底部に火焰宝珠を染付する。2・3は瀬戸美濃系磁器端反碗の蓋で、2は外面を三区画に分ち樹文を、内面もこれに揃えたモチーフを口縁部と中心に染付する。3は外面に蛸唐草文を、内面口縁部に輪宝文を染付する。呉須の発色は青味が強い。つまみ部が幅広いのが特徴的なものである。4・5は瀬戸美濃系磁器の端反碗である。4は厚手のものである。高台部はややハ字状になる。外面は縦格子文を上下に、その間に崩れた雲竜文を染付する。内面は口縁部に格子文、底部は崩れた竜文を染付するようである。5はやや小型のもので、外面に漢詩文、水仙を、内面には口縁部に濃みで圏



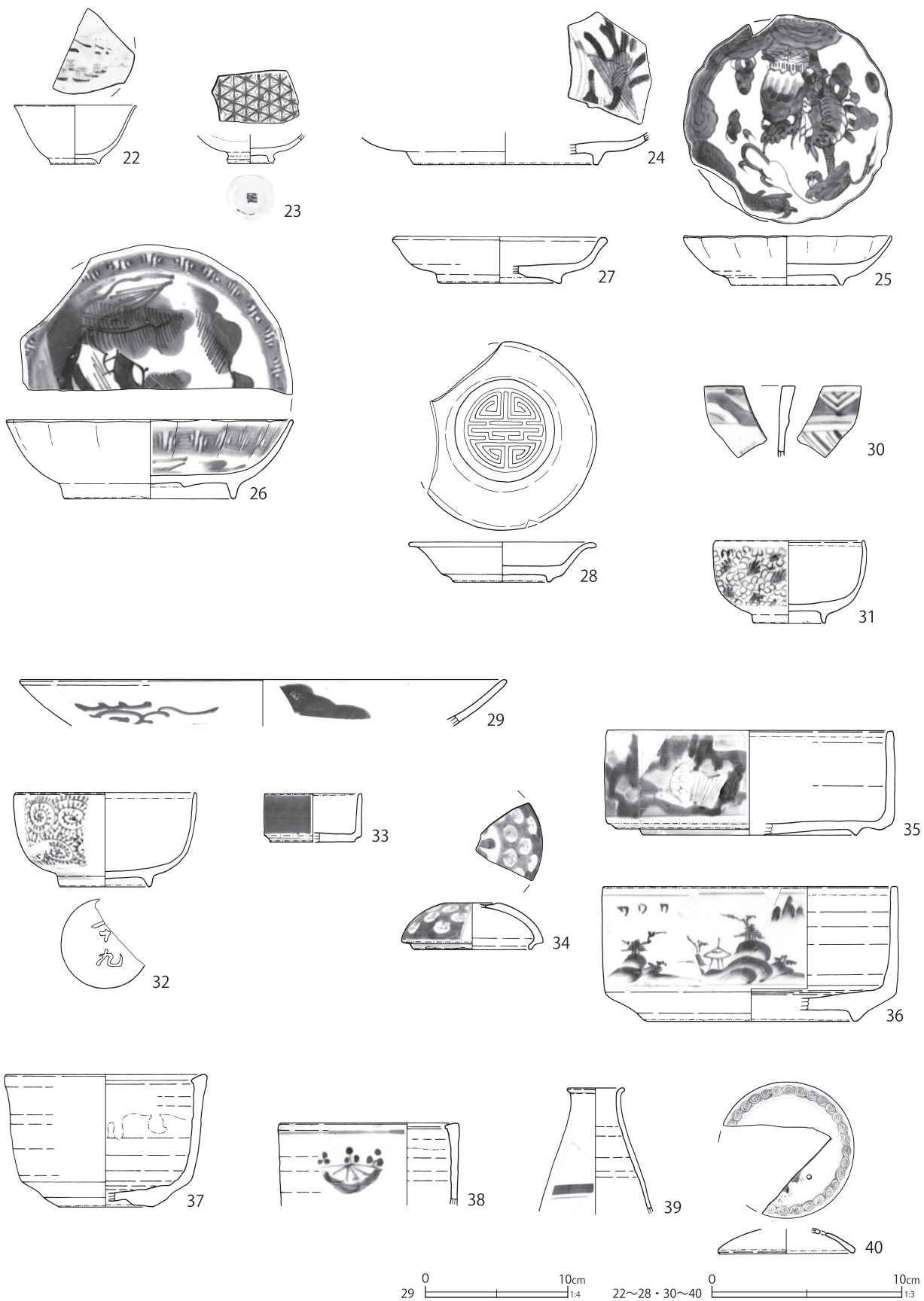
第184号土壌  
1 黒褐色土 木片等の遺物多く含む

第379図 第184号土壌

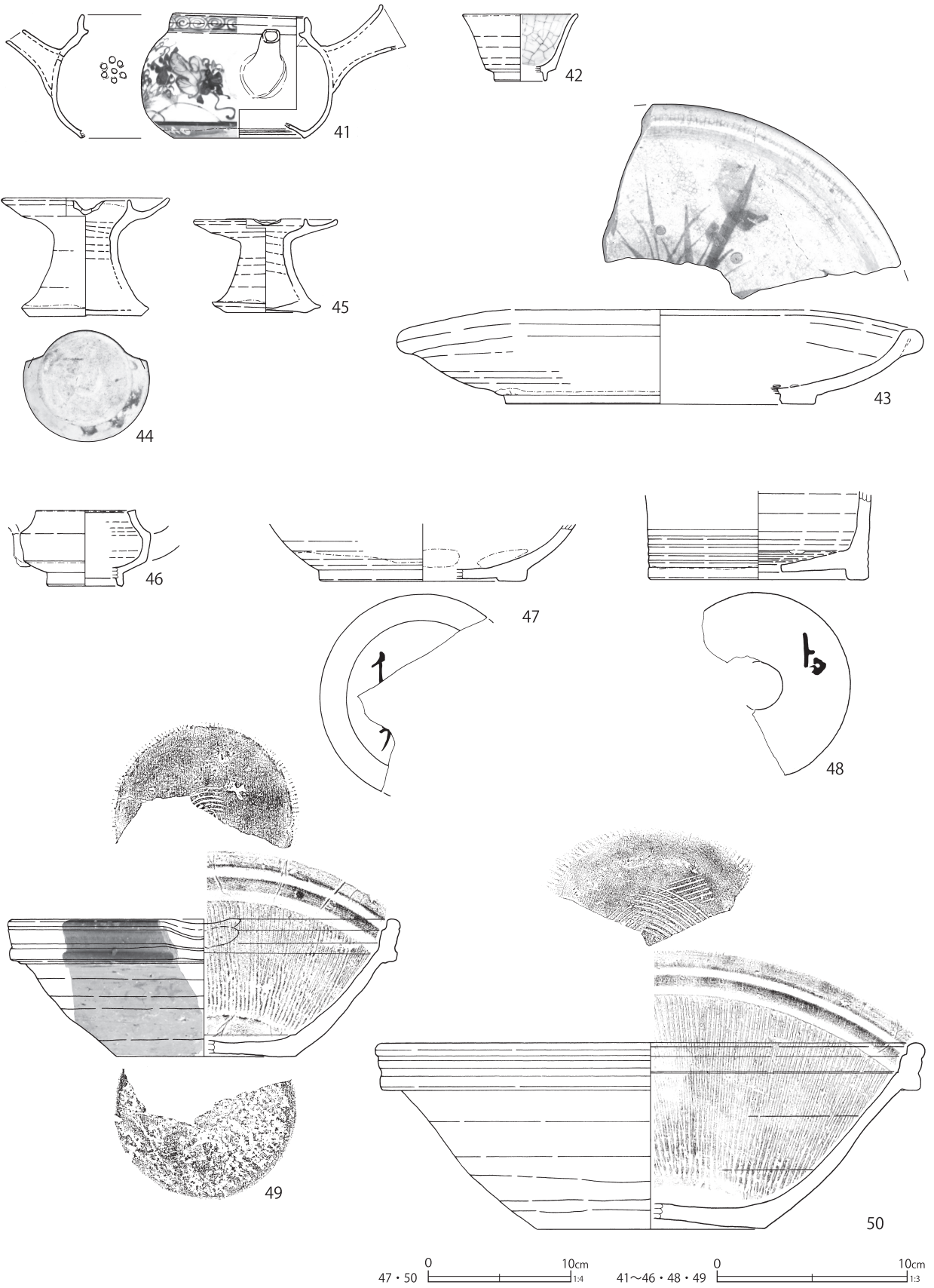
線、底部に二重圏線と水仙らしい花文を染付する。6は瀬戸美濃系磁器の端反の坏で、外面に草花文、内面口縁部に圏線を染付する。7は瀬戸美濃系磁器の端反碗で、小型のものである。赤を主体とした色絵を施す。8は瀬戸美濃系磁器の丸碗で、外面によるけ縞文、内面口縁部に二重圏線を染付する。9～15は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。9・10は小型の坏に近いものである。9は外面に梅花、内面底部に壽文を染付し、高台内に「永楽年製」銘を染付する。10は外面に人物と壽文、内面口縁部に二重圏線を染付し、高台部が高い。11は外面に橋と花文を染付し、高い高台部には櫛歯状文を染付する。12はやや厚



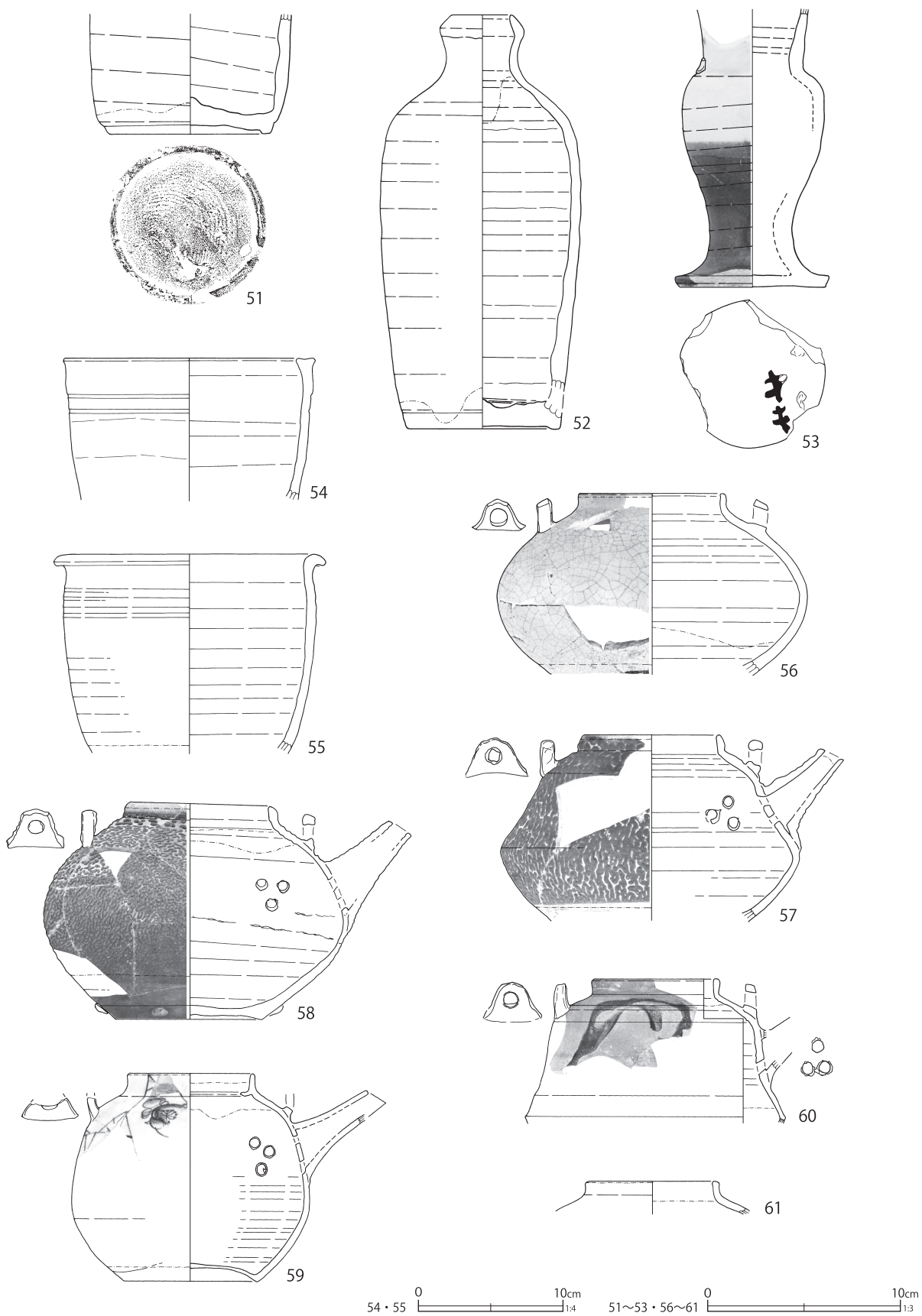
第 380 图 第 184 号土壙出土遺物 (1)



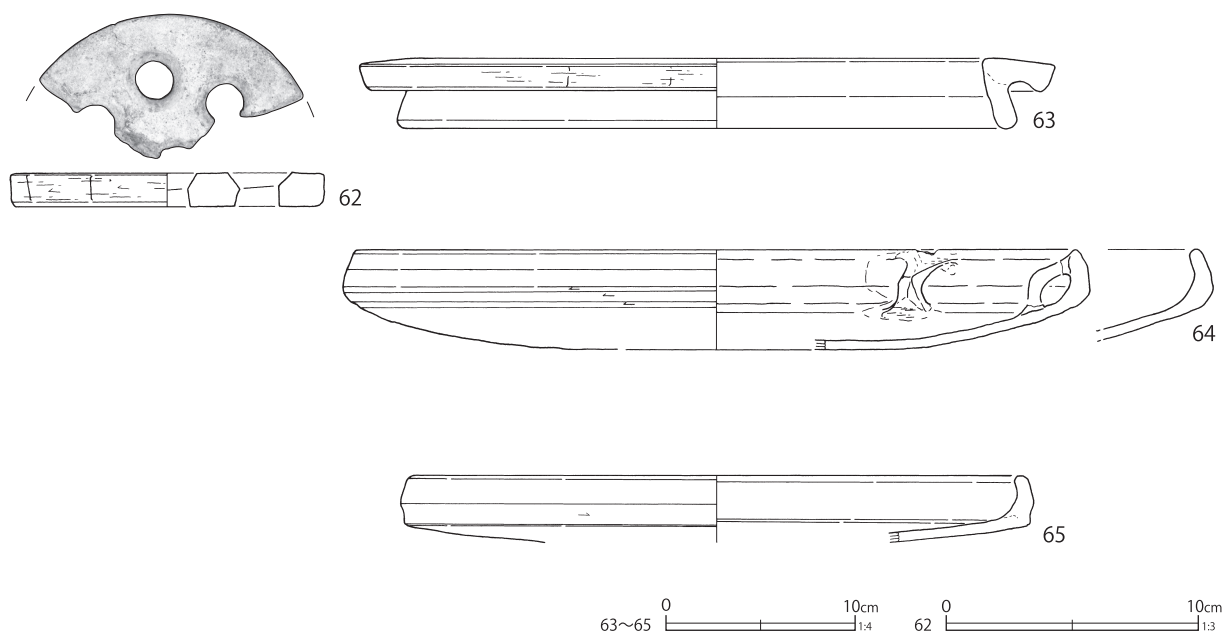
第381图 第184号土壙出土遺物(2)



第 382 图 第 184 号土壙出土遺物 (3)



第 383 図 第 184 号土壙出土遺物 (4)



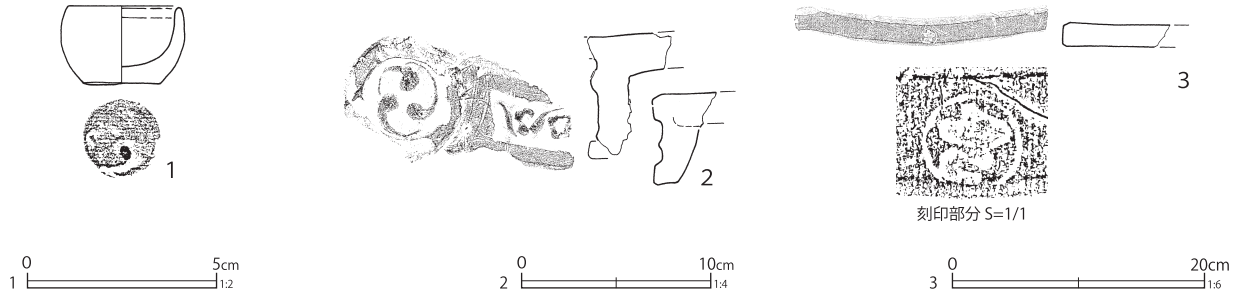
第384図 第184号土壙出土遺物(5)

第184表 第184号土壙出土遺物観察表(1)(第380~384図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(11.6)	6.6	(5.8)	-	45	良好	灰白	SK184	肥前系 内外面施釉・染付 (広東碗)	
2	磁器	蓋	3.7	3.0	9.1	-	85	良好	白	SK184	SK182 と接合 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗の蓋)	
3	磁器	蓋	3.8	2.8	9.5	-	55	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗の蓋)	
4	磁器	碗	(11.3)	5.7	4.5	-	40	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗)	
5	磁器	碗	8.8	4.6	3.8	-	95	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗)	183-3
6	磁器	坏	(7.2)	3.7	(3.0)	-	35	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
7	磁器	碗	(8.3)	4.2	2.8	-	60	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・緑・青・黒) (端反碗)	183-4
8	磁器	碗	(10.2)	[4.8]	-	-	25	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
9	磁器	碗	(5.8)	4.5	2.7	-	45	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (湯呑形碗)	
10	磁器	碗	(6.2)	5.1	(3.0)	-	45	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (湯呑形碗)	183-5
11	磁器	碗	6.7	5.5	3.5	-	62	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (湯呑形碗)	184-1
12	磁器	碗	7.3	[5.0]	-	-	75	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 口紅 (湯呑形碗)	
13	磁器	碗	6.9	5.8	2.9	-	100	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (湯呑形碗)	184-2
14	磁器	碗	6.5	6.3	(3.4)	-	80	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (湯呑形碗)	
15	磁器	碗	(6.8)	6.3	(3.2)	-	35	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (湯呑形碗)	
16	磁器	坏	6.4	2.8	2.5	-	50	良好	灰白	SK184	肥前系 内外面施釉 外面染付	
17	磁器	坏	(7.7)	3.3	(2.9)	-	10	良好	白	SK184	肥前系 内外面施釉 外面染付 焼き継ぎ痕	
18	磁器	坏	(6.4)	4.3	(2.7)	-	45	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
19	磁器	坏	6.5	4.4	2.5	-	95	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	184-3
20	磁器	坏	5.2	5.5	3.2	-	62	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
21	磁器	坏	5.7	2.5	2.5	-	90	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉・上絵付(青)	184-4
22	磁器	坏	(6.3)	3.0	2.5	-	35	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(赤・黄・緑・茶・黒) (卵殻手酒杯)	184-5
23	磁器	坏	-	[1.5]	2.3	-	40	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(青) 外面染付	184-6
24	磁器	皿	-	[1.6]	(9.6)	-	5	良好	灰白	SK184	肥前系 内外面施釉 内面染付 (初期伊万里様式)	184-7
25	磁器	皿	10.7	2.5	5.7	-	80	良好	白	SK184	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅	185-1
26	磁器	皿	(14.9)	4.1	8.8	-	40	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	185-2
27	磁器	皿	(10.8)	2.4	(6.2)	-	35	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁釉	
28	磁器	皿	9.4	2.1	5.0	-	85	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押施文(壽文皿)	
29	磁器	皿	(33.8)	[3.2]	-	-	5	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	185-3
30	磁器	鉢	-	[3.6]	-	-	5	良好	白	SK184	肥前系 内外面施釉・染付 口紅 漆継痕	185-4
31	磁器	蓋物	7.7	4.3	3.6	-	95	良好	白	SK184	肥前系 内外面施釉 外面染付	185-5
32	磁器	蓋物	(9.4)	4.9	4.6	-	35	良好	白	SK184	肥前系 内外面施釉 外面染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(白)	185-6
33	磁器	合子	5.1	2.5	(4.4)	-	55	良好	白	SK184	肥前系 内外面施釉 外面染付	185-7
34	磁器	蓋	-	[2.4]	(6.0)	-	15	良好	白	SK184	肥前系 内外面施釉 外面染付 つまみ欠失 最大径(7.4)cm	186-1
35	磁器	段重	(15.0)	5.4	(11.2)	-	30	良好	白	SK184	肥前系 内外面施釉 外面染付 焼き継ぎ痕	
36	磁器	段重	(15.3)	7.0	(10.8)	-	35	良好	白	SK184	肥前系 内外面施釉 外面染付 被熱	
37	磁器	香炉	(10.4)	6.9	(5.0)	-	35	良好	灰白	SK184	肥前系 内外面青磁釉	
38	磁器	香炉	(9.2)	[4.3]	-	-	20	良好	灰白	SK184	肥前系 外面施釉・染付	
39	磁器	爛徳利	(2.8)	[6.5]	-	-	10	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
40	磁器	蓋	-	[1.3]	7.0	-	65	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉 上面染付 穿孔1	
41	磁器	急須	6.9	6.9	6.9	-	85	良好	白	SK184	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕	
42	陶器	坏	(5.9)	3.4	(2.6)	I	35	良好	灰赤	SK184	萬古系 内面白化粧・施釉	186-2
43	陶器	皿	(26.1)	4.9	(16.1)	I	20	良好	灰白	SK184	内外面灰釉 内面呉須絵 目跡2遺存 口縁部に大きな歪み	186-3
44	陶器	灯火具	8.5	6.1	5.9	IK	90	良好	灰白	SK184	京都信楽系 内外面透明釉 底部墨痕	186-4
45	陶器	灯火具	(7.3)	4.8	4.3	IK	80	良好	灰白	SK184	京都信楽系 内外面透明釉	
46	陶器	カンテラ	(5.2)	[3.9]	(3.8)	K	20	良好	灰白	SK184	京都信楽系 内外面透明釉	
47	陶器	こね鉢	-	[4.0]	(14.2)	EIK	10	良好	灰白	SK184	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡3遺存	186-5
48	陶器	植木鉢	-	[4.6]	(11.2)	DEIK	20	良好	灰白	SK184	瀬戸美濃系 外面緑釉・貼付文 内底面と高台部に目跡 底部墨書	186-6
49	陶器	播鉢	(20.2)	7.1	(9.3)	DEK	50	良好	明赤褐	SK184	堺明石系 内面播目 体部墨書 小型	186-7
50	陶器	播鉢	(37.6)	13.0	(15.8)	DIK	40	良好	赤褐	SK184	堺明石系 砂目底 内面播目	186-8
51	陶器	徳利	-	[6.2]	8.3	DIK	15	良好	灰白	SK184	瀬戸美濃系 底部糸切痕 外面灰釉	
52	陶器	徳利	3.1	21.3	7.8	DIK	60	良好	灰白	SK184	瀬戸美濃系 外面灰釉	
53	陶器	花生	-	[14.4]	7.6	IK	70	良好	灰白	SK184	瀬戸美濃系 底部糸切痕(右) 灰釉・鉄釉掛け分け 底部墨書	187-1
54	陶器	半胴甕	(17.2)	[9.7]	-	HIK	10	良好	にぶい黄橙	SK184	瀬戸美濃系 内外面柿釉	
55	陶器	甕	(17.2)	[13.8]	-	K	20	良好	灰白	SK184	信楽系か 内外面柿釉	
56	陶器	土瓶	7.3	[9.3]	-	K	40	良好	灰白	SK184	大堀相馬系か 外面糠白釉 外面下位煤付着	187-2
57	陶器	土瓶	(6.9)	[9.6]	-	IK	30	良好	灰白	SK184	大堀相馬系か 外面鮫肌釉	187-3
58	陶器	土瓶	7.2	11.1	7.6	K	80	良好	灰白	SK184	大堀相馬系か 外面鮫肌釉 露胎部煤付着	187-4
59	陶器	土瓶	6.3	10.7	(6.8)	IK	40	良好	灰白	SK184	外面白化粧後鉄絵・呉須絵 外面下位～底部煤付着	
60	陶器	土瓶	(6.3)	[7.4]	-	IK	35	良好	灰白	SK184	大堀相馬系か 外面鉄化粧後鉄釉流掛 内面下位透明釉	187-5
61	陶器	土瓶	(6.5)	[1.7]	-	IK	5	良好	灰	SK184	松岡系 外面海鼠釉	
62	瓦質土器	目皿	(12.0)	1.3	(11.9)	CIK	30	普通	にぶい橙	SK184	被熱・変色	

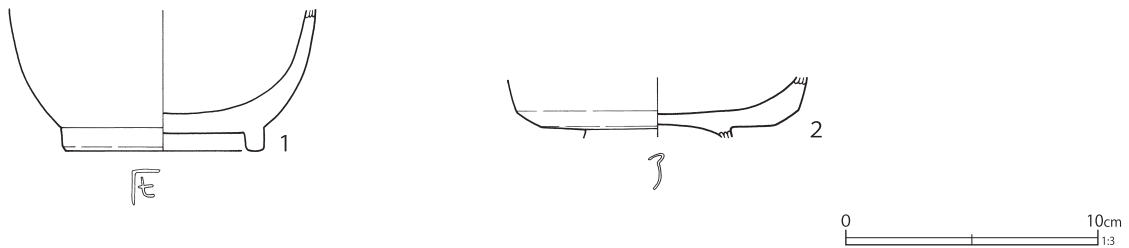
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
63	瓦質土器	竈罏	(28.0)	3.7	(30.5)	ACHIK	15	普通	褐灰	SK184	上面刻印 煤付着 同一個体とみられる2破片から図示 最大径 (36.5) cm	187-6
64	土師質土器	焙烙	37.9	5.2	39.4	CHIK	45	普通	にぶい黄橙	SK184	底部シワ状痕	
65	土師質土器	焙烙	(32.0)	[3.6]	(33.0)	CHIK	15	普通	灰白	SK184	砂目底 外面煤付着	



第 385 図 第 184 号土壙出土遺物 (6)

第 185 表 第 184 号土壙出土遺物観察表 (2) (第 385 図)

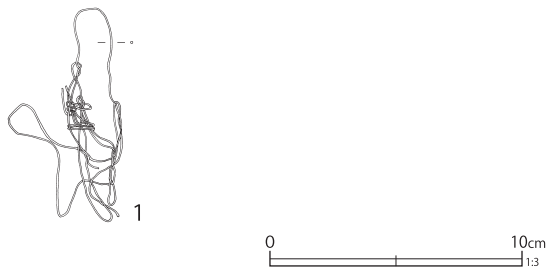
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	小壺	3.0	2.0	2.1	-	AHIK	良好	にぶい橙	SK184	底部糸切痕 (左) 胎土粉質	244-4
番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調		遺構	備考	図版
2	瓦	軒棧瓦	[4.7]	[12.5]	6.4	ACIK	普通	灰白		SK184	右巻き	255-1
3	瓦	棧瓦	[8.6]	[19.2]	-	ACEIK	良好	灰		SK184	刻印「㊸」 胎土硬質	



第 386 図 第 184 号土壙出土遺物 (7)

第 186 表 第 184 号土壙出土遺物観察表 (3) (第 386 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆椀	-	-	-	-	[5.4]	7.5	横木取り	SK184	両面黒 高台内に朱漆「E」 内外面・高台内黒漆	267-1
2	木製品	漆椀	-	-	-	-	2.3	-	横木取り	SK184	内面赤漆 外面黒漆 高台内「了」釘書きカ	267-2






第 387 図 第 184 号土壙出土遺物 (8)



第 187 表 第 184 号土壌出土遺物観察表（4）（第 387 図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	針金	縦 8.4 横 4.5 厚さ 0.08 重さ 2.8	SK184		

手のもので、外面に山水文、内面口縁部に角渦文を染付する。13は外面に花文と蝙蝠を、14は外面に花文と昆虫文を、15は草・亀を染付する。いずれも内面は無文とする。16・17は肥前系磁器の坏である。16は粗製のもので、外面に崩れた笹文を染付する。高台部畳付に砂が多く付着する。17は焼き継ぎがみられるもので、外面に草花文を染付する。18～23は瀬戸美濃系磁器の坏である。18・19は端反になるもので、18は外面に山水文と家屋を染付、19は崩れた草花文を酸化コバルトで染付する。20は小型・筒形の坏で、外面に崩れた竹林文と思われる文様を、内面口縁部に圏線を酸化コバルト染付する。

21は低い筒形の坏で、内面に青の上絵付けで「」を書き、瓢箪形の枠内に「サツテ」・四角枠内に「[サ] カ七」と文字を書く。外面にも上絵付けで鬼を描く。「」は伊丹の武内家による銘柄で、「正宗」があったという（『日本酒銘大鑑』）。戦後は企業統制・合併を経て使われなくなっている。武内家は伊丹に現存する老松酒造の創業家である。栗橋宿跡第 1 地点（『栗橋宿跡 I』遺物集中地点・第 448 集第 35 図 5）の類似例をみると、サカ七は「酒七」であり幸手の酒屋と考えられる。『営業便覧』の幸手町を見ると「七」の字を持つものは「料理店 酒仕出し」として「七・酒場 田島熊吉」とある。いわゆる幸手の酒場亭のことで、三遊亭圓朝『上野下野道の記』（明治 9 年）に幸手の名店として名が見える。昭和 6 年『幸手町勢要覧』末尾の広告欄には「御料理／仕出し さかば／電話 10 番」とあり、これ以降の存否は不詳である。

22は端反になる卵殻手酒杯で、内面に船・海・山等を多色を用いて上絵付けする。23は内面に青の上絵付け、外面高台に櫛歯状文を、高台

内に崩れた銘款を染付する。24は肥前系磁器の皿で、初期伊万里様式のものである。内面に飛ぶ鳥を染付する。25は肥前系磁器の小型の皿で、口縁部は輪花状になり、口紅を施す。内面に竜文を染付する。26は瀬戸美濃系磁器の皿で、蛇の目状高台のものである。口縁部は緩く輪花状になる。外面に崩れた宝珠文、内面口縁部に角渦文、底部に山水楼閣文を酸化コバルトで染付する。27は瀬戸美濃系磁器の小型の皿で、口縁部は玉縁状に肥厚する。内外面に酸化クロム青磁釉を染付する。蛇の目状高台を有す。28は瀬戸美濃系磁器の型押壽文皿である。29は瀬戸美濃系磁器の大皿の口縁部で、内外面とも酸化コバルト染付が施される。30は肥前系磁器の筒形の容器で、鉢とした。内外面に染付が施されるほか、口唇部と外面突帯上に錆釉が施される。漆継ぎ痕がある。31・32は肥前系磁器の蓋物で、ともに体部が丸く立ち上がるものである。31は外面に微塵唐草文、32は外面に蛸唐草文を染付する。後者には焼き継ぎ印「[ ] 九」がある。33は肥前系磁器の合子で、筒形を呈する。外面は濃みで塗り潰している。34は肥前系磁器の蓋で、外面に壽文を染付する。遺存部の形状からつまみが欠失するものらしい。35・36は肥前系磁器の段重である。35は墨弾きで外面に亀甲、雲、魚文を染付する。36は外面に山水楼閣文を染付する。37・38は肥前系磁器の香炉である。37は青磁釉を施す。38は外面に桐文、口縁部に圏線を巡らす。39は瀬戸美濃系磁器の爛徳利である。40・41は瀬戸美濃系磁器急須の蓋と身だが、別物で組み合うものではない。40は外周に渦文を染付する。41は朝顔など草花文を酸化コバルト染付で描く。

42は柘器質の陶器で、胎土から萬古系の坏と

考えられる。内面は白化粧後に施釉しているため、大きな貫入がある白色・不透明の釉薬に見える。43は産地不詳の陶器皿で、胎土は灰色・硬質、光沢の強い灰釉が施される。内面の目跡は径6mm程の円形で小さい。呉須絵で草文を描く。高台部は幅の広い削り出し高台である。

44・45は京都信楽系陶器の灯火具で、油溜りが脚状になる灯明皿である。底部は回転ケズリで、44には墨痕がある。

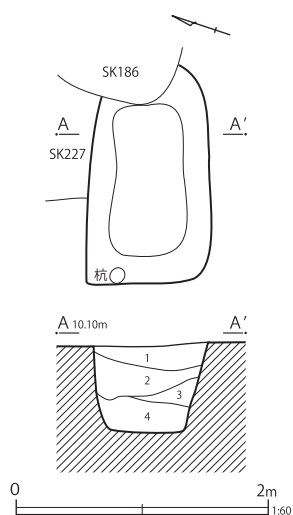
46は京都信楽系陶器のカンテラで、把手の一部が残る。47は瀬戸美濃系陶器のこね鉢で、灰釉を施し、内面には大きな目跡が残る。底部に墨書がある。48は瀬戸美濃系陶器の植木鉢で、緑釉を施釉する。外面に貼付け文の一部が残る。内面には砂状の目跡が四箇所残る。本来は六箇所が環状に巡るものであろう。高台畳付部にも目跡の一部が僅かに残る。49・50は堺明石系陶器の播鉢である。いずれも内面は一単位9条の播目があり、体部はケズリ後にヨコナデを施す。49は小型のもので、体部に墨書がみられる。51・52は瀬戸美濃系陶器の灰釉徳利である。51は底部の破片で、内底面には反時計廻りの強い回転ナデ痕が残り、中心が突出する。底部には糸切痕が残る。52も内底面には反時計廻りの強い回転ナデ痕が残り、中心が突出する。底部には回転ケズリ痕が残る。53は瀬戸美濃系陶器花生で、体部に鉄釉・灰釉を掛け分けする。底部は右回転糸切痕が残り、墨書がある。54は瀬戸美濃系陶器の柿釉半胴甕の口縁部である。胎土はやや橙色味を帯び、黒色粒子が多い。55は陶器の柿釉甕であるが、通常みられるものより肩が張らない。釉薬は光沢の強い赤味を帯びるもので、胎土も白色味が強く硬質である。信楽系陶器の可能性もある。

56～61は陶器の土瓶である。56は外面に大きな貫入がある糠白釉を施釉する。器壁は厚手で、胎土は白味が強く硬質、少量の黒色微粒子が含まれる。57・58は、茶色味の強い光沢のある鮫肌

釉を施釉する。胎土は白色味が強く緻密である。58の外面下位はケズリで整形される。また、内面には粘土継ぎのような痕跡がみられる。59は薄手の土瓶で、白化粧後に鉄絵・呉須絵で絵付けを行う。体部上位に小さな段が付く。体部外面下位は不安定なケズリ、外面底部は平滑にナデ調整され、ケズリ痕跡はみられない。60は体部上位に段が付き、腰部が屈曲する形態の土瓶である。口縁部～外面に鉄化粧を施した後、鉄釉をランダムに流し掛けする。内面下位には透明釉が施釉される。胎土は白色味が強く緻密である。これらのうち、56～58・60は胎土に共通性がある。糠白釉・鮫肌釉を多用する大塚相馬系陶器の可能性もある。61は松岡系陶器の土瓶で、青海の強い海鼠釉を施釉する。

62は瓦質土器の目皿で、上面から漏斗状に穿孔する。使用による被熱で全体に赤変し、上面は白化して荒れている。周囲はヘラナデ後、ヨコナデ、下面は丁寧なナデで平滑にする。胎土に角閃石を一定量含む。63は瓦質土器の竈鏝である。同一個体と考えられる二破片で、遺存範囲の多い破片から反転復元をした。上面に刻印（○が3つ以上連なる）があるのは、もう一つの破片である。鏝部側面はヘラナデ後にヨコナデを施す。上面もヘラナデ後にヨコナデで平滑にしているらしい。全体に煤が付着する。胎土に角閃石を含む。64は土師質土器の焙烙である。底部にシワ状痕を残す。体部側面下位はケズリ整形されるが、上位はヨコナデでこれを消す。内底部は周縁部を回転ナデし、中心付近をヨコナデして平滑にするものらしい。灰白色を呈し、胎土に角閃石を一定量含む。65も土師質土器の焙烙で、底部は砂目状痕跡、体部下位を広くケズリで整形する。内底面は周囲を強い回転ナデ、その内側もやや弱い回転ナデで調整する。胎土に角閃石を多く含む。出土した陶磁器では、磁器の湯呑形碗が目立って多いのが特徴である。本跡は主に陶磁器の様相から、

S K 226



第 226 号土壇

- |        |   |
|--------|---|
| 1 暗灰色土 | シルト質 腐植土・炭化物粒子少量 粘性・しまりあり               |
| 2 暗灰色土 | 1層より暗い シルト質 木板多量 炭化物(φ1~3cm)多量 粘性・しまりあり |
| 3 黒褐色土 | シルト質 炭化物(φ2~3cm)少量 粘性・しまりあり             |
| 4 黒褐色土 | 3層より暗い シルト質 炭化物少量 腐植土多量 粘性・しまりあり        |

第 388 図 第 226 号土壇

栗橋 9 期でも古い段階に帰属するものと思われる。

第 385 図 1 は所謂「つぼつぼ」形の土製品である。2・3 は出土した瓦類で、2 は軒棧瓦である。3 は棧瓦の破片で、側面に「㊦」の刻印があるものである。

第 386 図 1・2 は木製品である。1 は漆椀である。内外面黒漆塗りである。高台内に赤漆で「卍」の文字が書かれる。2 も漆椀である。体部下位に明確な稜を持つ器形である。高台内は挿鉢状に作られる。内面赤漆、外面黒漆塗り、高台内に「了」の文字が刻まれる。

### 第 226 号土壇 (第 388~399 図)

区画中央部の南側、E 7-I 5 グリッドに位置する。第 186・227 号土壇と重複している。長軸 1.7m、短軸 1.0m の隅丸長方形の土壇で、検出された深さ 0.7m である。覆土の上層には板材など木製品を多く含み、下層には腐植土が多く含まれる。

第 389~393 図に出土した陶磁器を示す。

1・2・4 は肥前系磁器の端反碗である。外面

の染付は、1 は山水楼阁文を、2 は窓枠内に花文を配し、内底面の文もそれに準ずる。いずれも内面口縁部に、墨弾きによる雲文を染付する。4 は外面に縦格子の間に区画を設け、松竹梅文を染付する。口縁部の反りの弱いものである。焼き継ぎされており、焼き継ぎ印は最初の二文字が不鮮明だが、「[ク三] 九」であろうか。3・5~7 までは瀬戸美濃系磁器の端反碗である。3 は外面に崩れた山水楼阁文、内面口縁部に濃みによる圏線、内底面に波文を染付する。やや大振り・厚手のものである。5 は崩れた飛雲文を、6 は微塵唐草文の中に花文を、7 は丸文内に「福」「壽」文等を、それぞれの外面に染付する小振りの碗である。8~10 はいずれも端反碗の蓋である。9 には煤が付着するが、明確な被熱痕跡は認められない。

11~16 までは瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。11 は濃い藍色の呉須で染付しており、口縁部は輪花状になる。同じサイズ・文様のものが、第 105・121 号土壇の火災廃棄遺物の中に複数認められる。12 は蛸唐草文、13 は葦に鴛鴦、14 は葦に蟹を、各々外面に染付している。15 は木型打込と染付の組み合わせで花文を描く。16 は丸文内に「福」「壽」文等を染付する。17 は肥前系磁器の湯呑形碗で、この時期のものとしては珍しく長い円筒形を呈する。体部外面の上位・下位には、斜格子内を淡く濃み塗りする地紋の間に花文を染付しているが、中位は露胎(拭き取りか)とし、白盛や細い線の上絵付けで楼阁・舟等を描く。18 は瀬戸美濃系磁器の平碗で、中位の突帯部は鉄釉で黒く塗られる。酸化コバルト染付で梅樹文を描く。19 は広東碗形を呈する肥前系磁器の猪口である。20 は肥前系磁器の坏で、端反のものである。外面に「わ口け」と読める文字を染付する。21 は瀬戸美濃系磁器の坏で、やはり端反のものである。内面に染付が施される。22 は靈芝文を描く酸化コバルト染付の坏である。